

開講科目名	第二言語習得基礎論		
担当教員	田中 順子	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

第二言語習得論では、第一言語（母語）ではない言語（第二言語、外国語）を私たちがどのような過程を経て習得・学習するのか、またその学習・習得にはどのような要因が関わるのかを扱います。この授業では第二言語習得論が成立した背景を取り上げるとともに、第二言語習得の代表的な理論を概観します。特に英語を外国語（あるいは第二言語）とする人たちが英語を習得する際に関係する言語学的、認知心理学的な要因と英語習得のプロセスについて取り上げます。この授業を履修した結果、（１）第二言語習得論の基礎的な知識を得ることと、（２）理論的な知識をもとに、受講者が実証的な言語習得研究のテーマを設定できるようになることを目標とします。

授業の概要と計画

Week 1: Introduction
Week 2: Chapter 1
Week 3: Chapter 1
Week 4: Chapter 2
Week 5: Chapter 2
Week 6: Chapter 3
Week 7: Chapter 3
Week 8: Chapter 4
Week 9: Chapter 4
Week 10: Chapter 5
Week 11: Chapter 5
Week 12: Chapter 6
Week 13: Chapter 6
Week 14: Presentation
Week 15: Presentation

上記の内容は予定です。これらに加えて、学期中に文献検索実習またはビデオ視聴の時間を1時間とする予定です。

成績評価と基準

出席と授業参加(20%)
平常点（課題）を含む(30%)
期末レポート（発表とレポート）(50%)
これらを合わせて総合的に判断します。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

課題文献を毎週読んで授業に出席し、復習も行ってください。

オフィスアワー・連絡先

木曜昼休み
あらかじめメールで予約してください。

学生へのメッセージ

第二言語習得論やその関連分野(Psycholinguistics, Immersion education, Bilingualism, TEFL等も含む)の基礎となる科目です。

今年度の工夫

前年度に比べて平易なテキストを用います。

教科書

How languages are learned (4th ed.). / Lightbown, P., & Spada, N. : ,2013 ,ISBN:978-0194541268

参考書・参考資料等

Richards, J. C., & Schmidt, R. (2010). Longman dictionary of language teaching and applied linguistics (4th ed.). London: Longman.

Longman Dictionary of Language Teaching and Applied Linguistics (4th Edition). / Richards, J. C., & Schmidt, R. W. : London: Longman, 2010, ISBN:9781408204603

英語教育用語辞典 / 白畑知彦, 村野井仁, 若林茂則, 富田祐一 : 東京 : 大修館書店, 2009, ISBN:9784469245394

Understanding second language acquisition. / Ortega, L. : ,2008, ISBN:9780340905593

Second Language Acquisition: An Advanced Resource Book / de Bot, K., Lowie, W., & Verspoor, M. : ,2009, ISBN:9780415338707

授業における使用言語

主として日本語。英語話者には英語対応可能。

キーワード

Second language Introductory course Language acquisition.

開講科目名	英語文章表現（上級）		
担当教員	ウアン マリアン	開講区分	単位数
		前期	2単位
授業のテーマと到達目標			
Advanced English Composition (English for Intercultural Studies III) is designed for students to be able to write logically and accurately in English. Students will be able to write short paragraphs and an essay following a step-by-step writing process involving multiple drafts, peer editing, revising, and reflection.			
授業の概要と計画			
Week 1: Course syllabus & class rules Weeks 2-5: Individual writing assignment (paragraph writing) Weeks 6-12: Group writing assignment (essay writing, mixed genres) Weeks 13-14: Presentation on genres in groups Week 15: Reflection and course evaluation			
成績評価と基準			
Writing assignments = 90% Attendance and participation = 10%			
履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）			
You must have access to the Internet and be comfortable with searching for online documents.			
オフィスアワー・連絡先			
Wednesday, Period 2 (10:40-12:10), D619 Email: marianwang@people.kobe-u.ac.jp			
学生へのメッセージ			
Please be prepared to participate in English only. Arriving after the bell is late (6 Lates = Fail). Coming in 20 minutes late will be counted as absent. Sleeping in class may be counted as absent. Using your phone in class may be counted as absent. 4 absences = Fail. No late assignments. Bring handouts and complete homework on time.			
今年度の工夫			
教科書			
参考書・参考資料等			
授業における使用言語			
English only			
キーワード			
Writing, writing genres, paragraph, essay			

開講科目名	異文化コミュニケーション概論		
担当教員	坂井一成、遠田勝、柴田佳子、岡田浩樹	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

「異文化コミュニケーションと世界の多様な文化の対話・共生」を全体のテーマに、異文化コミュニケーション論講座で展開される教育研究の全体像の理解を目指す。

授業は初回のイントロダクションの後、3つのセクションからなり、各々「異文化関係論」「多文化共生論」「越境文化論」という本講座の3つの教育研究分野を概観するものとなっている。異文化コミュニケーションという国際文化学にとって極めて重要な課題にいかに取り組むのか、各自の関心を掘り下げる糸口を見出してほしい。

2015年度の担当は、岡田浩樹、柴田佳子（異文化関係論）、坂井一成（多文化共生）、遠田勝（越境文化論）である。

授業の概要と計画

第1回(4/13)【イントロダクション】(坂井)

＜授業全体への導入＞授業の説明、本講座の教育研究分野の概要紹介。

第2回(4/20)【異文化関係論】(岡田)

「公共性」「公共空間」と異文化コミュニケーション

日本社会の多文化化における「公共性」「公共空間」と異文化コミュニケーションの問題を、阪神淡路大震災、東日本大震災という具体的な出来事を題材に文化人類学の視点から考えます。

第3回(4/27)【異文化関係論】(岡田)

「現代科学の最前線と異文化コミュニケーション」

宇宙開発という最先端科学技術の発展と世界のグローバル化の関係、その中での異文化コミュニケーションの問題を文化人類学の視点から考えます。

第4回(5/11)【異文化関係論】(柴田)

「異文化理解と文化相対主義の功罪」

異文化・文化的他者理解がますます求められています。それに関する諸問題、またよく引き合いに出される「文化相対主義」の意義と難題について、具体的事例を通して考えましょう。

第5回(5/18)【異文化関係論】(柴田)

「移動・移住、コンフリクトと共生、異種混交」

移動、移住にともない異文化接触で生じた種々のコンフリクトと共生のあり方、さらに異種混交の特徴的側面と問題について、カリブ海社会の多様な事例をもとに考えましょう。

第6回(5/25)【多文化共生論】(坂井)

＜多文化共生のための政治1〜民族の壁をこえた国家統合＞

フランスはフランス語だけでなく、多くの少数言語を抱える国ですが、その多言語・多民族国家がなぜ一つの国として成り立っているのかを考えます。

第7回(6/1)【多文化共生論】(坂井)

＜多文化共生のための政治2〜人の移動と多文化化＞

アフリカや中東地域出身の多くの移民が住むヨーロッパでは、移民と受け入れ社会との間の文化摩擦がしばしば暴力を伴う事件となっています。その実態を掘り下げます。

第8回(6/8)【多文化共生論】(坂井)

＜多文化共生のための政治3〜国際社会としての取組＞

ユネスコで制定された文化多様性条約を足掛かりに、国際レベルでの多文化共生の意義と課題を掘り下げます。

第9回(6/15)【多文化共生論】(坂井)

＜多文化共生のための政治4〜多文化共生としての国際関係＞

EU統合が果たす役割について考えます。

第10回(6/22)【越境文化論】(遠田)

＜英語に訳された村上春樹と、英語から訳された村上春樹＞村上春樹の短編を英語に訳し、その英語をもう一度、日本語に訳しもどすと、どうなるのか。重訳という極端な例で翻訳とはなにかを考えます。

第11回(6/29)【越境文化論】(遠田)

＜日本を英語で説明する?ハーンの場合＞明治日本を英語で描いた作家ハーンは、どのような戦略にもって、日本紹介に取り組んだのでしょうか。

第12回(7/6)【越境文化論】(遠田)

＜日本を英語で説明する?ハーンの場合その二＞明治時代の代表的ジャパノロジストたちと比較しながら、ハーンの日本論の長所短所を論じます。

第13回(7/13)【越境文化論】(遠田)

＜西洋近代科学の衝撃＞『解体新書』を中心に、西洋近代科学がもたらした衝撃を、漢学から蘭学、そして英学へという流れのなかで概観し、あわせて視覚芸術(絵画)への影響を考えます。

第14回(7/27)学期末試験(筆記試験)

成績評価と基準

期末試験100%

履修上の注意(準備学習・復習、関連科目情報等を含む)

各教員が提示する予・復習の課題に注意して下さい。

オフィスアワー・連絡先

全般については坂井一成(kazu[at]harbor.kobe-u.ac.jp)にアポイントメントをとってください。また、各担当教員のオフィスアワー、メールアドレスを参照して下さい。

学生へのメッセージ

この講義は、国際文化学部 motto にふさわしい知見やメッセージの発信をめざします。
「国境を越え、文化を横断し、活動する知性」(国際文化学部の motto)

今年度の工夫

教科書

授業中適宜指示します。

参考書・参考資料等

授業中適宜指示します。

授業における使用言語

日本語

キーワード

異文化コミュニケーション、異文化間関係、多文化共生、越境文化。

開講科目名	ガヴァナンス論		
担当教員	阪野 智一	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

グローバル・ガヴァナンス、ローカル・ガヴァナンス、さらにマルチレベル・ガヴァナンス等に表示されるように、近年「ガヴァナンス」(governance)という言葉が目立って使用されるようになってきた。ガヴァナンス論台頭の背景には、1980年代以降の新自由主義的潮流の台頭やグローバル化の進展に伴い、政府(government)という形で統治機能を独占してきた国家の役割が、相対化されつつあるという状況がある。本講義では、国内政治と国際政治の交錯をはじめ、主として先進諸国を中心に、経済のグローバル化が各国の戦後政治経済体制に及ぼす影響や変容の諸相、経済発展と政治的民主化の相互関係、さらにヨーロッパ統合という国民国家を超えた政治の実験について、比較政治経済学や国際政治経済学の視点から検討したい。

授業の概要と計画

1. 比較政治と国際政治の交錯?アリソン・モデルからtwo-level gameへ
2. 国際政治経済学の諸潮流?リアリズム、リベラリズム、従属論、世界システム論
3. 戦後政治政治経済体制
4. 福祉国家の再編?収斂論convergenceと分岐論divergence
5. グローバル化の政治経済学
6. 経済発展と政治的民主化
7. ガヴァナンスとは?
8. ヨーロッパ統合とMulti-Level Governance

成績評価と基準

学期末試験 80%
授業への参加(質問カードの提出度) 20%

履修上の注意(準備学習・復習、関連科目情報等を含む)

講義の進行に沿ってレジュメや資料を配付する。
主要テーマ毎に事前に文献を配布する。履修者は、予め文献を読むなど、予習の上授業に参加することが求められる。授業では、教員からの問いかけとそれに対する履修者の応答を通じて、理解を深める。授業の終わりには、質問カードに質問等を記載し提出してもらう。次回の冒頭では、質問カードから幾つか取り上げ、補足説明を行う。

オフィスアワー・連絡先

金曜日の昼休みの他、メール(sakano@kobe-u.ac.jp)でも相談してください。

学生へのメッセージ

本講義は、比較政治政治経済学、国政政治経済学を主要なテーマとしていますが、現象に対する社会科学的アプローチの習得も目標としています。

今年度の工夫

教科書

参考書・参考資料等

新川敏光他『比較政治経済学』有斐閣、2004年。
河野勝・竹中治堅編『アクセス国際政治経済論』日本経済評論社、2003年。
講義中に適宜プリントを配布するほか、参考文献を指示する。

授業における使用言語

日本語。

キーワード

ガヴァナンス アリソン・モデル リアリズム リベラリズム 戦後政治経済体制 福祉国家 グローバル化 政治的民主化 ヨーロッパ統合

開講科目名	日本言語文化論		
担当教員	昆野 伸幸	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

日本人は他国民と比べて無宗教、あるいは宗教的に鈍感だと言われる。このようなほぼ常識的な理解の成立を問い直すためにも、この授業では「超越者の観念からみる日本思想」というテーマを設定する。日本人の超越者に対する観念の歴史の変遷を確認し、現代日本人の宗教観を再考することが目標である。

授業の概要と計画

以上のようなテーマ・目標に応じて、授業では特定の時代に限定することなく、古代から近代まで幅広い時代を取り上げる。授業に概要と計画は以下のとおりである。

- はじめに
- 1 講義のガイダンスー日本人は無宗教なのか？
 - 2 方法としての日本思想史ー「日本」「思想」「歴史」の再考
 - 一 古代・中世
 - 3 神の変貌ー「崇る神」から「応じる神」へ
 - 4 神国思想の展開ー古代から中世へ
 - 5 鎌倉新仏教ー日蓮の思想
 - 6 運命は変えられるか？ー『平家物語』から『源平盛衰記』へ
 - 二 近世
 - 7 「天」の定着ー『天正記』と『太閤記』
 - 8 朱子学・国学の死生観ー魂は消滅するのか？
 - 9 幕末民衆宗教ー如来教・天理教
 - 三 近代
 - 10 神道国教制の形成ーキリスト教との対抗
 - 11 教育勅語とキリスト教ー教育と宗教の衝突
 - 12 近代日蓮主義ー田中智学と宮沢賢治
 - 13 近代日本とイスラム教ー明治期から昭和戦前期まで
 - 14 戦時下における神仏対立ー慰霊は神式か仏式か？
 - 15 試験

成績評価と基準

平常点4割、試験6割で評価する。平常点は、単なる出席ではなく、毎回提出を求めるコメントペーパーの内容によって評価する。5回以上の欠席で、試験を受ける資格を失うものとする。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

シラバスに沿って進めるので、事前に基本的事項については調べておくこと。次回の講義内容とのつながりがより理解しやすいように、講義で取り上げた内容を復習すること。

オフィスアワー・連絡先

随時。事前に連絡すること（nobuyuki@port.kobe-u.ac.jp）。

学生へのメッセージ

今年度の工夫

教科書

教科書は使用しない。

参考書・参考資料等

参考文献は初回授業時に紹介する。

授業における使用言語

日本語

キーワード

日本思想 神 仏 天

開講科目名	英会話（上級）Ⅰ		
担当教員	ウアン マリアン	開講区分	単位数
		前期	1単位

授業のテーマと到達目標

English for Intercultural Studies II (Advanced) is designed for students to be able to discuss issues related to current events. Students will be expected to lead discussions, give presentations and involve their peers in language activities. Students will research topics based on intercultural issues. The overall emphasis will be on students to do peer teaching activities. Students will receive guidance to organize their presentations and discussions.

授業の概要と計画

Week 1: Course syllabus and class rules
Week 2: Needs analysis, getting to know your classmates
Week 3: Choosing topics of interest
Weeks 4-14: Graded group peer teaching activities
Week 15: Reflection and course evaluation

成績評価と基準

Group projects = 90%
Attendance and participation = 10%

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

You must have access to the Internet and be comfortable with searching for online documents.

オフィスアワー・連絡先

Monday, Period 4 (15:10-16:40), D619
Email: marianwang@people.kobe-u.ac.jp

学生へのメッセージ

Please be prepared to participate in English only. Arriving after the bell is late (6 Lates = Fail). Coming in 20 minutes late will be counted as absent. Sleeping in class may be counted as absent. Using your phone in class may be counted as absent. 4 absences = Fail. No late assignments. Bring handouts and complete homework on time.

今年度の工夫

教科書

参考書・参考資料等

授業における使用言語

English only

キーワード

Peer teaching, current events, intercultural issues, speaking

開講科目名	国際文化特殊講義（JICA）		
担当教員	JICA、松井 真之介	開講区分	単位数
		前期	2単位
授業のテーマと到達目標			
<作成中>			
授業の概要と計画			
<作成中>			
成績評価と基準			
<作成中>			
履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）			
<作成中>			
オフィスアワー・連絡先			
<作成中>			
学生へのメッセージ			
<作成中>			
今年度の工夫			
<作成中>			
教科書			
<作成中>			
参考書・参考資料等			
<作成中>			
授業における使用言語			
<作成中>			
キーワード			
<作成中>			

開講科目名	ジェンダー社会論（グローバル専門科目）		
担当教員	青山 薫	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

The concept of gender and the surrounding theory explicates differences between the sexes as a product of social power relationships, and can be applied to building a society in which diverse lives can pursue diverse happiness in their own ways. Based on these ideas, this course aims to overturn your 'common sense' about human experiences, relationships and daily-life practices. This is also an opportunity to train yourself to analyse issues with a gender perspective, from micro to macro, and local to global, including the widening gap between the rich and the poor in Japan, and its linkage to the global wealth gap.

授業の概要と計画

Outline: While introducing basic social theories, concepts of gender and sexuality, feminism, queer theory and its history, this course connects our daily-life relationships to broad issues such as global social problems, human rights and questions of humanity.

Plan: Apart from lectures, this course may use audio-visual material and/or group discussion if time and the class size permit.

1. Introduction about the lecturer, course outline and method of evaluation
2. Gender discrimination and gender roles
3. 'As Nature Made Him'
4. Is gender difference natural?
5. The sinful dualism of sexes
6. Queer theory and identity politics
7. A quick look at 'Hush!'
8. Other types of discrimination than sexism: leaning from post-colonialism
9. Nationalism and gender
10. Feminisation of poverty, labour and migration
11. Emotional, care and sex labour
12. Trafficking in persons and migrant work
13. Global sex trade as sexwork
14. Conclusion

成績評価と基準

Attendance: 40% and a final essay: 60%

All evaluation material such as a term-end essay, your feedback to the class, questions and answers, discussion, etc. must be written/expressed in English. The term-end essay must be submitted AFTER proofread by an English native speaker. Bear in mind that your English ability, as much as the content of what you write/say, will be reflected in evaluation in this course.

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

The theme of each week above may change/be swapped.

オフィスアワー・連絡先

Office Hour: Mon. 4th hour or contact: kaoru@jca.apc.org (clarify who you are when emailing).

学生へのメッセージ

Provided with English Language; a challenge to you.

Proactive participation and curiosity without looking for the one-and-only answer are musts. Whilst you will have liberty to report your attendance by yourself, you probably cannot write a good essay without fully participating in the course.

今年度の工夫

The language of instruction is English only.

教科書

There is no fixed textbook. Hand-outs - academic, social movement, and governmental papers; documentary texts or visual material; fiction including novels or films, etc. - will be used in each thematic session.

参考書・参考資料等

Introduced each week

Introducing Gender & Women's Studies: Third Edition / Diane Richardson ed. : Palgrave Macmillan ,2008 ,ISBN:9780230543003

Transforming Japan: How Feminism and Diversity Are Making a Difference / Kumiko Fujimura-Fanselow ed. : Feminist Press, University of New York ,2011 ,ISBN:9781558616998

ジェンダー論をつかむ / 千田有紀・中西祐子・青山薫 : 有斐閣出版 ,2013 (予定) ,ISBN:9784641177161

授業における使用言語

English

キーワード

sex, sexuality, discrimination, dichotomy, globalisation

開講科目名	外国語演習（ドイツ語）（グローバル専門科目）		
担当教員	クレック	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

この演習では、ドイツの文化、政治、経済、そして社会生活について検討します。ドイツの新聞記事を読んでその内容を要約し、ドイツのニュース番組やテレビの報道番組を見て、メディアで描かれたドイツの文化、政治、経済、そして社会生活を議論します。受講生が広くドイツについての理解を深めることができ、ドイツに滞在する準備ができるようにという狙いです。教室ではドイツ語を用いて受講生のドイツ語理解力、話す力、書く力を鍛えます。

授業の概要と計画

ドイツ語理解力、話す力、書く力をもっと効果的に伸ばすために、幅広い課題と実習をします。新聞記事を読んでそれを要約してもらいます。テレビ番組を見てそれについて話し合い、ゼミで話題の材料にするための短い文章を書いてもらいます。この演習の目的は今日のドイツについての理解を深めるところにあるので、ドイツの社会におけるスポーツの役割、そしてドイツの政治、文化芸術など単一的な話題に焦点を当てます。

成績評価と基準

出席、課題提出、演習への参加の度合いを総合的に判断して合計100パーセント。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

授業中、学生単独またはグループの課題を課す。
また、事前学習として文献を読んできたり、短い要約を課すこともある他、授業中は議論への参加が要求される。

オフィスアワー・連絡先

学生へのメッセージ

この授業は、特に将来ドイツの大学に留学したいというような希望を持つ学生を想定して組み立てられています。また、ドイツの留学から帰ってきた学生にも向いています。

今年度の工夫

教科書

参考書・参考資料等

授業における使用言語

German

キーワード

Germany, German culture, German politics, German language

開講科目名	ジェンダー文化論		
担当教員	宗像 恵	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

男女のちがいは生物学的に決まっているように思われますが、実際には文化によってつくられている部分が多いことが明らかにされてきています。そうだとすると、文化はなぜ男女のちがいをことさらに際立たせてきたのでしょうか。この授業ではこのようなジェンダーにかかわる問題関心から、男女のちがいと文化との関わりについて考えます。アニメやマンガ、文学作品、新聞などのメディアに表われた、ジェンダーにかかわる事柄を取り上げて分析し、現代日本がかかえるジェンダー問題を検討します。

授業の概要と計画

- (1) はじめに、アニメやマンガ、文学作品などを取り上げて、そこに表現されているいろいろなジェンダーのあり方を考え、男性ジェンダー・女性ジェンダーそれぞれに含まれる問題を探ります。
- (2) つぎに、新聞というメディアを題材にして、現代日本でジェンダーにかかわる問題がどのように表われているかを見ます。
- (3) そして、そこから導かれる現代日本がかかえるいくつかのジェンダー問題と、それらの問題にかかわる議論を紹介します。
- (4) 最後に、ジェンダー論に関連するいろいろな理論を紹介し解説します。

成績評価と基準

基本的に期末試験で評価しますが、授業中の提出物も1回分10%の割合で評価に加えます。期末試験の評価は、授業のポイントを的確に捉えているかが75%、授業内容を基にきちんと考えているかが25%です。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

教科書は使用しませんが、授業内容にあわせた関連資料を、毎時間、配布しますので、それを参照し、よく復習するようにしてください。

オフィスアワー・連絡先

随時おこなっていますが、事前にmunakatsアットマークperson.kobe-u.ac.jpに連絡してください。

学生へのメッセージ

教養原論の「哲学」でもジェンダー関連の講義をしています。
ジェンダー問題に関心のある人は、そちらの授業も受講してください。

今年度の工夫

配布資料を一部変更して、より現在の問題に関わるものにしました。

教科書

使用しません。

参考書・参考資料等

授業中に配布します。

授業における使用言語

日本語

キーワード

ジェンダー 文化

開講科目名	アラブ社会文化論		
担当教員	佐島 隆	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

中東地域の特徴の一つは、多民族、多宗教、多文化、多言語の地域であることである。そこで中東地域の多民族、多宗教、多文化、多言語であることから生ずる諸問題について検討してみたい。
例えばトルコ共和国の中には（言語で言うと）トルコ人、クルド人（クルマンチ）、ザザ、そしてアラブ系、ギリシア系などの人々が居住している。
そこで、特定のエスニック集団あるいは個々人が、トルコ共和国の中でどのような問題を抱えながら生活しているのか、暮らしているのか、衣食住、音文化、呪術などの点から考察してみたい。それにより、様々な文化・宗教・言語・歴史を背景にもった人々が、共存していくヒントを得ることが本講義の目的であり、到達目標である。

授業の概要と計画

現時点では次のことを予定している。（変更はありえる。）

- (1) イントロダクション：多民族社会の中東地域。
多民族国家としてのトルコ共和国。
- (2) 衣服とエスニシティ。（民族衣装など）
- (3) 衣服とエスニシティ。（イスラームとヴェール）
- (4) (5) (6) トルコ人とギリシア人／キプロス問題
コンスタンチノーブルからイスタンブールへ
- (7) (8) 食文化に見るエスニシティ。
世界三大料理のトルコ／食と健康維持
- (9) (10) 音で感じる多民族の世界。
トルコの音文化／音楽の文化
- (11) トルコのイスラーム
世俗主義とイスラーム主義
- (12) (13) 聖所（霊廟・墓・墓地）に関連する「民俗文化」
願かけ／病気治し／聖と俗
- (14) トルコにおける「呪術」
イスラームと呪術を考える
- (15) まとめ
多民族社会の中で共存すること。

成績評価と基準

中東地域の多様性を把握し、トルコを中心にそれを理解し、問題点や生きる方策を考えること、などについて、到達度確認の試験もしくはレポート課題（60%）を出させる。それに授業への参加・参加態度（40%）を加えて評価する。また講義中に見たビデオやDVDについてのコメントや宿題などの提出物および出席状況などは「参加態度」に加えて評価する。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

講義の題名はアラブ文化論とあるが、トルコの民俗・宗教・社会・文化を中心とした講義である。中東地域に疎い者や地理的情報に不案内な者は、地図帳を用意して、授業の時に参照して欲しい。
準備学習としては、参考文献の『＜中東＞の考え方』を読んでおくと、背景となる現代中東状況の知識を得ることができると思われる。次の時間に向けての予習や復習については授業の中で指示をしたいと考えている。
また中東やトルコに関係する映画を幾つか見ることを考えている。そしてそれを検討したいが、人数や時間の関係で、可能な方式をとりたいと考えている。

オフィスアワー・連絡先

授業の前後に約30分ほど時間を設けたいと思います。それ以外については、別に設けることもあるので、メール等にて確認してください。

学生へのメッセージ

本講義は、中東地域の中でも、トルコ民族、トルコ文化を中心としていることを確認して欲しい。（講義名がアラブ社会とあるが、アラブ人居住地域はトルコの中での話として出てくる。）
地理に不案内の者は、地図帳を用意して、持参して欲しい。時間や人数にもよるが、トルコで得た資料（VCD、CD、DVDなど）を見ることがある。それを検討の材料にして、一緒に考えたいと考えている。（ただし、それは履修人数による。）

今年度の工夫

視聴する映像資料は、講義の話題に沿ったものを提示するが、できる限り最新のものを提供したいと考えている。

教科書

教科書として指定する書籍はない。（適切で安価な日本語文献がないので。）
関連する文献については授業の中で紹介したい。

参考書・参考資料等

日本語の文献を記す。（専門書に限定していない。）

『＜中東＞の考え方』 / 酒井啓子：講談社現代新書,2010年,ISBN:978-4-06-288053-4

『トルコのもう一つの顔』 / 小島剛一：中公新書,1991年,ISBN:

『国際学入門ー言語・文化・地域から考える』 / 佐島隆・佐藤史郎・岩崎真哉・村田隆志編：法律文化社,2015年,ISBN:

授業における使用言語

日本語。なお、おりにふれトルコ語が出てくる

キーワード

多民族社会、多文化社会、多言語社会、イスラーム、トルコ、クルド、アラブ、アレヴィー、聖所、霊廟、呪術、聖と俗、トルコ料理、音文化、エスニシティ

開講科目名	北アジア社会文化論		
担当教員	萩原 守	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

本年度の授業テーマは「モンゴル近現代史」とする。目標は、清代以降21世紀に至るまでのモンゴルの詳しい歴史をしっかりと理解してもらうことである。当然のことながら、中国、ロシア、日本等の国との関係も理解してもらう必要がある。

授業の概要と計画

1. 授業の方針、単位認定方法、参考文献等の解説
2. 清王朝の成立・拡大とその変容
3. 中国本土における人口爆発と移民
4. ロシア帝国の南下とシベリア鉄道
5. 清末における「新政」と「移民実地」
6. モンゴル民族の危機：帰化城トゥメト旗での事例
7. ジョスト盟での「金丹道事件」、ジリム盟での抗墾運動
8. グンサンノロブによる改革とその意義
9. 内モンゴルの先覚者、志士たち：トクトホタイジ、オタイ王、バボージャブ
10. ハイサン、アルマスオチルによるモンゴル独立運動とボグドハーン政権の苦闘
11. 日本とアメリカ合衆国によるシベリア出兵
12. モンゴル革命
13. ダンバドルジ政権の苦闘
14. 終戦直後の内外モンゴル合併運動
15. スターリンと宋子文によるモンゴル問題の交渉

成績評価と基準

学期末に一度だけ持ち込み可能の試験を実施する。普段の出席を10%、試験結果を90%として総合的に評価する。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

過去に、経済学部、経営学部等の学生が殺到して困難をきたすことが何度かあったので、経済・経営・法の3学部の学生は先着50名のみ履修を認める。国際文化学部はもちろんのこと、上記以外の学部の学生の受講は全員無条件で認める。初めて聞く話が多いと思うので、しっかり出席して、しっかりノートを取り、積極的に質問すること。試験は持ち込み可能なので、必ずノートを取る必要有り。出来る限り、予習と復習をしておくことが好成績につながる。

オフィスアワー・連絡先

月曜と木曜の昼休み 研究室はE-206
hagihara@kobe-u.ac.jp

学生へのメッセージ

モンゴルだけの歴史だと決して誤解しないで下さい。中国、ロシア、日本、アメリカ等にもまたがる多面的な近現代史とします。授業でわからなかった部分は、必ず質問してすぐに解決しておいて下さい。そこが試験に出るかも。

今年度の工夫

国際文化学部の特色に合わせて、近現代史に特化した高レベルの授業としたい。

教科書

使用しない。必要に応じて、コピーを配布。

参考書・参考資料等

授業中に指示する。必要に応じて、地図等、コピーを大量に配布する。

授業における使用言語

日本語

キーワード

モンゴル 清朝 ロシア帝国 大日本帝国 民族紛争 独立運動 ナショナリズム 社会主義 革命

開講科目名	中国語会話I		
担当教員	姜 春潔	開講区分	単位数
		前期	1単位

授業のテーマと到達目標

「習うより慣れよ」という。言葉に慣れることが最も大切です。しっかりとした発音と基本的な会話能力を身につけることが目標です。

授業の概要と計画

第1回 中国語の特徴、及び発音について説明、また授業の進め方とテキストの使い方について説明。
第2回から、選定したテキストの内容に沿って、以下の手順で授業を行う。
①発音の練習と問題指摘 ②文章の朗読 ③自分の関心のある事柄について紹介 ④相手を意識し、適切な表現

成績評価と基準

出席10%・平常点40%（授業活動参加の積極性20%、準備20%）・期末試験の成績50%として評価します。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

中級コースの学生を対象とする授業なので、履修する場合、事前の準備と予習も必要です。

オフィスアワー・連絡先

学生へのメッセージ

中国語を学びたい、中国の歴史と現状を理解したい学生なら誰でも歓迎します。

今年度の工夫

教科書

石原享一・王柯・馮誼光『21世紀中国の課題－ゼミ形式で学ぶ』東方書店 第6刷。

参考書・参考資料等

授業における使用言語

中国語、日本語

キーワード

開講科目名	情報科学演習II		
担当教員	清光 英成、佐藤 仁	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

情報科学演習1の延長として、情報処理技術の演習を行う。本演習では、WWWシステムの利用に関する実習を行う。まず、ホームページを記述する言語であるHTML言語の書き方、画像の取り込みなどを理解し、ホームページを用いて情報発信する方法を実習する。さらに、必要な情報を検索したり、取得した情報の正確さを判断するための演習を行う。

授業の概要と計画

講義に含まれる内容は次のとおり

第一部 ホームページの作成

1. HTMLの書き方
2. 表の作り方
3. 画像データのダウンロードと利用
4. スキャナによる写真の取り込み
5. スタイルシート(css) の利用

第二部

6. 情報検索サイトの利用方法
7. WWWサイトやWebページからの情報の読み取り方
8. 情報倫理と著作権

成績評価と基準

実習課題を課し、提出作品やレポートにより評価する。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

Webテキストを予習・復習に活用すること。受講希望者数や受講者の情報処理技術の習得状況に応じて講義内容を変更することもある。

オフィスアワー・連絡先

随時。（但し、事前連絡が必要。E-Mail: kiyomitsu@carp.kobe-u.ac.jp）
研究室B407（土足厳禁）

学生へのメッセージ

・

今年度の工夫

・

教科書

Webテキストを使用する。

参考書・参考資料等

・

授業における使用言語

日本語

キーワード

HTML Javascript Google API

開講科目名	英会話（上級）Ⅰ		
担当教員	ショルト グレゴリー ポール	開講区分	単位数
		前期	1単位

授業のテーマと到達目標

The ultimate goal of this course is to improve students' abilities to communicate in English in real world situations and on topics of personal interest. Emphasis is placed on development of vocabulary knowledge and fluency skills through exploration of various reading, writing, speaking, and listening tasks. In each class, students will be required to actively use English and to express their own ideas and opinions on relevant topics. An important theme of the course is preparation for successful study and use of English after university has been completed.

授業の概要と計画

The instructional approach will center on students engaging in a variety of tasks that require the use of English to complete. Tasks will require listening, speaking, reading and writing in English but may vary in terms emphasis on one or more of the language skills. The topic of each task will change but be grounded in real world situations and focus on the interests of the class. Based on performance of the task, students will identify personal areas of need and work to enhance their skills and knowledge in those areas.

The course will be divided into three parts:

Part I (Approximately 5 Class Sessions)

In the first part of the course, the instructor will explain and guide students through the task structure and then provide the topics and activities for each task. These topics will be selected from current, newsworthy events related to intercultural issues. Additional topics focus on self-study strategies and activities

Part II (Approximately 4 Class Sessions)

After students have become accustomed to the task structure of lessons, they will begin to contribute to the topic selections. In the second part of the course, students will collectively identify and select topics for the class to use. The instructor will provide specific tasks based on these student-selected topics. Additional topics focus on preparation for professional life and English needs after university

Part III (Approximately 4 Class Sessions)

Finally, students will work in groups to develop and implement their own designed tasks based on topics of personal interest for a class project. Each group will lead the class using their designed tasks.

成績評価と基準

Attendance: 15%
Participation: 10%
English Self-Study Notebook: 30%
Projects and Evaluations: 45%

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

Since this course is conducted entirely in English, students must have a high enough proficiency level to be able to communicate with the teacher and classmates in English. A minimum Toefl iBT score of 60 (= 500 paper-based) or Toeic score of 600 is recommended.

オフィスアワー・連絡先

Tuesday 4th Period, Wednesday 3rd Period
Other appointments can be made by contacting the instructor in person or through email: gsholdt@people.kobe-u.ac.jp

学生へのメッセージ

Students will need to bring a dictionary to each class and have access to English language media through the internet or library. Active participation is essential to successful completion of this course. Students in the Department of Intercultural Studies and students enrolled in the teacher's certificate program get priority in this course. If there is any space remaining, then students from other departments may join. Auditors will not be accepted.

本授業の履修を希望する学生が多ければ、以下の順に希望者へ履修許可を出します。

1. 国際文化学部学生
2. 教育職員免許状（英語）を取得しようとする学生

1と2の学生が履修をして、それでも残席がある場合に限り、国際文化学部以外の学部生の受講を許可します。

また、本授業では聴講を認めていません。履修者以外の学生が本授業に参加することは認められていないので注意すること。

今年度の工夫

Lessons adjusted to reflect current trends. Use of latest technology.

教科書

The materials for this course include:

1. Specific instructions on participating in tasks developed by the instructor.
2. Authentic materials obtained from current articles published on the internet including news websites such as CNN, the New York Times, and the Washington Post. Some will be selected by the instructor and some selected by students.

参考書・参考資料等

None.

授業における使用言語

English only.

キーワード

Intercultural Communication Self-Study Skills

開講科目名	英語文章表現（上級）		
担当教員	QUINN Cynthia	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

This is both a reading-based and corpus-based writing course. As a reading-based course, students will write essays in response to short readings that are intended to both instruct students on proper form and to encourage thoughtful writing. Students will also learn to use an online corpus to help them answer questions about vocabulary, grammar and usage as they write. A corpus is a large, searchable database of authentic texts (e.g. from newspapers, magazines, journals, books, lectures, conversation, etc.) that can be used as a reference to guide students in using English naturally and appropriately.

Course Objectives:

1. To write thoughtful essays in response to short readings
2. To become critical writers who can analyze and respond to ideas in a reading
3. To use a corpus to improve written accuracy and appropriacy

授業の概要と計画

Students will compose critical response essays that are based on thematically-related readings. To prepare for writing these essays, students will summarize and annotate readings, and then pose questions in order to choose a thematic perspective to write about. Both annotating and question-posing are “reading to write” techniques that help writers connect their own ideas with the information found in the texts, making it easier to write original essays.

Students will also be introduced to an online corpus to help them improve their written accuracy and natural expression. After an introduction to the corpus search tools, we will practice correcting errors and improving language usage in student essays, such as revising vocabulary choice, confirming article accuracy, finding appropriate verb-preposition combinations, exploring grammatical patterns and suitable expressions, among others. Through this process, students will learn more about their individual writing patterns and language use, and can challenge themselves to upgrade their linguistic choices by referencing a corpus.

For homework, students will read class readings, complete corpus research exercises, and write assigned essays.

In class, students will discuss readings, share their writing with classmates, and complete corpus practice and writing skills exercises. Students will also participate in 1:1 teacher-student writing consultations to discuss their writing and corpus research efforts. Class time will be spent speaking in English in a workshop-style setting, as we work through the full writing process together.

Class 1 Course Introduction

Class 2 Corpus training. Essay 1 preparation.

Class 3 Corpus training. Essay 1 preparation.

Class 4 Corpus training. Essay 1 preparation.

Class 5 Essay 1 due. Corpus training.

Class 6 Revision workshop. Corpus practice exercises.

Class 7 Corpus practice exercises. Essay 2 preparation.

Class 8 Corpus practice exercises. Essay 2 preparation.

Class 9 Essay 2 due

Class 10 Revision workshop. Corpus practice exercises.

Class 11 Teacher-student consultations. Corpus practice exercises.

Class 12 Corpus practice exercises. Essay 2 preparation.

Class 13 Essay 3 due.

Class 14 Revision workshop

Class 15 Final writing portfolio due. Teacher-student consultations.

成績評価と基準

*Writing portfolio/file 50%

Corpus training/practice exercises 30%

Reading quizzes and annotations 10%

**Participation 10%

* The writing portfolio/file contains all essay preparation (reading summaries, annotated readings, revision log, two drafts and final revision for each of three essays).

** Participation grade includes attendance and teacher-observed in-class participation and effort.

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

Weekly homework will be assigned.

It is expected that students will have their homework completed for each class, as this is necessary to participate in the class activities.

オフィスアワー・連絡先

Tuesdays, 4th period (by appointment)

Email: cynthia@people.kobe-u.ac.jp

学生へのメッセージ

今年度の工夫

教科書

Class materials are provided by the teacher or are from online resources.

参考書・参考資料等

授業における使用言語

English

キーワード

開講科目名	言語機能論		
担当教員	湯浅 英男	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

ヴィトゲンシュタインの「語の意味＝語の使用」という考えに端を発した語用論、発話行為論、会話分析について概説しながら、英語学を中心とした語用論的立場を基礎に、言語のもつコミュニケーション機能について論じます。以下が主な論点です：（１）発話された文は何を意味しているのか。すべての文で真偽を判定することは可能か。（２）オースティンの発話行為論は発話の意味をどのように捉えているのか。（３）グライスの「協調の原則」や現在注目されている関連性理論はどのようなものなのか。（４）発話に隠された意味を、聞き手はどのようなプロセスで推論し、理解するしているのか。（５）「丁寧さ」は、コミュニケーションの中でどのような役割を果たしているのか。

授業の概要と計画

次ぎの各項目を2ないし3回の授業で説明していく予定です。

1. マリノフスキー、ビュラー、ヤコブソンなどにおける「言語機能」を概観しながら、コミュニケーションにおける言語の役割について考えます。
2. ソシュールの言語記号の考え方と対比しながら、ヴィトゲンシュタインの「語の意味＝語の使用」説を概観し、それがいかなる形で、現在の英語学などにおける語用論、発話行為論へとつながっていったかを見ます。
3. 英語学における語用論の分野にも大きな影響を与えたオースティン、サールの発話行為論を概観します。
4. グライスの「協調の原則」や「4つの格率」が会話分析に果たした貢献やグライスの発話の「含意」についての考えを整理します。そして聞き手がどのようなプロセスで話し手の「含意」を推論し、理解するのかを考えます。
5. スペルベル/ウィルソンの「関連性理論」の基本的考え方について説明します。
6. 「丁寧さ」の表現が、コミュニケーションにおいて果たす役割についてブラウン/レヴィンソンの「ポライトネス」などを参照しながら考察します。

成績評価と基準

出席状況や質疑応答等を総合した授業活動（20%）と筆記試験（80%）によって評価します。特に筆記試験では、授業内容の理解度、解答内容の論理性、独自性を基準に採点します。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

コミュニケーションに関わる授業を幅広く受講することを勧めます。また図書館の言語学関係（とりわけ語用論）の文献なども利用して、自分の頭で色々考えてみるのが重要です。授業の前には配布されたレジュメに目を通し、問題点を把握しておいてください。授業の後には理解度をチェックし、わからない点は図書館で関連文献を読んで理解を深めてください。

オフィスアワー・連絡先

火曜の12：20から13：10までとします。なお事前に連絡してくれることを希望します。研究室は、B410。

学生へのメッセージ

コミュニケーションは人間の社会生活の中で欠かせない本質的行動の一つです。コミュニケーションの目的、スタイルの多様性や独自性、あるいは普遍な特質がどのような原因で生まれるかを、個々の社会や文化との関連で考えると興味が出てきます。

今年度の工夫

毎回授業のはじめに、前回の復習を行うとともに、授業はレジュメに従い具体例をまじえながら、系統立ててわかりやすく進めていきます。

教科書

テキストは特に用いず、プリントを配布して授業を進めます。

参考書・参考資料等

語用論入門 / ジュニー・トマス：研究社出版，1998，ISBN:9784327401184
 言語と行為 / J.L. オースティン：大修館書店，1978，ISBN:9784469210729
 語用論への招待 / 今井邦彦：大修館書店，2001，ISBN:9784469212648
 ポライトネス / P.ブラウン、S.C.レヴィンソン：研究社，2011，ISBN:9784327378202
 言語行為 / J.R.サール：けい草書房，1994，ISBN:9784326198757

授業における使用言語

日本語

キーワード

言語記号 コミュニケーション 機能 語用論 発話行為 関連性 含意 推論 敬意表現 ポライトネス フェ
イス

開講科目名	韓国・朝鮮社会文化論		
担当教員	竹腰 礼子	開講区分	単位数
		前期	2単位
授業のテーマと到達目標			
<作成中>			
授業の概要と計画			
<作成中>			
成績評価と基準			
<作成中>			
履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）			
<作成中>			
オフィスアワー・連絡先			
<作成中>			
学生へのメッセージ			
<作成中>			
今年度の工夫			
<作成中>			
教科書			
<作成中>			
参考書・参考資料等			
<作成中>			
授業における使用言語			
<作成中>			
キーワード			
<作成中>			

開講科目名	英会話（上級）Ⅰ		
担当教員	QUINN Cynthia	開講区分	単位数
		前期	1単位

授業のテーマと到達目標

Course Objectives

1. To improve students' understanding of authentic spoken discourse
2. To broaden students' cultural understanding
3. To expand English vocabulary and improve spoken fluency

授業の概要と計画

In this course, students will participate in a variety of listening-prompted speaking activities. All listening materials will come from the Internet, giving students a good opportunity to listen to authentic, international English. The major course assignments and activities are described below.

In-class Oral Narratives:

In class, students will listen to an online audio segment, take notes, and then practice reporting the contents to a partner. Sometimes we will expand this weekly practice to include discussion and/or question-answer follow-ups.

Weekly Expressions:

This is a short weekly student presentation. Students choose unfamiliar idioms or expressions to research thoroughly (from history to current usage) and then share their information with the class.

Video Lessons/Discussions:

Instructor and students will take turns leading discussion about a self-selected online video (such as from YouTube). Students are responsible for clarifying the details of the video to their group members along with key vocabulary and opinion statements for discussion. For the instructor lessons, content and vocabulary will be tested later in the course. For the student lessons, all students submit a report of their video content and discussion.

Homework Listening Reports:

Students are required to complete 10 listening assignments on their own for homework in order to gain confidence and skill in listening to natural English. Students complete an online report (on Google Forms) that conveys the title, date, and summary of content.

Final project: Oral Biographies:

Based on a selection of online interviews, students choose a well-known contemporary icon or personality to introduce to the class via group presentation. Students will prepare a poster or image-based handout for the audience that contains a timeline of that person's life as well as details regarding major turning points in their life.

Class 1 Course introduction

Class 2 Introduction to vocabulary presentations. Oral narratives.

Class 3 Oral summaries. Weekly expressions. Teacher video lesson

Class 4 Oral narratives. Weekly expressions. Student video lesson

Class 5 Oral narratives. Weekly expressions. Teacher video lesson.

Class 6 Oral narratives. Weekly expressions. Student video lesson. Listening reports 1-3 due.

Class 7 Oral narratives. Weekly expressions. Teacher video lesson

Class 8 Oral narratives. Weekly expressions. Student video lesson

Class 9 Oral narratives. Weekly expressions. Teacher video lesson

Class 10 Oral narratives. Student video lesson.

Class 11 Vocabulary/Listening Test. Start Biography project preparation. Listening reports 4-7 due.

Class 12 Prepare for Biography projects

Class 13 Biography project presentations

Class 14 Biography project presentations.

Class 15 Biography project presentations. Listening reports 8-10 due

成績評価と基準

Presentations/Discussions 30%

Homework 30%

Biography project 20%

Test 10%

Class participation 10%

* Participation grade includes attendance and teacher-observed in-class participation and effort.

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

Weekly homework will be assigned.

It is expected that students will have their homework completed for each class, as this is necessary to participate in the class activities.

オフィスアワー・連絡先

Tuesdays, 4th period (by appointment)

Email: cynthia@people.kobe-u.ac.jp

学生へのメッセージ

今年度の工夫

教科書

All class materials are distributed by the teachers or are from the Internet.

参考書・参考資料等

授業における使用言語

English

キーワード

開講科目名	翻訳文化形成論		
担当教員	北村 結花	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

テーマ：古典の受容と視覚文化

到達目標：古典とは何か。視覚文化にあらわれる古典を手掛かりに、古典受容を考える。

授業の概要と計画

日本の古典から『源氏物語』を取り上げ、主に近代における古典の受容について論ずる。『源氏物語』は絵巻物からマンガにいたるまで、視覚文化での二次創作による受容が盛んであり、このあたりを積極的に考察したい。また、同時に、海外の古典作品についても取り上げ、広く「古典」について考える機会としたい。

成績評価と基準

評価：授業期間中の課題50%、期末試験50%。

その他の判断基準：教育実習など、やむをえない事情で欠席する場合は必ず事前に連絡してください。事前連絡のない場合は評価への配慮は行いません。詳しくは初回の授業で説明します。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

- 1) ただ漫然と講義を聴くのではなく、受講者が自ら考えてもらうために、授業中の作業、及び、提出課題を課します。そのための準備学習や復習は不可欠です。
- 2) 重要なのは、古典を読むことです。というわけで、学期中にいくつか、日本、及び海外の古典作品を読むことを課します（日本語訳あるいは現代語訳で可）。詳細は初回の授業で説明します。

オフィスアワー・連絡先

yuika<A T>kobe-u.ac.jp

学生へのメッセージ

日本古典文化を見直すきっかけとしてください。「自文化だから、わかっている」ではなく、異文化でもある古典に「謙虚」に向き合うことが必要です。

今年度の工夫

教科書

適宜、授業中に指示します。

参考書・参考資料等

授業における使用言語

日本語

キーワード

古典、受容、視覚文化

開講科目名	フランス語会話I		
担当教員	バニユウヴェンヌイズ ブルーノ	開講区分	単位数
		前期	1単位
授業のテーマと到達目標			
<作成中>			
授業の概要と計画			
<作成中>			
成績評価と基準			
<作成中>			
履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）			
<作成中>			
オフィスアワー・連絡先			
<作成中>			
学生へのメッセージ			
<作成中>			
今年度の工夫			
<作成中>			
教科書			
<作成中>			
参考書・参考資料等			
<作成中>			
授業における使用言語			
<作成中>			
キーワード			
<作成中>			

開講科目名	ドイツ語会話I		
担当教員	トゥルンマー フカダ シュテファン	開講区分	単位数
		前期	1単位

授業のテーマと到達目標

この授業の目標は、受講生一人ひとりのレベルに合わせた会話練習によって、今まで習った単語と文法をリフレッシュし、ゲーム等を通して更に語彙を増やすと共に、イディオムにも慣れ、それらを実際の会話でより豊かに使えるようにすることです。

授業の概要と計画

授業は会話が中心となりますが、具体的な内容は受講生と話し合いながら決めたいと考えています。受講生一人ひとりのニーズにできるだけ応えながら、EUの言語教育方針にも対応した、ドイツ語圏内で行われる外国語としてのドイツ語教育にも通じる授業を目指しています。

会話の基本はまず、自分と自分の身の回りのことを表現してみることですが、いうまでもなく、その内容は一人ひとり異なっている部分が多いです。一般化された抽象的な内容ではなく、自分にとって必要だと思われる内容を覚えていただきたいため、人数が許す限り、受講生全員が話せるように時間配分していきたいと思います。

成績評価と基準

平常の授業活動 (65%)
レポート (35%)

総合評価を行う予定です。会話ですので、積極的な参加が一番大事だと思います。自ら言いたいことを言えるようになることを目標に、質問に答えるだけではなく、質問したり、自分の体験したことを積極的に語ったりすることが評価の対象となります。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

日本でも近年よく課題になっていることですが、EUの「言語教育共通参照枠」に沿った教育においていわゆるCan-do-statementsを利用します。学習者がすでにこなしているタスクを表に書き留めることです。たとえば「ドイツ語で挨拶ができます」などと書き留めることによって、学習成果をまとめながら再認識するのが狙いですが、やはり「できた」ことを書き留めるのが新しい目標を考え出す時でもあります。これらの新しい目標や、いろいろと勉強はしているけれども「できた」とどうしても言い切れない内容を教えていただければこちらも指針を指し示すことができ、間違いなく効率性の高い授業になると思います。

オフィスアワー・連絡先

水曜日12時20分 - 13時10分

学生へのメッセージ

ワークシートやYoutubeを用いた自習を積極的に行ってください。

今年度の工夫

神戸大学の交流協定校であるドイツ語圏の大学（グラーツ大学とハンブルク大学）で行われるドイツ語教育との連携強化。

教科書

授業では、神戸大学国際コミュニケーションセンターのMoodle（学習マネジメントシステム）を使用する予定です。

参考書・参考資料等

授業における使用言語

ドイツ語・日本語

キーワード

会話、ドイツ語

開講科目名	博物館概論		
担当教員	服部 正	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

博物館学、博物館学芸員養成課程への導入として、博物館の使命や機能、学芸員の仕事などについて学ぶ。また、日本近代の美術館の歴史を学ぶことで、現代社会における美術館の位置付けについて考える。それらを通じて、博物館に関する基礎的な知識を習得するとともに、博物館のあり方について自分なりの考えを述べられるようになることを目標とする。

授業の概要と計画

画像や文献資料を示しながら、以下の計画に沿って講義を行う。

第1回 ガイダンス：博物館学とは、博物館学芸員養成課程とは
第2回 博物館とは その1：博物館をめぐる法律
第3回 博物館とは その2：博物館の機能について
第4回 学芸員という仕事について
第5回 博物館資料の種類について
第6回 博物館資料の保存について
第7回 博物館での展示、展覧会について
第8回 博物館とメディア：図録、広報など
第9回 現代の博物館の課題：博物館と地域社会の連携について
第10回 博物館の歴史 その1：欧米の博物館の歴史
第11回 博物館の歴史 その2：日本の美術館の歴史1（内国勸業博覧会とそれ以前）
第12回 博物館の歴史 その3：日本の美術館の歴史2（文部省美術展覧会と美術館設立運動）
第13回 博物館の歴史 その4：日本の美術館の歴史5（読売アンデパンダン展と現代美術）
第14回 博物館の歴史 その5：自然史系博物館の歴史
第15回 まとめ

※授業内容は、受講者の理解度などに応じて変更する場合がある。
その場合は、授業中にその旨を通知する。

成績評価と基準

授業への参加 50%（授業中の課題への取り組みなど）
学期末試験 50%（講義内容の理解度、問題意識など）
期末試験と平常点の合計が満点の6割に満たない場合は「不可」とする
全体の3分の1以上欠席した者は「不可」とする

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

資格免許のための科目であることから、毎回の出席を原則とする。
日頃から地域の博物館・美術館の活動に注目し、情報収集に努めること。
積極的に博物館・美術館に足を向けるよう心がけること。

オフィスアワー・連絡先

授業終了後随時。相談内容が長時間に及ぶ場合は、この時に別途面会日を設定する。

学生へのメッセージ

日頃から地域の博物館の活動に注目し、身近に接するよう心がけてください。美術館や美術に関する情報も積極的に収集するようにしてください。授業中には、随時アンケートや簡単な作業課題を提示し、それについてのリアクションも授業に取り入れていきます。積極的な参加を歓迎します。

今年度の工夫

教科書

指定しない

参考書・参考資料等

講義内で紹介する

授業における使用言語

日本語

キーワード

博物館、美術館、学芸員、博物館展示論、博物館経営論、博物館情報・メディア論、博物館教育論、博物館資料論、博物館資料保存論

開講科目名	国際文化特殊講義（JAXA）		
担当教員	岡田 浩樹、JAXA	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

本講義の目的は、国際文化研究の立場から、宇宙開発という21世紀の最先端科学技術との関係を考えます。宇宙開発技術の進展は通信衛星技術（携帯電話、GPSなど）、今日のグローバル化に大きな影響を与えるとともに、同時に私たちの社会や文化のあり方がその発展の方向性に関わっています。

この講義はJAXAの全面協力を得て、現場の専門家、研究者および他大学の講師の講義を交えながら行う。まずは受講学生に基本的知識の修得した上で、人類の宇宙進出がもたらす様々なトピックについて議論、検討する能力を育てます。

授業の概要と計画

20世紀後半からめざましい発展を遂げた宇宙開発技術の進展、日本における現状、宇宙開発技術がもたらした社会文化への影響、今後の宇宙開発（人類の宇宙進出）がもたらすであろう社会・文化の影響を考えます。JAXA側からは大学・研究機関連携室のサポートを受け、人文社会コーディネーターと授業実施責任者（岡田）が講義内容についてをファシリテーターとし、調整します。JAXAの研究者による講義を行います。JAXA筑波宇宙研究所での施設見学およびセミナーを予定しています。

今学期は新しい企画として、筑波宇宙研究所の開発チームとのテレビ回線を通して共同企画を作る学生参加型ワークショップを行います。

成績評価と基準

平常点評価（講義に関する質問、コメント提出60%）、ワークショップ参加およびレポート40%

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

受講希望者は第一回講義に必ず出席してください。やむを得ない事情の場合は、第二回講義までに岡田に連絡すること。特段の事情がない限り、毎回出席できる学生に限ります。なお、各回の講義は独立した内容であり、配付資料を前もって予習することが必要です。また各回の講義についてshort commentを提出する。なお、相模原の特別講義には参加が可能な受講者が望ましい。

オフィスアワー・連絡先

水曜日昼休み E315 事前連絡必要（掲示板ないしメール）
kimsakka@kobe-u.ac.jp

学生へのメッセージ

最先端の問題に触れる得がたいチャンスです。宇宙科学の知識がなくても心配しないでください。積極的に参加したい受講者を求めます。この講義はJAXAと神戸大学の連携パイロット講義です。希望者多数の場合にはセレクションをします。なお、この講義の様子は映像で記録され、一部を発信すると同時に、レポートやプレゼンテーションは神戸大学およびJAXAの資料として保存されます。

今年度の工夫

今年は、筑波宇宙ステーションの協力を得て、学生参加型のワークショップを行い、学生の能動的参加を促します。

教科書

参考書・参考資料等

宇宙人類学の挑戦 / 岡田浩樹・木村大治・大村敬一：昭和堂,2014 ,ISBN:9784812214169
立花隆の「宇宙教室」 / 立花隆・岩田陽子：日本実業出版社,2014 ,ISBN:9784534052001
完全図解 宇宙手帳 / 渡辺勝巳：講談社blue backs ,2012 ,ISBN:9784062577625

授業における使用言語

基本的に日本語（必要に応じて英語）

キーワード

国際文化学、宇宙開発 文化 社会 科学技術

開講科目名	日欧比較セミナーⅠ		
担当教員	クレック	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

このコースはEUエキスパート人材養成プログラム (KUPES) を履修した学部2年生、及び欧州諸国出身の留学生、または欧州に関心のある留学生を対象に、欧州と日本の文化、経済、政治に関する様々な問題を比較的な視点で探求するものです。学生が欧州と日本の理解を深め、双方を批判的に比較できるようにすることを目的とします。授業への主体的な参加と教員・学生間のコミュニケーションを重視し、ディスカッション、プレゼンテーション、チームワークスキルなど留学に必要な資質の向上を目指します。
注) 留学生は所属学部の担当者から事前に許可を得ること。担当教員により10人程度を選抜します。

授業の概要と計画

このコースは3名の外国人教員が交代で講義を担当します。各週以下のテーマについて、教員、または外部講師が講義をし、それに続いて学生がディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションなどを行ないます。
第1週：イントロダクション (KRECK, RIMINUCCI and SCHRADE)
第2、3週：雇用：おたく対非熟練労働者？欧州と日本における（若者の）失業者 (SCHRADE)
第4、5週：多様性における統合：欧州と日本における差別禁止法とその政策 (RIMINUCCI)
第6、7週：異文化コミュニケーション：日本人とヨーロッパ人の挑戦 (KRECK)
第8、9週：農業政策：牛乳と米に一千億ユーロ？欧州と日本における農業補助金と近年の改正 (SCHRADE)
第10、11週：犯罪と刑罰：欧州と日本における死刑に関する法律と政策 (RIMINUCCI)
第12、13週：欧州と日本における人口構造の変化：どのように高齢化社会に対応するか？ (KRECK)
第14週：まとめ (KRECK, RIMINUCCI and SCHRADE)

成績評価と基準

出席と授業態度 (20%)、グループ発表、要約、研究論文 (80%)

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

オフィスアワー・連絡先

学生へのメッセージ

今年度の工夫

教科書

参考書・参考資料等

授業における使用言語

英語

キーワード

開講科目名	地域文化概論		
担当教員	小澤 卓也	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

本講義は、地域文化研究の意義について学ぶ授業です。地域文化講座に進学した場合、どのような問題（対象、領域）をどのような方法で解明（思考）していくのか、各自が具体的なイメージをつかめる（思考できる）ようになることを目標とします。

授業の概要と計画

毎週異なる講師が授業を担当するリレー式講義です。本講義はイントロダクション・全4部に分類された講義群・試験によって構成されており、以下のスケジュールで進められます。各講義の最後に時間をとり、コメントペーパーを提出してもらいます。

・イントロダクション:

〔第1週〕小澤 卓也「受講にあたってのガイダンス」

地域文化講座ではどのような視点や方法論でどのような勉強をすることが可能なのか簡潔に紹介します。その上で本講義を受講する上でのルールや心構え、講義の進め方やスケジュール、評価方法などについて確認します。

・I部: 大学で学ぶ

〔第2週〕井上 弘貴「銃をもつ権利——アメリカ社会から考える価値観の対立」

2010年の統計によると、アメリカ合衆国ではこの年、約1万人の人びとが銃によって命を落としました。銃規制の議論があるなか、銃の所持を支持する人びとが少なくないのは何故なのか。議論の対立の背後にある歴史、文化、政治について考えます。

〔第3週〕小澤 卓也「食でつながれた世界——バナナの場合」

歴史は人間がつくるもの？でも、モノが人びとをいかに結びつけたり、対立させたりしてきたのかという視点から歴史を考察することもできます。私たちにもなじみ深いバナナを中心に現代世界の歩みについて考えます。

・II部: 地域文化を学ぶ

〔第4週〕板倉 史明「映画から地域文化を研究するための基礎知識」

多様な国々の地域文化を学ぶ人にとって、映画作品やテレビ番組は重要な研究対象になります。映画を分析する専門的な知を学ぶことによって、世界中の映画をより深く鑑賞するためのスキルを身につけましょう。

〔第5週〕石塚 裕子「海とヨーロッパ」

大航海時代から世界中へと船出したヨーロッパの、とりわけイギリスの海に対する考えを学びながら、同じ島国でも日本とは好対照であり、海を通して文化の普遍性と固有性を考えてみましょう。

〔第6週〕貞好 康志「東南アジア地域研究の魅力」

地域研究は直接には特定の地域や社会、文化の固有性を探究するものですが、人間一般や世界全体について広く深く考えることを前提とし、また目標とします。東南アジア研究の豊かな森に皆さんをいざなう授業をめざします。

・III部: 身近なテーマを学問する

〔第7週〕昆野 伸幸「運命は変えることができるか？」

世俗化の進む現代日本においても、「今日は運がいい」「こうなる運命だった」という類いの言葉はよく聞きます。それでは、現在の私たちの抱く運（命）観はいつ頃成立したのでしょうか。『平家物語』の世界から考えていきます。

〔第8週〕坂本 千代「サンドの生涯と作品」

男女平等は現代日本では当たり前の前提ですが、ここに至るまでには昔から多くの人たちが闘ってきました。フランスのジョルジュ・サンドもそのひとりです。講義では彼女の生涯とその作品についてお話ししたいと思います。

〔第9週〕谷川 真一「中国一党支配体制のゆくえ」

中国の経済発展は、民主化をもたらすのか？人々の格差への不満や、頻発する抗議運動は、共産党一党支配体制を揺るがしているのか？授業では、政治学、社会学の視点から、これらの問いに迫っていきます。

・IV部: 個別の研究テーマについて思考する

〔第10週〕寺内 直子「文化交流の力学——アイデンティティとヘゲモニーの観点から」

文化はある地域、国家、民族のアイデンティティ表象の一形態です。この講義では、現代グローバル社会における文化の伝播と交流の諸問題について、背景の経済や政治的力学に眼を配りながら考えます。

〔第11週〕野谷 啓二「チョコレートとキリスト教」

チョコレートとキリスト教の関係について考えてみるというのが講義の趣旨。チョコは帝国主義によってもたらされた嗜好品(飲み物)だったが、近代市民社会の成熟に伴い、固形物となって広く受け入れられた。チョコレートの「マッサン」とも言うべきキャドバリーの生涯をたどってみたい。

〔第12週〕窪田 幸子「先住民研究と地域研究」

文化人類学は、ある特定の地域で営まれる細かな日常についての現地調査をおこない、具体的な生活の姿を明らかにしようとしています。その世界は、独立してあるのではなく、まわりのより大きな地域や国際的世界とのつながりの中にあるわけです。文化人類学が世界の理解にどのような意味をもつかについて考えてみましょう。

〔第13週〕補講日

〔第14週〕試験

成績評価と基準

・授業への積極的参加点=60%

(各担当者によるコメントペーパーの評価を数値化して累積した合計点。書かれた内容の学術性を重視します)

・期末試験(持込不可の試験)=40%

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

私語や授業の進行を妨げる迷惑行為については、「授業へ積極的に参加する意志がない」ものと見なし、減点対象とします。

オフィスアワー・連絡先

火曜日2限がオフィスアワーです。事前にメールなどでアポイントメントをとってください。

学生へのメッセージ

地域文化講座に関心のある学生の積極的な受講を期待しています。

今年度の工夫

昨年とは異なる講師を迎え、大きく動く現代世界の動向を見据えながら新たなテーマと切り口で地域文化研究の魅力について解説してもらいます。

教科書

特に指定しません。

参考書・参考資料等

講義を担当される先生方から紹介して頂くことがあります。

授業における使用言語

日本語

キーワード

地域文化 銃とアメリカ フードシステム 日本映画 イギリスの海洋文化 東南アジア 平家物語 フランス女性運動 現代中国社会 文化交流論 食とキリスト教 文化人類学

開講科目名	中国語会話I		
担当教員	姜 春潔	開講区分	単位数
		前期	1単位

授業のテーマと到達目標

「習うより慣れよ」という。言葉に慣れることが最も大切です。しっかりとした発音と基本的な会話能力を身につけることが目標です。

授業の概要と計画

第1回 中国語の特徴、及び発音について説明、また授業の進め方とテキストの使い方について説明。
第2回から、選定したテキストの内容に沿って、以下の手順で授業を行う。
①発音の練習と問題指摘 ②文章の朗読 ③自分の関心のある事柄について紹介 ④相手を意識し、適切な表現

成績評価と基準

出席10%・平常点40%（授業活動参加の積極性20%、準備20%）・期末試験の成績50%として評価します。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

中級コースの学生を対象とする授業なので、履修する場合、事前の準備と予習も必要です。

オフィスアワー・連絡先

学生へのメッセージ

中国語を学びたい、中国の歴史と現状を理解したい学生なら誰でも歓迎します。

今年度の工夫

教科書

石原享一・王柯・馮誼光『21世紀中国の課題－ゼミ形式で学ぶ』東方書店 第6刷。

参考書・参考資料等

授業における使用言語

中国語、日本語

キーワード

開講科目名	言語表現論		
担当教員	米本 弘一	開講区分	単位数
		前期	2単位
授業のテーマと到達目標			
日本語と英語の表現の違いを、それぞれの発想や論理の観点から比較する。特に、英語の文章を読んだり日本語に翻訳したりする時に生じる問題点について考察する。そのことによって、英語らしい表現、日本語らしい表現についての理解を深めることを目標とする。			
授業の概要と計画			
授業では、以下のような項目を取り上げ、英語と日本語の表現について、具体的な例を挙げながら比較分析する。なお、各項目は互いに関連するものが多いので、一回の授業で一つの項目だけを対象とするとは限らない。			
1 英語と日本語の構文の違い 2 主語の問題 3 代名詞と関係代名詞 4 名詞と動詞 5 受動態と受け身表現 6 時制の問題 7 行為と状態 8 話法 9 敬語（待遇表現） 10 英語と日本語の論理、発想の違い 11 英語らしい表現と日本語らしい表現			
成績評価と基準			
授業中の課題（ほぼ毎回）40％ 学期末試験60％（授業内容の理解度、独創性など）			
履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）			
他学部の学生の受講は、英語の教職免許の取得に必要な場合のみ許可する。各授業の最後に、授業中に説明した内容に関する課題を解いてもらうので、中辞典程度の英語の辞書を持参すること。また、学期末試験に備えて、毎回の授業内容をまとめておくこと。履修に関して詳しいことは初回の授業で説明するので、必ず出席すること。			
オフィスアワー・連絡先			
金曜3限 B413研究室			
学生へのメッセージ			
英語、日本語の文章を読む時には、普段からその背後にある発想や論理、文脈などを意識して読むようにすると、授業が理解しやすくなるであろう。			
今年度の工夫			
教科書			
教科書は使用しない。資料を配付する。			
参考書・参考資料等			
参考文献は授業中に適宜紹介する。			
授業における使用言語			
日本語			
キーワード			
英語らしさ 日本語らしさ 発想と論理			

開講科目名	外国語演習（英語）（グローバル専門科目）		
担当教員	寺内 直子	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

<作成中>

授業の概要と計画

<作成中>

成績評価と基準

<作成中>

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

<作成中>

オフィスアワー・連絡先

<作成中>

学生へのメッセージ

<作成中>

今年度の工夫

<作成中>

教科書

<作成中>

参考書・参考資料等

<作成中>

授業における使用言語

<作成中>

キーワード

<作成中>

開講科目名	外国語演習（フランス語）		
担当教員	坂井 一成	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

フランス語文献の購読とプレゼンテーション、ディスカッションを通じて、ヨーロッパ統合ないしフランス政治・社会に関する理解を深める。

授業の概要と計画

ヨーロッパ統合ないしフランス政治・社会に関するフランス語文献を精読したうえで、担当者がプレゼンテーションを行い、議論を行う。

成績評価と基準

授業への積極的参加の度合い（50％）、プレゼンテーション（50％）

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

授業時に指定する文献を熟読して、疑問点を挙げて授業に臨むこと。授業後には、文献の再読を通じて授業内容の定着を図ること。

オフィスアワー・連絡先

随時。ただしメール（kazu[at]harbor.kobe-u.ac.jp）で事前連絡が望ましい。
国際文化学研究科・学部 E407研究室

学生へのメッセージ

今年度の工夫

教科書

プリントを配布する。

参考書・参考資料等

参考文献を授業時に指示する。

授業における使用言語

日本語、フランス語

キーワード

開講科目名	外国語演習（ドイツ語）		
担当教員	藤涛 文子	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

ドイツの文化と社会についての様々なテキストを熟読することによって、ドイツ語力を高めるとともに、ドイツの文化と社会について理解を深めます。

授業の概要と計画

ドイツの文化と社会に関する最新のウェブ記事を読む。

1. 易しいテキストの多読と要約
2. 難しいテキストの精読
3. ドイツ語による質疑応答と要約
4. 日本語への翻訳トレーニング

成績評価と基準

平常点評価（授業への積極的参加、課題提出）

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

毎回、指定教材の事前準備が必要です。課題提出もありますから、毎回の指示に従ってください。

オフィスアワー・連絡先

随時（要事前連絡）
fumiko@kobe-u.ac.jp
研究室：B411

学生へのメッセージ

ドイツ語圏での短期・長期留学を目指している人は是非参加してください。

今年度の工夫

グループワークを取り入れます

教科書

コピーを配布

参考書・参考資料等

必要に応じて授業中に紹介します。

授業における使用言語

日本語とドイツ語

キーワード

ドイツ語

開講科目名	オセアニア社会文化論		
担当教員	窪田 幸子	開講区分	単位数
		前期	2単位
授業のテーマと到達目標			
オーストラリアの先住民、アボリジニの社会と文化、オーストラリア国家との関係を中心に、オセアニア地域の歴史、社会、文化変化と現在について、「先住民」に焦点をあてて概説する。白人に「発見」されて以降の彼らの歴史的变化と現在を、我々と地続きの経験として理解することを目指す。			
授業の概要と計画			
1 はじめに 2 オセアニアという地域について 3 オセアニアへの人類の拡散 4 オーストラリアの自然と歴史 5 アボリジニの経験 6 アーネムランドのアボリジニ 7 伝統、親族、儀礼 8 女性と社会 9 変化と持続 10 オーストラリア国家と先住民 11 博物館、美術館と先住民 12 ニュージーランドと先住民 13 オセアニア芸術祭 14 国際言説、国家、先住民 15 おわりに			
成績評価と基準			
最終試験、または最終レポート 80% 授業への参加 20%			
履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）			
文化人類学関係の入門講義を履修済みであることが望ましい。 指示する論文を読んで自習をおこなうこと。			
オフィスアワー・連絡先			
アポイントにていつでも対応 kubotas@people.kobe-u.ac.jp			
学生へのメッセージ			
人類学が主に扱う、日常のミクロな事象が、どのようにマクロな視点につながるのか、一緒に考えてみませんか。 キャッチボールのできる講義を理想とします。			
今年度の工夫			
現代的問題にリンクすることを意識的に考えます。			
教科書			
特定のものは使用しない			
参考書・参考資料等			
窪田幸子『アボリジニ社会のジェンダー人類学』世界思想社、窪田幸子・野林厚志『「先住民」とはだれか』世界思想社、小山修三・窪田幸子『他文化国家の先住民』世界思想社			
授業における使用言語			
日本語			
キーワード			
オセアニア、オーストラリア、先住民			

開講科目名	日欧比較セミナーⅢ		
担当教員	クレック	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

このコースはEUエキスパート人材養成プログラム (KUPES) を履修した学部3年生、及び欧州諸国出身の留学生、または欧州に関心のある留学生を対象に、欧州と日本の文化、経済、政治に関する様々な問題を比較的な視点で探求するものです。学生が欧州と日本の理解を深め、双方を批判的に比較できるようにすることを目的とします。授業への主体的な参加と教員・学生間のコミュニケーションを重視し、ディスカッション、プレゼンテーション、チームワークスキルなど留学に必要な資質の向上を目指します。
注) 留学生は所属学部の担当者から事前に許可を得ること。担当教員により10人程度を選抜します。

授業の概要と計画

このコースは3名の外国人教員が交代で講義を担当します。各週以下のテーマについて、教員、または外部講師が講義をし、それに続いて学生がディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションなどを行ないます。
第1週：イントロダクション (KRECK, RIMINUCCI and SCHRADE)
第2、3週：ヨーロッパと日本におけるスポーツの役割 (KRECK)
第4、5週：‘グリーン’でいることは報われるか？EUと日本における環境政策とその経済 (SCHRADE)
第6、7週：本来女性は太陽だった：欧州と日本における男女平等法と政策 (RIMINUCCI)
第8、9週：ヨーロッパと東アジアにおけるアイデンティティの形成 (KRECK)
第10、11週：労働者の流動と移民：EUと日本における成長の可能性と持続性 (SCHRADE)
第12、13週：労働者に問う、我々には代わりの人材がいる：EUと日本における移民法と政策 (RIMINUCCI)
第14週：まとめ (KRECK, RIMINUCCI and SCHRADE)

成績評価と基準

出席と授業態度 (20%)、グループ発表、要約、研究論文 (80%)

履修上の注意 (準備学習・復習、関連科目情報等を含む)

オフィスアワー・連絡先

学生へのメッセージ

今年度の工夫

教科書

参考書・参考資料等

授業における使用言語

英語

キーワード

開講科目名	環大西洋文化論		
担当教員	小澤 卓也	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

現在のコーヒー・フードシステムの基礎は、主要なコーヒー生産国と消費国が集中する環大西洋地域で生み出されました。ヨーロッパ、南北アメリカ、アフリカ諸国は、絶え間なく繰り返される相互影響を通じてそれぞれ個性的なコーヒー文化を育んでいます。本講義は、トランスナショナルな視点からその複雑な歴史的相互関係を紐解いていきます。コーヒーをめぐる異文化社会間の有機的な繋がりについて、受講生自身が分析できるようになることを到達目標とします。

授業の概要と計画

以下のスケジュールで講義を行う予定です。ただし、受講生の反応を見ながら、その関心に合わせて若干予定を変更することもあります。その場合は、講義の中で受講生に説明します。

- 1 本講義に関する説明と質問受付
- 2 現代日本のコーヒー事情と環大西洋地域
- 3 コーヒー飲用文化の伝播：アフリカからヨーロッパへ
- 4 環大西洋革命とコーヒー：ヨーロッパから南北アメリカへ
- 5 小テスト（1回目）、および講義「植物・商品作物としてのコーヒーの特色と欧米市場」
- 6 ブラジル・コーヒーの歴史(1)：「コーヒー大国」への道
- 7 ブラジル・コーヒーの歴史(2)：「コーヒー大国」の功罪
- 8 ブラジルのコーヒー生産文化と日本
- 9 コスタリカ・コーヒーの歴史
- 10 小テスト（2回目）、および講義「コスタリカのコーヒー生産文化の特色」
- 11 アメリカの歴史とコーヒー(1)：紅茶文化からコーヒー文化へ
- 12 アメリカの歴史とコーヒー(2)：国民的飲物としてのコーヒー
- 13 アメリカのコーヒー消費文化と日本
- 14 本講義のまとめ：コーヒーと環大西洋文化
- 15 学期末試験と解説

成績評価と基準

成績評価の内訳は、小テスト（2回）＝50%、学期末試験＝50%

とします。ただし、以下の点に注意してください。

- 1) 小テストを1度も受けない受講生は単位の取得ができません。
- 2) 小テストには、普段から積極的に授業に参加しているかどうかを確認するような問題も出されます。
- 3) 小テストは5週目と10週目、期末テストは15週目に行うこととします（各自スケジュールを確認しておくこと）。なお、大学当局が公認していない私的な理由による試験の不参加は認めないので、就職活動やクラブ活動を行う学生、また私費留学を考えている学生は注意してください。
- 4) 単位認定のためにレポートなどによる個人的な救済措置はいっさい行いません（4回生以上の学生は履修に注意）。
- 5) 試験は「持込不可」で実施する予定です。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

主要なコーヒー生産地域であるラテンアメリカに関する内容が多いことに注意して履修登録してください（ただし、国際文化学部生以外の受講は不可）。準備学習として、あらかじめ地図でアメリカ合衆国やラテンアメリカ諸国（およびその主要都市）の位置について確認しておく必要があります。また、19世紀末から20世紀前半のアメリカやブラジルに関する大きな歴史の流れを抑えておくことさらに理解が深まります。復習については授業中に指示します。

オフィスアワー・連絡先

オフィスアワーは火曜日2限目（メールによるアポが必要）です。アドレスはozataku(AT)harbor.kobe-u.ac.jpです。

学生へのメッセージ

独特の成績評価であることに注意してください。なお、試験はすべて「持ち込み不可」で実施する予定です。

今年度の工夫

授業のなかで、コーヒー広告に関する新しい映像資料を使用する予定です。

教科書

特にテキストは指定しません。授業中に必要とされる資料については、プリントして配布します。

参考書・参考資料等

授業の内容についてより深く学びたい受講生には以下のテキストが役に立ちます。
コーヒーのグローバル・ヒストリー / 小澤卓也: ミネルヴァ書房, 2010, ISBN:9784623056200

授業における使用言語

日本語

キーワード

コーヒー グローバル・ヒストリー 南北問題 ラテンアメリカ アメリカ合衆国

開講科目名	ヨーロッパ市民社会論		
担当教員	石塚 裕子	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

授業では、ヨーロッパにおける市民の成立とそこに至る過程、そしてまたここから生じる様々な諸問題を多角的に検討し、市民社会の意義を考える。具体的には、他の主だった欧州諸国とは一線を画す、立憲君主制の政治体制をとるイギリスを取り上げる。産業革命を経て、世界に先駆けいち早く本主義体制を確立させたヴィクトリア朝を扱い、市民社会が十分に確立していなかった当時、様々な社会のひずみ、例えば、貧富の差や女性・子供への虐待を生んだが、その一方でそういう時代だからこそ出てきた庶民の手による多様な文化もまた生まれえたのであった。エリザベス朝のシェイクスピアを頂点とする戯曲の黄金期と並び、ディケンズなどの作家によって次々と出された社会告発の小説に端を発し小説の黄金期を迎えるのもこの時代のことであった。こういう時代背景としての社会とそこに生み出された豊穡な文化とを文学・美術作品を読み解きながら、見ていくことにする。

授業の概要と計画

立憲君主制
階級制度
ヴィクトリア朝の社会問題
ヴィクトリア朝の女性
教育制度と子供の世界
交通と旅
セクシュアリティについて
イギリスの探偵小説
万博について
世紀末ロンドン
イギリス美術について

成績評価と基準

原則として、単位取得には三分の二以上の出席が必要。
その上で、筆記試験に合格点60点を取ること

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

当講義科目は教職科目に指定されており、イギリス文学に毎回言及することになります。
予習・復習をしっかりと受講すること

オフィスアワー・連絡先

水曜日昼休み
ishizuka@kobe-u.ac.jp

学生へのメッセージ

今年度の工夫

教科書

使用しない

参考書・参考資料等

『産業革命と民衆』（河出書房）角山栄他著、『ヴィクトリアンの地中海』（開文社）石塚裕子著、『イギリス近代史講義』（講談社現代新書）川北稔、その他の文献は授業で随時紹介

授業における使用言語

日本語

キーワード

ヴィクトリア朝、文化、ディケンズ

開講科目名	ロシア語会話I		
担当教員	グレチュコ、ヴァレリー グレチュコ	開講区分	単位数
		前期	1単位

授業のテーマと到達目標

ロシア語会話の初級用の授業です。初級文法を使って、日常会話に密着した平易なロシア語を聞き、話し、読み、書くために必要な基礎知識を身につけることを目標とします。

授業の概要と計画

授業では「買い物をする」、「道を尋ねる」、「ロシア人の家庭を訪問する」など、日常生活の一場面を想定し、会話練習を重点的に行います。日常会話でよく使われる言い回しを、ビデオなどの映像も使いながら、楽しく学びましょう。

成績評価と基準

平常点（出席、授業への積極的参加・発言）70％、小テスト30％

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

授業の後、必ず復習するようにしてください。新しく出てきた単語や言い回しは、必ず暗記するようにしましょう。

オフィスアワー・連絡先

必要なときはメールで連絡してください。vgretchko@hotmail.com

学生へのメッセージ

外国語には実際に使ってみて初めてわかるおもしろさ、楽しさがたくさんあります。ネイティブの教員の生のロシア語にぜひ触れてみてください。

今年度の工夫

少人数クラスの利点を生かし、インタラクティブな授業にします。

教科書

プリントを配布します。

参考書・参考資料等

授業中に指示します。

授業における使用言語

ロシア語

キーワード

ロシア語 初級会話

開講科目名	Cultures and Societies in Japan II（グローバル専門科目）		
担当教員	ランカシャー	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

Japanese Cultures and Societies from the Edo period to the present day. The aim of this class is for students to be able to understand and explain Japanese culture and history in English

授業の概要と計画

After and orientation, the class will proceed by introducing cultural and historical aspects of the Edo period working through the Meiji, Taisho and Showa periods to the present day. Particular aspects of each period focused on ranging from religious thought systems, various aspects of the arts and relations with neighbouring countries.

成績評価と基準

Attendance and positive contribution to the class 20%, end of term report 80%. A demonstration of understanding of the course and originality of ideas expressed logically in the report is necessary.

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

This class is a "global specialized education" class taught in English with the aim of fostering global talent. Students from other departments can also enrol. An ability to follow an English language lecture is necessary. Class preparation and revision is best achieved by reading texts recommended in class. The publication "A history of Japan: from Stone Age to Superpower" by Kenneth Henshall is recommended for both preparation and revision.

オフィスアワー・連絡先

I can be consulted at the end of class

学生へのメッセージ

Understanding Japanese history and culture in English.

今年度の工夫

Will occasionally use audio-visual materials

教科書

参考書・参考資料等

Will recommend background texts in class.

授業における使用言語

English

キーワード

Japanese cultures and history

開講科目名	芸術文化形成論		
担当教員	岩本 和子	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

文化的多様性やマイノリティ文化への理解を深めるために、「フランコフォニー」（世界のフランス語圏）各地の言語状況や芸術文化を学びます。

授業の概要と計画

英語圏文化中心のグローバリゼーションに対抗する形で「文化的多様性」を標榜する世界的組織でもある「フランコフォニー」だが、そこにも中心パリがある。中心とその他の多様な周縁（マイノリティ）文化の諸相を理解することをめざす。具体的には以下の国・地域の言語・文化状況や芸術作品（主に言語芸術）を紹介しながら中心と周縁、相違と交錯の諸現象を考察する。フランス（の中心パリ）、フランスの諸地域（南仏、ブルターニュ、アルザスなど）、ベルギー、スイス、カナダ、北アフリカ（マグリブ）、ブラックアフリカ、カリブ（クレオール）など。

成績評価と基準

学年末試験 80%

出席点（授業中のアンケートや提出物など） 20%

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

毎回出席し、ノートをとることを前提とします。フランス語の履修は全く前提としません。後期演習でさらに具体的に芸術作品のテキスト読解や分析について学んでいくつもりです。

オフィスアワー・連絡先

随時（メールにて事前連絡）iwamotok@kobe-u.ac.jp

学生へのメッセージ

大国だけでなく、周縁文化にも目を向け、多角的な視野を持つように心がけてください。質疑応答で積極的に授業に参加してください。

今年度の工夫

補助資料や映像なども使い、各国・地域の言語や文化、芸術作品にできるだけ直接触れたいと思います。

教科書

資料の配布と参考文献の紹介を、授業中に行う。

参考書・参考資料等

授業における使用言語

日本語

キーワード

世界のフランス語圏 言語芸術 文化的多様性 中心と周縁 芸術文化政策

開講科目名	比較政策論		
担当教員	安岡 正晴	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

従来、政策は国民国家単位で検討され、立案されるのが一般的だったが、グローバル化の進展による越境的な課題の急増は一国単位での政策実施の有効性を著しく低下させた。世界各国は政策実践を相互に参照し、協調しながら、自国の歴史的・制度的背景に適合する政策を選択することを求められている。本科目では、先進諸国が共通して直面している政策課題とそれに対する各国の対応について、G8諸国の政策実践を比較しながら検討する。具体的には財政再建、通商政策、産業政策、地球温暖化対策、地方分権、移民・外国人に対する対応、少子・高齢化、格差是正、犯罪・テロ対策、教育改革、都市再生、雇用政策、農業・食糧政策、エネルギー政策、男女共同参画などの分野を取り上げる。

授業の概要と計画

具体的には以下の日程で進める。

1. 公共政策とその形成過程
2. 移民・外国人政策（1）（米国、日本、ドイツ）
3. 移民・外国人政策（2）（フランス、イタリア、イギリス）
4. 税制政策（米国、日本、ドイツ、フランス、イタリア、イギリス、EU）
5. 医療・保健政策（米国、日本、ドイツ、フランス、イタリア、イギリス）
6. 社会・福祉政策（1）（米国、日本、ドイツ）
7. 社会・福祉政策（2）（フランス、イタリア、イギリス、北欧）
8. 教育政策（米国、日本、ドイツ、フランス、イタリア、イギリス）
9. 環境・エネルギー政策（1）（米国、日本、ドイツ）
10. 環境・エネルギー政策（2）（フランス、イタリア、イギリス）
11. ジェンダー政策（米国、フランス、イギリス、日本、北欧）
12. 犯罪・ドラッグ規制政策（米国、フランス、イギリス、オランダ、日本）
13. テロ政策（米国、フランス、イギリス、ロシア、日本）
14. メディア政策（米国、フランス、イギリス、ロシア、日本）
15. 対テロ政策（米国、フランス、イギリス、ロシア、日本）

各政策分野はどのような特徴をもっているのか？各政策分野にはどのようなステークホルダー（利害関係者）が存在するのか？同じ政策分野でも国や時代によって政策対応が異なっているのは何故か？、政策立案・提言をする場合にクリアしなければならないポイントは何か？、などの点について、最新の映像教材なども活用しながら解説していく。

成績評価と基準

毎回の授業についてのコメントの他、2000-2500字のショート・レポートを計2回提出してもらい、それらを総合して評価する。レポートの締め切りは、第1回6/2、第2回7/31とする。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

Jessica R. AdolinoとCharles H. BlakeによるComparing Public Policies(CQ Press, 2011) など、事前に読んでもらうべき文献はネットに掲載するので予め読了したうえで授業に臨んでほしい。講義の前半7回と後半7回の内容に関して、各1本のショートレポート(2000-2500字)を提出してもらう。また毎回の授業後にコメントを提出してもらい、計2回のレポートと総合して成績評価する。筆記試験は実施しない。

オフィスアワー・連絡先

水、金の昼休み、それ以外は要予約
yasuoka@kobe-u.ac.jp
研究室 E409

学生へのメッセージ

政策というと一見遠いものに聞こえるかもしれませんが、普段の私たちの生活に密接に関係しているものが多いです。政策そのものに関心がある人はもちろん、政策というレンズで複数の国々のあり方の違いを比較してみたい人の受講を歓迎します。

今年度の工夫

今年の講義では事実について解説する部分よりも、政策の是非や問題点について受講生に考察してもらうことに力点を置きたいと考えている。

教科書

Comparing Public Policies: Issues and Choices in Industrialized Countries / Jessica R. Adolino and Charles H. Blake : CQ Press ,2011 ,ISBN:9781933116785

参考書・参考資料等

--

授業における使用言語

日本語、英語

キーワード

--

開講科目名	日本文化表象論		
担当教員	板倉 史明	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

日本映画の歴史と映画学的分析の基礎を学ぶ

黎明期から主に1960年代までの日本映画の歴史について解説しながら、映画学的な分析方法の基礎を学んでもらう。そのことを通じて、現代の私たちを取り巻く映像文化を批判的に読み解く技術を身につけてもらう。

授業の概要と計画

毎回、日本映画の各時代における歴史を概観しながら、各時代の支配的な映画のスタイルの特徴を、同時代の社会背景や技術と照らし合わせながら、具体的な映像に即して分析してゆく。

各回の概要：

第1回 イントロダクション
第2回 黎明期の映画 1899-1910年
第3回 初期映画 1910年代
第4回 サイレント映画全盛期 1920年代 1
第5回 サイレント映画全盛期 1920年代 2
第6回 トーキー映画のはじまり 1930年代 1
第7回 トーキー映画の多様なジャンル 1930年代 2
第8回 戦時下のプロパガンダ映画 1940年代前半 1
第9回 戦時下のプロパガンダ映画 1940年代前半 2
第10回 占領下の映画 1940年代後半 1
第11回 占領下の映画 1940年代後半 2
第12回 戦後の黄金時代 1950年代 1
第13回 戦後の黄金時代 1950年代 2
第14回 映画産業の衰退期と多様なジャンル 1960年代
第15回 まとめ

成績評価と基準

平常点（15%）、中間レポート（35%）、期末レポート（50%）。

・中間レポートを期日までに提出した学生のみ期末レポートを提出する権利を有する。中間レポートの締切は5月29日（金）、期末レポートの締切は7月31日（金）を予定。各課題は締切の1か月前までにうりぼーネットの掲示板で指示。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

授業で取り上げられた映画作品を、授業後に見ようとする積極性が望まれる。レジュメはうりぼーネットで授業後に受講者へ送信するため授業中に配布することはない。

オフィスアワー・連絡先

適宜メールにて日時等設定する。itakura(a)people.kobe-u.ac.jp

学生へのメッセージ

今年度の工夫

過去と現代とのつながりを意識できるようなテーマを加える

教科書

なし

参考書・参考資料等

授業中に紹介する

授業における使用言語

日本語

キーワード

映画、映像、メディア

開講科目名	感性文法論		
担当教員	定延 利之	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

話しことばが本質とする「体験」の文法が、これまで自明視されていた「知識」の文法と異なることを、われわれにとって卑近な現代日本語を例に具体的に学ぶ。

授業の概要と計画

場所表現、間隔表現、頻度表現、時間表現、条件表現、イントネーション、声質、その他の多様な表現について各論を展開する。

成績評価と基準

学期末の試験の成績で評価する。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

毎回、十分な準備を行なうこと。

オフィスアワー・連絡先

水曜昼休み（要予約）

学生へのメッセージ

プリントがほぼ毎回呈示されるが、要点を理解しておかないとただ漫然と眺めて終わることになってしまうので注意されたい。

今年度の工夫

教科書

なし

参考書・参考資料等

煩悩の文法 / 定延利之 : 筑摩書房 ,2008 ,ISBN:9784480064387

授業における使用言語

日本語

キーワード

書きことば 話しことば メディア 内容 知識 体験 場所表現 間隔表現 頻度表現 時間表現 条件表現
イントネーション 声質

開講科目名	情報資料構成論		
担当教員	清光 英成	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

様々なデータから情報を収集・加工・蓄積して資料を構成するために必要となる知識を習得することを目的とする。文系の学生を対象とするため、あまり難しくないように努める。例えば、必要となる論理の知識は第2回の集合論入門で解説・教授するので数学的知識は予め要求しない。

授業の概要と計画

講義は以下の内容で行うが、文系学生を対象としているため、専門語などは平易な表現での説明に努めることにする。

1. データと情報
2. 集合論入門
3. データの正規化
4. データの一貫性と完全性
5. 代数的な表現と論理的な表現
6. 関係表現の等価性
7. 質問言語 (SQL:Structured Query Language)
8. データ操作の原始的な単位 (トランザクション)
9. Web情報システム
10. データベースの設計と実装

成績評価と基準

小テストと期末試験で評価する。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

専門演習B (C203)の受講が望ましい。Webテキストを予習・復習に活用すること。

オフィスアワー・連絡先

随時。（但し、事前連絡が必要。E-Mail: kiyomitsu@carp.kobe-u.ac.jp）
研究室B407

学生へのメッセージ

今年度の工夫

小テストをします。

教科書

「データベース入門」，増永良文著，サイエンス社，ISBN：4-7819-1140-4

参考書・参考資料等

Webテキストを公開するので、予習・復習に利用してください。

授業における使用言語

日本語

キーワード

開講科目名	中国社会システム論		
担当教員	王 柯	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

「周辺からの中国」
 多民族国家という視点から現在中国が抱えている問題を体系的に説明し、受講生に自らの問題意識を持ち、独自の視点で分析するような思考の慣習を身につけていただくため、「周縁」という共通の地理的、社会的特徴を持つ中国南部地域のムスリム社会、日本の華僑（華人）社会、新疆のウイグル族社会、そして香港のムスリム社会、台湾のムスリム社会及び台湾の原住民社会など中国及びその他の社会の周辺に重層的に位置する共同体社会を実例に、その文化、宗教、宗族、公共、地域社会、民族、国家に対する認識と反応を通じて、「周縁性」に対する感性、捉え方及び捉え方の変容を歴史的かつ動態的に把握し、彼らの実生活にとって周縁性の持つ意味はなにか、彼らはそれぞれいかなる対応をとったのか、その政治的、文化的、社会的、政治的原因はなにか、といった「周縁性」を巡る諸問題にある規則性を抽出し、「周縁性」が持つ社会的意義、思想的価値及び人文社会科学研究のツールになる可能性を検証する。

授業の概要と計画

基本的に次のテーマに沿って順番に講義する。

- 一 「中華」と異民族
 - 1、「中華文化」の創始者は異民族だった
 - 2、「中華」と「東夷」・「西戎」・「南蠻」・「北狄」
 - 3、「中原」への道と文化の転換
 - 4、中華文化の「天下」における異民族

二 漢民族国家という幻想

- 1、「漢」と「中国」
- 2、清朝の「漢奸」物語
- 3、清朝の支配と中国の多民族国家伝統
- 4、「中華民族」の登場と変質

三 「少数民族」の空間

- 1、中華民国と「少数民族」
- 2、少数民族に接近する人民共和国
- 3、「五十六民族」の誕生
- 4、「民族区域自治」の空間

四 民族の宗教、宗教の民族

- 1、「少数民族」と宗教
- 2、チベット仏教の成立とモンゴル
- 3、チベットの政教一致制度
- 4、二つのイスラーム
- 5、中国の「イスラーム族」
- 6、中国の宗教政策

五 国際政治のはざままで

- 1、辺境の住人
- 2、「国境」をまたぐ「民族」
- 3、「ロシア族」と「朝鮮族」の成立
- 4、大国の国益に翻弄されたモンゴル民族
- 5、国際政治のカードと化したチベット問題
- 6、文明の越境、経済の越境

六 開発と伝統

- 1、国民的郷愁を誘う少数民族
- 2、「西部開発」と経済統合
- 3、近代化による「進歩」と民族の苦悩
- 4、失われた伝統、失われた言語

七 多民族国家の課題

- 1、二つの民族問題
- 2、チベットと北京
- 3、鄧小平時代のダライ・ラマ
- 4、「東トルキスタン独立運動」

成績評価と基準

出席率、学習の態度、期末レポートの成績を総合的に判断して成績を評価する。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

- 1,指示した教科書を早日に購入すること。
- 2,中国および日中関係関連の新聞記事を入念に調べること。
- 3,授業中に発表者の発表内容に対して積極的に質問すること。

オフィスアワー・連絡先

水曜日 12:30—13:10
E214室、内線7459

学生へのメッセージ

歴史を複眼的に見ることが重要である。

今年度の工夫

教科書

岩波新書『多民族国家 中国』2011年第6版/王柯: , ISBN:

参考書・参考資料等

授業における使用言語

日本語

キーワード

開講科目名	ラテン語入門I		
担当教員	山澤 孝至	開講区分	単位数
		前期	1単位
授業のテーマと到達目標			
<作成中>			
授業の概要と計画			
<作成中>			
成績評価と基準			
<作成中>			
履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）			
<作成中>			
オフィスアワー・連絡先			
<作成中>			
学生へのメッセージ			
<作成中>			
今年度の工夫			
<作成中>			
教科書			
<作成中>			
参考書・参考資料等			
<作成中>			
授業における使用言語			
<作成中>			
キーワード			
<作成中>			

開講科目名	ドイツ語会話I		
担当教員	トゥルンマー フカダ シュテファン	開講区分	単位数
		前期	1単位

授業のテーマと到達目標

この授業の目標は、受講生一人ひとりのレベルに合わせた会話練習によって、今まで習った単語と文法をリフレッシュし、ゲーム等を通して更に語彙を増やすと共に、イディオムにも慣れ、それらを実際の会話でより豊かに使えるようにすることです。

授業の概要と計画

授業は会話が中心となりますが、具体的な内容は受講生と話し合いながら決めたいと考えています。受講生一人ひとりのニーズにできるだけ応えながら、EUの言語教育方針にも対応した、ドイツ語圏内で行われる外国語としてのドイツ語教育にも通じる授業を目指しています。

会話の基本はまず、自分と自分の身の回りのことを表現してみることですが、いうまでもなく、その内容は一人ひとり異なっている部分が多いです。一般化された抽象的な内容ではなく、自分にとって必要だと思われる内容を覚えていただきたいため、人数が許す限り、受講生全員が話せるように時間配分していきたいと思います。

成績評価と基準

平常の授業活動 (65%)
レポート (35%)

総合評価を行う予定です。会話ですので、積極的な参加が一番大事だと思います。自ら言いたいことを言えるようになることを目標に、質問に答えるだけではなく、質問したり、自分の体験したことを積極的に語ったりすることが評価の対象となります。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

日本でも近年よく課題になっていることですが、EUの「言語教育共通参照枠」に沿った教育においていわゆるCan-do-statementsを利用します。学習者がすでにこなしているタスクを表に書き留めることです。たとえば「ドイツ語で挨拶ができます」などと書き留めることによって、学習成果をまとめながら再認識するのが狙いですが、やはり「できた」ことを書き留めるのが新しい目標を考え出す時でもあります。これらの新しい目標や、いろいろと勉強はしているけれども「できた」とどうしても言い切れない内容を教えていただければこちらも指針を指し示すことができ、間違いなく効率性の高い授業になると思います。

オフィスアワー・連絡先

水曜日12時20分 - 13時10分

学生へのメッセージ

ワークシートやYoutubeを用いた自習を積極的に行ってください。

今年度の工夫

神戸大学の交流協定校であるドイツ語圏の大学（グラーツ大学とハンブルク大学）で行われるドイツ語教育との連携強化。

教科書

授業では、神戸大学国際コミュニケーションセンターのMoodle（学習マネジメントシステム）を使用する予定です。

参考書・参考資料等

授業における使用言語

ドイツ語・日本語

キーワード

会話、ドイツ語

開講科目名	現代コリア語II		
担当教員	高 正子	開講区分	単位数
		前期	1単位

授業のテーマと到達目標

"現代コリア語IIの目標は、ハングル検定5級程度の文法事項や語彙を獲得することである。同時に、韓国の社会や文化にも触れながら、授業を進めてゆく。また、大阪のコリアタウンへ見学に行くことで、実際のハングルに接し、韓国文化や韓国語を体感する。

授業の概要と計画

"授業では基本的に学んだ文法事項を実際に発音し、会話することに重点を置く。だから、授業への参加が必須である。
1. 指定詞 2. 漢数詞 3. 存在詞 4. 助詞の縮約形 5. 用言の否定形 6. 尊敬形 7. ヘヨ体 8. 過去形 9. コリアンタウンへの見学"

成績評価と基準

出席20点満点、詩暗唱テスト10点満点、定期試験70点満点

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

文の構成や会話を中心にとすると文字を忘れて読めなくなる人がある。1. 音読を欠かさず文章を練習すること。
2. 学んだセンテンスを覚えること。

オフィスアワー・連絡先

E-mail:kojeongja2002@yahoo.co.jp

学生へのメッセージ

基礎的な学習をしっかりと自習で韓国語の能力は高まる。できれば、韓国へ短期留学なども考えてほしい。

今年度の工夫

モチベーションを保つために、韓国映画なども時々みることもしたい。

教科書

『パランセ韓国語初級』 / 朝日出版社 / 金京子・喜多恵美子::,2009年初版、現在3版 ,ISBN:978-4-255-55609-3

参考書・参考資料等

授業における使用言語

キーワード

開講科目名	メディア情報処理		
担当教員	森下 淳也	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

我々を取り巻く視聴覚情報は今やデジタル情報一色になろうとしている。もう、他のメディアは考えられない音楽のCD、販売店の売上では、従来のカメラを凌駕してしまったデジタルカメラ、ビデオとして安定した地位を築きつつあるDVD-Videoなど、デジタルのマルチメディアデータが我々の生活に欠かせない存在となっている。テレビまでも地上波デジタル放送になってきた。そして、インターネットの普及が日常生活にまで浸透している。ここでは、まず技術的な側面から、デジタル化とはいかなるものかを考えて、テキスト情報や画像、音声といったデータの構造と処理について講義する。その際、この技術が我々にもたらした影響やそれによって引き起こされる問題についても検討する。また、それらの統合についても触れる。

この講義は、マルチメディアコミュニケーションに関する理解を深めるものであるが、特に教職を目指す人に対しては、学校教育において活用されているマルチメディアの種類と意義、およびマルチメディアを活用した学習支援の方法についての理解を図ることを目的とする。

授業の概要と計画

授業の概要と計画は次の通りである。常に最新の成果を採り入れて講義することに努めるつもりである。そのため、内容が変更されたり、時間の都合で後半部分が割愛されることもある。了承願いたい。

1. デジタル化。デジタル化は科学ではなく人間に基づいたもの。
2. 画像。2メガピクセルって何?
3. 画像処理。デジカメ画像をきれいに。
4. 音声。MDができてCDドライブが売れるようになったわけ。
5. 音声処理。音を逆まわしにすると? 一青窈が平井堅になった?
-
6. テキスト。最も簡単なデータ構造、テキスト。
7. テキスト処理。コンピュータにテキストを読み解かせよう。
8. 正規表現。抽象的なテキスト探索。ホームページからメールアドレスが取られるのは?
-
9. ビデオ。画像と音声の統合。
10. ホームページ。ホームページはどのような表現になっているか?

成績評価と基準

出席状況と演習課題により評価する。多くの課題をレポートとして課すことになる。量が多いので遅れずについてくることを望む。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

コンピュータを一人一台使用する演習形式の授業である。特に履修の前提となる授業はない。この授業は後期専門演習B(森下)の授業の前提となる。

オフィスアワー・連絡先

随時。但し、要事前連絡。(連絡先メールは詳細情報へ)
研究室: 鶴甲第1キャンパスB棟4階, B401研究室(新B棟最上階階段横)

学生へのメッセージ

テキスト、画像、音声、ビデオなどのサンプルをコンピュータでデータ処理を行いながら授業を進める予定である。デジタル情報がいかなるものか、テキストと言えども、実は一筋縄では行かないものだとは分かるはずです。一通りのマルチメディアデータについて納得がいくまで調べてみましょう。コンピュータがもたらした現在のマルチメディアに対する新しい理解が生まれると思います。

今年度の工夫

教科書

特に教科書は指定しない。必要とあれば授業中に指示する。

参考書・参考資料等

授業における使用言語

日本語

キーワード

開講科目名	モダニズム芸術論		
担当教員	楯岡 求美	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

「モダニズム芸術の諸相：感情と身体の表象」
 19世紀半ばから20世紀初頭のモダニズムの時代は、産業の急速な発展による社会変革、革命や戦争という人知を超える暴力が振るわれ、社会構造や生活が大きく変化した。とくに、個人と社会の問題、感情や個別身体性に問題関心が集まり、芸術作品にもまた、それらの問題が反映され、芸術の諸ジャンルにおいて、表現の実験が追求された。
 本講義では、特に映画、演劇、美術の各ジャンルを概観し、芸術の諸ジャンルの原理追求と断片化された要素を統合する総合芸術への志向、という相反する芸術創造活動における相反する動向を検討することで、現代社会の表現をめぐる問題を考える糸口をつかむ。

授業の概要と計画

本講義では、現在の芸術表現の基礎が形作られた20世紀初頭を主に取り上げる。

芸術は諸言語同様、独自の概念体系を持つ。それを理解するには、概説を聞くだけではなく、実際の作品に触れる必要がある。
 そのため、授業時間以外に各自、作品鑑賞をすることが求められる。

1. イントロダクション モダニズム：断片化と普遍性
2. 映画1 映画の発明、特撮
3. 映画2 モンタージュ1 映画の文法
4. 映画3 モンタージュ2 物語とドキュメンタリー
5. 演劇1 写実主義から心理主義へ
6. 「ヴェローナの二人の紳士」鑑賞 (1)
7. 「ヴェローナの二人の紳士」鑑賞 (2)
※ピッコロ劇場で演劇鑑賞 (6/5-14の間で1回)
8. 演劇2 様式化と俳優訓練
9. 演劇3 演出の諸相
10. 孫高宏 (ピッコロ劇団俳優・演出家) 講演
11. 芸術手法としてのマニフェスト・文学
12. 美術1 世界観表象としての絵画
13. 美術2 構成主義と世界創造
14. 美術3 プロダクト・デザイン
15. 作品鑑賞

提出物 (メモはA4で半分?1枚程度、レポートの書式は授業中に指示する)

1. 4月末の連休中に映画鑑賞を行い、5月13日までに鑑賞メモを提出
2. 5月27日までに授業内容を踏まえ、映画作品の鑑賞レポート提出
3. 授業中に鑑賞する『ヴェローナの二紳士』の鑑賞メモを6月10日までに提出。
4. 6月5-14日 (予定) ピッコロ劇場の芝居を鑑賞し、6月17日までに鑑賞メモを提出。
5. 7月8日までに演出家の講演を踏まえ、芝居の鑑賞レポートを提出。
6. 8月10日までに授業内容を踏まえ、各自博物館や美術館で作品鑑賞の上、レポートを提出。

成績評価と基準

鑑賞メモ (3回) 10%
 映画レポート 30% 5月27日 締切
 観劇レポート 30% 7月8日 締切
 美術・デザインレポート 30% 8月10日 締切

レポートを必ず3本提出すること。

履修上の注意 (準備学習・復習、関連科目情報等を含む)

【注意】課題となる観劇の際の入場料が必要になります。演出家を招いての講演は都合によって日にちが変わる可能性があります。

授業中に取り扱う作品については、できる限り自分でも鑑賞すること。
 インターネットだけではなく、図書館で研究書や専門分野の辞典などを使って調べること。

オフィスアワー・連絡先

随時：事前にメールにて連絡があったほうが確実です。

学生へのメッセージ

芸術作品も、固有の体系（言語）を持っています。感覚的に捉えるだけではなく、それを自分の言葉で表現する努力をしましょう。
DVDではなく、映画館でみると映画もまた違った印象になります。

今年度の工夫

鑑賞の機会を増やし、その体験を言語化する機会を増やした。実際に創作に関わる人の体験を聞く機会を設けた。

教科書

参考書・参考資料等

授業中に指示する。

授業における使用言語

日本語

キーワード

映画、演劇、身体、感情、美術、20世紀

開講科目名	スペイン語入門I		
担当教員	平田 和重	開講区分	単位数
		前期	1単位

授業のテーマと到達目標

スヘ?イン語初級文法の習得。直説法現在形不規則活用動詞まで?を中心に学び?ます。

授業の概要と計画

テキストのイントロタ?クション(発音)から第7課まで?、各課につき授業2回のヘ?ースて?進みます。

成績評価と基準

第3回目の授業より毎回授業の最初に実施する小テスト40% 学期末試験60%

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

毎回授業開始時に小テストを実施します。しっかり復習をして授業に臨んで?くた?さい。授業を休んだ?場合は、クラスメートに授業内容を確認し、小テストに備えて自習してくた?さい。期末試験の結果に、日頃の予習状況、授業態度を加味します。指定された予習事項を準備して授業に臨んで?くた?さい。

オフィスアワー・連絡先

学生へのメッセージ

出席点はありません。毎回遅刻せず?出席して、小テストでしっかり解答することか?出席点になると考えてくた?さい。

今年度の工夫

毎回会話練習の機会を設けます。

教科書

4コマ・スペイン語 初級
4コマ・スペイン語 初級 / 福嶋教隆: 朝日出版社, 2014年, ISBN:978-4-255-55063-3

参考書・参考資料等

高垣敏博編『ホ?ケットフ?ロク?レッシフ?西和・和西辞典』小学館 他に『西和中辞典』小学館や『現代スヘ?イン語辞典』『和西辞典』白水社を収録した電子辞書(またはコンテンツカート?)か?ありますので?、そちらを利用してもよいで?しょう。
ポケットフ?ロク?レッシフ?西和・和西辞典 / 高垣敏博他編: 小学館, 2003年, ISBN:ISBN:4-09-506131-6

授業における使用言語

スペイン語・日本語

キーワード

スペイン語初級文法 スペイン ラテンアメリカ

開講科目名	Aspects of EU Culture and Society (Lecture)		
担当教員	クレック	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

This course will explore the cultural diversity of the European Union. Students will be introduced to the different EU Member States, their societies and cultures. The focus will not only be on inter-state or national diversity, but also on regional differences within the EU Member States and on the relationship between ethnic majorities and minorities. Even great nations like Germany, France and Spain are not home to homogenous ethnic groups but should be apprehended as heterogonous cultural groups. In addition, the course will explore the characteristics of a common European identity. Students will learn that despite its vast cultural diversity the European continent possesses a common intellectual history and a shared canon of values.

授業の概要と計画

The aim of this course is to give students a wide overview of European diversity. We will put the focus on the differences between the various European peoples from an interdisciplinary perspective. A comparative study of the EU Member States, their societies and cultures will stand in the foreground of the considerations. In addition, we will have a comprehensive look on the historic and intellectual development of the so-called "European idea", the origin of the European Union and on cultural means of expression, which are shared by the European peoples as common European values. Class sessions will combine lectures and discussions.

成績評価と基準

Final exam: 90%
Attendance and Participation in class: 10%

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

Students will be given assignments or reading materials and are expected to prepare classes in advance.

オフィスアワー・連絡先

学生へのメッセージ

Students are expected to acquire knowledge that is needed to understand current European Union issues from a historical, cultural and sociological point of view.

今年度の工夫

教科書

European Societies. Mapping Structure and Change / Steffen Mau, Roland Verwiebe : The Policy Press ,2010 ,ISBN:9781847426543
Post-identity? Culture and European Integration / Richard McMahon (ed.) : Routledge ,2013 ,ISBN:9780415643764
The History of the Idea of Europe / Kevin Wilson, Jan van der Dussen (ed.) : Routledge ,1995 ,ISBN:9780415124157
Aspects of European Cultural Diversity / Monica Shelley, Margaret Winck (ed.) : Routledge ,1997 ,ISBN:9780415124171
Europe and the Wider World / Bernard Waites (ed.) : Routledge ,1995 ,ISBN:9780415124201

参考書・参考資料等

授業における使用言語

English

キーワード

Europe, European Union, European cultures, European societies, cultural diversity, identity, the European Idea

開講科目名	文化人類学		
担当教員	吉岡 政徳	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

授業のテーマ

異文化理解のために

授業の目標

我々は無意識のうちに、自分の育った社会における文化的価値観を身につけ、それを規準に他の文化を見てしまう。本講義では、そうした見方を批判し、異文化理解のための視点を探る。

授業の概要と計画

授業計画： 以下の順に講義をするめる。

- 1 自文化中心主義を批判する
- 2 進化主義と文化相対主義
- 3 フィールドワーク
- 4 テレビにおける異文化表象の嘘
- 5 多様な社会：父系と母系
- 6 いびつな母系家族
- 7 質疑応答と中間のレポート試験
- 8 成り上がる政治的リーダー
- 9 階層の頂点に立つ首長、王
- 10 タブーと儀礼
- 11 儀礼の論理
- 12 未開観の変遷：進化主義的見方への批判
- 13 野生の思考：レヴィ＝ストロースの視点
- 14 植民地化と独立：「未開社会」から「途上国」へ
- 15 開発と人類学：近代化論と進化主義

毎回のレジュメ、参考文献は、「参考URL」に掲載しているので、予習、復習に利用すること。

成績評価と基準

学期の途中に、授業中に持ち込み可のレポート試験を課す。そして、学期末には、60分の筆記試験（持ち込み不可）を行う。成績評価は、レポート試験20点満点、期末の試験80点満点として評価を行なう。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

原則として、講義中の中途退室は認めない。参考URLに掲載してあるレジュメ、文献を参考にして、毎講義の予習、復習にあてること。

オフィスアワー・連絡先

研究室は、国際文化学研究科E4 1 3

学生へのメッセージ

今年度の工夫

レジュメ、文献を参考URLにアップし、予習、復習に利用するようにした。

教科書

特に用いない。

参考書・参考資料等

参考URLに記載

授業における使用言語

日本語

キーワード

異文化理解、自文化中心主義、母系、リーダーシップ、儀礼、野生の思考、開発

開講科目名	メディア文化論（グローバル専門科目）		
担当教員	小笠原 博毅	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

Theme: Rethinking of Culture of Racism

Aim & Objective: *The problem of the Twentieth Century is the problem of the colour-line.* This is what African American savant W.E.B.DuBois voiced up at the beginning of the last century.

How much can we take it for granted in 21st century?

Perhaps racism has altered its culture under the circumstance of what's called 'global capitalism' and its cultural resonance with internet/SNS development.

This class mainly looks at issues of racism and race thinking from the following angles;

1. Racism is a generic consequence of intentional, well-thought behavior rather than problem of negligence and prejudice.

2. Race thinking is hybridised with ethnically defined differences such as language and faith, and also at some parts centralised to the language of hate.

3. Race sells.

Perception of racial differences, understanding of or conflictual encounter with racialised others, and recognition of otherness, all get unstable swinging between sameness or similarity and difference.

The class aims to address the very front line of this 21st Century problem and understand the complex process with reference to a variety of artistic, journalistic and academic materials.

授業の概要と計画

o. Intro.

1. A metro station in Paris

2. Cosmopolitan racism in the age of Empire

3. Race industry and representation

4. Foundationalism and essentialism

5. This sporting race

6. Banana skin, liberal masks: race thinking in football

7. Race as a floating signifier

8. Love hate

9. In spite of anti-racism

10. Outro.

成績評価と基準

Two mid-term short essays in English: double-space, A4 sized, no more than 2 pages.

The end of the term essay:3000 words in English(double-space).

Short essays count 25% mark respectively while the final essay counts 50% mark.

Those who have failed to hand in short essays are not entitled to submit the final essay.

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

Students who wish to take part in Ogasawara's seminar B in autumn term, do not miss this class.

Please prepare for the lecture by following the reading list that will be provided in April.

オフィスアワー・連絡先

Thursday lunchtime, hirokio@kobe-u.ac.jp, ext.7464

学生へのメッセージ

The class is not designed for those who care very much marking and scoring.

I expect someone who tries and loves challenge to come to the class.

今年度の工夫

Offers a training session for critical thinking.

教科書

Introduced in the 1st lecture and distributed through digital archive to students.

参考書・参考資料等

Visual and auditory resources are also introduced as required.

授業における使用言語

English

キーワード

Race, Racism, Race thinking

開講科目名	現代アート論		
担当教員	池上 裕子	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

現代美術の諸問題を、アメリカ、日本、ヨーロッパにおける展開を中心に講義する。現代美術や抽象絵画はしばしば難解と敬遠されがちだが、その歴史的経緯を解説し、丁寧に作品分析をしていくことで、受講者一人一人が自分の鑑賞方法を養うことを目指す。

授業の概要と計画

第二次世界大戦を契機に、世界の美術の中心はパリからニューヨークに移る。また、冷戦終結に伴い旧共産圏や途上国出身の作家も活躍するようになる。この講義では、現代美術の流れを歴史的展開に沿って論じるとともに、国際政治との関連についても考察しながら授業を進めていく。以下、主なトピックを紹介する。

- ・デュシャンとレディメイド
- ・前衛とキッシュ
- ・日本のネオ・ポップ
- ・フェミニズムと美術
- ・新しいメディアと映像
- ・中国のアヴァンギャルド

成績評価と基準

中間レポート30%、期末試験70%。試験は事前に告知される課題についての論述を中心とし、講義の理解度、独創性、論理性を重視して採点する。出席状況・受講態度も評価の対象になるので講義には毎回出席すること。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

毎回出席が前提の講義です。授業は対話も含めながら進めますので、主体的に参加する学生を歓迎します。適宜関連文献を配布します。

オフィスアワー・連絡先

ikegami@port.kobe-u.ac.jp
メール連絡でアポを取ってください。

学生へのメッセージ

自分の眼で見て、自分の頭で考えることを大事にして、現代の美術表現に接してみてください。

今年度の工夫

映像作品を多く紹介したいと思っています。

教科書

特になし。

参考書・参考資料等

授業中に適宜指示する。

授業における使用言語

日本語

キーワード

現代美術

開講科目名	民族学		
担当教員	岡田 浩樹	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

グローバル化の進展にともなう様々な現代的課題、特に民族史的研究を媒介にし、文化人類学の社会的貢献や現代的課題への取り組みをすすめている新しい分野である「公共人類学」の視点と方法を学ぶ。

授業の概要と計画

ローバル化が進展する現代社会における「公共領域」とは何か、そこで私たちが直面する問題とは何か、についての基本的知識を身につけ、それらの課題に対する「公共人類学」という人類学からの実践的アプローチを理解する。

イントロダクション：「公共領域」とは何か
「公共人類学とは何か」（第一章「公共人類学の構築」）
公共領域の課題に対する「共感と応答」（第二章「応答する人類学」）
グローバル化に伴う「多文化化」と「開発」という公共領域の問題
「文化の公共性」1（第3章「多文化共生」）
「文化の公共性」2（第4章「多文化教育」）
「文化の公共性」3（第5章「開発」）
グローバル化の中の「医療とケア」
「医療とケア」1（第6章「生殖医療」）
「医療とケア」2（第7章「高齢者」）
「医療とケア」3（第8章「障害」）
グローバル化の中の人間の安全保障（第11章「災害」）
グローバル化の中の人間の安全保障（第12章「難民」）
グローバル化の中の人間の安全保障（第13章「無国籍」）
講義のまとめ、予備

成績評価と基準

平常点（講義についてのコメント質問提出：毎回）40%
レポート：60%

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

・テキストを使用するので各自購入してください。
・webシステム導入による双方向講義
この講義は、webシステム導入によって、mailによるコメント質問送付とHP公開によって、一方的な講義形式でなく、双方向的な応答によって個々の疑問や質問に答えるとともに受講者の理解を深める試みをします。

オフィスアワー・連絡先

水曜日 昼休み
事前にメールでアポイントを取ること
kimsakka@kobe-u.ac.jp

学生へのメッセージ

初回ガイダンスに必ず出席してください。
第二回講義までにテキストを購入し、かならず持参すること。

今年度の工夫

昨年度と講義内容を一新した。

教科書

公共人類学 / 山下晋司編：東京大学出版会，2014，ISBN:9784130523059

参考書・参考資料等

授業における使用言語

日本語

キーワード

公共人類学 グローバル化 文化の公共性 医療とケア安全保障

開講科目名	情報コミュニケーション概論		
担当教員	山本 真也、清光 英成、水口 志乃扶、田中 順子、 松本 絵理子	開講区分	単位数
		前期	2単位
授業のテーマと到達目標			
<作成中>			
授業の概要と計画			
<作成中>			
成績評価と基準			
<作成中>			
履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）			
<作成中>			
オフィスアワー・連絡先			
<作成中>			
学生へのメッセージ			
<作成中>			
今年度の工夫			
<作成中>			
教科書			
<作成中>			
参考書・参考資料等			
<作成中>			
授業における使用言語			
<作成中>			
キーワード			
<作成中>			

開講科目名	テクノ文明論		
担当教員	塚原 東吾	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

テーマ：「ポスト311のイノベーション・モデルのテクノ文明論的検討、あらたなシュンペーター的「新結合」は期待できるのか？」
 今期は、テクノ文明論の観点から、「イノベーション研究」を多角的に検討する。
 まず、歴史的な概観のなかで、ヨーロッパ・アメリカのモデルとしての、「革命（リボルーション）」モデルと、日本の「技術革新（イノベーション）」モデルと対比する。
 その上で、いくつかの技術事例（江戸期、幕末、明治前後期、昭和期）をとりあげ、それぞれのイノベーションの実態を明らかにする。
 さらに日本における原子力技術が、ある典型的なイノベーションのあり方であったこと、その効用と限界があったことを論じる。
 その上で、ポスト311のさまざまなイノベーション・モデル（スマグリ、エコリサ、シェール）を、テクノ・カルスタの手法から分析することで、イノベーション論の現代的な意味を考えて行きたい。

授業の概要と計画

セッション1。概要、まず「ポスト311のイノベーション・モデルのテクノ文明論的検討、あらたなシュンペーター的「新結合」は期待できるのか？」ということについて、シュンペーターの基礎概念を紹介する。さらにテクノ文明論の観点から、「イノベーション研究」を多角的に検討するための方法論を論じる。
 セッション2。歴史的な概観のなかで、ヨーロッパ・アメリカのモデルとしての、「革命（リボルーション）」モデルと、日本の「技術革新（イノベーション）」モデルと対比する。ここではいわゆる、「科学革命論」（ガリレオなど）、「産業革命論」（イギリスの第一次産業革命、ドイツなどでの第二次産業革命）、さらに「IT革命論」（ビル・ゲイツなど）と、日本の江戸期の「イノベーション」、そして高度経済成長期の「技術革新論（カイゼンやQC運動）」などを対比し、比較考量する。
 セッション3。その上で、いくつかの技術事例（江戸期、幕末、明治前後期、昭和期）をとりあげ、それぞれのイノベーションの実態を明らかにする。
 まず、江戸期の養蚕、肥料、漁業などを、「カムイ伝」を用いて論じる。
 次に幕末の化学を事例とする。
 さらに明治期は造船、繊維を扱い、昭和期の航空機・造船産業についてはゼロ戦と戦艦大和の失敗を論じる。
 昭和については、電子・自動車・光学技術の概観を行い、さらに日本における原子力技術が、ある典型的なイノベーションのあり方であったこと、その効用と限界があったことを論じる。
 セッション4。ポスト311のさまざまなイノベーション・モデル（スマグリ、エコ・リサ、シェール、除染と廃炉技術）などを、テクノ・カルスタの手法から分析することで、イノベーション論の現代的な意味を考えて行きたい。

成績評価と基準

3回の試験、ほぼ毎週のレポート

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

かなり高度の授業なので、毎回の授業の予習には最低6時間かかる。そのため、塚原の他の授業と合わせてとらないと、この授業単独で履修することは、ほぼ無理だと思う。他の授業・演習の履修者にはこの授業と合わせた各自のための合成メニューを提示するので、この授業も履修しておくことが望ましい。

オフィスアワー・連絡先

木曜昼、E406

学生へのメッセージ

勉強は楽しい。学問をすると、世界が見えてくる。

今年度の工夫

イノベーション論を前面に据えたところ。

教科書

参考書・参考資料等

授業における使用言語

日本語・英語

キーワード

イノベーション論、シュンペーター、イノベーション・モデル、技術史、科学史、テクノ・カルスタ

開講科目名	現代アメリカ論		
担当教員	井上 弘貴	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

アメリカ合衆国が世界に及ぼしている影響力は今でもなお圧倒的なものがあります。その一方で、ますますグローバル化する世界経済のなかで合衆国の対外的パワーは確実に低下傾向にあり、ヒスパニック人口の増加に象徴されるように、その国内社会状況も着実に変化しつつあります。この講義ではそのようなさまざまな揺れ動いているアメリカ合衆国の政治、経済、社会を、過去、現在、未来の時間軸のなかでとらえていきます。

授業の概要と計画

取り扱う予定のテーマは以下を予定しています。講義の流れのなかで若干の変更や順番の組み換えをする場合もあります。

今年度のプロローグ

テーマ1 アメリカ人の思想信条——対立しあう価値観

- ・連邦政府は不要？——リバータリアンの政治信条
- ・なぜアメリカでリベラルは不人気になったのか
- ・個人的なことは政治的なこと——フェミニズム・同性愛・キリスト教

テーマ2 アメリカはなぜ「世界の警察官」になったのか？

- ・モンロー・ドクトリンからみるアメリカ外交の基底
- ・アメリカと冷戦——自由とデモクラシーの防衛か、帝国主義か
- ・アメリカと冷戦後の世界——揺れ動く基本的外交方針

テーマ3 さまざまな問題からみるアメリカ社会の過去と未来

- ・人種問題とアメリカ南部の忘れられた歴史
- ・移民問題の現在とヒスパニック人口の増大
- ・交通問題とアメリカ社会の高齢化
- ・都市問題にみるアメリカ社会の産業構造の変化

今年度のエピローグ

成績評価と基準

期末の試験と平常点を加味して成績評価をおこないます。平常点には毎回の出席のみならず、講義のなかでのその時々テーマにかんするアンケートやミニエッセイの提出等を含みます。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

事前に次週のプリント等を配布した際には、必ず授業の前にそれらをよく読み、準備をしてきてください。なお、今年度は他学部生の履修を認めていません。

オフィスアワー・連絡先

随時応相談

hiro_inouye@port.kobe-u.ac.jp

学生へのメッセージ

今年度、地域文化論講座の西谷先生、小澤先生と合同で、アメリカ合衆国にかんする演習Aを水曜日に開講しています。そちらも併せて履修してもらえると、アメリカについての理解が広がると思います。

今年度の工夫

昨年度は神戸大学若手教員長期派遣制度により、一年間の在外研究期間をいただき、テネシー州ノックスヴィルのテネシー大学で研究をしてきました。今年度は在米時の経験やエピソードについても、授業のなかに組み込んでいければと考えています。

教科書

教科書はとくに指定しません。

参考書・参考資料等

それ以外については講義のなかで適宜ご紹介します。
現代アメリカ / 渡辺靖：有斐閣，2010，ISBN:9784641124196

授業における使用言語

日本語

キーワード

アメリカ合衆国 都市問題 人種 アメリカ政治

開講科目名	文化様式成立論		
担当教員	山澤 孝至	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

古代ローマの墓碑銘に見るローマ人の死生観を探る。

授業の概要と計画

墓碑銘の内容の分類を行なった先行研究に基づき、以下の項目に分けて取り上げることを予定している。各項目を1?2回の授業で講ずる。

1. はじめに。墓碑銘とは何か
2. 古代人にとっての「死」
3. 黄泉の国のイメージ
4. 運命に対する態度
5. 残された者の嘆き・慰め
6. 墓を冒涇する者への警告
7. 死にまつわる事情
8. まとめ

成績評価と基準

成績評価は期末のレポートによる。授業内容を踏まえた上での、文章や発想の独創性、文章の正確さを評価の項目とする。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

毎回の授業内容を各自で整理しておくこと。

オフィスアワー・連絡先

月曜・昼休み（乞事前連絡）
yamasawa@kobe-u.ac.jp

学生へのメッセージ

今年度の工夫

教科書

指定しない。ハンドアウトを用意する。

参考書・参考資料等

必要に応じ、授業中に指示する。

授業における使用言語

日本語（および、ラテン語）。

キーワード

開講科目名	フランス語会話I		
担当教員	バニユウヴェンヌイズ ブルーノ	開講区分	単位数
		前期	1単位

授業のテーマと到達目標

この授業では、次のような日常的なコミュニケーションの練習を行います。

- 簡単な作文
- ペアでの会話練習
- 語彙と文法の習得

授業の概要と計画

本授業ではCALL室を利用します。また、少人数制の授業であるため、非常によい環境で学習できます。

成績評価と基準

授業の評価は授業中の小テスト・会話テスト又は出席と授業への参加度合いによって行われます。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

この授業の対象は、（1）国際文化学部フランス語選択（特に2年生）の学生、（2）他学部でモチベーションの高く早く上達したいと思っている学生（フランス留学希望者など）です。

オフィスアワー・連絡先

vannieu@dragon.kobe-u.ac.jp

学生へのメッセージ

今年度の工夫

教科書

教科書なし

参考書・参考資料等

授業における使用言語

フランス語、日本語

キーワード

コミュニケーション フランス語 会話 語彙

開講科目名	アフリカ社会文化論		
担当教員	近藤 英俊	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

この授業では、今日アフリカ社会が直面する様々な課題を、人文社会系学問の研究を通して学際的に検討する。授業の究極的目標は、アフリカにおける現代(modernity)の本質を洞察し、ひいては日本における現代の意味を再考する機会を提供することにある。

授業の概要と計画

今年度はテーマとして、経済に及ぼす社会・文化の影響を取り上げる。アフリカ経済の実像は、合理的な利潤追求や市場競争といった近代経済学が前提とする原則によってのみ解明されるものではない。そこには血縁、地縁、宗教、その他諸々の社会関係や文化との複雑な交渉がある。ここでは主として経済人類学的見地から、人々の具体的な経済活動について以下の三つの観点から検討する([]内は授業回数)。

- 1) 資本主義とモラルエコノミー(贈与経済)の交渉[全4回]
- 2) 高度に不確実な状況下での経済行為: アフリカにおける起業家性[全4回]
- 3) 宗教、とりわけ呪術的实践と経済の関係[全4回]

成績評価と基準

期末に提出する1500語程度の英語のエッセー(80%)とクラスワークへの取り組み(20%)。ただしクラスワークにおける英会話の能力は評価の対象としない。

履修上の注意(準備学習・復習、関連科目情報等を含む)

この授業で使用する言語は原則的に英語のみとする。授業は講師による講義と、学生諸君主体のクラスワークからなる。クラスワークは以下の手順で進められる。1) 受講生は授業前にテキストを読み、テキストに添付された設問に答えておく(準備学習)。2) 授業時には、二人一組となってそれぞれ答を出し合い、議論を経て答を統一する。3) その答えを発表する。4) 発表について質疑応答する。5) 講師がコメントする。6) 授業での質問とコメントを参考に答えを改善・添削する(復習)。

オフィスアワー・連絡先

学生へのメッセージ

この授業は、アフリカの社会文化全般に関心のある学生諸君だけでなく、開発協力といった実践的活動に関心のある諸君、反対に「非西欧社会における現代とは何か」といった理論的なテーマに関心のある諸君、あるいは英語圏への留学を希望する諸君にも大いに受講してもらいたい。

今年度の工夫

教科書

テキストは授業時に英文のものを配布する(購入するテキストはない)。今年度は講師の書いた論文及び他の研究者の書いた本の一部がテキストとなる予定である。

参考書・参考資料等

参考書については授業時に適宜紹介するが、以下を事前に読んでおくことを薦める。
 都市を生きぬくための狡知: タンザニアの零細商人マチンガの民族誌 / 小川さやか: 世界思想社, 2011
 ,ISBN:9784790715139
 信念の呪縛: ケニア海岸地方ドゥルマ社会における妖術の民族誌 / 浜本満: 九州大学出版会, 2014
 ,ISBN:9784798501178
 呪術化するモダニティー: 現代アフリカの宗教的实践から / 阿部年晴、小田亮、近藤英俊(共編著): 風響社, 2007
 ,ISBN:9784894891197

授業における使用言語

英語

キーワード

資本主義、モラルエコノミー、矛盾、偶然性?可能性の領域（不確実性）、起業家、合理性、賭け - 逃げ、出来事化、呪術、妖術、貨幣、賄賂、不可視の領域、交渉、仲介、文化のフラックス

開講科目名	外国語演習（ロシア語）（グローバル専門科目）		
担当教員	青島 陽子	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

現代のEUの諸問題について、英語文献を読みながら理解を深め、その後自分で調べた内容を英語で報告できるようにすることをめざす

授業の概要と計画

EU拡大の問題、移民の問題などをテーマとして、その問題について、英語文献を読み、英語で報告・討論をする。

まず基本となる英語文献を読み、内容をまとめる。次に、それらをもとに、自分でテーマを決めて調べ（日本語文献を使っても良い）、内容を英語で報告する。この報告をもとに授業では英語での質疑応答を行う。

成績評価と基準

授業中の取り組み、発言などの平常点 20%
報告内容 50%
期末レポート 30%

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

ヨーロッパに関連した授業の履修を進めます。また、後期には演習Bでも類似のテーマを扱う予定ですので、そちらも併せて履修すると理解が深まると思います。

オフィスアワー・連絡先

研究室E219
メールにて事前に連絡すること。
yaoshima(at)dolphin.kobe-u.ac.jp

学生へのメッセージ

とにかく英語を「使う」ことを目標とします。

今年度の工夫

英語を使いやすい雰囲気をつくることを心がけたいと思います。

教科書

参考書・参考資料等

授業における使用言語

英語、日本語

キーワード

EU ヨーロッパ 移民 市民権

開講科目名	情報科学概論		
担当教員	村尾 元、康 敏、西田 健志	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

現代の高度化情報社会において、コンピュータは社会活動を維持していく上で不可欠な要素となっている。特に、近年の半導体技術、計算機技術、通信技術の目ざましい進展によって高度化しつつある情報社会においては、電子化された情報の利用環境が整備されつつあり、単に情報を収集、蓄積するだけでなく、こうした情報を処理して活用することが要求される。

この講義では、計算機科学を専門分野としない学生が、実際にコンピュータと関わっていく上で必要となる基礎知識を修得することを目標とする。

授業の概要と計画

授業は3名の教員によるオムニバス形式の講義であるが、内容に関しては以下のように体系的に進めていく。

1. アナログとデジタル (デジタルの方が質がいいの?)
2. 2進数の取扱い (引き算は足し算のみでできる)
3. コンピュータとは (家電製品におけるコンピュータの役割)
4. 計算機システムの構成 (パソコンのカタログを読もう)
5. オペレーティングシステム (Windowsって何?)
6. プログラムとは (人の言葉とコンピュータの言葉)
7. コンピュータネットワーク (固定電話・携帯電話・インターネットの違い)
8. ネットワーク利用の実際 (ホームページ・電子メールのしくみ)

成績評価と基準

定期末試験(90%), 授業中の課題(10%)に基づいて評価する。

履修上の注意 (準備学習・復習、関連科目情報等を含む)

各自のコンピュータや携帯電話の設定などを授業の準備学習として調査してもらうことがある。調査結果をもとに授業での説明を行う。毎回、予習・復習を入念に行なうこと。

オフィスアワー・連絡先

お昼休み
事前連絡が必要
康: kang@people.kobe-u.ac.jp
村尾: hajime.murao@mulabo.org
西田: tnishida@people.kobe-u.ac.jp

学生へのメッセージ

必修科目なので落とさないように。

今年度の工夫

最近の起きた出来事などと関連付けて解説する。

教科書

使用しない。

参考書・参考資料等

授業中に説明する。

授業における使用言語

日本語

キーワード

コンピュータ 入門

開講科目名	外国語演習（英語）		
担当教員	定延 利之	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

言語コミュニケーション、特に会話の中の文法に関する最新の英語論文を読む。

授業の概要と計画

1 回か 2 回のレクチャーの後、担当者を決めて、te Molder, Hedwig, and Potter, Jonathan (2005 eds.), Conversation and Cognition, CUP.に収録されている論文を読む予定だがこのテキストの選定はあくまで暫定的なもので変更があり得る。

成績評価と基準

担当論文の概要発表と質疑応答、さらに期末レポートで判断する。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

予習を欠かさず、自分にとってわからないポイントをはっきりさせて授業に臨むことが重要。

オフィスアワー・連絡先

水曜昼休み（要事前予約）

学生へのメッセージ

今年度の工夫

教科書

上記の通り。

参考書・参考資料等

授業における使用言語

日本語

キーワード

開講科目名	外国語演習（英語）（グローバル専門科目）		
担当教員	梅屋 潔	開講区分	単位数
		前期	2単位
授業のテーマと到達目標			
民族誌的事実を紹介することで文化人類学の歴史に触れ、地球上の諸民族のくらしの多様性を理解することを目標とする。			
授業の概要と計画			
映像資料Strangers Abroadを用いる。スクリプトを訳しつつ、また解説を加えつつ人類学史を学ぶ。1度ゲストスピーカーも招いた討論を交える予定。ゲストスピーカーには、Jean Roger Bagamboula大阪大講師を予定。			
成績評価と基準			
出席（単なる出席ではなく積極的に参加しなければならない。70パーセント）とレポート（30パーセント）			
履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）			
受講者には、家庭での自習と復習が期待され、授業外に自発的に与えられたトピックを図書館やネットで調べるなどの作業が必要となる。			
オフィスアワー・連絡先			
オフィスアワーは随時。事前にメールでアポイントメントをとること。連絡先は、umeya[at]people.kobe-u.ac.jp			
学生へのメッセージ			
今年度の工夫			
適宜映像資料を使用し、異文化の状況が理解しやすいよう工夫する			
教科書			
使用しない。適宜資料を配布する。 文化人類学群像1 / 綾部恒雄（編）：アカデミア出版,1985,ISBN: 文化人類学群像2 / 綾部恒雄（編）：アカデミア出版,1988,ISBN: 現代文化人類学のエッセンス / 蒲生正夫（編）：ペリかん,1978,ISBN:9784831502186			
参考書・参考資料等			
適宜紹介する。			
授業における使用言語			
英語			
キーワード			

開講科目名	国際人権論		
担当教員	大塚 泰寿	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

人権の保護は、国際社会における重要課題の一つである。この講義は、国際人権法の制度や先例を紹介することを目的としている。講義終了時において、学生諸君には、法的視点から国際的な人権問題を説明できるようになっていることが望まれる。

授業の概要と計画

簡潔なレジュメ及び資料を配付して講義を行う。講義計画は下記の通り。
1 はじめに（講義の概要・国際法の基礎）
2 国際人権法の概観（国際人権法の歴史・主要な人権条約の概観）
3 国際人権法の実施（人権条約の国内的实施及び国際的实施を中心にして）
4 事例研究（日本の裁判所の判決などの紹介・分析）

成績評価と基準

学期末試験100%（講義の理解度、論理性など）。なお試験は持込不可で行う。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

準備学習・復習として、講義で配布した資料（法令・判例など）を読んでおくことが望ましい。

オフィスアワー・連絡先

学生へのメッセージ

この講義を聴いた後で、人権問題に関連した新聞記事などを読んでもみると、新しい発見があるかも知れませんよ。

今年度の工夫

事例については、近年話題になった事件を中心に上げる予定である。

教科書

なし。

参考書・参考資料等

適宜紹介する。

授業における使用言語

日本語

キーワード

開講科目名	プログラミング基礎		
担当教員	西田 健志	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

本授業では、3年次後期以降、特に卒業研究で必要となるプログラミング技術を身につけることを目標とします。

授業の概要と計画

本講義ではプログラミング言語 Java および Processing を取り上げます。コンピュータ演習室で実際に作業を行いながらの授業となります。

具体的には以下に挙げる内容を扱う予定です。

- ・プログラミングとは（何ができるようになるのか）
- ・プログラミングで利用するソフトウェアの使い方
- ・プログラミング言語の文法と書き方

以上の基本的なプログラミング技術を学んだうえで、最終課題としてある程度自由なプログラムを製作し、それを発表してもらいます。

参考：過去の最終課題テーマ
おもしろ時計アプリを作る

成績評価と基準

レポートや課題などの提出物を中心に評価します。最終課題については発表も加味します。

・各提出物は、要件を満たしている場合に80点、独自の工夫がある場合には加点、要件を満たしていない場合には減点します。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

簡単な内容から始めますが、理解していない内容があると後々ついていくのが難しくなりますので、わからないことがあればすぐ質問し、課題をこなすだけで安心してよく復習するように心がけてください。

あらかじめ情報科学演習Ⅲを履修していることが望ましいです。よく復習しておいてください。履修していない場合は参考URLにある講義資料を用いて自習しておいてください。

オフィスアワー・連絡先

いつでもどうぞ。なるべく事前にメール等で連絡してください。
メール：tnishida@people.kobe-u.ac.jp
研究室：B棟4階408

学生へのメッセージ

実験データの整理からゲームの制作まで多種多様な用途に応用が利く能力を一緒に身につけましょう。

今年度の工夫

教科書

特に使用しません。Web教材を用意する予定です。

参考書・参考資料等

授業における使用言語

日本語

キーワード

開講科目名	対人コミュニケーション論		
担当教員	松本 絵理子	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

身振りや表情、視線、姿勢、他者との距離などの情報は、ときに言葉よりも的確に人の「こころ」の状態、動きを伝えることがあります。本授業では、人間がどのようにそれらの情報を認識しているのかについて、認知心理学や脳科学の知見を紹介しながら議論を深めていきたいと思います。コミュニケーションを実現している脳と心に関する理解を深め、認知心理学分野の実証的研究を行うための基礎知識の獲得を目指します。

授業の概要と計画

授業内容は以下のような内容で構成する予定です。但し授業の進捗状況等に合わせて多少変更される場合があります。

- ・導入
- ・コミュニケーションと心理学：脳と心を学ぶための導入として、コミュニケーションとはなにか？コミュニケーションと脳をテーマに概説する。
- ・認知とはなにか：認知機能とは、認知心理学とは何かを概説し、視覚認知機能の諸相について紹介する。
- ・記憶機能：記憶のモデルや特徴を心理学実験事例を通じて紹介する。また、記憶障害についてモデルや症例の紹介を行う
- ・注意機能：心理学における“注意”の研究の紹介と注意障害の事例と背景メカニズムについて概説する。
- ・情動と知性・性格、社会：人間の情動の傾向、性格や知性を形成する背景要因について、これまでの理論の紹介、心理テストの理論と分類等について基本的事項を学んだ上で、どのようにして人間の認知のバイアスが作られるのかについて考察する。

成績評価と基準

評価項目は平常点および期末レポートです。
 平常点50%：出席、授業への参加姿勢、授業内レポート等の提出物が含まれます。授業内レポートは設問に対する記述内容により評価が行われます。
 期末レポート50%：レポートでは、書式、授業内容の理解度、必要な情報の収集と論理展開、等を中心に採点します。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

遅刻、講義中の無断退出等は他の受講者の迷惑にもなりますので厳に謹んで下さい。また講義中の携帯電話・PCその他電子機器の使用（web閲覧、メールも含む）は認めません。
 配布された資料については各自で管理を行って下さい。再配布等は致しません。前回授業の資料を参照する場合がありますので、直近の授業で配布された資料は持参するように心がけて下さい。
 準備・復習については、資料を振り返り、各自で内容を整理しておいて下さい。また、授業内でタスクや文献の指示があった場合はそちらを行ってください。

オフィスアワー・連絡先

随時。必ず事前にメールにて問い合わせして下さい。

学生へのメッセージ

認知心理学、認知神経科学の入門レベルの用語に慣れ、これらの研究を理解する機会を提供できるように、折に触れて最新の研究論文の知見も紹介していく予定です。
 また授業内では随時、心理実験や心理検査等のデモンストレーションも行う予定ですので、積極的な参加を望みます。心理学は多様な側面を持つ学問領域です。男女差、年齢差、個人差、文化差などの違いを超えて、人間として共通にもつ行動や認識のありようについて一緒に考えていきましょう。

今年度の工夫

できる限り身近な話題、新しい話題から、認知心理学、認知神経科学分野のトピックスを紹介したいと思います。そのために専門論文だけでなく、新聞・雑誌記事やwebニュース、動画なども活用する予定です。

教科書

教科書の指定はなく、配布資料とスライドを中心に授業を行います。

参考書・参考資料等

Psychology / Gleitman, H., Gross, J., & Reisberg, J.: W.W.Norton & Company ,2010 ,ISBN:9780393116823
 認知心理学 / 箱田裕司、都築誉史、川畑秀明、萩原滋：有斐閣 ,2010 ,ISBN:9784641053748
 The student's guide to cognitive neuroscience / Ward, J.: Psychological Press ,2010 ,ISBN:9781848720039

授業における使用言語

日本語

キーワード

認知心理学、視覚認知、注意、記憶、脳機能

開講科目名	近代政治思想論		
担当教員	上野 成利	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

現代政治思想のフロンティア---概念史的考察の試み

グローバル化が加速度的に進み、テロや難民などの問題が浮上している現在、「市民権（シティズンシップ）」「自由」「民主主義」といった近代の政治概念は根底から揺らいでいる。これらの概念を自明の前提としてきた近代の政治のパラダイムが、いまや大きな曲がり角に立っているわけである。それをふまえてこの講義では、「自由」「権力」「公共性」といった基本概念を思想的観点から問いなおしながら、現代の社会理論・政治理論のフロンティアがどこにあるのかを考えてみたい。さらにこうした一連の作業をつうじて、来るべきデモクラシーの方向性や今日における批判的社会理論の可能性について、多少なりとも思考を巡らせてみたいと思う。

授業の概要と計画

- 1) Th・W・アドルノ、C・シュミット、H・アーレントらの思想を手がかりに、20世紀前半期の思想地図を概観する。
- 2) そのうえで、そうした言説が世紀後半にM・フーコーらによってどのように消化・批判されていったのかを検証する。
- 3) 最後に現代思想のフロンティアがどこにあるかを確認し、今日における批判的社会理論の可能性について検討したい。

成績評価と基準

原則として、学期末の筆記試験の成績にもとづいて評価します。
理解力と思考力、そしてそれを的確に論述する力が試されます。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

「近代社会思想論」をはじめとするモダニティ論分野の授業は、この講義の内容とも密接に関連しているので、できるだけ履修してもらいたいと思います。

オフィスアワー・連絡先

金曜日 12:20--13:00
ueno@people.kobe-u.ac.jp

学生へのメッセージ

すぐに役立つ知識はすぐに古びます。思想史の勉強という迂回路を経ることによって、長い射程で思考する力を鍛えてほしいと思います。

今年度の工夫

難しいことをやさしく、やさしいことを深く、深いことを面白く、面白いことを真面目に、真面目なことを愉快地に、愉快なことをいっそう愉快地に。

教科書

拙著『思考のフロンティア---暴力』（岩波書店、2006年）をこの講義を補う文献として活用してもらえればと思います。ただし実際の講義では本書では論じきれなかった主題をできるだけ積極的に取り上げるつもりです。

参考書・参考資料等

暴力（思考のフロンティア） / 上野成利：岩波書店，2006，ISBN:4-00-027009-5
 壊れゆく世界と時代の課題 / 市野川容孝・小森陽一 編：岩波書店，2009，ISBN:978-4-00-022888-6
 近代 想像された社会の系譜 / チャールズ・テイラー：岩波書店，2011，ISBN:978-4-00-022583-0
 岩波講座 政治哲学 5 理性の両義性 / 齋藤純一 編：岩波書店，2014，ISBN:978-4-00-011355-7
 西洋政治思想資料集 / 杉田敦・川崎修 編：法政大学出版局，2014，ISBN:978-4-588-62527-5

授業における使用言語

日本語

キーワード

開講科目名	東南アジア国家形成論		
担当教員	貞好 康志	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

環太平洋地域の中で要の位置にある、東南アジア島嶼部の歴史を、様々なタイプの国家形成の諸相に注目して学ぶ。目標は、(1) およそ国家というものに備わった普遍的性質と、ある時代・ある地域ゆえに出現した国家の個別的性質とを同時に理解すること；(2) 国家形成史を通じ、東南アジアの歴史を、世界史の動向と関連づけながら概略理解すること、の二つである。そのためには、単に人文・社会的事象のみならず、自然・地理・生態環境にまで掘り下げた、東南アジアの地域特性をおさえておくことが大切である。また、現在まで続く国民国家の時代(20世紀中葉以降)のこの地域に特有な状況を理解するためには、それに先立つ植民地支配の時代(16?20世紀初頭)、さらに遡った伝統国家の時代に関する基本的知識も必要となる。これらのテーマについて、単なる知識の授受でなく、教員・学生が批判的考察をぶつけあう、全員参加型授業を目指したい。

授業の概要と計画

大きく以下の構成で授業を進める予定：

1. 東南アジアの地域特性：自然・地理・生態環境
2. 古代国家の形成：東西交易といわゆる「インド化」
3. 伝統国家の再編：古代国家の衰退とイスラーム化
4. 伝統国家の類型：港市国家とジャワ王権
5. 欧米による植民地化：海の植民地化と陸の植民地化
6. 反植民地ナショナリズムの形成と展開
7. 華僑・華人の「ナショナリズム」
8. 日本の侵攻・軍政と東南アジアのナショナリズム
9. 独立後の諸問題：国民統合、開発独裁、民主化
10. 21世紀の諸課題：地域統合とグローバル化の中で

成績評価と基準

平常点6割、期末レポート4割を基本とする。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

受講生が多すぎ授業運営に支障をきたした一昨年以来の経験を踏まえ、初回出席者が50名を超えた場合は志望動機書などにより人数を絞り込む予定。なお、予習として東南アジアに限らず古今東西の国家論を中心に幅広い情報にアンテナを張ること、復習として授業で紹介する関連参考文献を1冊でも入手・読破することが望まれる。

オフィスアワー・連絡先

火曜昼休み。ysd@kobe-u.ac.jpへ事前に予約してください。

学生へのメッセージ

東南アジアに興味のある人はむろん、日本や東アジア、南北アメリカ、ヨーロッパ、アフリカ、大洋州など、様々な地域や問題領域に関心を持つ人を歓迎します。

今年度の工夫

人数が適正であれば、独自の「発言票」制度を平常点に加算する形で導入し、質問やコメントに毎回答えることによって「双方向型授業」へ近づけたい。

教科書

毎回レジュメ配布。
指定しない。/: , ISBN:

参考書・参考資料等

配布するレジュメの中でその回のテーマに関連する参考文献を適宜紹介する予定。

授業における使用言語

日本語

キーワード

東南アジア 国家形成 生態環境と歴史 植民地支配 ナショナリズム

開講科目名	開発文化論		
担当教員	鈴木 紀	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

「開発人類学：視点と実践」授業の目標は、第1に開発途上国で生じている開発問題について理解を深めること、第2にその解決のためのさまざまな実践とその課題を知り、受講生一人ひとりができることを具体的に考えることです。第1の目標のためには、開発を定義する複数の視点を知ることが重要です。開発をどのように理解するかによって、開発問題の見え方も変わってくるからです。単一の視点に執着しては、開発のもつ広範な問題を見落とす危険があります。第2の目標には、既存の開発問題克服の取り組みを批判的に検討し、その改善方法や代案を考えることが必要です。政府の国際協力政策やNGOによる支援援助、国際協力ボランティアやフェアトレードなどをとりあげ、その課題を考えてみましょう。なお授業のテーマを「開発人類学」とする理由は、開発を先進国の人々と途上国の人々の文化の学びあいのプロセスととらえたいからです。したがって講義内容には、文化人類学の特徴である異文化理解と自文化批判の2つの態度が強く反映されています。

授業の概要と計画

集中講義により、講義と演習を組み合わせながら実施します。扱う内容は次の通り。1 開発人類学の基本的視点 2 基礎概念 3 先進国の経験をどうにかするか 4 先進国は開発途上国のモデルなのか 5 すべての国が先進国になれるのか 6 皆が納得する開発とは 7-8 国際開発の現場の混乱に直面する 9 政府開発援助（ODA）と国民の責任 10 技術協力の成果はあがっているか 11 国際協力ボランティアという時間の過ごし方 12 NGOの”NG”の意味 13 買い物でできる国際協力とはなにか 14 ポスト2015開発枠組みとポスト開発？ 15 私の行動計画

成績評価と基準

集中講義のため理由の如何にかかわらず4日間出席することが単位取得の前提になります。授業中に提出を求める3回の小レポートを60%（15%+30%+15%）、最終レポートを40%の割合で評価し、最終成績を算定します。レポートの評価基準は、授業の内容理解度だけでなく、学生自身の独創的な問題展開力も重視します。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

文化人類学の予備知識はあったほうが望ましいが、必須とはしません。準備学習としては、なるべく指定した教科書の第1部第1章と第2部第1章を読んでおいてください。また外務省のHPから「国際協力大綱」をダウンロードして熟読し、その内容を理解しておいてください。復習としては、授業で配る資料をその日のうちに目を通すようにしてください。

オフィスアワー・連絡先

非常勤講師による集中講義のためオフィスアワーは定めません。質問は授業中に受け付けます。

学生へのメッセージ

授業で学んだことを日常生活の中で生かすも殺すも、それは皆さん次第です。生かそうとする意志をもった学生にたいして、生かすためのヒントを提供できるようベストを尽くします。

今年度の工夫

講師自身の近年の研究成果を授業で紹介します。とくに日本政府の国際協力政策や、ポスト2015開発枠組みについて新たな議論を紹介する予定です。

教科書

集中講義前半の授業内容をよりよく理解するために、『開発学を学ぶ人のために』（菊地京子編、世界思想社、2001年）を推薦します。
『開発学を学ぶ人のために』 / 菊地京子編：世界思想社、2001年、ISBN:4-7907-0890-X

参考書・参考資料等

開発人類学について、さらに詳しく学ぶために以下の本をあげておきます。その他の参考書は授業中に指示します。
『開発援助と人類学』 / 佐藤寛・藤掛洋子編：明石書店、2011年、ISBN:978-4-7503-3410-3
『公共人類学』 / 山下晋司編：東京大学出版会、2014年、ISBN:978-4-1305-2305-9
『開発人類学：基本と実践』 / リオール・ノラン：古今書院、2007年、ISBN:978-4-7722-3112-1

授業における使用言語

日本語

キーワード

文化人類学、開発、援助、ボランティア、フェアトレード

開講科目名	現代文化概論		
担当教員	上野 成利、山崎 康仕、岩本 和子、松家 理恵、 市田 良彦、朝倉 三枝、西澤 晃彦	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

グローバル化の波、国民国家システムの揺らぎ、テクノロジーの進展、情報化された消費社会の変容——こうした一連の動きとともに、これまで社会を支えてきた近代のさまざまな原理も、現在その有効性が根底から問いなおされつつある。こうした錯綜した現代の文化状況に大きな見取り図を与え、現代文化の直面する多様な問題のありかとそれにアプローチする方法論について基本的な視座を養うこと、これがこの講義のテーマであり目標である。取り上げるサブ・テーマ群はおおむね以下のとおり。

- (1) 変動する現代社会と人間——グローバル化とともに決定的な変容が生じている現代社会の先端的な問題群（生命環境問題や社会空間の構造変容等）について考察する。
- (2) モダニティの原理と現代——個人という単位や主権国家のような制度を自明視する近代的な思考様式を問い直し、現代社会を「近代」の変容という観点から考察する。
- (3) 現代社会の中の芸術文化——とくに芸術文化という領域に着目し、アートが現代社会のなかでどのような役割を果たしており、また果たしうるのかについて考察する。

授業の概要と計画

初回のイントロダクションに続き、6つの小テーマについて6人の講師がリレー形式で計12回の講義を行ない、最終回にあらためて講義全体の総括を行ないます。

- (※) はじめに——現代への問い／文化への問い（上野）
- (1) 変動する現代社会と人間
 - a) 変動する世界と文化規範——科学技術と人間観の変容（山崎）
 - b) 変動する世界と社会認識——社会的空間の構造と変容（西澤）
- (2) モダニティの原理と現代
 - a) モダニティの原理と社会——現代社会とグローバル化（市田）
 - b) モダニティの原理と文化——近代的自然観と表象文化（松家）
- (3) 現代社会の中の芸術文化
 - a) アートの中に社会を見る——社会の鏡像としての芸術（朝倉）
 - b) 社会の中にアートを見る——社会における芸術の機能（岩本）
- (※) おわりに——現代文化をトータルに考える（上野）

成績評価と基準

原則として、学期末の筆記試験の成績にもとづいて評価します。理解力と思考力、そしてそれを的確に論述する力が試されます。なお試験は6題出題され、うち2題を選んで解答する形式です。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

関連する1年生対象の講義科目として「近代社会思想論」「ジェンダー文化論」「視覚文化論」が開講されているので、この「現代文化概論」で学んだことがらをさらに深めたい人は、これらの授業を積極的に活用してください。

オフィスアワー・連絡先

上野：E303研究室 ueno@people.kobe-u.ac.jp
その他の教員については、教務学生係配布のオフィスアワー一覧を参照してください。

学生へのメッセージ

今年度の工夫

教科書

講義全般にわたる教科書はとくに指定しませんが、毎回の講義でそのつど参考文献が提示されるので、それらを適宜参照してください。

参考書・参考資料等

授業における使用言語

日本語

キーワード

開講科目名	専門基礎英語（文章表現、会話）Ⅰ（グローバル専門科目）		
担当教員	QUINN Cynthia	開講区分	単位数
		前期	1単位

授業のテーマと到達目標

Achieving an advanced proficiency in English and raising a TOEFL score requires a lot of independent practice. This course is designed to guide practice efforts and to support students in areas that are especially difficult for them.

Course Objectives

1. Raise Toefl scores through regular practice and study
2. Improve academic study skills and learn more advanced vocabulary
3. Learn to write well-supported, clear essays
4. Understand foreign classroom style

授業の概要と計画

The major aim of this course is to help students improve their academic skills and vocabulary so they are able to raise their Toefl scores and communicate more proficiently, whether they plan to attend a foreign university or do some other international activities that require English. By the end of the course, students should feel more confident in their ability to understand and communicate in English.

Academic study skills:

In class, we will practice important academic and study skills to help students perform better on the Toefl test and raise their overall English ability. Students will practice note-taking and summarizing skills, learn to organize their ideas for clear, well-supported writing and speaking, improve their reading and writing fluency, and complete communication-oriented vocabulary tasks, etc.

Foreign classroom culture:

All classes will involve regular pair and group work as well as class discussion. Students will be expected to participate actively by asking and answering questions and asserting their opinions aloud in class. These are typical characteristics of Western classrooms, and so each week, students will learn about important differences between Japanese and English-style classroom interaction.

Language learning data profiles:

Students will track their language learning development by maintaining a personal data file on Google drive. The purpose of this file is to increase students' awareness of their English language usage as well as their individual strengths and weaknesses so they can better achieve their personal language learning goals.

Online essay writing and feedback (Criterion service)

Students will submit their writing to both the Instructor and to an online Toefl writing service (Criterion) and will get individual feedback on their writing.

In addition to studying important academic skills and regular Toefl practice, students will learn a lot of new vocabulary. Students will organize this vocabulary study in a class notebook and will take regular vocabulary quizzes. Students will also practice Toefl or Ielts test sections each week for homework and will submit practice reports.

Class 1 Course introduction. Toefl/Ielts test introduction.

Class 2 Vocabulary study introduction. Reading, writing and speaking fluency check.

Class 3 Toefl/Ielts Reading and Writing

Class 4 Toefl/Ielts Reading and Writing. Vocabulary review workshop.

Class 5 Vocabulary test 1. Toefl/Ielts Reading and Writing.

Class 6 Criterion essay 1

Class 7 Toefl/Ielts Listening and Speaking

Class 8 Toefl/Ielts Listening and Speaking. Vocabulary review workshop.

Class 9 Vocabulary test 2. Toefl/Ielts Reading and Writing.

Class 10 Criterion essay 2

Class 11 Toefl/Ielts Listening and Speaking.

Class 12 Toefl/Ielts Reading and Writing.

Class 13 Criterion essay 3

Class 14 Vocabulary review workshop. Toefl/Ielts Listening and Speaking.

Class 15 Vocabulary test 3.

成績評価と基準

Class notebook 40%
Vocabulary tests and Criterion essays 30%
Homework 20%
Participation 10%

* Class notebook includes all vocabulary study, writing practice, speaking preparation, listening notes and summaries, and other class work.

* Participation includes attendance and teacher-observed class participation and effort.

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

Weekly homework will be assigned.

It is expected that students will have their homework completed for each class, as this is necessary to participate in the class activities.

オフィスアワー・連絡先

Tuesdays, 4th period (by appointment)
Email: cynthia@people.kobe-u.ac.jp

学生へのメッセージ

今年度の工夫

教科書

Other class materials besides the course textbook are provided by the teacher or are from online resources.
400 Must-Have Words for the TOEFL, 2nd edition / Stafford-Yilmaz and Zwier : McGraw Hill ,2014
,ISBN:9780071827591

参考書・参考資料等

授業における使用言語

English

キーワード

開講科目名	専門基礎英語（文章表現、会話）Ⅰ（グローバル専門科目）		
担当教員	ショルト グレゴリー ポール	開講区分	単位数
		前期	1単位

授業のテーマと到達目標

The ultimate goal of this course is to improve students' abilities to communicate in English in real world situations and on topics of personal interest. However, emphasis for this course will be placed on topics related to interpreting, discussing, and writing about quantitative data from research, economics, or other reports. In each class, students will be required to actively use English and to express their own ideas and opinions on topics being studied.

授業の概要と計画

The instructional approach will center on students engaging in a variety of tasks that require the use of English discussion or writing to complete; however, tasks will require general English-related communication skills and strategies. The topic of each task will change but be grounded in real world situations and focus on the interests of the class. Based on performance of the task, students will identify personal areas of need and work to enhance their skills and knowledge in those areas.

The course will be divided into three parts:

Part I (Approximately 5 Class Sessions)

In the first part of the course, the instructor will explain and guide students through the task structure and then provide the topics and activities for each task. These topics will be selected from current, newsworthy events related to intercultural issues and quantitative topics. The instructor will teach specific skills and strategies related to academic-style English discussion and writing.

Part II (Approximately 5 Class Sessions)

After students have become accustomed to the task structure of lessons, they will begin to contribute to the topic selections. In the second part of the course, students will collectively identify and select topics for the class to use. The instructor will provide specific tasks based on these student-selected topics.

Part III (Approximately 5 Class Sessions)

Finally, students will work in groups to develop and implement their own designed tasks based on topics of personal interest for a class project. Each group will lead the class using their designed tasks. Students will take the TOEFL iBT on the last day of class.

成績評価と基準

Attendance/Active Participation: 15%
Class/Home Work: 10%
English Self-Study Notebook: 30%
Projects/Evaluations: 30%
Final Paper: 15%

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

Since this course is conducted entirely in English, students must have a high enough proficiency level to be able to communicate with the teacher and classmates in English. Students can prepare for the class by reviewing English vocabulary related to mathematics and research. Students will need to complete the assigned reading and writing activities before each class period. この科目はグローバル人材育成のために外国語で授業を行うグローバル専門科目です。

他学部生の履修：否

オフィスアワー・連絡先

Tuesday 4th Period, Wednesday 3rd Period
Other appointments can be made by contacting the instructor in person or through email: gsholdt@people.kobe-u.ac.jp

学生へのメッセージ

Students will need to bring a dictionary to each class and have access to English language media through the internet or library. Active participation is essential to successful completion of this course.

今年度の工夫

Lesson topics adjusted to reflect current trends. New technology used.

教科書

The materials for this course include:

1. Specific instructions on participating in tasks through worksheets developed by the instructor.
2. Specific instructions on academic-style writing and discussion through worksheets developed by the instructor.
2. Authentic materials obtained from current articles published on the internet including news websites such as CNN, the New York Times, and the Washington Post. Some will be selected by the instructor and some selected by students.

参考書・参考資料等

授業における使用言語

English only

キーワード

Intercultural communication, quantitative research, グローバル

開講科目名	専門基礎英語（文章表現、会話）Ⅰ（グローバル専門科目）		
担当教員	ウアン マリアン	開講区分	単位数
		前期	1単位
授業のテーマと到達目標			
English for Intercultural Studies I (Basic Level) is intended for students to improve their communicative skills in English and expose students to cross cultural issues and current events.			
授業の概要と計画			
Week 1: Course syllabus and class rules Week 2: Needs analysis, getting to know your classmates Week 3: Choosing topics of interest Week 4-8: First graded group project Weeks 9-12: Second graded group project Week 13-14: Reflection and course evaluation Weeks 15: Final activity (ungraded)			
成績評価と基準			
Group projects = 90% Attendance and participation = 10%			
履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）			
You must have access to the Internet and be comfortable with searching for online documents. この科目はグローバル人材育成のために外国語で授業を行うグローバル専門科目です。 他学部生の履修：否 履修する上での語学能力：英語で授業を行うため、TOEIC 600点以上又はTOEFL 500 (iBT=60) 点以上の英語能力が必要です。			
オフィスアワー・連絡先			
Wednesday, Period 2 (10:40-12:10), D619 Email: marianwang@people.kobe-u.ac.jp			
学生へのメッセージ			
Please be prepared to participate in English only. Arriving after the bell is late (6 Lates = Fail). Coming in 20 minutes late will be counted as absent. Sleeping in class may be counted as absent. Using your phone in class may be counted as absent. 4 absences = Fail. No late assignments. Bring handouts and complete homework on time.			
今年度の工夫			
教科書			
参考書・参考資料等			
授業における使用言語			
English only			

キーワード

Global, cross-cultural issues, current events

英語

グローバル

開講科目名	専門基礎英語（文章表現、会話）Ⅰ（グローバル専門科目）		
担当教員	ワッツ・デイビッド	開講区分	単位数
		前期	1単位
授業のテーマと到達目標			
To help students improve their fluency and vocabulary range as well as to help them increase their own confidence in their abilities to communicate effectively about a wide range of current global and international issues in the English language.			
授業の概要と計画			
All communicative tasks are based on areas of interest to university students, with a focus on Western culture. There is a strong emphasis on the use of authentic audio, visual and written material.			
成績評価と基準			
Students' grades are based on ongoing classroom task participation. This means that active participation in all classes is compulsory.			
履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）			
Attendance, punctuality and active participation in all classes is mandatory. The entire course will be conducted exclusively in English, both by the teacher and students. This syllabus is subject to modification at the discretion of the teacher.			
オフィスアワー・連絡先			
To be arranged.			
学生へのメッセージ			
The best way to learn a language is to enjoy it!			
今年度の工夫			
教科書			
All materials provided by the teacher.			
参考書・参考資料等			
授業における使用言語			
100% English.			
キーワード			

開講科目名	専門基礎英語（文章表現、会話）Ⅰ（グローバル専門科目）		
担当教員	QUINN Cynthia	開講区分	単位数
		前期	1単位

授業のテーマと到達目標

Achieving an advanced proficiency in English and raising a TOEFL score requires a lot of independent practice. This course is designed to guide practice efforts and to support students in areas that are especially difficult for them.

Course Objectives

1. Raise Toefl scores through regular practice and study
2. Improve academic study skills and learn more advanced vocabulary
3. Learn to write well-supported, clear essays
4. Understand foreign classroom style

授業の概要と計画

The major aim of this course is to help students improve their academic skills and vocabulary so they are able to raise their Toefl scores and communicate more proficiently, whether they plan to attend a foreign university or do some other international activities that require English. By the end of the course, students should feel more confident in their ability to understand and communicate in English.

Academic study skills:

In class, we will practice important academic and study skills to help students perform better on the Toefl test and raise their overall English ability. Students will practice note-taking and summarizing skills, learn to organize their ideas for clear, well-supported writing and speaking, improve their reading and writing fluency, and complete communication-oriented vocabulary tasks, etc.

Foreign classroom culture:

All classes will involve regular pair and group work as well as class discussion. Students will be expected to participate actively by asking and answering questions and asserting their opinions aloud in class. These are typical characteristics of Western classrooms, and so each week, students will learn about important differences between Japanese and English-style classroom interaction.

Language learning data profiles:

In this course, students will track their language learning developments by maintaining a personal data file on Google drive. The purpose of this file is to increase students' awareness of their English language usage as well as their individual strengths and weaknesses so they can better achieve their personal language learning goals.

Online essay writing and feedback (Criterion service)

Students will submit their writing to both the Instructor and to an online Toefl writing service (Criterion) and will get individual feedback on their writing.

In addition to studying important academic skills and regular Toefl practice, students will learn a lot of new vocabulary. Students will organize this vocabulary study in a class notebook and will take regular vocabulary quizzes. Students will also practice Toefl or Ielts test sections each week for homework and will submit practice reports.

Class 1 Course introduction. Toefl/Ielts test introduction.

Class 2 Vocabulary study introduction. Reading, writing and speaking fluency check.

Class 3 Toefl/Ielts Reading and Writing

Class 4 Toefl/Ielts Reading and Writing. Vocabulary review workshop.

Class 5 Vocabulary test 1. Toefl/Ielts Reading and Writing.

Class 6 Criterion essay 1

Class 7 Toefl/Ielts Listening and Speaking

Class 8 Toefl/Ielts Listening and Speaking. Vocabulary review workshop.

Class 9 Vocabulary test 2. Toefl/Ielts Reading and Writing.

Class 10 Criterion essay 2

Class 11 Toefl/Ielts Listening and Speaking.

Class 12 Toefl/Ielts Reading and Writing.

Class 13 Criterion essay 3

Class 14 Vocabulary review workshop. Toefl/Ielts Listening and Speaking.

Class 15 Vocabulary test 3.

成績評価と基準

Class notebook 40%
Vocabulary tests and Criterion essays 30%
Homework 20%
Participation 10%

* Class notebook includes all vocabulary study, writing practice, speaking preparation, listening notes and summaries, and other class work.

* Participation includes attendance and teacher-observed class participation and effort.

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

Weekly homework will be assigned.

It is expected that students will have their homework completed for each class, as this is necessary to participate in the class activities.

オフィスアワー・連絡先

Tuesdays, 4th period (by appointment)
Email: cynthia@people.kobe-u.ac.jp

学生へのメッセージ

今年度の工夫

教科書

Other class materials besides the course textbook are provided by the teacher or are from online resources.
400 Must-Have Words for the TOEFL, 2nd edition / Stafford-Yilmaz and Zwier : McGraw Hill, 2014
,ISBN:9780071827591

参考書・参考資料等

授業における使用言語

English

キーワード

開講科目名	専門基礎英語（文章表現、会話）Ⅰ（グローバル専門科目）		
担当教員	ショルト グレゴリー ポール	開講区分	単位数
		前期	1単位

授業のテーマと到達目標

The ultimate goal of this course is to improve students' abilities to communicate in English in real world situations and on topics of personal interest. However, emphasis for this course will be placed on topics related to interpreting, discussing, and writing about quantitative data from research, economics, or other reports. In each class, students will be required to actively use English and to express their own ideas and opinions on topics being studied.

授業の概要と計画

The instructional approach will center on students engaging in a variety of tasks that require the use of English discussion or writing to complete; however, tasks will require general English-related communication skills and strategies. The topic of each task will change but be grounded in real world situations and focus on the interests of the class. Based on performance of the task, students will identify personal areas of need and work to enhance their skills and knowledge in those areas.

The course will be divided into three parts:

Part I (Approximately 5 Class Sessions)

In the first part of the course, the instructor will explain and guide students through the task structure and then provide the topics and activities for each task. These topics will be selected from current, newsworthy events related to intercultural issues and quantitative topics. The instructor will teach specific skills and strategies related to academic-style English discussion and writing.

Part II (Approximately 5 Class Sessions)

After students have become accustomed to the task structure of lessons, they will begin to contribute to the topic selections. In the second part of the course, students will collectively identify and select topics for the class to use. The instructor will provide specific tasks based on these student-selected topics.

Part III (Approximately 5 Class Sessions)

Finally, students will work in groups to develop and implement their own designed tasks based on topics of personal interest for a class project. Each group will lead the class using their designed tasks. Students will take the TOEFL iBT on the last day of class.

成績評価と基準

Attendance/Active Participation: 15%
 Class/Home Work: 10%
 English Self-Study Notebook: 30%
 Projects/Evaluations: 30%
 Final Paper: 15%

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

Since this course is conducted entirely in English, students must have a high enough proficiency level to be able to communicate with the teacher and classmates in English. Students can prepare for the class by reviewing English vocabulary related to mathematics and research. Students will need to complete the assigned reading and writing activities before each class period. この科目はグローバル人材育成のために外国語で授業を行うグローバル専門科目です。

他学部生の履修：否

オフィスアワー・連絡先

Tuesday 4th Period, Wednesday 3rd Period
 Other appointments can be made by contacting the instructor in person or through email: gsholdt@people.kobe-u.ac.jp

学生へのメッセージ

Students will need to bring a dictionary to each class and have access to English language media through the internet or library. Active participation is essential to successful completion of this course.

今年度の工夫

Lesson topics adjusted to reflect current trends. New technology used.

教科書

The materials for this course include:

1. Specific instructions on participating in tasks through worksheets developed by the instructor.
2. Specific instructions on academic-style writing and discussion through worksheets developed by the instructor.
2. Authentic materials obtained from current articles published on the internet including news websites such as CNN, the New York Times, and the Washington Post. Some will be selected by the instructor and some selected by students.

参考書・参考資料等

授業における使用言語

English only

キーワード

Intercultural communication, quantitative research, グローバル

開講科目名	専門基礎英語（文章表現、会話）Ⅰ（グローバル専門科目）		
担当教員	ウアン マリアン	開講区分	単位数
		前期	1単位
授業のテーマと到達目標			
English for Intercultural Studies I (Basic Level) is intended for students to improve their communicative skills in English and expose students to cross cultural issues and current events.			
授業の概要と計画			
Week 1: Course syllabus and class rules Week 2: Needs analysis, getting to know your classmates Week 3: Choosing topics of interest Week 4-8: First graded group project Weeks 9-12: Second graded group project Week 13-14: Reflection and course evaluation Weeks 15: Final activity (ungraded)			
成績評価と基準			
Group projects = 90% Attendance and participation = 10%			
履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）			
You must have access to the Internet and be comfortable with searching for online documents. この科目はグローバル人材育成のために外国語で授業を行うグローバル専門科目です。 他学部生の履修：否 履修する上での語学能力：英語で授業を行うため、TOEIC 600点以上又はTOEFL 500 (iBT=60) 点以上の英語能力が必要です。			
オフィスアワー・連絡先			
Wednesday, Period 2 (10:40-12:10), D619 Email: marianwang@people.kobe-u.ac.jp			
学生へのメッセージ			
Please be prepared to participate in English only. Arriving after the bell is late (6 Lates = Fail). Coming in 20 minutes late will be counted as absent. Sleeping in class may be counted as absent. Using your phone in class may be counted as absent. 4 absences = Fail. No late assignments. Bring handouts and complete homework on time.			
今年度の工夫			
教科書			
参考書・参考資料等			

授業における使用言語

English only

キーワード

Global, cross-cultural issues, current events

英語

グローバル

開講科目名	専門基礎英語（文章表現、会話）Ⅰ（グローバル専門科目）		
担当教員	ワッツ・デイビッド	開講区分	単位数
		前期	1単位

授業のテーマと到達目標

To help students improve their fluency and vocabulary range as well as to help them increase their own confidence in their abilities to communicate effectively about a wide range of current global and international issues in the English language.

授業の概要と計画

All communicative tasks are based on areas of interest to university students, with a focus on Western culture. There is a strong emphasis on the use of authentic audio, visual and written material.

成績評価と基準

Students' grades are based on ongoing classroom task participation. This means that active participation in all classes is compulsory.

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

Attendance, punctuality and active participation in all classes is mandatory. The entire course will be conducted exclusively in English, both by the teacher and students.
This syllabus is subject to modification at the discretion of the teacher.

オフィスアワー・連絡先

To be arranged.

学生へのメッセージ

The best way to learn a language is to enjoy it!

今年度の工夫

教科書

All materials provided by the teacher.

参考書・参考資料等

授業における使用言語

100% English.

キーワード

開講科目名	国際文化学実習		
担当教員	朴 秀娟	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

日本語教育に関連する教授法、日本語学、日本文化・日本事情、異文化交流などの基礎的知識を習得し、7月末から3週間にわたって実施される「神戸大学夏期日本語日本文化研修プログラム」を中心とする各種のプログラムにおいて実習を行う（実習は必修）。日本語や日本文化を他言語・他文化の視点から相対的に見る力を養い、同年代の外国人との共同作業を通して、異文化交流と日本語教育の実体験ができる授業を目指す。

授業の概要と計画

開講期間は5月18日（月）から8月6日（木）とする。講師は留学生センターの専任教員がリレー式で担当し、教員毎に授業テーマを設定する。日本語や日本文化を外から見る、発想の転換を促す授業を目指す。4月13日（月）、20日（月）ともに5時限の2回、オリエンテーションを実施する。定員は40名程度。受講希望者が多い場合は、受講動機のレポートを課し、その評価により受講者を決定する。

成績評価と基準

出席率、講義及び実習での参加状況、レポートを総合的に判断する。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

必ず4月13日（月）、20日（月）のいずれかにオリエンテーションに参加すること。夏期プログラムでは、グループ活動の事前準備を求める。

オフィスアワー・連絡先

オフィスアワー：月曜15時から16時半
TEL：078）803-5273
E-mail：sympark@aquamarine.kobe-u.ac.jp

学生へのメッセージ

今年度の工夫

教科書

ハンドアウトを配布する。

参考書・参考資料等

授業における使用言語

日本語

キーワード

開講科目名	国際コミュニケーション演習II（グローバル専門科目）		
担当教員	ワッツ・デイビッド	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

The course is intended to provide students with further opportunities to engage with a variety of subject matter and to raise further awareness of communication skills in a global, international context.

授業の概要と計画

Students are encouraged, both as individuals and groups, to carry out their own research on topics of general interest outside the classroom and to present their findings afterwards to other small groups and to the group as a whole. In addition, students are given an opportunity to engage in discussions on various global issues.

成績評価と基準

This course is continually assessed, based on students' weekly contribution to performance in their group presentation preparation, presentation and subsequent discussions (90%). Credit is also given for participation throughout the course (10%). Therefore attendance is compulsory.

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

Student numbers are strictly limited to a maximum of 30. Students will be selected based on completion of a written assignment in Week 1.

Attendance and punctuality is mandatory. Students who have not completed weekly homework research assignments will not be allowed to participate in the class and will therefore be marked as absent. The class will be conducted entirely in English.
This syllabus is subject to modification at the discretion of the lecturer.

オフィスアワー・連絡先

To be arranged.

学生へのメッセージ

今年度の工夫

教科書

None.

参考書・参考資料等

Internet, newspapers, library resources, student initiated research.

授業における使用言語

100% English.

キーワード

開講科目名	Cultures and Societies in Japan IV（グローバル専門科目）		
担当教員	ワッツ・デイビッド	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

The course is intended to provide students with further opportunities to raise awareness of various aspects of Japanese culture. Japanese first language students will improve their ability to describe and discuss their culture in English, while Japanese second language students will improve their ability to describe and discuss Japanese culture in Japanese.

授業の概要と計画

This is a communicative, student-centred course in which students are required to carry out weekly research on a wide variety of aspects of Japanese culture and present their findings in small groups, leading to discussion and intercultural exchange.

成績評価と基準

This course is continually assessed, based on students' weekly contribution to performance in their group presentation preparation, presentation and subsequent discussions (90%). Credit is also given for participation throughout the course (10%). Therefore attendance is compulsory.

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

Student numbers are strictly limited to a maximum of 30. Students will be selected based on completion of a written assignment in Week 1.

Attendance and punctuality is mandatory. Students who have not completed weekly homework research assignments will not be allowed to participate in the class and will therefore be marked as absent. The class will be conducted entirely in English by Japanese first language students and in Japanese by Japanese second language students.

This syllabus is subject to modification at the discretion of the lecturer.

オフィスアワー・連絡先

To be arranged.

学生へのメッセージ

今年度の工夫

教科書

None.

参考書・参考資料等

net, newspapers, library resources, student initiated research.

授業における使用言語

All students will be expected to speak 100% in their second language.

キーワード

開講科目名	国際コミュニケーション演習Ⅳ（グローバル専門科目）		
担当教員	ワッツ・デイビッド	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

The course is intended to provide students with further opportunities to engage with a variety of subject matter and to raise further awareness of communication skills in a global, international context.

授業の概要と計画

Students are encouraged, both as individuals and groups, to carry out their own research on topics of general interest outside the classroom and to present their findings afterwards to other small groups and to the group as a whole. In addition, students are given an opportunity to engage in discussions on various global issues.

成績評価と基準

This course is continually assessed, based on students' weekly contribution to performance in their group presentation preparation, presentation and subsequent discussions (90%). Credit is also given for participation throughout the course (10%). Therefore attendance is compulsory.

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

Student numbers are strictly limited to a maximum of 30. Students will be selected based on completion of a written assignment in Week 1.

Attendance and punctuality is mandatory. Students who have not completed weekly homework research assignments will not be allowed to participate in the class and will therefore be marked as absent. The class will be conducted entirely in English.
This syllabus is subject to modification at the discretion of the lecturer.

オフィスアワー・連絡先

To be arranged.

学生へのメッセージ

今年度の工夫

教科書

None.

参考書・参考資料等

Internet, newspapers, library resources, student initiated research.

授業における使用言語

100% English.

キーワード

開講科目名	博物館展示論		
担当教員	加藤 瑞穂	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

博物館における展覧会とは何かを考える。また展覧会企画の具体的手法を知る。

授業の概要と計画

現在の美術館をめぐる状況をふまえながら、特に近現代美術を扱う展覧会企画について、それに伴うカタログ作成や教育普及事業の企画も含めて具体的手順を講義する。それと同時に、授業時間外に開催中の展覧会を各自鑑賞し、その評価について意見交換する時間を、全15回のうち4回程度もうける。

成績評価と基準

平生の授業への参加（意見交換での積極的姿勢など）30%、その後のレポート（2回程度）70%

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

国際文化学部、文学部、発達科学部、理学部のいずれかの学生で、学芸員資格取得希望者に限る。授業中に適宜配布する資料を、次の授業までに予習することが望まれる。

オフィスアワー・連絡先

金曜日12:10?12:30 学生交流ルーム内

学生へのメッセージ

授業時間外に、できるだけ数多く展覧会を見に出かけて下さい。

今年度の工夫

授業として、実際に展覧会を鑑賞に行く機会をつくる。

教科書

特に使用しない。

参考書・参考資料等

授業中に適宜配布。

授業における使用言語

日本語

キーワード

開講科目名	英語文章表現（上級）		
担当教員	ショルト グレゴリー ポール	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

The ultimate goal of this course is to improve students' abilities to write in English in a manner appropriate for academic discourse. A critical aspect of the course is having students read and summarize information from various sources in an objective manner and then to provide thoughtful opinions in a logically organized and reasoned manner in English. Emphasis is placed on development specific writing skills and strategies as well as the development of English vocabulary and language.

授業の概要と計画

In the first part of the course (5 classes), the instructor will provide and review a series of worksheets focused on specific academic English writing skills and strategies and students will engage in a series of short writing activities and assignments. During the second part of the course (5 classes), the instructor will introduce authentic academic reading materials to serve as a source for short response papers. In the last part of the course (5 classes), students will be placed into small groups based on shared academic interests and select a particular academic writing type to study for a class project. The group will prepare materials and a class presentation on their topic and lead a class presentation. They will write a final paper based on their individual interests.

成績評価と基準

1. Attendance/Active Participation: 15%
2. Classwork: 10%
3. Projects and Evaluations: 30%
4. Portfolio: 25%
5. Final Paper: 20%

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

Since some projects will require group work, students need to actively contribute to the working progress of the group. Enrollment is limited so only those who are prepared to devote the necessary time and energy to improve their writing skills should register for this course.

オフィスアワー・連絡先

Office Hours: Tuesday 3rd, and Wednesday, 2nd
Email: gsholdt@people.kobe-u.ac.jp

学生へのメッセージ

Students will need to bring a dictionary to each class and have access to English language media through the Internet or library. Active participation is essential to successful completion of this course. Students in the Department of Intercultural Studies and students enrolled in the teacher's certificate program get priority in this course. If there is any space remaining, then students from other departments may join. Auditors will not be accepted.

本授業の履修を希望する学生が多ければ、以下の順に希望者へ履修許可を出します。

1. 国際文化学部 of 学生
 2. 教育職員免許状（英語）を取得しようとする学生
- 1と2の学生が履修をして、それでも残席がある場合に限り、国際文化学部以外の学部生の受講を許可します。

また、本授業では聴講を認めていません。履修者以外の学生が本授業に参加することは認められていないので注意すること。

今年度の工夫

Lesson topics adjusted to reflect current trends. New technology used.

教科書

The classes will be based around a series of instructor-devised worksheets, handouts and tasks that will involve the students in active use of English to learn about and discuss topics related to academic writing. Furthermore, students will learn techniques for and engage in Internet research to find authentic materials and information about academic writing based on their own personal interests.

参考書・参考資料等

授業における使用言語

English

キーワード

Intercultural communication Academic writing

開講科目名	Academic Writing（仏）		
担当教員	田島 義士	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

この授業は、フランス語の「読む」、「書く」練習をすることで、フランス語で文章を作成する能力を高めるためのものです。フランス旅行・生活で困らない、フランス留学の際に必要な書類が書ける、及びフランスの大学で授業やセミナーを受講できるレベルまでのフランス語力の向上を目指します。楽しくフランス語を学びましょう。

授業の概要と計画

まずは日常生活に必要なメールや手紙の書き方を、相手に応じて書き分ける練習から始めましょう。同時に、書き言葉と話し言葉は一体何が違うのかを考えてみましょう。次に、様々なフランス語で書かれた文章を読むことで、定型句や決まり文句を習得しましょう。授業の中では、海外生活や留学に関する情報を提供すると同時に、留学に必要な書類の書き方についても取り上げていきます。最終的には専門的な資料を使って、自分の感想や意見、批評を書くための練習をします。フランスの大学のシステムの解説および、フランスの大学の講義に臨む上で必要なノウハウ（ノート・レポート・論文の書き方など）についての説明もする予定です。授業は15回行なわれます。

成績評価と基準

授業の評価は、平常点（出席および授業への参加度・態度）、課題、レポートによって行われます。毎回の授業の復習や課題もしっかりしてください。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

KUPES生（国際文化、経済、法の学部3年生）、およびフランス語を第二外国語として1～2年程度学習した者を対象とします。毎回の授業のテーマに合わせて、作文や読解などの課題を出します。授業で扱った文章のモデルやポイントを参考にしながら、課題を作成してください。

オフィスアワー・連絡先

学生へのメッセージ

初回時に皆さんの興味（あるいは研究テーマ）を聞き、授業で取り扱うテーマの参考にします。またフランスでの生活に関する豆知識や留学情報もたくさん盛り込んでいきます。

今年度の工夫

教科書

基本的に資料のコピーを配布します。

参考書・参考資料等

Nathalie Hirschsprung et Alexandre Holle, Préparation à l'examen du DELF A2, Hachette.
Les 500 exercices de grammaire, niveau B2, Hachette.
この他にもフランス語習得のための色々な参考書を授業で紹介していきます。

授業における使用言語

フランス語、日本語

キーワード

フランス語、アカデミックライティング、留学

開講科目名	Academic Writing（独）		
担当教員	ベティーナ・ゲッシュ	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

授業の概要と計画

成績評価と基準

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

オフィスアワー・連絡先

学生へのメッセージ

今年度の工夫

教科書

参考書・参考資料等

Langenscheidt / : , ,ISBN:

授業における使用言語

キーワード

開講科目名	都市文化論		
担当教員	若林 幹夫	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

「〈都市的なもの〉の現在」をテーマに、社会学と文化の理論の視点から「都市的なもの」とその近・現代的なあり方を理解すると同時に、そのような理解にもとづいて現代の社会と文化を考察できるようになることをめざす。

授業の概要と計画

「都市」と呼ばれる領域は、社会の他の領域とは異なる社会的・文化的な属性によって差異づけられている。都市とそれ以外の領域を差異づけている属性を〈都市的なもの〉と呼ぶとすれば、それは歴史貫通的・通文化的であると同時に、時代や地域によって変異して現象する。この講義では、〈都市的なもの〉とは何なのかをまず検討し、そのうえで現代における〈都市的なもの〉のあり方を、具体的な都市やそこでの社会現象、文化現象に関して検討していく。1日目はガイダンスに続き、シカゴ学派の都市社会学とジンメル、ベンヤミンの都市論を手がかりに、〈都市的なもの〉とは何かについて考察する。2日目は近代都市計画の誕生と20世紀のアーバニズム、都市のモダニズムとポストモダニズムについて、フランソワーズ・ショエやレム・コールハースの議論を手がかりに検討を行う。3日目は20世紀の盛り場の社会史、ロバート・ヴェンチャーリのラスヴェガス論、森川嘉一郎の秋葉原論などを題材に、20世紀から21世紀の都市の文化について考える。4日目は北田暁大の広告都市論、若林らの郊外論、ショッピングモール論から現代都市の社会と文化について検討し、最後に最終試験ないしレポートの執筆を行う。

成績評価と基準

最終試験またはレポート 60%
授業内の小課題 30%
授業への参加 10%

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

履修者との質疑を交えつつ授業を進めるので、積極的に発言して欲しい。
最終試験またはレポートのほかにも、授業中に小課題を課し、それについての質疑も行いたい。
都市論は身近な生活環境や生活経験が対象となるので、自分の周囲の環境や経験と授業の内容を重ね合わせて考えながら受講すること。

オフィスアワー・連絡先

学生へのメッセージ

夏休み中の集中講義ですが、現代の都市と社会と文化に関心のある学生諸君の積極的な参加を期待しています。参加者との議論も交えながら、共に考える場にしたいと思います。

今年度の工夫

教科書

特定の教科書は使用しない。

参考書・参考資料等

都市論を学ぶための12冊 / 若林幹夫：弘文堂、2014、ISBN:978-4-335-55161-1
郊外の社会学 / 若林幹夫：ちくま新書、2007、ISBN:978-4-480-06350-2
モール化する都市と社会 / 若林幹夫：NTT出版、2013、ISBN:978-4-7571-4318-0

授業における使用言語

日本語

キーワード

都市、アーバニズム、都市文化、都市計画、建築、盛り場、郊外、ショッピングモール

開講科目名	基礎ゼミ		
担当教員	米本 弘一	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

基礎ゼミでは、ただ教えてもらうのではなく、自分で問題設定をし、調べ、考えるという、大学で必要不可欠な勉強の仕方を身につけます。図書館やインターネットなどを使った資料の探し方、資料の分析方法、レジュメの作り方、口頭発表の仕方、ディスカッションの仕方等を身につけ、最終的には4000字の期末レポート（小論文）を書くことを目標とします。

授業の概要と計画

このゼミでは、「異文化理解のためのコミュニケーションのあり方」というテーマについて、資料を収集・分析し、個人発表をして、問題点について全員で討議します。
授業ではまずオリエンテーションと自己紹介をしたあと、資料収集と分析の方法、発表の仕方などについて説明します。そのあと、外国語の学び方、日本と外国の教育制度の違い、英語社内公用化、小学校での英語教育、異文化との接触、カルチャーショックなどの問題について議論をします。そして、それに基づいて各自分析対象を選んで、調査・報告をしてもらい、全員で議論します。最後に、その内容をまとめて発展させた形で、期末レポートを作成してもらいます。

成績評価と基準

平常点（発表内容、ディスカッションへの参加、出席など）50%、期末レポート（4000字程度、論理性、明晰性、表現など）50%。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

演習は、十分な準備をした上で毎回出席することが前提です。

オフィスアワー・連絡先

金曜3限
B413

学生へのメッセージ

今年度の工夫

教科書

使用しません。必要に応じて資料を配付します。 / : , , ISBN:

参考書・参考資料等

授業中に適宜紹介します。

授業における使用言語

日本語

キーワード

異文化理解 コミュニケーション

開講科目名	基礎ゼミ		
担当教員	林 良子	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

基礎ゼミでは、ただ教えてもらうのではなく、自分で問題設定をし、調べ、考えるという、大学で必要不可欠な勉強の仕方を身につけます。図書館やインターネットなどを使った資料の探し方、資料の分析方法、レジュメの作り方、口頭発表の仕方、ディスカッションの仕方等を身につけ、最終的には4000字の期末レポート（小論文）を書くことを目標とします。

授業の概要と計画

授業では、大学における修学上必要な技術を身に着けるとともに、「外国語教育」について、言語学・外国語教育のごく基礎的な知識の導入もしながら、発表、議論を深めていきたいと思います。おおよそ以下の流れを予定しています。

- 第1回 ガイダンス（自己紹介）：大学と高校の違い
第2回 自分の外国語学習をめぐる：文献の探し方・図書館ツアー
第3・4・5回 課題図書1「早期英語教育は必要か？」：レジュメ作成の仕方・参考文献の書き方・感想文とレポートの違い
第6・7・8回 グループワーク「外国語教材に見られる文化的要素（Landeskunde）」：プレゼンテーションの仕方・グループディスカッション
第9回 見学（留学生センター等）を予定
第10・11・12回
課題図書2：理想的な「外国語教材」とは？
各グループごとにインタビュー等の調査も行ない、資料をまとめる。プレゼン資料の作成を行なう。
第13回：グループ発表
第14・15回 レポートの書き方について・まとめ

成績評価と基準

平常点（発表内容、ディスカッションへの参加、出席など）50%、期末レポート（4000字程度、論理性、明晰性、表現など）50%。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

課題図書は、自分の担当分以外も精読すること。「言語、外国語、教育」などをキーワードとして、常日頃から新聞等でどのような話題が取り上げられているかアンテナを張っておいてください。

オフィスアワー・連絡先

火・木昼休み（事前連絡要。メールや授業時などにアポイントをとってください）

学生へのメッセージ

言われたことを、言われるままに、人と同じことをやるのではなく、+αのアイディアを期待しています。それにはまず、基礎的なスキルの習得から。一緒に楽しく勉強していきましょう。

今年度の工夫

教科書

課題図書等については授業中に詳しく指示します。

参考書・参考資料等

授業における使用言語

日本語

キーワード

外国語 英語教育 第二外国語教育 言語学 教材研究

開講科目名	基礎ゼミ		
担当教員	村尾 元	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

基礎ゼミでは、ただ教えてもらうのではなく、自分で問題設定をし、調べ、考えるという、大学で必要不可欠な勉強の仕方を身につけます。図書館やインターネットなどを使った資料の探し方、資料の分析方法、レジュメの作り方、口頭発表の仕方、ディスカッションの仕方等を身につけ、最終的には4000字の期末レポート（小論文）を書くことを目標とします。

授業の概要と計画

この基礎ゼミでは「社会現象」を対象とした「科学的なものの見方」を題材として、「授業のテーマと到達目標」にあるような事項を勉強していきます。

「科学的なものの見方」というと、一見、文化系の学問には無関係に思うかもしれませんが、しかし、仮説を立てる、抽象化・モデル化を試みる、データを収集・分析するといったような、科学的方法に含まれる過程の多くは、文化系の学問にとって（というか人生の様々な場面において）有用です。

具体的には、「どうしてタバコはやめられないのか」とか「自分の街を綺麗に保つにはどうすればいいか」といったような微視的なものから、「サッカーブームはどうして起こるのか」とか「環境対策で各国の足並みが揃わないのはなぜか」といったような巨視的なものまで、比較的身近な現象を取りあげます。

これらを以下のような予定で勉強していきます。

1. ガイダンス

- オリエンテーション（自己紹介、基礎ゼミの内容紹介、テキストの分担決定など）
- 資料収集の方法、論文の読み方について
- 口頭発表の仕方について
- レポート・論文執筆について

2. 調査・発表と議論の練習

毎回2名程度が、割り当てられたテキストについて他のゼミ参加者に紹介するとともに、それについて議論を行います。

3. 各自の問題設定に基づく発表と議論の練習

各参加者が興味に基づいて問題設定を行い、それに基づいて資料等の調査、まとめなどを行い、他のゼミ参加者に紹介するとともに、それに基づいて議論を行います。

期末レポート（4000字）のテーマについては授業中に説明します。

成績評価と基準

平常点（発表内容、ディスカッションへの参加、出席など）50%

期末レポート（4000字程度、論理性、明晰性、表現など）50%

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

ゼミでは積極的な議論への参加が必要です。そのためにも事前に十分に準備をしておいて下さい。具体的には、発表者は少なくとも1週間前までにレジュメ（発表の要約を書いたもの）を用意しておいて下さい。また、発表者のみならず出席者全員、テキストの当該範囲とレジュメをよく読んでおくようにして下さい。また、毎回の発表後には、その回の発表についての簡単なメモを全員に提出して貰います。レジュメやメモは平常点の一部として評価します。

オフィスアワー・連絡先

いつでもどうぞ。ただし、あらかじめ電子メールで連絡をして下さい。

電子メール：hajime.murao@mulabo.org

研究室：B棟4階B409室

学生へのメッセージ

大学での勉強の仕方を学ぶための最初の演習です。慣れずに大変な部分もあるかもしれませんが、楽しみながら真剣に取り組んでいきましょう。

今年度の工夫

教科書

使用を予定していません。配付資料を用いる予定です。

参考書・参考資料等

必要に応じて随時指定します。

授業における使用言語

日本語

キーワード

社会学，科学的方法論，モデル

開講科目名	基礎ゼミ		
担当教員	市田 良彦	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

基礎ゼミでは、ただ教えてもらうのではなく、自分で問題設定をし、調べ、考えるという、大学で必要不可欠な勉強の仕方を身につけます。図書館やインターネットなどを使った資料の探し方、資料の分析方法、レジュメの作り方、口頭発表の仕方、ディスカッションの仕方等を身につけ、最終的には4000字の期末レポート（小論文）を書くことを目標とします。

授業の概要と計画

みなさんは最終的に「卒論」というかなりの枚数の「学術論文」を書くことになります。大学生活のゴールとなる「卒論」とはどんなものなのか、どのようにして「研究」を進め、それにかたちを与えていけばいいのかを予定演習してみたいと思います。いくつかの班に分け、「共著論文」のようなものを作成してもらいます。おおむね「現代の社会問題」を大きな共通テーマとします。そこからどう絞り込んで行くか。。。社会科学系の「論文」のようなものを書くことが目標です。

- 1) レジュメの書き方。
- 2) 資料収集と文献表の作成。
- 3) テーマ設定。
- 4) 作業分担。
- 5) 論文の構成を考える。
- 6) 執筆
- 7) 発表

成績評価と基準

平常点（発表内容、ディスカッションへの参加、出席など）50%、期末レポート（4000字程度、論理性、明晰性、表現など）50%。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

最初は全員共通つまり各自の「勉強」ですが、途中からはグループでの議論と作業が中心になります。ゼミの時間以外でも集まって仕事をする必要も出てくるかもしれません。

オフィスアワー・連絡先

E304号室。基本的に水曜の昼休みはいます。

学生へのメッセージ

他人と議論することに習熟してほしい。主張すること、争うこと、妥協すること、等々。私の役目は「ツッコミ」です。どうそれに返せるかの反射神経も養ってください。

今年度の工夫

教科書

参考書・参考資料等

授業における使用言語

日本語

キーワード

開講科目名	基礎ゼミ		
担当教員	西澤 晃彦	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

基礎ゼミでは、ただ教えてもらうのではなく、自分で問題設定をし、調べ、考えるという、大学で必要不可欠な勉強の仕方を身につけます。図書館やインターネットなどを使った資料の探し方、資料の分析方法、レジュメの作り方、口頭発表の仕方、ディスカッションの仕方等を身につけ、最終的には4000字の期末レポート（小論文）を書くことを目標とします。

授業の概要と計画

私たちがその真っ只中におりそれゆえになかなかそれを「客観的に」みることをしない、その現代社会とはいかなるものなのかを考える場にしたい。このゼミは、毎週、テキストのある範囲の内容について、報告者（2名）、司会者、コメンテーターを決めて討論会形式で進めます。討論会ですから全員参加です（私は傍観者）。報告者は、白書や過去の新聞記事なども準備して、報告に臨んでください。

成績評価と基準

平常点（発表内容、ディスカッションへの参加、出席など）50%、期末レポート（4000字程度、論理性、明晰性、表現など）50%。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

私は社会学が専門ですが、それを押し付けたくはありません。このゼミではできるだけ多様な視点が出るのが望ましいと考えています。

オフィスアワー・連絡先

学生へのメッセージ

2014年の4月に着任したばかりですので、神戸大学についても神戸についても知らないことばかりです。

今年度の工夫

教科書

小熊英二『社会を変えるには』講談社現代新書（2012）を用います。初回の授業までに購入してください。

参考書・参考資料等

授業における使用言語

日本語

キーワード

開講科目名	基礎ゼミ		
担当教員	藤野 一夫	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

基礎ゼミでは、ただ教えてもらうのではなく、自分で問題設定をし、調べ、考えるという、大学で必要不可欠な勉強の仕方を身につけます。図書館やインターネットなどを使った資料の探し方、資料の分析方法、レジュメの作り方、口頭発表の仕方、ディスカッションの仕方等を身につけ、最終的には4000字の期末レポート（小論文）を書くことを目標とします。

授業の概要と計画

3.11以後の日本で急速に浮上してきた問題が2つあります。一つは「シュリンキング」、縮小する社会の問題で、これは地方のコミュニティに顕著に現れています。もう一つは「ジェントリフィケーション」、大都市のある地区が、再開発をきっかけに急速に富裕化する現象です。縮小化と富裕化が同時に起きています。それによって格差社会がどんどん拡大していく。その構造を的確に捉え、適切に対応しなければ、日本の社会は非常に不安定なものになってしまうでしょう。グローバル化の進展によって複雑化し、混迷を深める現代の世界は、いったいどのような構造から成り立っており、またどのような理念と課題を抱えているのでしょうか？それらの根本問題を、近代ドイツの哲学者カントの思想にまで遡って、じっくり考えてみたいと思います。扱う論文はどれも比較的短いものですが、読み応えがあります。

- 1) 啓蒙とは何か
- 2) 世界市民という視点からみた普遍史の理念
- 3) 人類の歴史の憶測的な起源
- 4) 万物の終焉
- 5) 永遠平和のために

以上の論文をグループに分けて熟読、議論し、その結果を発表してもらいます。発表のためのレジュメもグループワークを原則とします。そして全体でのディスカッションに多くの時間を使いたいと思います。

成績評価と基準

平常点（発表内容、ディスカッションへの参加、出席など）50%、期末レポート（4000字程度、論理性、明晰性、表現など）50%。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

準備学習として報告の担当者は、自分が担当する章について、テキスト及び図書館等での資料検索を用いてレジュメを作成すること、また他の履修者は疑問点など質問事項を整理しておくこと。

オフィスアワー・連絡先

fujino@kobe-u.ac.jp 要事前連絡

学生へのメッセージ

文献を熟読し、的確に内容を把握し、それに対して自分の考えを明確に表明できるように練習をしましょう。

今年度の工夫

グループワークを重視します。また、様々なアートシーン（美術館、演奏会、演劇、アートプロジェクト）のフィールドワークも提案します。

教科書

『永遠平和のために／啓蒙とは何か』、光文社古典新訳文庫、648円＋税 / カント（中山元訳）：,2006,ISBN:978-4-3347-5108-1

参考書・参考資料等

『世界共和国へー資本=ネーション=国家を超えて』、岩波新書 740円＋税 / 柄谷行人：,2006,ISBN:4-00-431001-6

授業における使用言語

日本語

キーワード

超少子高齢化、格差社会、シュリンキング、ジェントリフィケーション、グローバリゼーション、コミュニティ再生、啓蒙、世界市民、永遠平和、世界共和国

開講科目名	基礎ゼミ		
担当教員	吉岡 政徳	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

基礎ゼミでは、ただ教えてもらうのではなく、自分で問題設定をし、調べ、考えるという、大学で必要不可欠な勉強の仕方を身につけます。図書館やインターネットなどを使った資料の探し方、資料の分析方法、レジュメの作り方、口頭発表の仕方、ディスカッションの仕方等を身につけ、最終的には4000字の期末レポート（小論文）を書くことを目標とします。

授業の概要と計画

前半は各人が、新聞や雑誌、本などを題材に自分の興味あるテーマについて調べて、問題提起をする形の発表をし、それに基づいて討論する。後半は、興味あるテーマについての論文やエッセーを1点選び、それを全員に配布したうえで、担当者は論文の要旨をまとめたうえで問題点や課題などを指摘し、討論の題材とする。全員が同じ論文やエッセーを読んでいることが前提で議論を進める。

成績評価と基準

平常点（発表内容、ディスカッションへの参加、出席など）50%、期末レポート（4000字程度、論理性、明晰性、表現など）50%。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

授業の最初に日に、現在興味あるテーマ、取り上げてみたいテーマについて質問をするので、考えておくこと。

オフィスアワー・連絡先

随時。あらかじめメールでアポイントをとること。
メールアドレスは、yoshioka*tiger.ko-be-u.ac.jp（*を@に変えること）

学生へのメッセージ

今年度の工夫

教科書

参考書・参考資料等

授業における使用言語

キーワード

演習 基礎 発表 討論 レジюме

開講科目名	基礎ゼミ		
担当教員	山澤 孝至、塚原 東吾	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

基礎ゼミでは、ただ教えてもらうのではなく、自分で問題設定をし、調べ、考えるという、大学で必要不可欠な勉強の仕方を身につけます。図書館やインターネットなどを使った資料の探し方、資料の分析方法、レジュメの作り方、口頭発表の仕方、ディスカッションの仕方等を身につけ、最終的には4000字程度の期末レポート（小論文）を書くことを目標とします。

授業の概要と計画

（塚原）
第三世界の子どもの権利・児童労働・売買春・臓器売買・人身売買とボランティアと従軍慰安婦問題が、今期の中心です。
そして、「このナショナリズムは黙視していいのか？ヘイトスピーチとチャーリーと原発と差別問題とカムイ」というテーマ系も、扱います。原発をめぐる、なかなかモノが言いにくくなっている状況は、かなり、マズイ、というのが、2015年的な状況ですから。
さらに、アメリカの移民と現代の「食」文化・マクドナリゼーションしているバイオポリティックスの状況とディズニーランド化する大学にどう抵抗して自らの「知」の橋頭堡を維持するか、考えます。
そのために、国連とアフリカ難民とAK47（カラシニコフ）と軍事化と国家イデオロギーという国際ポリティックス、劣化ウランと内部被爆と原発の再稼働と福島のアシックスとヒロシマ平和研究、ポスト311の日本のテクノ・イノベーションなど、国際政治と世界の社会問題についての、幅広いテーマを扱います。
これらのアサインメントに並行して、毎週、国際人の常識・英字新聞を読みます。
世界レベル（オックスブリッジ、IVYリーグ校）の授業なので、ついてくるのはそれなりに大変な計画です。でも、大学で本気で面白い「知」へのアプローチをやりたいという人は、しんどいとおもうのですが、ついてきてください。
（山沢）今の時代に最も欠けているのは、ことによるとひとつの詩歌をじっくりと味わい、その意味について時間をかけて考え抜くことかもしれません。後半の演習ではがらりと中味を変えて、芭蕉の句を題材に、詩歌の解釈といった問題と取り組んでもらいます。

成績評価と基準

平常点（報告およびディスカッションへの参加）50%、 期末レポート（4000字程度、論理性、明晰性、表現など）50%

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

（塚原）毎週、一つの映像（ドキュメンタリーなど）と関連の本、それを見て・読んでくこと、そしてそれらについて、毎回レポートが課題として出されます。
たいへんですが、「おもしろい」ものを、厳選しています。これらについては、ユーキ・フジイさんとセーゴ・カルロス・イ・ヤマ＝シーナくんが、アシスタントとして、アドヴァイスしてくれます。
国際的なトップレベルの大学で要求される水準のアサインメントですから、そこそこディマンディングですが、こなしてくことは、神戸大学に入ってきて、ちゃんと勉強をする気のある学生なら、なんとかなると思います。
なお、毎週金曜は、英字新聞、（もしくはタイムかニューズウィーク英語版）を駅で買ってください。それをフラウジングすることで、世界情勢にキャッチアップする習慣をつけたいと思います。多言語環境で戦うことは、「国際人」の第一歩で、国際文化を本気で学ぶ際にビビってはイケナイことです。
また、かなりの行動力、そして応用力が必要な授業です。基本的に、現場に行くことも考えてますから、農耕民族的な受験勉強で、そもそも「勉強」に嫌気がさしている君たちを、「知の狩猟民（ハンター）」として鍛えなおして、「ペンキョー、おもしろレエ！」と言わせますので、フットワークの良さ、足の速さや、アジリティの高さが必要です。
つまり、かなり厳しくやることで、学問の楽しさ、知の素晴らしさを味わうことができますから、ある意味、なかなかお得な授業です。
釜ヶ崎や神戸各地、そして瀬戸内海・東京など、まずは国内簡単なフィールド・ワークのかたちで、さまざまな社会問題の現場での調査（の練習）などもやりますので、体力と知的耐久性も鍛えてあげますから、現場へ行く勇気と準備と体力のない人は、取らないことをおすすめします。でも、面白くてしょうがないので、きちんと毎回、予習をしてきてください。
（山沢）授業で発表をして問題を終わりにするのではなく、授業のあとも考え続けることが肝要です。

オフィスアワー・連絡先

（塚原）木曜昼休み、E406
（山沢）月曜昼休み、E416

学生へのメッセージ

（塚原）シビアな世界の、ハードな現実から目をそらすことは許されません。それが、「国際社会」です。その厳しい世界に立ち向かうために、そこでキミたちを「知のハンター」に成長させるために、この授業は、基礎的な「脳の筋トレ」を行います。塚原についてくれる学生がいることを期待します。

今年度の工夫

(塚原) 大学での勉強は、甘くない。今年は、「世界と戦えるため」に、国際問題についての、徹底的な「スピード感」をトレーニングすることになっています。
そのスピードをもってするのが、「現場」感覚です。大学の中だけにとどまっていたはだめです。社会問題の現場に、自分の足で歩き、そして自分の目で見て考える、という、「行動する知性」、「スペシャリストであると同時にジェネラリストであること」を目指します。

教科書

(塚原) 毎週一冊の本(新書・文庫程度)、そして一本のフィルム(映像)を見て、レポートを書きます。ある意味、メディア的な感性、そしてマスコミ的なエクスポージャーが高くないと、ついてこれない授業ですが、それらを「批判的に観察する」、そして「検証して」、「社会的に位置づける」視線を鍛えます。
(山沢) 教科書を使います。鶴田正道『蛙はなん匹? 芭蕉「古池や」の謎を解く」(風媒社) 本体800円。マイナーな出版社から出ているので、受講が決まったら早めに買って置いて下さい。使用開始は5月下旬ですが。

参考書・参考資料等

(塚原) 『闇の子どもたち』、映画と原作、『スラムドック・ミリオネア』; 『ファストフードネーション』(映画)とその原作『ファストフードが世界を食いつくす』
『寄生獣』、原作(全10巻)と映画(全後編)、小松美彦の(脳死)関連著作
『サンタカン8番娼館』山崎朋子(映画・原作)、『村岡伊平次自伝』ほか
『女たちのアジア』、『愛と怒り、戦う勇気』ほか、松井やよりさんの著作
村上もとかの『仁』とTVドラマ版、『天地明察』(映画と原作)、手塚治虫の『陽だまりの樹』と『火の鳥』
鎌仲ひとみ監督の映画、および諸著作
『戦場のピアニスト』と『ライフ・イズ・ビューティフル』、BBCの『ヒロシマ』
田中優子『カムイ伝講義』と白戸三平『カムイ伝』
オルテガ・イ・ガセット、『大衆の反逆』(英語版 The Revolt of the masses とスペイン語版 Le Rebelion de las Masas)
手塚治虫『アドルフに告ぐ』と陳舜臣『神戸ものがたり』、水曜日のカンパネラとクリーン・バンディット、ほか。
(山沢) 長谷川權『古池に蛙は飛び込んだか』(中公文庫)。レポート作成の際、読み比べてもらいます。

授業における使用言語

(塚原) 日本語、英語・日本語、そして第二外国語としてはスペイン語とフランス語、ドイツ語とオランダ語、中国語とポーランド語なども、即戦力として使えるように努力させます。まあ、「国際文化」を学びに来る、というのだから、少なくとも3か国語くらいは、やっておきましょう。
(山沢) 基本的に日本語

キーワード

(塚原) テクノポリティックス、技術ディプロマシー、戦略的互惠関係におけるテクノロジーの役割と国際政治、従軍慰安婦問題、ヘイトスピーチ、グローバル経済、国連、難民、第三世界、子どもの権利、臓器売買、ポランティア、移民、マクドナルド化、ディズニーランド研究、貧困研究、平和学、ヒロシマ、311、イノベーション研究、科学史・科学哲学、STS
(山沢) 詩、俳句、解釈

開講科目名	基礎ゼミ		
担当教員	近藤 正基	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

基礎ゼミでは、ただ教えてもらうのではなく、自分で問題設定をし、調べ、考えるという、大学で必要不可欠な勉強の仕方を身につけます。図書館やインターネットなどを使った資料の探し方、資料の分析方法、レジュメの作り方、口頭発表の仕方、ディスカッションの仕方等を身につけ、最終的には4000字の期末レポート（小論文）を書くことを目標とします。

授業の概要と計画

前半は、テキストを素材に各章毎に報告者による報告、コメンテーターのコメント、そして参加者全員のディスカッションを通じて、基礎的スキルを身につけます。特に社会科学的に現象を観察し、考察する方法について理解を深めます。後半は、各自の自由報告を行います。
 1)共通テキストの講読を通じて、読解やプレゼンテーションの基礎的スキルを身に付けていきます。テキストとして、内藤正典『ヨーロッパとイスラーム―共生は可能か―』を予定しています。
 2)各自の関心からテーマを設定して、リサーチを行い、報告・議論を行います。
 3)自由発表のテーマを4000字程度のレポートとしてまとめます。

成績評価と基準

平常点（発表内容、ディスカッションへの参加、出席など）50%、期末レポート（4000字程度、論理性、明晰性、表現など）50%。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

準備学習として報告の担当者は、自分が担当する章についてレジュメを作成すること、また他の履修者は疑問点を整理しておくことが求められます。

オフィスアワー・連絡先

随時。まずはメールで連絡してください。メールアドレス：mmrkondo@gmail.com。

学生へのメッセージ

全回出席することを求めます。やむなく遅刻・欠席する場合は、出来る限り事前に連絡すること。

今年度の工夫

教科書

ヨーロッパとイスラーム / 内藤正典：岩波新書,2004,ISBN:4004309050

参考書・参考資料等

授業における使用言語

日本語

キーワード

多文化共生 移民 政治 ヨーロッパ イスラーム

開講科目名	基礎ゼミ		
担当教員	寺内 直子	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

基礎ゼミでは、ただ教えてもらうのではなく、自分で問題設定し、調べ、考えるという、大学で必要不可欠な勉強の仕方を身につけます。図書館やインターネットなどを使った資料の探し方、資料の分析方法、レジュメの作り方、口頭発表の仕方、ディスカッションの仕方等を身につけ、最終的には4000字の期末レポート（小論文）を書くことを目標とします。

授業の概要と計画

このゼミでは、具体的に、「音を通して文化を考える」をテーマに、私たちの身の回りにある音、音風景、音楽が、どんな特徴を備え、その地域、民族の中でどのような社会的、歴史的意義を持っているかを考えます。前半は、テキストを割り当て、担当者がまとめを発表し、後半は、毎回1人または2人が関心のある題材を独自に取材し、考察したことを発表します。発表については、コメンテーター（兼、司会者）がコメントを行ない、議論の端緒を開きます。発表したことに基づき、学期末に、4000字のレポートを作成します。

成績評価と基準

平常点（発表内容、ディスカッションへの参加、出席など）50%、期末レポート（4000字程度、論理性、明晰性、表現など）50%。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

発表については事前準備を十分に行い、他の人の発表に対しても積極的に質問や意見を出すことが推奨される。

オフィスアワー・連絡先

by appointment naokotk (at) kobe-u.ac.jp

学生へのメッセージ

自分でテーマを設定できるようになりましょう

今年度の工夫

教科書

次の書籍の一章を授業中に配ります。
 上尾信也著『歴史としての音』柏書房 1993
 井上貴子ほか著『ヴィジュアル系の時代』青弓社 2003
 北川純子編著『鳴り響く性：日本のポピュラー音楽とジェンダー』勁草書房 1999
 ゴチエフスキほか著『貴志康一と音楽の近代』青弓社 2011
 柴田南雄『日本の音を聴く』（岩波現代文庫）2010
 東谷護編著『拡散する音楽文化をどうとらえるか』勁草書房 2008
 戸ノ下達也、長木誠司編著『総力戦と音楽文化』青弓社 2008
 中川真著『増補 平安京 音の宇宙：サウンドスケープへの旅』平凡社ライブラリー 2004
 渡邊裕『音楽機械劇場』新書館 1997
 渡辺裕、増田聡ほか著『クラシック音楽の政治学』青弓社 2005

参考書・参考資料等

授業における使用言語

日本語

キーワード

資料 文化 分析 論理 音 サウンドスケープ 民族 歴史 社会

開講科目名	基礎ゼミ		
担当教員	萩原 守	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

基礎ゼミでは、ただ教えてもらうのではなく、自分で問題設定をし、調べ、考えるという、大学で必要不可欠な勉強の仕方を身につけます。図書館やインターネットなどを使った資料の探し方、資料の分析方法、レジュメの作り方、口頭発表の仕方、ディスカッションの仕方等を身につけ、最終的には4000字の期末レポート（小論文）を書くことを目標とします。

授業の概要と計画

4月10日 全員の自己紹介・授業の進め方案内
4月17日 概説書の紹介；語学等の習得方法；図書館案内
4月24日 レポートと論文の違い；レポートの書き方；論文の探し方
5月1日 一回目の発表
5月8日 一回目の発表
5月15日 新入生研修
5月22日 一回目の発表
5月29日 一回目の発表
6月5日 研究の方法論、論文の書き方
6月12日 二回目の発表
6月19日 二回目の発表
6月26日 二回目の発表
7月3日 二回目の発表
7月10日 レポート提出・質問会
7月17日 休講（教員の出張）
7月24日 レポート返却・講評・反省会

成績評価と基準

平常点（発表内容、ディスカッションへの参加、出席など）50%、期末レポート（4000字程度、論理性、明晰生、表現など）50%。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

まず、極力欠席しないことが肝要。参加者各自に二度ほど発表してもらう予定なので、その準備のために、図書館をよく利用していただくことになるでしょう。他の学生が作成したレジュメを見て復習することも必要になります。

オフィスアワー・連絡先

月曜と木曜の昼休み 研究室はE206。
hagihara@kobe-u.ac.jp

学生へのメッセージ

一年生の最初から研究方法を少しでも身につけておくと、その後の発展性が高まります。教員たちの誤りを指摘できるぐらいの能力を身につけてほしいです。

今年度の工夫

T.A.（ティーチングアシスタント、教務補佐）に中国国籍のモンゴル人院生を毎回、呼ぶ予定です。現地の声を直接聞いて下さい。

教科書

特になし。

参考書・参考資料等

授業中にたくさん、指示します。

授業における使用言語

日本語

キーワード

論文、レポート、レジュメ、専門書、概説書、文献検索、フィールドワーク、外国語習得法

開講科目名	基礎ゼミ		
担当教員	石塚 裕子	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

基礎ゼミでは、ただ教えてもらうのではなく、自分で問題設定をし、調べ、考えるという、大学で必要不可欠な勉強の仕方を身につけます。図書館やインターネットなどを使った資料の探し方、資料の分析方法、レジュメの作り方、口頭発表の仕方、ディスカッションの仕方等を身につけ、最終的には4000字の期末レポート（小論文）を書くことを目標とします。

授業の概要と計画

図書館やインターネットでの資料の探し方の説明ののち、学期前半はまずレジュメの書き方や論文の書き方などを学んでから、実際にテキストを読みながら、それを一回に3人の学生が担当して発表します。学期後半は各自の興味のあるテーマを選び、毎回二人の学生が発表します。他の学生は発表に対し、質問やコメントを述べます。最後に各自発表に関するレポートを提出します。

成績評価と基準

平常点（発表内容、ディスカッションへの参加、出席など）50%、期末レポート（4000字程度、論理性、明晰性、表現など）50%。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

テキストは発表者だけでなく、全員読んでくること。

オフィスアワー・連絡先

月曜日昼休み
ishizuka@kobe-u.ac.jp

学生へのメッセージ

授業での活発な発言が望ましい。

今年度の工夫

教科書

レポート作成に関するプリント使用
イギリス近代史講義 / 川北稔：講談社現代新書,2010,ISBN:

参考書・参考資料等

授業における使用言語

日本語

キーワード

イギリス、文化、庶民

開講科目名	専門演習 A		
担当教員	水口 志乃扶、森下 淳也、康 敏、林 良子、西田 健志	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

情報コミュニケーション論講座の2年次生を対象に、実証的に（つまり実際に）なにかを調べる（研究する）場合に必要となる機器の操作の体験を通して「測定する」「操作する」ことの意味を学ぶとともに、「なぜそのような測定や操作が可能なのか」という原理や「なぜそのような測定や操作が必要なのか」という側面についても概略を学びます。

授業の概要と計画

文字テキストの処理、音声の分析、基礎的な行動測定、情報機器の取り扱い等をそれぞれ「テーマ」として、オムニバス形式で学んでいきます。それぞれの「テーマ」の1回目は機器やソフトウェアの動作原理や背景となる知識等について講義をします。その後は実際に機器の操作を体験しながら学びます。測定機器や測定技法ごとにレポートを提出してもらいます。

成績評価と基準

レポートと出席から評価します（出席せずにレポートを書くのは難しいと思います）

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

実験の手順を言われたとおりにただなぞるのではなく、背景や目的を理解した上で実施することが重要です。各テーマの1回目に行う講義をよく復習したうえで実験に臨んでください。

オフィスアワー・連絡先

教員のグループによる指導です。最初の授業のときに担当教員の連絡先を示します。

学生へのメッセージ

一見、理系の授業のように見えるかもしれませんが、たしかにそのような側面はありますが、一方で、「すごく文系」の研究でも「機器」や「測定技法」が使われていることが少なくありません。

今年度の工夫

教科書

教科書は使用しません

参考書・参考資料等

特になし

授業における使用言語

日本語

キーワード

開講科目名	専門演習 A		
担当教員	貞好 康志、谷川 真一	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

この授業は、広くアジア・太平洋地域の文化・政治・社会経済・国際関係・宗教・歴史などの諸問題に関する研究入門の演習である。授業の目標は、2年次以降アジア・太平洋諸地域についてのより専門的な演習に参加するための知的態度・基礎的技術を習得することと、将来の卒論制作に当たって必要となる最低限の方法論を身につけることである。

授業の概要と計画

1. 授業の運営方針の説明と自己紹介
2. 研究テーマの探し方
3. データの入手と処理方法
- 4-12. 輪番による研究報告と討論
- 13-15. レポート提出・報告・合評会

成績評価と基準

出席を前提とした授業への貢献度 60%
 期末レポートの出来栄 40%

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

発表担当以外の人も全員が共通テキストを予習してくることが前提。加えて自分独自の関連情報を様々なソースから用意してくることが望まれる。授業時間内にわからなかった言葉などは事後各自で確認しておくこと。

オフィスアワー・連絡先

貞好 火曜昼休み 予め ysd@kobe-u.ac.jp へ連絡を。
 谷川 火曜昼休み 予め tanigawa@port.kobe-u.ac.jp へ。

学生へのメッセージ

日本もその中に位置し、今後ますます世界の動向に重要な位置を占めるだろうアジア・太平洋地域について研究する厳しさと楽しさを二つながら学べます。まずは気軽に参加してみてください。

今年度の工夫

専門地域・方法論を異にする複数教員（中国・社会学専門の谷川と東南アジア・歴史学専門の貞好）が相補い合いながらバランスよい授業作りを目指します。

教科書

タテ社会の人間関係 / 中根千枝：講談社現代新書, 1967, ISBN:
 新版 入門東南アジア研究 / 上智大学アジア文化研究所 編：めこん刊, 1999, ISBN:

参考書・参考資料等

授業中に適宜指示する予定。

授業における使用言語

日本語

キーワード

アジア・太平洋 中国 東南アジア 日本 比較社会論 宗教 文化 歴史 など

開講科目名	専門演習A		
担当教員	西谷 拓哉、井上 弘貴、小澤 卓也	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

本年度は西谷、小澤、井上の共同で授業を行ない、アメリカ合衆国の社会と文化について総合的に考えます。受講生は概要に示されたテーマに添って、議論が盛り上がるような論点を設定し、調査にもとづいて発表して下さい。それを受けて、クラス全体で議論する形で授業を進めていきます。グループによる発表、ディスカッションに積極的に参加してほしいと思っています。授業を通して、アメリカの特質を探ることはもちろんですが、インターネットや文献資料を使った調査方法、歴史研究、宗教・思想研究、社会学・政治学的分析手法、文学、映画等の作品研究、効果的なプレゼンテーションの方法などについても学びます。扱うテーマや材料はある程度提示しますが、みずから積極的に素材を見つけだし、感覚と科学的手法の両方をフルに使って、現代アメリカの姿を解明して下さい。期末にはゼミ論集を作る予定です。以降の学習に役立てて下さい。

授業の概要と計画

1. 顔合わせ、全体計画の提示、調査研究方法のガイダンス
2. アメリカとは何か（講義）
3. 公民権法成立から50年を経て（講義）
4. アメリカ主流社会とマイノリティ（宗教、結婚、職業、教育、ジェンダー、先住民運動等）
5. 同上2
6. 同上3
7. 同上4
8. アメリカを読む1（ブックレポートと共同討議）
9. アメリカとラテン・アメリカ（外から見た合衆国）（講義）
10. アメリカと世界（政治、外交、消費、大衆文化、文化的影響等）
11. 同上2
12. 同上3
13. 同上4
14. アメリカを読む2（ブックレポートと共同討議）
15. アメリカを観る（映画鑑賞と共同討議）

成績評価と基準

プレゼンテーション・授業への貢献50%、期末レポート(4000字程度)50%を総合して評価します。ただし、やむを得ない場合を除き、出席が7割に満たない場合は不合格とします。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

- ・初回に全体の説明を行ないますので、受講希望者は必ず出席して下さい。進行は一応提示していますが、実際にはより効果的にするため相談のうえ組み替える可能性があります。
- ・発表については、議論が活発になるように、事前にテーマと問題設定を述べて下さい。
- ・関連する科目は「アメリカ多元文化表現論」（西谷）、「現代アメリカ論」（井上）、「ヨーロッパ・アメリカ宗教文化論」（野谷）、「比較政策論」（安岡）、および「専門演習B」（西谷、小澤、井上）です。これらも受講してさらに理解を深めて下さい。
- ・事前にテーマを発表すること。
- ・レジュメを必ず準備すること。
- ・質疑応答を活発にすること。
- ・授業を受けて、自分で気づかなかった点について十分に復習すること。

オフィスアワー・連絡先

西谷（E202, takuyan@kobe-u.ac.jp）、小澤（E211, ozataku@harbor.kobe-u.ac.jp）、井上。
事前にメールによってアポイントメントを取って下さい。

学生へのメッセージ

アメリカはもう私たちの「無意識」になっている部分もあるかもしれませんが、絶えず自己を更新し、まだまだ驚きに満ちている国です。具体的な事例を掘り起こしながら、それぞれが新鮮なアメリカ像をつかみ、それを他の人に伝えてほしいと思います。また、「何か質問はありませんか」と聞いて何も出てこないというのが、発表者も教員も一番つらいのです。臆せず、ためらわず、考えたこと、疑問に思ったことをどしどし発言して下さい。

今年度の工夫

学生からの質問・学生間の議論の活発化のための事前学習、映画鑑賞に基づく全体での討議の開催、ゼミ論集の作成

教科書

特になし。

参考書・参考資料等

詳しくは初回、および各回に適宜提示しますが、総合的な参考書として下記のものに目を通して下さい。

現代アメリカ / 渡辺靖・編: 有斐閣, 2010, ISBN: 9784641124196

授業における使用言語

主として日本語、配布物は英語あり。

キーワード

--

開講科目名	専門演習 A		
担当教員	板倉 史明	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

今年度は映画学のなかであまり注目されてこなかった2つのテーマを議論する。ひとつは映画俳優の演技と監督の演出（ミザンセン）の関係について。もうひとつは、アマチュア映画やホームムービーにおける映画的手法や演出について検討したい。対象とするのは主に1970年代以前の映画を扱う。

授業の概要と計画

それぞれのテーマについて、関連する日本語および英語の論文等を読み、関連する映像を見て、議論する。参加者は毎回課題となる資料をあらかじめ読んできて、担当者が要点をまとめて報告する。その後関連する映像を見ながら当該テーマについて議論する。

成績評価と基準

平常点（50%。出席と議論への参加度）、期末レポート（50%）。
期末レポートの締切は7月31日（金）を予定。各課題は締切の1か月前までにうりぼーネットの掲示板で指示。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

授業で取り上げられた映画作品を、授業外の時間を使って見る積極性が望まれる。

オフィスアワー・連絡先

適宜メールにて日時等設定する。itakura(a)people.kobe-u.ac.jp

学生へのメッセージ

映画に興味がある人は参加してみてください。

今年度の工夫

多くの映像資料を提示してわかりやすくする

教科書

参考書・参考資料等

授業における使用言語

日本語

キーワード

映画、メディア、俳優、演技、アマチュア、アーカイブ

開講科目名	専門演習A		
担当教員	坂本 千代、石塚 裕子、青島 陽子	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

今学期のテーマは「ヨーロッパの首都」。イギリス、フランス、ロシアの首都を手がかりに近代都市の条件や西洋文化の特質について考えてみましょう。さらに、ヨーロッパのこれら3つの大国の首都の機能と姿の変遷について学ぶことによって、日本などアジアの国々との違いについて考察できるようにすることが目標です。

授業の概要と計画

- I.イギリス（石塚裕子担当）
産業革命で急激に肥大した大都会ロンドンが旺盛な消化力によってあらゆるものを呑み込む化け物都市。19世紀の繁栄の時代の陰影をたどりながらその痕跡が現代のロンドンにどんな風に見られるか、辿ってみましょう。
- II.フランス（坂本千代担当）
セーヌ川の橋、塔、広場、駅などに注目してパリの特徴を論ずる文献を読みながら、フランス史やフランス文化の中でパリの占める位置について検討し、ロンドンや東京など他の都市との違いについて考えてみましょう。
- III.ロシア（青島陽子担当）
ロシアの両首都（古い伝統的なロシアの都市・社会主義の中心地・現代ロシアのメガロポリスとしてのモスクワ、華やかでヨーロッパ的な帝国ロシアの先端都市ペテルブルク）を、歴史と文化を中心に探求します。

成績評価と基準

成績は発表30点、出席点20点、筆記試験50点の総合とします。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

予習・復習をしっかりと受講すること

オフィスアワー・連絡先

坂本千代 csakamot@kobe-u.ac.jp
青島陽子 yaoshima@dolphin.kobe-u.ac.jp
石塚裕子 ishizuka@kobe-u.ac.jp

学生へのメッセージ

ヨーロッパに関心がある人、ヨーロッパに関する卒論を書きたいと考えている人はぜひ参加してください。

今年度の工夫

参加者に参考資料をしっかりと読んでもらい、できるだけ多く発表する機会を持ってもらいます。

教科書

プリント配布
/: , ISBN:

参考書・参考資料等

ロンドン / 小池滋: 中公新書, ISBN:
歴史発見ロンドン案内 / 森正人: 洋泉社, ISBN:
パリ / 石井洋二郎: ちくま新書, ISBN:

授業における使用言語

日本語

キーワード

首都 都市論 ヨーロッパ

開講科目名	専門演習A		
担当教員	湯浅 英男	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

この演習では、日本語がネイティブでない人たちに日本語を教えるとしたら、日本語の構造や文法をどのように教えるのか、といった視点に立ち、「日本語文法」というものを、テキストを読みながら考えていきます。日本語の「情報伝達構造」やボイス、アスペクト、テンス、ムードなどの文法カテゴリーについて受講者に発表してもらいながら授業を進めていきます。日本語の構造・文法について説明する力を身につけることを目標とします。

授業の概要と計画

各授業毎に、2名から3名ずつ程度、レジュメを作成し、発表してもらいます。それに従い議論し理解を深めます。

テキストに従って演習を進めますが、おおよそテキストの構成は概略的に挙げれば：

1 学校で習わない「日本語文法」 2 「主題」と「解説」という情報伝達構造 3 自動詞と他動詞 4 使役文と受身文 5 テンス 6 ムード
といった内容です。これらのテーマについて順次発表してもらいながら、全員で日本語文法についての理解を深めるつもりです。

成績評価と基準

授業での質問・発言など、平生の授業活動が6割、学期末のレポートが4割とし、総合的に評価します。授業においては、内容の理解度や分析する能力を見ます。またレポートにおいては着眼点、論理性、明晰性、表現力なども評価の対象になります。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

日本語の文法を「外からの視点」で客観的に分析しようとする学生の履修を望みます。他の言語学関連の授業も積極的に履修してください。授業前にはしっかりテキストを読み、担当者はレジュメを作成し発表の準備をすること。また授業の後にはレジュメやテキストを使って復習し、わからないところがあれば図書館の関連文献で理解を深めてください。

オフィスアワー・連絡先

火曜日の12時20分から13時10分まで。研究室はB410。前もって連絡してくれることを希望します。

学生へのメッセージ

日本語の文法を「外からの視点」で見る目を養ってください。演習が進むに従って、日本語の構造について新たな発見ができるように、頭を柔軟にして取り組んで下さい。

今年度の工夫

テキストをしっかり読みながら、説明する力、発表する力が養成されるように授業を進めます。

教科書

日本人のための日本語文法入門 / 原沢伊都夫: 講談社, 2012, ISBN: 9784062881739

参考書・参考資料等

新しい日本語学入門 [第2版] / 庵功雄: スリーエーネットワーク, 2012, ISBN: 9784883195893

授業における使用言語

日本語

キーワード

日本語文法 学校文法 格助詞 文型 主題 解説 自動詞 他動詞 言語類型論 ボイス 受身文 使役文 アスペクト 動作の結果 変化の結果 動作主 テンス 絶対テンス 相対テンス ムード

開講科目名	専門演習A		
担当教員	櫻井 徹	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

本演習では、先端社会論の各分野がどのような具体的内容を持っているかを知ってもらい、今後の専門的学習に向けて基礎固めをすることを目的とする。したがって、先端社会論を構成する各々の分野「ジェンダー文化論」「ジェンダー社会論」「バイオエシックス」「環境倫理学」「メディア文化論」「現代社会理論」の各領域に関連する入門的文献を選び、これを素材とした発表・討論によって、先端社会論についての知見を深めることをめざす。

授業の概要と計画

先端社会論を構成する各分野「ジェンダー文化論」「ジェンダー社会論」「バイオエシックス」「環境倫理学」「メディア文化論」「現代社会理論」に関わる入門的文献を配布し、これを素材として参加者に報告してもらい、全体討論によって知見を深める。

- 【具体的進め方】
- ・ある特定テーマについて、希望を募って報告者（1名もしくは数名）を決定し、全員に文献コピーを配布する。
 - ・次回に、報告者が代表してハンド・アウトを作成し、文献の内容報告を行う。
 - ・報告内容を素材として、全員で討論、質疑応答を行う。
 - ・必要に応じて、教員が解説や助言を行う。
 - ・学期末に、各自が行った報告に関連する文献を読んだうえで、レポート提出を求める場合もある。

成績評価と基準

授業への参加50%、平常点50%。主として、授業での報告ならびに討論への積極的参加によって評価します。学期末にレポート提出を課した場合には、これも評価に加えます。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

先端社会論全般についての入門的演習なので、できるだけ広い分野を過不足なくカバーしたいと考えている。なお、一回目の授業において、演習の進め方や文献の選定、報告者の決定等を行うので、必ず出席すること。演習は受講生みんなで作り上げる授業ですから、無断欠席を禁止します。授業を欠席する場合は、メール等で事前に連絡してください。

オフィスアワー・連絡先

学生へのメッセージ

今年度の工夫

教科書

使用しない

参考書・参考資料等

必要とされる文献・資料はすべてコピーして全員に配布する。

授業における使用言語

日本語

キーワード

開講科目名	専門演習 A		
担当教員	梅屋 潔	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

世界には互いに異なる文化を有した多様な民族や社会集団が存在する。異文化関係論の教員が担当する演習 A では、異文化と異文化間の関係をいかに考察し、解説し、理解するのかという問題を念頭におきながら、異文化間のコミュニケーションが可能となる方法を探っていく。

ただし、一口に異文化の理解といっても、その切り口は多様である。そこで、本演習では異文化についての学びを深めるうえで避けて通ることのできない「民族」を共通の主題として取り上げ、「民族」とは何か、いかにして「民族」なるものにアプローチをしていくのか、「民族」の多様なあり方の実態や、「民族紛争」をはじめとした「民族」をめぐる問題などといった諸点をめぐって議論を重ねていく。また本演習では、「民族」をめぐる理論的枠組みについて最初に学んだうえで、サハラ以南アフリカ、カリブ海、英米などの地域を対象とした具体的事例を取りあげていく予定である。

授業の概要と計画

吉岡：
民族、人種、エスニシティなど、「民族」を語る上で最も基本的な概念について考える。

梅屋：
アフリカの親族関係を中心とした古典的な論文を読み、諸民族における社会構成員再生産の技法や理念について考察する。

岡田：
東アジア諸社会における社会関係の基盤と近年の変化（少子高齢化、都市化、過疎化、階層格差）を読み解く上での基本的文献を読み、その上で今日の課題、特に日本社会について検討を行う。

柴田：
カリブ海社会、ラテンアメリカ、英国や北米、カリビアン・ディアスポラを主な対象とする人種・民族間関係について、移動／移民と定住、言語、宗教、インターマリッジと混血などの側面に注目し、コンフリクトや共存のあり方等について検討する。

成績評価と基準

- (1) 平常点（ゼミでの報告内容や準備状況、発言の活発さと内容）（40％）。
- (2) レポート（60％）。

*注意点：

- (a) 欠席1回につき、マイナス5点。3回以上欠席したものには単位を与えない。
 - (b) 遅刻は、交通機関に問題が生じた場合など、やむを得ない事情をのぞいて、認められない。
 - (c) 発表担当回での担当者の遅刻、欠席は厳禁とする。
- 発表担当回で遅刻、欠席があった場合には、大幅な減点対象となる。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

- 1) 当然のことだが、発表者以外も当該部分の文献を読み、わからない用語や概念は『文化人類学事典』（弘文堂）などで調べ、じゅうぶんな予習をすること（この作業を怠ると議論が成立しない）。また、授業中に学んだ内容を終了後に改めて復習しておくこと。
- 2) 発表者は、担当する論文の内容をまとめるだけでなく、全体で討論すべきポイントを最低3点挙げること。
- 3) 初回授業時に担当の分担をするので、必ず参加すること。

オフィスアワー・連絡先

初回授業において伝える

学生へのメッセージ

受講希望者は初回に必ず出席して下さい。担当論文の割当をします。

今年度の工夫

教科書

テキストについては、初回授業において提示する。

参考書・参考資料等

授業中に適宜指示する。

授業における使用言語

日本語

キーワード

開講科目名	専門演習A		
担当教員	池上 裕子、岩本 和子	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

芸術の意味や社会とのかかわりについて、また文化的多様性について深く理解することをめざします。芸術に関するテキストの読解力や分析力、議論の仕方を身につけます。

授業の概要と計画

芸術文化と国家・地域や民族との関係を探るテキストをもとに、文献資料の解説、プレゼンテーション、議論の方法、論文作成を学び実践します。

1.前半は、各自で関心のある国や地域、芸術分野（美術、文学、建築、映画、メディア、マンガなど何でもよい）の具体的な作品紹介と、それを支える環境や制度について調べてきて下さい。主な参考文献は、明石書店の「エリア・スタディーズ」シリーズにします（教科書の項参照）。授業ごとに分担を決めてプレゼンテーションをしてもらい、全員で質疑応答、ディスカッションを行います。

2.後半は、エドワード・W・サイードの著作をテキストに使います。ヨーロッパの文学やオペラ作品などがインド、アフリカ、ジャマイカ、アルジェリアなどの土地とともに分析される、いわゆるポストコロニアル批評です。いくつかの章を選んで担当を決め、プレゼンテーションをしてもらい、それに基づいて出席者全員で質疑応答、議論を行います。

3.各自、関連する書籍を読んだり作品を鑑賞したりして、レポートを作成、提出してもらいます。それに向けてのアカデミック・ライティングも演習の中で並行して学んでいきます。

成績評価と基準

授業への参加・議論への貢献：50%
レポート評価：50%

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

演習では文献を読んでもくこと、ディスカッションに積極的に参加することが求められます。自分の意見を他の受講生に伝えられるよう、各自しっかりと予習をしてきてください。

芸術文化論コースで行う映画鑑賞会や美術展鑑賞などにも参加して下さい。

オフィスアワー・連絡先

随時（メールにて事前連絡）
岩本和子（E305）iwamotok@kobe-u.ac.jp
池上裕子（E302）ikegami@port.kobe-u.ac.jp

学生へのメッセージ

多様な地域や時代の事例や実際の芸術作品にたくさん触れ、そこから考えたり感じたりしてほしいと思います。多角的な視野を持つように心がけて下さい。

ディスカッションに積極的に参加するために、予習時に疑問点や印象などをメモしておくことを勧めます。授業中にもメモを取って、何が話し合われたか記録しましょう。

今年度の工夫

レポート執筆力を身につける。

文献と合わせて、芸術作品そのものにもできるだけ直接触れる機会を作る。

教科書

- 1.明石書店＜エリア・スタディーズ＞シリーズ『---を知るための〇章』（大学図書館で借りられます。ない場合は新たに購入します。もちろん各自で購入してもらってもいいです）
- 2.E.W.サイード『文化と帝国主義1』（みすず書房、1998）(テキストはコピーを配布します)

参考書・参考資料等

授業中に適宜紹介する。

授業における使用言語

日本語

キーワード

芸術文化 美術 文学 国家・民族 帝国主義 ポストコロニアル 文化的多様性

開講科目名	専門演習 A		
担当教員	北村 結花、三浦 伸夫	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

【中世の学術と文化】

西洋中世と日本中世の学術と文化を多方面から検討する。

授業の概要と計画

2人の教員で行う。

前半（担当 三浦）
西洋中世の建築、大学制度、学術思想、アラビア世界との関係、宗教などに関する書物を読み、発表形式で進めていく。

後半（担当 北村）
日本中世の文化、文学を古文を読むことを通して、多角的に考察する。

成績評価と基準

講義への積極的参加（質疑や発表）と最終レポートで判断する（それぞれ50％）。最終レポートは担当教員の提示した課題から一つを選択。
理由なき欠席は認めない。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

演習は、十分な準備をした上で毎回出席することが最低の前提条件である。

オフィスアワー・連絡先

メールで連絡の上、随時。

学生へのメッセージ

今年度の工夫

西洋と東洋との対比・比較

教科書

前半のテキストは初回の授業時に指示します。
後半のテキストも、後半初回の授業時に指示します。（なお、後半の授業では古語辞典を持参すること）。
/：講談社,2006,ISBN:9784061597808

参考書・参考資料等

授業における使用言語

日本語

キーワード

文明移転, 中世、文化交流

開講科目名	専門演習A		
担当教員	阪野 智一、安岡 正晴	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

この授業では、演習形式で国際政治経済学と比較政治学の基本的テーマに関する文献を素材として、議論を通じて理解を深めながら、専門研究に向けて政治学的思考力を涵養することを目標とします。授業前半は国際政治経済学の立場から阪野が、後半は比較政治学の立場から安岡が担当します。

授業の概要と計画

初回はイントロダクションとし、授業の計画を説明し、次回以降の授業への準備を指示します。受講者は、阪野担当セッションと、安岡担当セッションのそれぞれ1回ずつ報告を担当します。各回の報告はグループ発表を予定しており、グループ分けも初回時に行います。

阪野担当セッション（国際政治経済学）

1. 経済のグローバル化と国際制度
2. 国際開発援助体制とグローバル化
3. 「競争国家」の論理と経済地域主義
4. 経済的自由化と政治的民主化
5. グローバル化と国際秩序
6. 大量破壊兵器、RMA、国際秩序
7. 内政干渉の国際政治学

安岡担当セッション（比較政治学）

1. 二大政党制の行きづまりと代議制の危機
2. 社会経済的变化と福祉国家
3. 地方分権と地域主義
4. 格差・不平等を巡る政治
5. アイデンティティと承認を巡る政治
6. ニュー・ポリティックスの行方
7. 異文化間の対立と共生を巡る政治

成績評価と基準

授業での報告、議論への積極的参加、コメントの提出:
 期末レポート=50%: 50%

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

「国際関係論」、「比較政策論」、「ガヴァナンス論」、「平和構築論」、「多文化政治社会論」を併せて受講することを推奨します。

準備学習・復習

指定された文献は発表者以外も熟読し、質問などを事前に考えたうえで毎回の授業に出席してください。授業中で取り上げられた専門用語や重要な概念については、参考文献などを活用して復習し、知識を定着させるようにしてください。

オフィスアワー・連絡先

阪野智一（sakano@kobe-u.ac.jp）、安岡正晴（yasuoka@kobe-u.ac.jp）、ともに、メールで随時相談に応じたいと思います。

学生へのメッセージ

政治学の理論や概念を消化した上で、国内外の政治・社会情勢について議論できるようになることを目指したいと思います。

今年度の工夫

国際政治経済学と比較政治学を組み合わせた演習Aは今年が初めてです。

教科書

初回授業で文献リストを配布します。

参考書・参考資料等

初回授業で文献リストを配布します。

授業における使用言語

日本語

キーワード

開講科目名	専門演習A		
担当教員	庁 茂、石田 圭子	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

モダニティ論への誘い
この演習では、本格的にモダニティ研究に取り組むために必要な基礎知識と学問的態度を習得することを目指す。素材としてはZ. バウマンの『コミュニティ：安全と自由の戦場』、S. ソンタグの『他者の苦痛へのまなざし』を取り上げる。そこには「近代社会とは何か」にかんする社会学的思考が示されており、あるいはまた「近代」特有の問題を表象・メディア批判から読み解くための視点が示唆されている。これらの書物の読解を通して、思考力・論述力を鍛えることもこの演習の重要な目標となる。

授業の概要と計画

演習の前半は廳が、後半は石田がそれぞれ担当します。前半の廳パートではジグムント・バウマンの『コミュニティ：安全と自由の戦場』、後半の石田パートではスーザン・ソンタグの『他者の苦痛へのまなざし』を取り上げ、テキストを精読しながら掘り下げて検討していきます。

成績評価と基準

レジュメ担当回の報告の内容、毎回の議論への参加 50%、期末レポート 50%

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

初回の授業でレジュメの担当者などを決めたりするので、一回目からかならず出席してください。やむをえない事情で初回を欠席する場合には、廳か石田に事前に連絡を入れてください。毎回テキストや参考書をよく読みこんで授業に臨むこと。

オフィスアワー・連絡先

廳：金曜13:00 - 13:20
石田：随時。以下のアドレスまで連絡してください。

学生へのメッセージ

今年度の工夫

教科書

コミュニティ：安全と自由の戦場 / ジグムント・バウマン: 筑摩書房, ,ISBN:
他者の苦痛へのまなざし / スーザン・ソンタグ: みすず書房, 2003, ISBN:

参考書・参考資料等

その他の参考書は授業中に指示します。

授業における使用言語

日本語

キーワード

近代性、コミュニティ、表象、メディア

開講科目名	専門演習 B(0)		
担当教員	坂井 一成	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

EU統合に関わる事象を中心に国際関係論の思考枠組みを理解し、その基礎的視野を身につけ、広く現代の国際問題を自ら読み解く力を養う。

授業の概要と計画

- ・教員から大枠の研究テーマを指示し、それについてのグループでの調査に基づく研究発表、それに基づく討議という流れで進める。
- ・またこれとは別に、ゼミ活動の一環として、関西国際関係合同ゼミナール（2015年度は6月27日に関西大学で開催）に参加し、ゼミとしての共同研究の成果を発表する。これは授業の最重要の一部と位置付けているので、準備を含め必ず参加すること。

成績評価と基準

授業時の報告内容（30％）、議論への積極的関与の度合い（40％）、及び関西国際関係合同ゼミナールへの参加の度合い（30％）で評価する。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

- ・7月中旬に総括のための合宿を予定している。
- ・授業時に指定する参考文献を熟読して、事前に疑問点を挙げてくるとともに、授業後には授業内容の定着を図ること。

オフィスアワー・連絡先

随時。ただしメール（kazu[at]harbor.kobe-u.ac.jp）で事前連絡が望ましい。
国際文化学研究科・学部 E407研究室

学生へのメッセージ

今年度の工夫

教科書

参考文献を授業時に指示する。

参考書・参考資料等

授業における使用言語

日本語

キーワード

開講科目名	専門演習 B(0)		
担当教員	昆野 伸幸、長 志珠絵	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

卒業論文の執筆に向けて、ジェンダー射程に意識的な歴史研究の手法に学びながら、受講生各人の研究関心とテーマを絞っていくことを目指します。

授業の概要と計画

文献および史料講読を併行して進め、レポート用に受講生各人の関心に応じた研究報告を行います。テキストや史料講読を通じ、書かれていることを正確かつフェアに読み取る力、またそのうえで各自の関心にもとづいて独自の問題を発見・展開していく力等、卒論につなげる力の養成を目指します。前期は長が担当し、歴史研究の素材を通じ、ジェンダーに関わる諸問題を扱います。

成績評価と基準

成績評価と基準 平常点70%，期末レポート30%。
演習形式授業ですので、毎回出席が基本となります。成績は、討論への積極的な参加，報告の準備状況などを総合して評価します。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

初回の授業で報告担当者などを決めます。やむをえない事情で初回を欠席する場合には、長に連絡を入れてください。3年次以上の受講者の場合、前年度まででの長の講義の既履修を望みます。

オフィスアワー・連絡先

長志珠絵(Osa,Shizue) 研究室E207. 内線7450 オフィスアワーは随時。事前に連絡してください。

学生へのメッセージ

今年度の工夫

映像等を見る。

教科書

参考書・参考資料等

ジェンダー視点から戦後史を読む / 米田佐代子他：大月書店，2009，ISBN:9784272350322
歴史教育とジェンダー / 長野ひろ子他：青弓社，2011，ISBN:9784787233240
慰安婦問題を / から 考える / 日本史研究会歴史学研究会編：岩波書店，2014，ISBN:9784000610056
全身〇活時代 / 大内裕和他：青土社，2014，ISBN:9784791767823
/：双文社，，ISBN:

授業における使用言語

日本語

キーワード

歴史教育 ジェンダー

開講科目名	専門演習 B(0)		
担当教員	松家 理恵	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

18世紀から19世紀のイギリスにおける風景に関する美学（特に「サブライム」）と絵画、詩、庭園といった芸術作品との関係について、その根底にある自然観に着目しつつ、個々の作品を歴史的・社会文化的文脈から深く理解することを目指します。

授業の概要と計画

参加者の興味・関心を考慮に入れて、テーマに関する広い視野を獲得するための基本テキストを設定し、その講読を中心に授業を進めます。さらに各参加者は、具体的な芸術作品を自分で選んでテーマに関連した研究を行い、その成果を授業で発表し、授業でのディスカッションを経て、最終的に一本の論文（期末レポート）に仕上げます。

成績評価と基準

平常点50%、期末レポート50%

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

テキストの予習が毎回必須です。前年度後期の「近代表象文化論」の講義を受講していることが望ましいですが、演習のみの受講も可とします。

オフィスアワー・連絡先

連絡の上随時
janjur@kobe-u.ac.jp

学生へのメッセージ

初回の授業で参加者の関心を聞いて具体的な授業のテーマを絞り、テキストを決めるので、必ず初回から出席すること。

今年度の工夫

教科書

授業中に指示します。（下の参考書リスト等から選択する。）

参考書・参考資料等

崇高と美の観念の起源 / エドモンド・パーク：みすず，ISBN:4622050412
 暗い山と栄光の山 / M. H. ニコルソン：国書刊行会，ISBN:4336024634
 イギリス風式庭園の美学―「開かれた庭」のパラドックス / 安西信一：東京大学出版会，ISBN:4130160192
 庭のイングランド―風景の記号学と英国近代史 / 川崎寿彦：名古屋大学出版会，ISBN:4815803307
 ロマン派のエコロジー―ワーズワスと環境保護の伝統 / ジョナサン・ベイト：松柏社，ISBN:4881988972

授業における使用言語

日本語

キーワード

18－19世紀イギリス文化 風景

開講科目名	専門演習 B(0)		
担当教員	安岡 正晴	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

この演習では、様々な社会問題を解決・改善するための政策を立案し、提言するトレーニングを行います。大学の授業では、社会問題に対する過去の研究や思想を学ぶことに多くの時間を割いていますが、「ではどうしたらよいのか？」という問いに正面から取り組む機会は限られています。結果的に大学時代に考えていた「理想」と、社会に出たからの「現実」がかけ離れたまま、社会人生活を送ることになりがちです。政治や社会を批判的にとらえるだけでは、自分が社会の一員となった場合の行動力や思考力は身に付きません。「どうせ理想通りにいかない世の中だから」と諦めて、本の中の理想に閉じこもるのではなく、現実の様々な制約の中でどこまで自分なりの理想を実現できるのかを考える力を身につけることこそ、政策型思考力だと言えます。この授業では、毎週、グループや個人で様々な社会問題に対する政策提言のプレゼンテーションを行うことで、政策を立案し、議論し、実現する、政策型思考力を鍛えてゆきたいと考えています。この演習は講座や学年を問わず、積極的に発言し、議論する学生を歓迎します。なお今期は6月27日（土）に関西大学で開催される関西国際関係合同ゼミナールに参加しますので、合同ゼミに関わる活動にも積極的に参加してほしいと思います。

授業の概要と計画

授業では、日本を含むG8（アメリカ、イギリス、カナダ、フランス、ドイツ、イタリア、ロシア）諸国の政策実践を踏まえながら、

1. 格差を是正し、調和のとれた社会をどのように実現するか？（福祉、教育、地方分権政策）
2. 階級、性別、地域、学歴、人種・民族・国籍、宗教など社会経済的・文化的背景が異なる人々はどのようにすれば共存できるのか？（ジェンダー政策、エンパワーメント、移民・外国人・少数民族政策、言語政策、文化政策、人権政策）
3. 経済成長や競争力の向上には何が必要か？（産業、科学技術、経済政策）
4. 安心・安全な社会や世界をどう実現するのか？（防災、防犯、予防医学、安全保障・軍縮政策）
5. 持続可能な社会作りに何が必要か？（環境、エネルギー、資源、食糧、農林漁業政策）
6. 生きがいのある国や世界をどう作るか？（文化、スポーツ振興、生涯教育、観光、余暇政策、少子高齢化政策）

などの分野での具体的な政策を立案し、議論してゆく予定です。

成績評価と基準

授業中のプレゼンテーション、発言、参加 40%
 論点コメント提出 60%
 を総合して評価します。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

毎週の授業についての2つから3つの論点について、400-1000字程度のコメントを提出することが必要です。このコメントが平常点の60%を占め、授業での発表・発言を40%で採点します。演習の前提知識として、「比較政策論（水3）」もなるべく併せて受講してください。なお6月27日に関西大学で開催される関西国際関係合同ゼミナールに参加し、発表する予定なので、合同ゼミ活動に意欲的な諸君を歓迎します。履修希望者は初回の授業（4月13日）に必ず出席してください。初回授業に出席できない場合は履修を認めません。

オフィスアワー・連絡先

オフィスアワー：水、金の昼休み、他は要予約
 研究室 E409
 E-mail yasuoka@kobe-u.ac.jp

学生へのメッセージ

演習は単なる授業科目の一つではなく、大学での研究の中心になるものです。自分の興味があることを発表するだけでなく、メンバーの発表から互いに学び、好奇心を膨らませて、他の人にも建設的にアドバイスできるような積極的な関係を作ってゆきたいと思っています。他講座や今期から初めて私の演習を受講する方も歓迎します。

今年度の工夫

今年は、議論した内容を知識として定着できるように工夫したいと思っています。

教科書

特に使用しない。

参考書・参考資料等

授業全体にかかわる参考書としては以下のようなものがあります。
公共政策学の基礎 / 秋吉貴雄・伊藤修一郎・北山俊哉 : 有斐閣 ,2010 ,ISBN:9784641183810
政策を創る！考える力を身につける：「政策思考力」基礎講座 / 宮脇淳 : ぎょうせい ,2011 ,ISBN:9784324091623
政策リサーチ入門：仮説検証による問題解決の技法 / 伊藤修一郎 : 東京大学出版会 ,2011 ,ISBN:9784130322157

授業における使用言語

日本語

キーワード

開講科目名	専門演習 B(0)		
担当教員	山本 真也、松本 絵理子	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

主として心理学に関連した領域で実証的研究を行うために必要な知識・技能について習得する機会を提供します。基礎的知識に基づいて実証的研究を行う練習をしましょう。

授業の概要と計画

科学論文は、一般的に導入・方法・結果・考察の4パートから成り立っています。本演習では、主に方法と結果、つまりデータの収集と分析に力点を置きますが、論文検索や結果発表なども実際におこなってもらうことで、科学研究を一通りおこなえるよう演習します。観察・実験研究を取り入れ、心理学を幅広く扱います。

成績評価と基準

実際に研究活動をしてもらいますので、出席を重視します。自主的な参加を求めます。
出席・参加度：70%
発表・レポート：30%

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

演習時間内ではカバーしきれないデータ収集・分析・発表準備などを課題として課すことがあります。野外に出て調査をおこなうこともあるので、遅刻しないように。万一欠席の場合は、次回までの課題等を必ず確認するようにしてください。「聞いていない」等の言い訳は一切認めません。

オフィスアワー・連絡先

月曜昼休みをオフィスアワーとします。事前にshinyayamamoto1981@gmail.comまで連絡ください。

学生へのメッセージ

卒業研究に向け、心理学研究を一通り自力でできるようになる準備をおこないます。この知識・技能は、社会人になってからも必ず役に立つでしょう。みなさん、怪しい「心理本」に騙されていませんか？

今年度の工夫

心理学系で卒業研究をおこなうことを考えている方は必ず履修してください。勉強と研究の違いは、大学生にとってつまづきやすい問題です。この演習では、研究の難しさ・面白さに気づいてもらえればと考えています。

教科書

教科書はありません。

参考書・参考資料等

適宜、授業中にお伝えします。
行動研究入門：動物行動の観察から解析まで / P. マーティン、P. ベイトソン 著 / 粕谷英一、近雅博、細馬宏通 訳：東海大学出版会, 1990.11.20第1刷, ISBN:9784486011378
これから論文を書く若者のために 大改訂増補版 / 酒井聡樹：共立出版, 2006, ISBN:9784320005716
バイオサイエンスの統計学―正しく活用するための実践理論 / 市原清志：南江堂, 1990, ISBN:9784524220366

授業における使用言語

日本語

キーワード

実験心理学、観察法、統計分析、プレゼンテーション

開講科目名	専門演習 B(0)		
担当教員	阪野 智一	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

本演習は、「移民問題の政治化」をテーマとしている。冷戦崩壊後のヨーロッパ諸国において、移民規制強化の政策や特にイスラム系移民を排斥しようとする政治運動が台頭しつつある。まずEUレベルでの移民・難民政策を検討した後、欧州化（Europeanization）という視点から、ヨーロッパ諸国の移民政策の変容を検討したい。さらに注目されるべきは、ポピュリスト的性格を伴った極右政党もしくは団体による新しいスタイルの移民排斥運動の展開である。ヨーロッパ主要国におけるポピュリズムの事例を比較検討し、そうした現象が投げかけている政党政治や現代デモクラシーの問題や課題について考察していきたい。

授業の概要と計画

章毎に担当者による報告・コメントを基に、参加者によるディスカッションを通じて理解を深めていく。初回に分担とスケジュールを決めるので、参加希望者は是非出席してください。

- 第1回：ガイダンス：問題の所在
- 第2回：EUレベルでの移民・難民政策－理論的枠組み
- 第3回：ヨーロッパ諸国の移民政策の欧州化（Europeanization）
- 第4回：ドイツにおける移民・外国人政策の転換
- 第5回：オーストリアにおける移民問題とその歴史的位相
- 第6回：移民問題とポピュリズム－問題の位相
- 第7回：新しい右翼の台頭とポピュリズム－比較分析と理論研究の枠組み
- 第8回：ドイツにおける右翼ポピュリズム
- 第9回：フランスにおけるポピュリズムと国民戦線
- 第10回：イギリスにおけるポピュリズム－新自由主義から反移民・反EUへ
- 第11回：イタリアにおけるポピュリズム
- 第12回：オーストリアにおけるポピュリズムとハイダー自由党
- 第13回：スウェーデン民主党と福祉ショーヴィニズム
- 第14回：日本におけるポピュリズムと外国人問題

成績評価と基準

報告 50%（報告の論理性、独創性、批判力など）
授業での活動 40%（ディスカッションへの参加度、質問力など）
出席点 10%

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

準備学習として報告の担当者は、自分が担当する章についてレジュメを作成すること、また他の履修者は疑問点を整理しておくことが求められる。復習として、各回の冒頭で前回の主要な論点について理解を確認する。

オフィスアワー・連絡先

毎週金曜日の昼休み。研究室（E414）。
それ以外は事前にメールで連絡して下さい。
E-mail: sakano@kobe-u.ac.jp

学生へのメッセージ

実態を知ることと同時に、その意味や理論的視点も重視しています。理論は、多面的な様相を持つ事象を理解する上で、ガイドラインの役割を果たすからです。

今年度の工夫

教科書

国境を超える政策実験・EU / 平島健司：東京大学出版会, 2008, ISBN:
国際移動の比較政治学 / 日本比較政治学会：ミネルヴァ書房, 2009, ISBN:
移民と政治 / 河原祐馬：昭和堂, 2011, ISBN:
ポピュリズム時代のデモクラシー / 高橋進・石田徹：法律文化社, 2013, ISBN:

参考書・参考資料等

授業における使用言語

日本語

キーワード

移民問題、移民政策、欧州化（Europeanization）、ポピュリズム、極右政党、福祉ショーヴィニズム

開講科目名	専門演習 B(0)		
担当教員	王 柯	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

近代東アジアにおける日中関係
とくに20世紀に起こった事例を取り上げ、様々な側面から日中関係の問題点を分析し、相互理解の必要性和重要性を再確認する

授業の概要と計画

時代に沿って、「戦後日中交流の始まり」、「両国間交流の拡大」、「日中交流を妨害する諸事件」、「両国国交正常化の前夜」、「日中国交の回復」、「日中関係の新たな発展」、「21世紀における日中関係」をテーマに、教員による講義、一緒に資料を調べること、テキストの輪読などの形をとって授業を進める。

成績評価と基準

出席率、学習の態度、期末レポートの成績を総合的に判断して成績を評価する。
(出席と学習の態度は50%、期末レポートは50%)

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

1、中国および日中関係関連の新聞記事を入念に調べること。
2、授業中に発表者の発表内容に対して積極的に質問すること。

オフィスアワー・連絡先

水曜日 12:30-13:10
E214室、内線7459

学生へのメッセージ

心で学問を学ぼう。

今年度の工夫

教科書

授業中に指示

参考書・参考資料等

授業における使用言語

日本語

キーワード

開講科目名	専門演習 B(0)		
担当教員	櫻井 徹	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

現代世界における移住と移民

今学期は、グローバル・ジャスティスを考える際の前提となるべき問い「なぜ人々は国境を越えるのか——または越えようとししないのか——」という問題について考えるために、カースルズ&ミラー『国際移民の時代』を教科書として採り上げ、移民についての歴史を振り返るとともに、世界的に増大しつつある移民・移住の現状と課題について深くかつ網羅的に考えたい。

このような学習を通じて、内戦、経済格差、貧困問題、人権侵害といったグローバルな諸課題を前にして、国境というボーダーが果たしていかなる道徳的意味をもつのか、そのボーダーを越えて利益と負担の分配を調整することが可能なのか、そのためにはいかなる原理が必要とされているのか、を考えていきたい。

授業の概要と計画

テキストにはカースルズ&ミラー『国際移民の時代』(名古屋大学出版会)を使用し、毎週1章ずつをめどに、各受講生に簡単なショート・エッセイをもとに疑問・批判を発表してもらうという形式で討論を進めていきます。

成績評価と基準

ショート・エッセイ30%、プレゼンテーションとディスカッション40%、出席30%。特に、毎回のレポートをいかに丁寧かつ緻密に作成できたか、ゼミでの討論にいかに積極的に貢献できたかを中心に評価します。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

上にも述べたように、毎回、各人に簡単なショート・エッセイをもとに疑問・批判等を発表してもらいます。演習は参加者みんなで作り上げる授業ですから、無断欠席を禁止します。やむを得ず授業を欠席する場合は、メール等で事前に連絡してください。

オフィスアワー・連絡先

電子メール(sakurait@kobe-u.ac.jp)にて随時。

学生へのメッセージ

現代世界にとって喫緊の課題についてあらためて自分の頭で考えてみるという体験は、卒業論文作成や社会人になってからのプレゼンなどいろいろな場面で役立つと思います。

今年度の工夫

適宜、授業のテーマに関係のある映画も鑑賞し、その背景を解説します。

教科書

カースルズ&ミラー『国際移民の時代』(名古屋大学出版会)。第1回目の授業までに入手してください。

参考書・参考資料等

授業における使用言語

日本語

キーワード

国境、移住、移民、人権、自由、貧困、国民

開講科目名	専門演習 B(0)		
担当教員	朝倉 三枝	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

本年度は「ファッションと映画」というテーマを取り上げ、映画衣裳という観点から、作品分析の方法を検討していく。

授業の概要と計画

授業前半は、テーマに関連する論文を読みながら、歴史映画における時代考証や、ハリウッド映画のモードへの影響、小説の映画化、衣服の記号性など、さまざまな問題について検討していく。その際、毎回、担当者を決め、内容紹介や関連する重要事項などを解説してもらう。取り上げる作品は、以下を予定しているが、受講者の希望も取り入れ、変更することもある。

「マリー・アントワネット」(ソフィア・ Coppola 監督、2006年)

「マイ・フェア・レディ」(ジョージ・キューカー監督、1964年)

「ポリー・マダーお前は誰だ」(ウィリアム・クライン監督、1966年)

「華麗なるギャッツビー」(ジャック・クレイトン監督、1974年) など。

後半は、各自の関心に応じてテーマを設定し、発表をしてもらい、全体のディスカッションを通してテーマに関する理解を深めます。

成績評価と基準

平常点(授業への参加度と貢献度) 40%

学期末レポート 60%

履修上の注意(準備学習・復習、関連科目情報等を含む)

授業の運営上、定員を12名とします。受講希望者は必ず初回授業に参加してください。

オフィスアワー・連絡先

E313

e-mail:asakukra@port.kobe-u.ac.jp

学生へのメッセージ

映画やドラマなどの映像作品は、ただ見るのではなく、自分ならではの視点を持つてみると、さらに深く鑑賞することができます。授業を通して、その楽しさをいっしょに学んでいきましょう。

今年度の工夫

教科書

プリント配布。

参考書・参考資料等

必要に応じ、適宜、授業で紹介。

授業における使用言語

日本語

キーワード

ファッション、映画

開講科目名	専門演習 B(0)		
担当教員	吉岡 政徳	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

文化人類学の基本的な考え方を習得することを目標とする。

授業の概要と計画

今年度は、参加者が興味を持っているテーマに関する文献を読み、それらに関する発表を交代で行う。発表担当者以外も同じ論文を読み、その内容、論旨について発表担当者に質問し、全員でその発表をめぐって討論を行う。

成績評価と基準

出席点を80点満点(発表や議論への発言などを考慮して評価する)、学期末のレポートを20点満点とする。出席点に関しては、1回欠席するたびにマイナス10点とするので、5回欠席すると合格点に満たなくなるので注意すること。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

出席点の中には、発表と討論を行うことが含まれる。毎回、討論ができるように文献を読み込んでおくこと。なお、1年生用の講義「文化人類学」を受講済みが望ましい。

オフィスアワー・連絡先

yoshioka[at]tiger.kobe-u.ac.jp ([at]を@に変換すること)に連絡してアポを取るようにしてください。

学生へのメッセージ

今年度の工夫

教科書

毎回、次の演習で用いる資料を配布する。

参考書・参考資料等

授業における使用言語

日本語

キーワード

文化人類学 討論 基礎的課題

開講科目名	専門演習 B(0)		
担当教員	市田 良彦	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

近現代の「共和主義」問題。社会主義圏の崩壊以降、「共和主義」は唯一残った可能かつ正しい政治体制のように語られることも多いが、福祉国家体制の危機や宗教問題の勃興により、共和体制の限界もまた目に見えるようになってきている。そうした現状を背景に、「共和主義」とはなにかを思想史的に探ることを目標とする。

授業の概要と計画

何冊かの書物を紹介しますので、その一部または全体を口頭発表（要レジュメ）してもらいます。さしあたり、下記のような書物を候補に考えています。歴史と現状のバランスに留意したいと思います。初回に簡単な「共和主義」思想のガイダンスを行います。

成績評価と基準

出席と発表。議論に参加する積極性を重視します。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

特にありませんが、自分の担当でない箇所についても、あらかじめ必ず読んでくること。

オフィスアワー・連絡先

E304。事前にメールで連絡してください。ucml（アット）kobe-u.ac.jp

学生へのメッセージ

難しい本にも挑戦する姿勢をだいじにしてください。

今年度の工夫

教科書

思想としての〈共和国〉/レジス・ドゥブレその他：,,ISBN:
民主主義と宗教/マルセル・ゴッシュェ：,,ISBN:
社会問題の変容/ロベール・カステル：,,ISBN:
マキアヴェリアン・モーメント/ポーコック：,,ISBN:

参考書・参考資料等

授業における使用言語

日本語

キーワード

共和主義 福祉国家 賃労働 宗教 民主主義

開講科目名	専門演習 B(0)		
担当教員	萩原 守	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

この授業のテーマと目標は、歴史や環境問題等を含む広い意味での「北アジア研究」とする。

授業の概要と計画

詳細は参加者の希望を聞いた上で決定するが、予定としては、モンゴルや中国に関して日本語で書かれた研究論文・研究書をなるべく多角的な視点から選定して、参加者に順次紹介・発表してもらい、それによって、現在の研究状況や代表的な研究手法、史料状況等を広く把握する。参加者は、各自の関心に応じて研究論文を選び、参加者全員の前で内容の要約と批評を行う。可能であれば、参加者自身による研究をも、発表してもらう。

1. 自己紹介
2. 最近の北アジア研究の潮流（歴史、人類学、法学）
3. 参加者自身の選定した論文の紹介

成績評価と基準

演習なので、出席と質疑応答内容80パーセント、発表20パーセントの割合で評価する。発表しない時でも、質問することが重要。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

なるべく欠席しないこと。また、他の学生が発表しているときにも、参考となりそうな点に常に注意を払う必要がある。発表には予習が必要であり、発表後は、入念な復習によって、より効果的な授業となる。

オフィスアワー・連絡先

月曜・木曜昼休み 研究室はE-206
連絡先は、hagihara@kobe-u.ac.jp

学生へのメッセージ

気軽に参加してください。

今年度の工夫

学生の希望に配慮したい。

教科書

特になし。論文はコピーで配布し、参考文献は授業中に指示する。

参考書・参考資料等

授業中に指示する。

授業における使用言語

日本語

キーワード

北アジア モンゴル 中国

開講科目名	専門演習 B(0)		
担当教員	梅屋 潔	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

民族誌的事実を紹介することで文化人類学の歴史に触れ、地球上の民族のくらしの多様性を理解することを目標とする。文化人類学的な立場から書かれたアフリカの妖術・邪術に関する最新論文を購読する（英文）。

授業の概要と計画

アフリカの宗教とモダニティに関する下記英文文献などを購読予定。初回の講義で相談する。担当をきめ、交代で発表する。発表者以外も文献を読んでおくことは必須である。発表の後、全員で討論を行う。1度ゲストスピーカーも招いた討論を交える予定。ゲストスピーカーには、Jean Roger Bagamboula大阪大講師を予定。

成績評価と基準

出席点を60点満点（単なる出席ではなく積極参加しないと出席とは見なさない）、プレゼンテーション40点満点。1回欠席するたびに減点するので注意すること。討論での積極性や身に付けた人類学的思考法・知識を加味して評価する。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

- 1) 当然のことだが、発表者以外も当該部分の文献を読み、わからない用語や概念は『文化人類学事典』（弘文堂）などで調べ、じゅうぶんな予習をすること（この作業を怠ると議論が成立しない）。また、授業中に学んだ内容を終了後に改めて復習しておくこと。
- 2) 発表者は、担当する論文の内容をまとめるだけでなく、全体で討論すべきポイントを最低3点挙げること。
- 3) 発表および議論に参加できないものは評価できない。
- 4) 初回授業時に担当の分担をするので、必ず参加すること。
- 5) 参考書に指定された3冊は必ず読んでおくこと。

オフィスアワー・連絡先

umeya[at]people.kobe-u.ac.jpに連絡してアポイントメントを取ってください。オフィスアワーは都合がつく限り随時。

学生へのメッセージ

今年度の工夫

討論を積極的に行うためにディベート形式を部分的に取り入れる

教科書

Witchcraft, Intimacy, and Trust: Africa in Comparison / Peter Geschiere : Univ. of Chicago Press ,2013 ,ISBN:9780226047614
Witchcraft and a Life in the New South Africa / Isak Niehaus : Cambridge University Press ,2012 ,ISBN:9781107016286

参考書・参考資料等

呪術化するモダニティ / 阿部・小田・近藤 : 風響社 ,2007 ,ISBN:9784894891197
呪術の人類学 / 白川・川田 : 人文書院 ,2012 ,ISBN:9784409530429
スピリチュアル・アフリカ / 落合（編） : 晃洋書房 ,2009 ,ISBN:9784771020894

授業における使用言語

日本語

キーワード

呪術、託宣、ウィッチクラフト、スピリチュアリズム

開講科目名	専門演習 B(0)		
担当教員	吉田 典子	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

絵画を中心に、デザイン、ファッションなど、視覚文化と社会に関する問題を扱う。芸術と社会、ジャポニズムなど異文化間の交流、芸術とジェンダーなどのテーマについて考察し、芸術表象に関する研究の基礎を作ることを目的とする。

授業の概要と計画

テキストには、印象派以降の近現代絵画を鑑賞するために必要な知識や視点を主題別に解説した本を用いる。演習形式により、テキストを精読して十分な理解をした上で、さらにテキストの中で各自が興味をもったテーマや作品について口頭発表をおこない、レポート（小論文）を作成する。

成績評価と基準

出席と平常の活動(50%)、期末の小論文(50%)を総合して判断する。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

演習では、報告担当者だけではなく参加者全員が文献を読んでもくこと、ディスカッションに積極的に参加することが求められます。自分の意見を他の参加者に伝えられるよう、各自しっかりと文献を読んだり、関連資料を探したりするなど、予習をしてきてください。また、各自考察してみたいと思う具体的な対象について、自主的に調査・研究を進めてください。

オフィスアワー・連絡先

随時（メールで事前連絡のこと）
ynoriko@kobe-u.ac.jp

学生へのメッセージ

授業でも、随時作品紹介を行うので、各自で積極的に鑑賞するようにしてください。
芸術文化論コースではオペラ、コンサート、映画鑑賞会や美術展鑑賞も行う予定です。

今年度の工夫

教科書

まなざしのレッスン(2)西洋近現代絵画 / 三浦篤：東京大学出版会 ,2015 ,ISBN:978-4-13-083031-7

参考書・参考資料等

授業における使用言語

日本語

キーワード

開講科目名	専門演習 B(0)		
担当教員	塚原 東吾	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

STSと、原発とバイオテクノロジー：「読書マラソン」による徹底的な情報収集

授業の概要と計画

STSの領域を広くあつかうが、なかでも、原発問題とバイオテクノロジーについて、毎週一冊の本を読む「読書マラソン」を行う。それに合わせて、関係のドキュメンタリィフィルムを毎週一本見る、「フィルム・マラソン」も、併用して、問題の基本的な枠組みをとらえる。

成績評価と基準

毎週のレポート、エッセイ、書評と映評の提出

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

知のマラソンなので、かなりの体力を必要とする。塚原の他の授業も全てとらないと、履修はかなり厳しいと思う。だから、「授業のつまみ食い」はやめよう。

オフィスアワー・連絡先

木・ヒル、7435

学生へのメッセージ

毎週最低3時間（通常5時間程度）の予習を必要とする。

今年度の工夫

予習をしないとわからないような授業になっている。マラソンの名にふさわしいような、持久的で持続的な「知的筋トレ」を目指す。だから、「じわじわくる」、知的な興奮を味わうことができる。

教科書

参考書・参考資料等

授業における使用言語

日本語だが、英語のテキストも利用するし、英語のドキュメンタリィ・フィルムなどは、原語での視聴を試みる。中・独・仏の場合、サブタイトルは英語。第2外国語が中・独・仏の場合、それらの原語の使用も試みる。

キーワード

原発、バイオテクノロジー、バイオキャピタリズム、311

開講科目名	専門演習 B(0)		
担当教員	塚原 東吾	開講区分	単位数
		前期	2単位
授業のテーマと到達目標			
原発と廃棄物（ガレキ）とバイオテクノロジー：現地での情報収集と徹底的な情報収集@もんじゅ、上関、豊島、直島、産業廃棄物			
授業の概要と計画			
前半は徹底的な読書とフィルム・ドキュメンタリィなどによる情報収集を行う。 後半には廃棄物（ガレキ）の問題について、瀬戸内海の豊島産業廃棄物問題を考えるために、現地調査をおこない、昨年の、瀬戸内アートフェスティバルの取り組みなどを検証する。また原発については敦賀原発および「もんじゅ」の現地調査を試みる。バイオテクノロジーについては各種研究機関・エージェントの調査を試みる。			
成績評価と基準			
毎週のレポート、およびエッセイ。 また現地調査での企画書・現地報告・分析、 研究計画書などによって評価する。 基準は世界レベルで通用するオリジナリティとプライオリティがあるかどうかという以外に、アカデミアでの意味はない。			
履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）			
かなり面白い。だが時間がかかりかかるし、多くの予備知識が必要なので、塚原の他の授業を取っておくことを推奨する。基本的に毎回最低でも3時間程度（通常で5時間）の予習がない場合には、授業について来れない。			
オフィスアワー・連絡先			
木ヒル、E406			
学生へのメッセージ			
ポスト311の時代に、何をどうする？ でも、学問の面白さだけは、蘭学者並みに、スゴイ。			
今年度の工夫			
原発と廃棄物（ガレキ）とバイオテクノロジーについて、事前の情報収集と現地での徹底的な情報収集を組み合わせ、しかもそこに豊島・直島という瀬戸内海の調査（アート・フェスティバル）を加えたところ。			
教科書			
参考書・参考資料等			
授業における使用言語			
日本語だが、英語ができない人は困る。			
キーワード			
もんじゅ、上関、豊島、直島、産業廃棄物			

開講科目名	専門演習 B(0)		
担当教員	山崎 康仕	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

テーマ：「生命をめぐる法と倫理」

目標：生命倫理をめぐる諸問題において、いかなる倫理や規範が問題とされ、どのような対応が求められるのかについて考察することを通して、倫理や道德などの文化規範を新たに形成したり再構成する際に要請される、多角的な視点と論証能力、さらにそれらを通しての問題解決能力の育成を、この演習は目標としている。

授業の概要と計画

最初に総論的な文献を使用して、生命倫理に関する基本的な諸問題を概観する。担当者の報告(担当個所の要約とコメント)を参加者全員で検討するという形で演習を進める。次に各自の関心領域についてより詳しい報告を検討するという形で進める。

成績評価と基準

平常点(授業での議論への貢献度)70%，および学期末のレポート30%で評価する。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

毎回の検討箇所の予習をし要約レポートを提出すること。

オフィスアワー・連絡先

随時。要連絡。

yy@people.kobe-u.ac.jp

学生へのメッセージ

今年度の工夫

教科書

赤林朗『入門・医療倫理』（勁草書房，2005）

粟屋剛『生命倫理学講義スライドノート』（ふくろう出版,2013）

A.ジャンセン『生命倫理学の誕生』（勁草書房,2009）

立岩真也ほか『生死の語り行い〈1〉尊厳死法案・抵抗・生命倫理学』（生活書院,2012）

/：,2005,ISBN:

参考書・参考資料等

今井道夫『生命倫理学入門 第3版』（産業図書,2011）鈴森 薫(訳)『生殖医療をめぐるバイオエシックスー生殖補助医療と遺伝学の接点:技術的・社会的・倫理的ならびに法的諸問題』（メジカルビュー社,2009）

香川 知晶『命は誰のものか』（ディスカヴァー・トゥエンティワン,2009）

香川知晶・檉則章(編)『生命倫理の基本概念(シリーズ生命倫理学)』（丸善出版,2012）

浅井篤・高橋隆雄(編)『臨床倫理(シリーズ生命倫理学)』（丸善出版,2012）

今井道夫・森下直貴(編)『生命倫理学の基本構図(シリーズ生命倫理学)』（丸善出版,2012）

菅沼信彦・盛永審一郎(編)『生殖医療(シリーズ生命倫理学)』（丸善出版,2012）

倉持武・丸山英二(編)『脳死・移植医療(シリーズ生命倫理学)』（丸善出版,2012）

香川知晶『生命倫理の成立』（勁草書房,2000）

授業における使用言語

日本語

キーワード

生命倫理学 法と道德 法哲学 医療倫理 生殖医療

開講科目名	専門演習 B(0)		
担当教員	宗像 恵	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

ジェンダーに関わる問題をテーマにします。現在の社会にはジェンダーに関わるいろいろな現象や問題が見られます。たとえば、恋愛と結婚の分離によるロマンティック・ラブのゆらぎ（婚活）、草食系男子や肉食系女子にみられる男らしさ・女らしさの問い直し、性別分業を前提にした近代家族制度の機能不全、セクシュアル・ハラスメントやドメスティック・バイオレンス、などなど。
演習では、これらの問題について書かれた本を読んで報告してもらい、参加者全員でディスカッションしながら、いったい何が問題なのか、見通しをつけてもらうことを、目標にしています。

授業の概要と計画

はじめに、イントロダクションとして、概観的な説明や文献の紹介をします。
その後で、ゼミ参加者それぞれに、自分の関心にあったテーマを選び、関係図書を読んで報告してもらいます。報告者以外の参加者には、報告を聞き、報告者をまじえてディスカッションしてもらいます。

私の研究室には、ジェンダーに関わる心理学や文学、ファッション論やマンガ論、イメージ論や魔女論、男性論などのほか、女性の職業問題、家族、母性、セクシュアル・ハラスメント、ドメスティック・バイオレンスなど、ジェンダー関連図書がたくさんありますので、それらを使ってもらっても結構です。

成績評価と基準

報告内容（レジュメ、口頭発表、質問への応答）60%、授業に出席しディスカッションへ参加した度合40%。
全回出席を原則とします。無断欠席は大きく減点します。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

この授業は演習ですから、自分の報告の準備はしっかりしてください。
また自分の報告のないときも、必ず毎回出席してディスカッションに参加してください。
1年次にジェンダー文化論を受講していない人は、受講するようにしてください。

オフィスアワー・連絡先

随時行なっていますが、事前に下記に連絡を下さい。
munakatsアットマークperson.kobe-u.ac.jp
研究室はE306です。

学生へのメッセージ

性（ジェンダー）の枠組みは、社会のすみずみにまで浸透して、私たちの生活に影響しています。何か変だとか、おかしいとか、面白いとか感じる人がいる人は、ぜひ演習に参加してください。他講座所属の学生さんも歓迎します。

今年度の工夫

受講者数にもよるのですが、できるだけ受講者の関心に基づく発表の機会を多くしたいと思っています。

教科書

教科書としては使いませんが、上に書いたように、報告のための参考文献を適宜使ってもらいます。

参考書・参考資料等

授業における使用言語

日本語

キーワード

ジェンダー

開講科目名	専門演習 B(0)		
担当教員	藤野 一夫	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

芸術文化政策の理論と課題について、各種の文献講読を踏まえて根本的に討議する。

授業の概要と計画

芸術文化政策とその実践としてのアートマネジメントについて、歴史、理論的根拠付け、国際比較、事例研究、文化振興条例、芸術文化振興計画などを分析、考察し、新しい市民社会における文化環境をデザインする。

成績評価と基準

授業での積極的な参加（発表、発言）態度（二分の一）、期末のレポート（二分の一）。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

アートマネジメント系科目を履修することを希望する。

オフィスアワー・連絡先

金・昼休み fujino@kobe-u.ac.jp

学生へのメッセージ

文化政策、芸術の内容、アートマネジメントについて、その実践的関心だけでなく、グローバル化する社会、世界の中での理論的考察に関心をもってほしい。

今年度の工夫

教科書

授業中に指示。

参考書・参考資料等

授業中に指示する。

授業における使用言語

日本語

キーワード

開講科目名	専門演習 B(0)		
担当教員	柴田 佳子	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

「移動・多文化共生・文化のゆらぎ」が大きなテーマです。グローバル化とローカル化、移動や越境に伴うコンフリクト、流動性、多文化（多言語、多宗教）共生への模索、ハイブリディティ（異種混交）、クレオール化の錯綜という側面に焦点を当て、過去や「歴史」への視点も養います。移民、混血、観光、開発、音楽（ダンス）、祝祭、その他ポピュラー文化の諸相など具体的な事例を通して考察できます。スキルとしては、文献読解、レジュメ作成、議論になるプレゼンテーション、質疑応答やコメント、論文作成といった知的能力の訓練を高度にしています。本演習を通して、知の探検を楽しみ、深い理解を求め、議論を展開しつつ、問題意識を高めて次のステップ、そして卒業研究へ進んでいくことを目指します。他講座所属学生も歓迎します。

授業の概要と計画

受講生の人数や各自の関心により、やり方も相談しながら決めます。前半／後半は文献その他の資料を解説し、毎回発表者がレジュメに沿って発表し、質疑応答、コメント、全員での議論をします。前／後半は各自の関心に沿った発表をし、それについて他のメンバーが質問やコメントをしてテーマに関する問題意識や方法論への視座を深める機会とします。成果の一つとして、学期末小論文をまとめます。学外での研修も受講生と相談して実施予定。

成績評価と基準

☆平常点（出席かつ積極的な関与。発表者はその準備状況、発表内容、その他の受講者は質問やコメントをして有意義に展開できるか、またゼミ運営、課外活動への参加など）が60%、
☆☆期末レポート（卒業論文作成の準備の一段階に位置づけ）40%

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

毎回、事前に課題文献などを十分に読み、それを反映した質問やコメントも用意すること。
文献購読において深い理解が求められるため、関係する他の文献なども参照しておくこと。
復習も入念に行ない、問題意識を深めておくこと。
いくつかの演習テーマにも共通するので、講義科目の「民族誌学」も受講して理解を深めてください。
今年度は今まで通年で開講していた演習B、後期には開講しません。
ただし、卒業演習には参加自由です。

オフィスアワー・連絡先

随時：あらかじめメールなどでアポイントメントをとってください。

学生へのメッセージ

積極的にかかわることで、自らの知力その他を高めていけるはずです。自ら学びほぐしながら、関心や問題意識を積極的に広め、かつ深めていってください。

今年度の工夫

受講生全員が初回から最終回へ向けて様々な「気づき」と充実感を増し加え、連帯意識を持ちながら切磋琢磨し、相互に良い刺激を与え合い、皆が協働作業を楽しめるように

教科書

授業のなかで指示します。

参考書・参考資料等

授業中に随時、指示します。

授業における使用言語

日本語、必要に応じて英語

キーワード

知の探検、深い理解

開講科目名	専門演習 B(0)		
担当教員	近藤 正基	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

現在、先進諸国では福祉再編の取り組みが活発化し、福祉政治のあり方も変わりつつあります。本演習では、ドイツを中心に、日本や他のヨーロッパ諸国との比較を交えながら、現代福祉国家・政治の変容について学んでいきます。

授業の概要と計画

①文献の輪読。鎮目真人・近藤正基編『比較福祉国家』や新川敏光編『福祉国家変革の理路』（ともにミネルヴァ書房）などを予定しています。担当者の発表の後、受講者で討論を行います。
 ②講演。福祉や政治の現場で活動する方々の講演会を数回開催する予定です。
 ③調査・研究報告。演習内容を踏まえ、各グループが調査した内容について報告し、受講者で議論します。
 ※合同ゼミを開催する可能性があります。

成績評価と基準

授業への参加、発言（40点）、調査・研究報告（30点）、プレゼンテーション（30点）。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

遅刻および欠席は減点対象となるので、気を付けてください。初回の授業で具体的な授業計画を立てるので（輪読・コメント・研究報告の担当者などの確定）、受講者は、必ず初回の授業に参加してください。参加しない場合、履修が認められない可能性があります。

オフィスアワー・連絡先

オフィスアワーは特に定めません。授業内容や研究に関して質問がある方は、メールでアポイントメントをとってください。メールアドレス：mmrkondo@gmail.com。

学生へのメッセージ

今年度の工夫

教科書

授業中に指定します。

参考書・参考資料等

授業中に指定します。
 比較福祉国家——理論・計量・各国事例 / 鎮目真人・近藤正基編：ミネルヴァ書房, 2013年, ISBN:4623066622
 現代ドイツ政治——統一後の20年 / 西田慎・近藤正基編：ミネルヴァ書房, 2014年, ISBN:4623072045

授業における使用言語

日本語、ドイツ語、英語

キーワード

ドイツ政治、比較福祉国家論、比較政治学

開講科目名	専門演習 B(0)		
担当教員	野谷 啓二	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

宗教と文化に関連する問題を各自の関心にしながら設定し、授業で発表する。また発表のために用意するレジメをもとに学期末まで小論文を作成していただきます。その際、教員は参考文献、注の付け方等をチェックしますので、卒業論文作成の準備練習の意味合いもあります。

授業の概要と計画

受講生は各自の関心にしながら発表しますが、参考文献をチェックしますので、事前に文献表を教員に提出していただきます。

成績評価と基準

授業の発表 60%とレポート 40%の総合評価

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

口頭発表の前にレジメを作成し、メールで教員に送信すること。復習としては、次回の演習の冒頭で、1週間考えたことをまとめて報告すること。

オフィスアワー・連絡先

研究室：E204
Email: notani@kobe-u.ac.jp

学生へのメッセージ

今年度の工夫

教科書

使用しない

参考書・参考資料等

授業における使用言語

日本語

キーワード

開講科目名	専門演習 B(0)		
担当教員	三浦 伸夫	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

科学革命論

17世紀は革命の時代と言われる。近代科学の理念が誕生した、歴史上最も重要な時代である。その時代の科学を、宗教、思想、制度などをも視野に入れながら見ていく。さらに科学技術史の研究方法を学ぶと同時に、歴史における科学技術の文化的問題を把握する。

授業の概要と計画

- ・科学史とは
- ・歴史記述について
- ・中世からルネサンスへ
- ・ルネサンス
- ・魔術
- ・機械論的科学観
- ・科学と宗教
- ・科学と文化
- など

成績評価と基準

参加点（出席、授業中の発言など）とレポート。その割合は、40：60。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

科学史の勉強は初めての学生を対象とする。科学自体の知識はとくには必要はない。世界史や思想史に関心があることが望ましい。予習をして疑問点を演習中に質問できるようにすること。この時代、科学技術は絵画、文学、思想など様々な方面に影響を与えた。これらを勉強したい学生にも参加をすすめる。

オフィスアワー・連絡先

メールにて事前調整する。

学生へのメッセージ

様々な内容を織り込むので、知的好奇心を満たすことになるが、その一方で、かなりの勉強が必要となる。科学と言えば、ガリレオやニュートンだけではない。美術や文学や宗教などにも触れながら、多方面から科学技術の歴史を眺めていく。それによって参加者の関心が広がるであろう

今年度の工夫

原典の翻訳なども取り入れることがある。

教科書

教科書を使用する
17世紀科学革命 / ジョン・ヘンリー : 岩波書店 , ISBN:9784000270953

参考書・参考資料等

知のミクロコスモス / ヒロヒライ : 中央公論新社 , 2014 , ISBN:9784120045950

授業における使用言語

日本語

キーワード

17世紀, 科学史, 思想史, ジェンダー史, 自然観

開講科目名	専門演習 B(0)		
担当教員	伊藤 友美	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標
この演習では、タイおよびその周辺の東南アジア諸国に漠然とした関心を持つ学生たちが、その歴史と文化に関するより具体的・専門的な理解を深めるきっかけを提供することを目標とします。
授業の概要と計画
2015年に刊行された石井米雄著・飯島明子解説『もう一つの王様と私』を授業の主たるテキストとして使用します。また参考資料として、映画「王様と私」、「アンナと王様」等を使用します。19世紀中葉のタイを取り巻く国際政治情勢を踏まえたうえで、当時のタイ王室と欧米人との交流、そしてその歴史叙述のあり方について考察します。
成績評価と基準
発表40% レポート40% 討論への参加20%
履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）
自分自身の発表準備だけでなく、他の学生が発表するテーマに関しても必ず予習・復習するよう、心がけてください。
オフィスアワー・連絡先
メールにて事前予約。 itot@kobe-u.ac.jp
学生へのメッセージ
テキストとする『もう一つの王様と私』は、タイ・東南アジア研究の大家であった故・石井米雄教授が一般向けに著した遺稿について、現在のタイ史についての先端的研究者である飯島明子教授が解説したものです。読みやすく興味深い内容でありながら、歴史的事実およびその後の時代における歴史の描かれ方の問題について、精緻な理解と重要な視点を身に着けることができます。漠然とタイや東南アジアに興味を持っている人が、その関心を深めるきっかけにできると思います。
今年度の工夫
教科書
もう一つの王様と私 / 石井米雄・飯島明子: めこん,2015 ,ISBN:
参考書・参考資料等
歴史叙述とナショナリズム：タイ近代史批判序説 / 小泉順子: ,2006 ,ISBN: 王様と私（映画） / : ,1956 ,ISBN: アンナと王様（映画） / : ,2010 ,ISBN:
授業における使用言語
日本語
キーワード
タイ、歴史、文化、東南アジア

開講科目名	専門演習 B(0)		
担当教員	木下 資一	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

主に日本の伝承の問題について、多様な角度から考察し、理解を深める。各自の課題意識に基づいて、文献やその他資料、またフィールドワークによる調査資料などを集め、これらを駆使して報告を行う。今期は『古今著聞集』「怪異・変化」の説話を調べることを通じ、上記の目標を達成する。

授業の概要と計画

『古今著聞集』は鎌倉時代中期の建長六年（1254）、橘成季によって編纂・完成された。平安以来の貴族文化全般を体系的に分類し、神祇・釈教などの項目を設け、それぞれに属する説話を集め、時代順に配列している。これらの項目の中で、現代の妖怪文化などにもつながる「怪異・変化」の説話に注目し、それらを読みつつ、それら説話の成立する歴史的背景や文化的土壌について考究してみたい。

1. 『古今著聞集』「怪異・変化」輪読入門
2. 資料の調べ方 1
3. 資料の調べ方 2
4. 『古今著聞集』「怪異・変化」輪読 1（毎回 2 名程度の発表を見込む）
5. 『古今著聞集』「怪異・変化」輪読 2
6. 『古今著聞集』「怪異・変化」輪読 3
7. 『古今著聞集』「怪異・変化」輪読 4
8. 『古今著聞集』「怪異・変化」輪読 5
9. 『古今著聞集』「怪異・変化」輪読 6
10. 『古今著聞集』「怪異・変化」輪読 7
11. 『古今著聞集』「怪異・変化」輪読 8
12. 『古今著聞集』「怪異・変化」輪読 9
13. 『古今著聞集』「怪異・変化」輪読 10
14. レポートの書き方
15. 博物館訪問など

成績評価と基準

出席（報告者への質問・意見など：4 割）、報告（3 割）、レポート（3 割）で判断する。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

発表に際しては、十分な時間をかけて準備してください。

オフィスアワー・連絡先

昼休みなど。
研究室E201

学生へのメッセージ

積極的な授業参加を求めます。

今年度の工夫

多くの一次資料にふれる機会をもつ

教科書

古今著聞集 / 永積安明校注 : 岩波書店 , ISBN:

参考書・参考資料等

授業における使用言語

日本語（古文・漢文を含む）

キーワード

古今著聞集 怪異 変化 妖怪 鎌倉時代 説話
橘成季

開講科目名	専門演習 B(2)		
担当教員	坂井 一成	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

EU統合に関わる事象を中心に国際関係論の思考枠組みを理解し、その基礎的視野を身につけ、広く現代の国際問題を自ら読み解く力を養う。

授業の概要と計画

- ・教員から大枠の研究テーマを指示し、それについてのグループでの調査に基づく研究発表、それに基づく討議という流れで進める。
- ・またこれとは別に、ゼミ活動の一環として、関西国際関係合同ゼミナール（2015年度は6月27日に関西大学で開催）に参加し、ゼミとしての共同研究の成果を発表する。これは授業の最重要の一部と位置付けているので、準備を含め必ず参加すること。

成績評価と基準

授業時の報告内容（30%）、議論への積極的関与の度合い（40%）、及び関西国際関係合同ゼミナールへの参加の度合い（30%）で評価する。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

- ・7月中旬に総括のための合宿を予定している。
- ・授業時に指定する参考文献を熟読して、事前に疑問点を挙げてくるとともに、授業後には授業内容の定着を図ること。

オフィスアワー・連絡先

随時。ただしメール（kazu[at]harbor.kobe-u.ac.jp）で事前連絡が望ましい。

国際文化学研究科・学部 E407研究室

学生へのメッセージ

今年度の工夫

教科書

参考文献を授業時に指示する。

参考書・参考資料等

授業における使用言語

日本語

キーワード

開講科目名	専門演習 B(0)		
担当教員	西澤 晃彦	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

社会学を勉強したい。この「ものの見方」は、自分が何がしかの意味を引き出そうとしている対象にとりあえずの引っ掛かりを見出す上でたいへん有効である。なんとなく卒論のテーマは決めているのだが、どう手出しをしているのか分からないときに、ひとまず「社会的」に考えてみると、あれこれ言えそうになるということは多分ある、と思う。そういうものの見方を色々と言い合いながら身につける演習にしたい。

授業の概要と計画

こちらで指定した文献の輪読、討論。このゼミは、毎週、テキストのある範囲の内容について、報告者（2名）、司会者、コメンテーターを決めて討論会形式で進める。討論会なので全員参加（私は傍観者）。報告者は、白書や過去の新聞記事など資料も準備して、報告に臨む。

成績評価と基準

報告（発表、レジュメ、質問への応答。なおパワーポイントの使用を推奨する）60%、ディスカッションへの参加の程度40%。そこから欠席分を減点する。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

文献は全員が事前に必ず読んでおくこと。

オフィスアワー・連絡先

学生へのメッセージ

今年度の工夫

教科書

申し訳ないが、私も著者の一人である、西澤晃彦・渋谷望『社会学をつかむ』有斐閣をテキストにしたいと思う。初回までに準備しておいていただきたい。

参考書・参考資料等

授業における使用言語

日本語

キーワード

開講科目名	専門演習 B(0)		
担当教員	坂本 千代	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

テーマ：「傑作小説をとおして近代フランスを考える」。フランス19世紀は、20世紀以降の世界（日本を含む）で起きるさまざまな社会問題の萌芽が見られ、それへの対処法について議論された時代であり、現代日本のアクチュアルな問題と結び付けることのできる、研究課題の宝庫ともいえる時代です。文学史的に見れば、小説というジャンルがフランスで最高潮に達した時期とも重なります。本演習で取り上げるスタンダールの『赤と黒』、バルザックの『ゴリオ爺さん』、フロベールの『ボヴァリー夫人』、ゾラの『ナナ』は19世紀フランス小説の傑作であり、世界各国語に訳され、映画や芝居にも翻案されています。これらの小説（翻訳）をじっくり検討しながら、近代ヨーロッパの歴史や文化、近代社会や近代都市、そこに暮らす人々の生き方や価値観などについて考えてみましょう。

授業の概要と計画

4つの小説を3回ずつくらいに分けて通読します。毎回の担当者は、内容をレジュメしたあと、そこに出てくる人物、思想、歴史的事件などから自分が興味あるものを選んで解説し、そのあと全員で議論を深めます、また、これらの小説の映画版（たくさんあります）の一部も見ると予定です。ただ、参加者の人数によっては演習内容を変更する可能性があります。

成績評価と基準

授業への出席と積極的な参加（50点）、および自分の選んだテーマについて学期末に行うプレゼンテーション（50点）。ただし、参加者の人数によって変更することもあります。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

毎回予習が必要です。フランス語を履修していなくても大丈夫です。

オフィスアワー・連絡先

国際文化学部E215

学生へのメッセージ

フランスへの留学を希望している学生、フランスの文化や社会に興味を持っていて、研究の糸口をつかみたいと思っている学生、あるいはもっと広く近代ヨーロッパの歴史や文化などに興味がある学生を歓迎します。

今年度の工夫

演習が単調にならないよう、DVDなどを活用します。

教科書

スタンダール『赤と黒』、バルザック『ゴリオ爺さん』（『ペール・ゴリオ』という題名でも訳されている）、フロベール『ボヴァリー夫人』、ゾラ『ナナ』。翻訳はどの版でもよい。

参考書・参考資料等

授業における使用言語

日本語

キーワード

近代ヨーロッパ スタンダール バルザック フロベール ゾラ

開講科目名	専門演習 B(2)		
担当教員	梅屋 潔	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標
民族誌的事実を紹介することで文化人類学の歴史に触れ、地球上の民族のくらしの多様性を理解することを目標とする。文化人類学的な立場から書かれたアフリカの妖術・邪術に関する最新論文を購読する（英文）。
授業の概要と計画
アフリカの宗教とモダニティに関する下記英文文献などを購読予定。初回の講義で相談する。 担当をきめ、交代で発表する。発表者以外も文献を読んでおくことは必須である。発表の後、全員で討論を行う。1度ゲストスピーカーも招いた討論を交える予定。ゲストスピーカーには、Jean Roger Bagamboula大阪大講師を予定。
成績評価と基準
出席点を60点満点（単なる出席ではなく積極参加しないと出席とは見なさない）、プレゼンテーション40点満点。1回欠席するたびに減点するので注意すること。討論での積極性や身に付けた人類学的思考法・知識を加味して評価する。
履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）
1）当然のことだが、発表者以外も当該部分の文献を読み、わからない用語や概念は『文化人類学事典』（弘文堂）などで調べ、じゅうぶんな予習をすること（この作業を怠ると議論が成立しない）。また、授業中に学んだ内容を終了後に改めて復習しておくこと。 2）発表者は、担当する論文の内容をまとめるだけでなく、全体で討論すべきポイントを最低3点挙げること。 3）発表および議論に参加できないものは評価できない。 4）初回授業時に担当の分担をするので、必ず参加すること。 5）参考書に指定された3冊は必ず読んでおくこと。
オフィスアワー・連絡先
umeya[at]people.kobe-u.ac.jpに連絡してアポイントメントを取ってください。オフィスアワーは都合がつく限り随時。
学生へのメッセージ

今年度の工夫
討論を積極的に行うためにディベート形式を部分的に取り入れる
教科書
Witchcraft, Intimacy, and Trust: Africa in Comparison / Peter Geschiere : Univ. of Chicago Press ,2013 ,ISBN:9780226047614 Witchcraft and a Life in the New South Africa / Isak Niehaus : Cambridge University Press ,2012 ,ISBN:9781107016286
参考書・参考資料等
呪術化するモダニティ / 阿部・小田・近藤：風響社 ,2007 ,ISBN:9784894891197 呪術の人類学 / 白川・川田：人文書院 ,2012 ,ISBN:9784409530429 スピリチュアル・アフリカ / 落合（編）：晃洋書房 ,2009 ,ISBN:9784771020894
授業における使用言語
日本語
キーワード
呪術、託宣、ウィッチクラフト、スピリチュアリズム

開講科目名	専門演習 B(2)		
担当教員	山本 真也、松本 絵理子	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標
主として心理学に関連した領域で実証的研究を行うために必要な知識・技能について習得する機会を提供します。基礎的知識に基づいて実証的研究を行う練習をしましょう。
授業の概要と計画
科学論文は、一般的に導入・方法・結果・考察の4パートから成り立っています。本演習では、主に方法と結果、つまりデータの収集と分析に力点を置きますが、論文検索や結果発表なども実際におこなってもらうことで、科学研究を一通りおこなえるよう演習します。観察・実験研究を取り入れ、心理学を幅広く扱います。
成績評価と基準
実際に研究活動をしてもらいますので、出席を重視します。自主的な参加を求めます。 出席・参加度：70% 発表・レポート：30%
履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）
演習時間内ではカバーしきれないデータ収集・分析・発表準備などを課題として課すことがあります。野外に出て調査をおこなうこともあるので、遅刻しないように。万一欠席の場合は、次回までの課題等を必ず確認するようにしてください。「聞いていない」等の言い訳は一切認めません。
オフィスアワー・連絡先
月曜昼休みをオフィスアワーとします。事前にshinyayamamoto1981@gmail.comまで連絡ください。
学生へのメッセージ
卒業研究に向け、心理学研究を一通り自力でできるようになる準備をおこないます。この知識・技能は、社会人になってからも必ず役に立つでしょう。みなさん、怪しい「心理本」に騙されていませんか？
今年度の工夫
心理学系で卒業研究をおこなうことを考えている方は必ず履修してください。勉強と研究の違いは、大学生にとってつまづきやすい問題です。この演習では、研究の難しさ・面白さに気づいてもらえればと考えています。
教科書
教科書はありません。
参考書・参考資料等
適宜、授業中にお伝えします。 行動研究入門：動物行動の観察から解析まで / P. マーティン、P. ベイトソン 著/ 粕谷英一、近雅博、細馬宏通 訳：東海大学出版会, 1990.11.20第1刷, ISBN:9784486011378 これから論文を書く若者のために 大改訂増補版 / 酒井聡樹：共立出版, 2006, ISBN:9784320005716 バイオサイエンスの統計学—正しく活用するための実践理論 / 市原清志：南江堂, 1990, ISBN:9784524220366
授業における使用言語
日本語
キーワード
実験心理学、観察法、統計分析、プレゼンテーション

開講科目名	専門演習 B(2)		
担当教員	柴田 佳子	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

「移動・多文化共生・文化のゆらぎ」が大きなテーマです。グローバル化とローカル化、移動や越境に伴うコンフリクト、流動性、多文化（多言語、多宗教）共生への模索、ハイブリディティ（異種混交）、クレオール化の錯綜という側面に焦点を当て、過去や「歴史」への視点も養います。移民、混血、観光、開発、音楽（ダンス）、祝祭、その他ポピュラー文化の諸相など具体的な事例を通して考察できます。スキルとしては、文献読解、レジュメ作成、議論になるプレゼンテーション、質疑応答やコメント、論文作成といった知的能力の訓練を高度にしています。本演習を通して、知の探検を楽しみ、深い理解を求め、議論を展開しつつ、問題意識を高めて次のステップ、そして卒業研究へ進んでいくことを目指します。他講座所属学生も歓迎します。

授業の概要と計画

受講生の人数や各自の関心により、やり方も相談しながら決めます。前半／後半は文献その他の資料を解説し、毎回発表者がレジュメに沿って発表し、質疑応答、コメント、全員での議論をします。前／後半は各自の関心に沿った発表をし、それについて他のメンバーが質問やコメントをしてテーマに関する問題意識や方法論への視座を深める機会とします。成果の一つとして、学期末小論文をまとめます。学外での研修も受講生と相談して実施予定。

成績評価と基準

☆平常点（出席かつ積極的な関与。発表者はその準備状況、発表内容、その他の受講者は質問やコメントをして有意義に展開できるか、またゼミ運営、課外活動への参加など）が60%、
☆☆期末レポート（卒業論文作成の準備の一段階に位置づけ）40%

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

毎回、事前に課題文献などを十分に読み、それを反映した質問やコメントも用意すること。
文献購読において深い理解が求められるため、関係する他の文献なども参照しておくこと。
復習も入念に行ない、問題意識を深めておくこと。
いくつかの演習テーマにも共通するので、講義科目の「民族誌学」も受講して理解を深めてください。
今年度は今まで通年で開講していた演習B、後期には開講しません。
ただし、卒業演習には参加自由です。

オフィスアワー・連絡先

随時：あらかじめメールなどでアポイントメントをとってください。

学生へのメッセージ

積極的にかかわることで、自らの知力その他を高めていけるはずです。自ら学びほぐしながら、関心や問題意識を積極的に広め、かつ深めていってください。

今年度の工夫

受講生全員が初回から最終回へ向けて様々な「気づき」と充実感を増し加え、連帯意識を持ちながら切磋琢磨し、相互に良い刺激を与え合い、皆が協働作業を楽しめるように

教科書

授業のなかで指示します。

参考書・参考資料等

授業中に随時、指示します。

授業における使用言語

日本語、必要に応じて英語

キーワード

知の探検、深い理解

開講科目名	専門演習 B(2)		
担当教員	湯浅 英男	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

この演習では、テキストに沿う形で主に英語の「使役構文」について考察していきます。英語のmakeを用いた使役構文の意味は「強制的」な使役の意味しかないのか？あるいはmakeを用いた使役構文と、letやcauseを用いた使役構文の間に意味や用法の違いはないのか、あるいは違いがあるとしたらどのような違いがあるのかなど、具体例に即して受講者とともに考えていきます。これによって使役構文について一段高い運用能力を身につけることが可能になります。

授業の概要と計画

各授業毎に、2名から3名ずつ、レジュメを作成し、発表してもらいます。それに従い議論し理解を深めます。テキストに従って演習を進めますが、おおよそテキストの構成は概略的に挙げれば：
 1 使役動詞makeの表す意味 2 Make使役は強制使役のみか？ 3 land the planeとmake the plane landの違いは何か 4 Persuade使役構文 5 Let使役構文 といった内容です。これらのテーマについて順次発表してもらいながら、全員で内容の理解を深めつつ授業を進めます。

成績評価と基準

授業での質問・発言などの平生の授業活動が6割、学期末のレポートが4割とし、総合的に評価します。授業においては、内容の理解度や分析する力を見ます。またレポートにおいては着眼点、論理性、明晰性、表現力なども評価の対象になります。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

構文や言語表現に関心のある学生の履修を望みます。他の言語学関連の授業も積極的に履修してください。授業前にはしっかりテキストを読み、担当者はレジュメを作成し発表の準備をすること。また授業の後にはレジュメやテキストを使って復習し、わからないところがあれば図書館の関連文献で理解を深めてください。

オフィスアワー・連絡先

火曜日の12時20分から13時10分まで。研究室はB410。前もって連絡してくれることを希望します。

学生へのメッセージ

英語の構文について自らの興味・関心を深めてください。演習が進むに従って、英語の使役構文について英語コミュニティでどのような使い分けがなされているか関心が深まることと思います。積極的に自分の意見を言うことを歓迎します。

今年度の工夫

じっくり全員でテキストを読みながら理解を深め、英語の構文について考えたいと思います。

教科書

謎解きの英文法 使役 / 久野・高見：くろしお出版,2014,ISBN:9784874246382

参考書・参考資料等

受身と使役—その意味規則を探る / 高見健一：開拓社,2011,ISBN:9784758925259

授業における使用言語

日本語

キーワード

使役動詞 使役構文 強制使役 自発使役 意図 語彙的使役 迂言的使役 非意図的動詞 make persuade let cause

開講科目名	専門演習 B(2)		
担当教員	三浦 伸夫	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

科学革命論

17世紀は革命の時代と言われる。近代科学の理念が誕生した、歴史上最も重要な時代である。その時代の科学を、宗教、思想、制度などをも視野に入れながら見ていく。さらに科学技術史の研究方法を学ぶと同時に、歴史における科学技術の文化的問題を把握する。

授業の概要と計画

- ・科学史とは
- ・歴史記述について
- ・中世からルネサンスへ
- ・ルネサンス
- ・魔術
- ・機械論的科学観
- ・科学と宗教
- ・科学と文化
- など

成績評価と基準

参加点（出席、授業中の発言など）とレポート。その割合は、40：60。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

科学史の勉強は初めての学生を対象とする。科学自体の知識はとくには必要はない。世界史や思想史に関心があることが望ましい。予習をして疑問点を演習中に質問できるようにすること。この時代、科学技術は絵画、文学、思想など様々な方面に影響を与えた。これらを勉強したい学生にも参加をすすめる。

オフィスアワー・連絡先

メールにて事前調整する。

学生へのメッセージ

様々な内容を織り込むので、知的好奇心を満たすことになるが、その一方で、かなりの勉強が必要となる。科学と言えば、ガリレオやニュートンだけではない。美術や文学や宗教などにも触れながら、多方面から科学技術の歴史を眺めていく。それによって参加者の関心が広がるであろう

今年度の工夫

原典の翻訳なども取り入れることがある。

教科書

教科書を使用する
17世紀科学革命/ ジョン・ヘンリー：岩波書店 , ISBN:9784000270953

参考書・参考資料等

知のミクロコスモス/ ヒロヒライ：中央公論新社 ,2014 ,ISBN:9784120045950

授業における使用言語

日本語

キーワード

17世紀, 科学史, 思想史, ジェンダー史, 自然観

開講科目名	専門演習 B(2)		
担当教員	伊藤 友美	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標
この演習では、タイおよびその周辺の東南アジア諸国に漠然とした関心を持つ学生たちが、その歴史と文化に関するより具体的・専門的な理解を深めるきっかけを提供することを目標とします。
授業の概要と計画
2015年に刊行された石井米雄著・飯島明子解説『もう一つの王様と私』を授業の主たるテキストとして使用します。また参考資料として、映画「王様と私」、「アンナと王様」等を使用します。19世紀中葉のタイを取り巻く国際政治情勢を踏まえたうえで、当時のタイ王室と欧米人との交流、そしてその歴史叙述のあり方について考察します。
成績評価と基準
発表40% レポート40% 討論への参加20%
履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）
自分自身の発表準備だけでなく、他の学生が発表するテーマに関しても必ず予習・復習するよう、心がけてください。
オフィスアワー・連絡先
メールにて事前予約。 itot@kobe-u.ac.jp
学生へのメッセージ
テキストとする『もう一つの王様と私』は、タイ・東南アジア研究の大家であった故・石井米雄教授が一般向けに著した遺稿について、現在のタイ史についての先端的研究者である飯島明子教授が解説したものです。読みやすく興味深い内容でありながら、歴史的事実およびその後の時代における歴史の描かれ方の問題について、精緻な理解と重要な視点を身に着けることができます。漠然とタイや東南アジアに興味を持っている人が、その関心を深めるきっかけにできると思います。
今年度の工夫
教科書
もう一つの王様と私 / 石井米雄・飯島明子: めこん,2015 ,ISBN:
参考書・参考資料等
歴史叙述とナショナリズム：タイ近代史批判序説 / 小泉順子: ,2006 ,ISBN: 王様と私（映画） / : ,1956 ,ISBN: アンナと王様（映画） / : ,2010 ,ISBN:
授業における使用言語
日本語
キーワード
タイ、歴史、文化、東南アジア

開講科目名	専門演習 B(2)		
担当教員	安岡 正晴	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

この演習では、様々な社会問題を解決・改善するための政策を立案し、提言するトレーニングを行います。大学の授業では、社会問題に対する過去の研究や思想を学ぶことに多くの時間を割いていますが、「ではどうしたらよいのか？」という問いに正面から取り組む機会は限られています。結果的に大学時代に考えていた「理想」と、社会に出たからの「現実」がかけ離れたまま、社会人生活を送ることになりがちです。政治や社会を批判的にとらえるだけでは、自分が社会の一員となった場合の行動力や思考力は身に付きません。「どうせ理想通りにいかない世の中だから」と諦めて、本の中の理想に閉じこもるのではなく、現実の様々な制約の中でどこまで自分なりの理想を実現できるのかを考える力を身につけることこそ、政策型思考力だと言えます。この授業では、毎週、グループや個人で様々な社会問題に対する政策提言のプレゼンテーションを行うことで、政策を立案し、議論し、実現する、政策型思考力を鍛えてゆきたいと考えています。この演習は講座や学年を問わず、積極的に発言し、議論する学生を歓迎します。なお今期は6月27日（土）に関西大学で開催される関西国際関係合同ゼミナールに参加しますので、合同ゼミに関わる活動にも積極的に参加してほしいと思います。

授業の概要と計画

授業では、日本を含むG8（アメリカ、イギリス、カナダ、フランス、ドイツ、イタリア、ロシア）諸国の政策実践を踏まえながら、

1. 格差を是正し、調和のとれた社会をどのように実現するか？（福祉、教育、地方分権政策）
2. 階級、性別、地域、学歴、人種・民族・国籍、宗教など社会経済的・文化的背景が異なる人々はどうのようになれば共存できるのか？（ジェンダー政策、エンパワーメント、移民・外国人・少数民族政策、言語政策、文化政策、人権政策）
3. 経済成長や競争力の向上には何が必要か？（産業、科学技術、経済政策）
4. 安心・安全な社会や世界をどう実現するのか？（防災、防犯、予防医学、安全保障・軍縮政策）
5. 持続可能な社会作りに何が必要か？（環境、エネルギー、資源、食糧、農林漁業政策）
6. 生きがいのある国や世界をどう作るか？（文化、スポーツ振興、生涯教育、観光、余暇政策、少子高齢化政策）

などの分野での具体的な政策を立案し、議論してゆく予定です。

成績評価と基準

授業中のプレゼンテーション、発言、参加 40%
 論点コメント提出 60%
 を総合して評価します。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

毎週の授業についての2つから3つの論点について、400-1000字程度のコメントを提出することが必要です。このコメントが平常点の60%を占め、授業での発表・発言を40%で採点します。演習の前提知識として、「比較政策論（水3）」もなるべく併せて受講してください。なお6月27日に関西大学で開催される関西国際関係合同ゼミナールに参加し、発表する予定なので、合同ゼミ活動に意欲的な諸君を歓迎します。履修希望者は初回の授業（4月13日）に必ず出席してください。初回授業に出席できない場合は履修を認めません。

オフィスアワー・連絡先

オフィスアワー：水、金の昼休み、他は要予約
 研究室 E409
 E-mail yasuoka@kobe-u.ac.jp

学生へのメッセージ

演習は単なる授業科目の一つではなく、大学での研究の中心になるものです。自分の興味があることを発表するだけでなく、メンバーの発表から互いに学び、好奇心を膨らませて、他の人にも建設的にアドバイスできるような積極的な関係を作ってゆきたいと思っています。他講座や今期から初めて私の演習を受講する方も歓迎します。

今年度の工夫

今年は、議論した内容を知識として定着できるように工夫したいと思っています。

教科書

特に使用しない。

参考書・参考資料等

授業全体にかかわる参考書としては以下のようなものがあります。
公共政策学の基礎 / 秋吉貴雄・伊藤修一郎・北山俊哉 : 有斐閣 ,2010 ,ISBN:9784641183810
政策を創る！考える力を身につける：「政策思考力」基礎講座 / 宮脇淳 : ぎょうせい ,2011 ,ISBN:9784324091623
政策リサーチ入門：仮説検証による問題解決の技法 / 伊藤修一郎 : 東京大学出版会 ,2011 ,ISBN:9784130322157

授業における使用言語

日本語

キーワード

開講科目名	専門演習 B(2)		
担当教員	昆野 伸幸、長 志珠絵	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

卒業論文の執筆に向けて、ジェンダー射程に意識的な歴史研究の手法に学びながら、受講生各人の研究関心とテーマを絞っていくことを目指します。

授業の概要と計画

文献および史料講読を併行して進め、レポート用に受講生各人の関心に応じた研究報告を行います。テキストや史料講読を通じ、書かれていることを正確かつフェアに読み取る力、またそのうえで各自の関心にもとづいて独自の問題を発見・展開していく力等、卒論につなげる力の養成を目指します。前期は長が担当し、歴史研究の素材を通じ、ジェンダーに関わる諸問題を扱います。

成績評価と基準

成績評価と基準 平常点70%，期末レポート30%。
演習形式授業ですので、毎回出席が基本となります。成績は、討論への積極的な参加，報告の準備状況などを総合して評価します。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

初回の授業で報告担当者などを決めます。やむをえない事情で初回を欠席する場合には、長に連絡を入れてください。3年次以上の受講者の場合、前年度まででの長の講義の既履修を望みます。

オフィスアワー・連絡先

長志珠絵(Osa,Shizue) 研究室E207. 内線7450 オフィスアワーは随時。事前に連絡してください。

学生へのメッセージ

今年度の工夫

映像等を見る。

教科書

参考書・参考資料等

ジェンダー視点から戦後史を読む / 米田佐代子他：大月書店，2009，ISBN:9784272350322
歴史教育とジェンダー / 長野ひろ子他：青弓社，2011，ISBN:9784787233240
慰安婦問題を / から 考える / 日本史研究会歴史学研究会編：岩波書店，2014，ISBN:9784000610056
全身〇活時代 / 大内裕和他：青土社，2014，ISBN:9784791767823
/：双文社，，ISBN:

授業における使用言語

日本語

キーワード

歴史教育 ジェンダー

開講科目名	専門演習 B(2)		
担当教員	西谷 拓哉	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

この授業では、アメリカ合衆国の文化全般を扱うが、特に文学、映画、絵画、音楽等の芸術、大衆文化を通してアメリカの特質を理解することを目的とする。資料の収集や分析方法を学ぶとともに、特に英語文献の読解力を高めることも目指す。卒業研究につながるテーマを見つけることも課題の一つである。

授業の概要と計画

基本的には、受講生みずから設定した課題について発表し、それに対する質疑応答によって進めていくが、相談の上で、芸術や大衆文化の側面からアメリカ研究を進めるための共通の文献を読むことも考えている。期末にはゼミ論集をまとめた。

成績評価と基準

出席と発表、クラスへの貢献(50%)、期末レポート(50%)を総合して判断する。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

この演習は3回生対象である。発表に際しては事前にテーマを公表すること。質疑応答を活発に行なうこと。授業を受けて、自分で気づかなかった点について十分に復習すること。

オフィスアワー・連絡先

メールアドレス takuyan@kobe-u.ac.jp

研究室E202

学生へのメッセージ

自分で追究したいテーマを持っていないと苦しいことになるでしょう。しかし、それを発見するためのゼミでもあります。（3回生に）ESにおいて、書きにくい、分類しにくいゼミです。その点注意してください。

今年度の工夫

質問、議論を活発にするための事前学習、ゼミ論集の作成

教科書

特になし。

参考書・参考資料等

授業において指示する。

授業における使用言語

日本語

キーワード

アメリカ文化

開講科目名	専門演習 B(2)		
担当教員	坂本 千代	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

テーマ：「傑作小説をとおして近代フランスを考える」。フランス19世紀は、20世紀以降の世界（日本を含む）で起きるさまざまな社会問題の萌芽が見られ、それへの対処法について議論された時代であり、現代日本のアクチュアルな問題と結び付けることのできる、研究課題の宝庫ともいえる時代です。文学史的に見れば、小説というジャンルがフランスで最高潮に達した時期とも重なります。本演習で取り上げるスタンダールの『赤と黒』、バルザックの『ゴリオ爺さん』、フロベールの『ボヴァリー夫人』、ゾラの『ナナ』は19世紀フランス小説の傑作であり、世界各国語に訳され、映画や芝居にも翻案されています。これらの小説（翻訳）をじっくり検討しながら、近代ヨーロッパの歴史や文化、近代社会や近代都市、そこに暮らす人々の生き方や価値観などについて考えてみましょう。

授業の概要と計画

4つの小説を3回ずつくらいに分けて通読します。毎回の担当者は、内容をレジュメしたあと、そこに出てくる人物、思想、歴史的事件などから自分が興味あるものを選んで解説し、そのあと全員で議論を深めます、また、これらの小説の映画版（たくさんあります）の一部も見ると予定です。ただ、参加者の人数によっては演習内容を変更する可能性があります。

成績評価と基準

授業への出席と積極的な参加（50点）、および自分の選んだテーマについて学期末に行うプレゼンテーション（50点）。ただし、参加者の人数によって変更することもあります。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

毎回予習が必要です。フランス語を履修していなくても大丈夫です。

オフィスアワー・連絡先

国際文化学部E215

学生へのメッセージ

フランスへの留学を希望している学生、フランスの文化や社会に興味を持っていて、研究の糸口をつかみたいと思っている学生、あるいはもっと広く近代ヨーロッパの歴史や文化などに興味がある学生を歓迎します。

今年度の工夫

演習が単調にならないよう、DVDなどを活用します。

教科書

スタンダール『赤と黒』、バルザック『ゴリオ爺さん』（『ペール・ゴリオ』という題名でも訳されている）、フロベール『ボヴァリー夫人』、ゾラ『ナナ』。翻訳はどの版でもよい。

参考書・参考資料等

授業における使用言語

日本語

キーワード

近代ヨーロッパ スタンダール バルザック フロベール ゾラ

開講科目名	専門演習 B(2)		
担当教員	朝倉 三枝	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

本年度は「ファッションと映画」というテーマを取り上げ、映画衣裳という観点から、作品分析の方法を検討していく。

授業の概要と計画

授業前半は、テーマに関連する論文を読みながら、歴史映画における時代考証や、ハリウッド映画のモードへの影響、小説の映画化、衣服の記号性など、さまざまな問題について検討していく。その際、毎回、担当者を決め、内容紹介や関連する重要事項などを解説してもらう。取り上げる作品は、以下を予定しているが、受講者の希望も取り入れ、変更することもある。

「マリー・アントワネット」(ソフィア・ Coppola 監督、2006年)

「マイ・フェア・レディ」(ジョージ・キューカー監督、1964年)

「ポリー・マダーお前は誰だ」(ウィリアム・クライン監督、1966年)

「華麗なるギャッツビー」(ジャック・クレイトン監督、1974年) など。

後半は、各自の関心に応じてテーマを設定し、発表をしてもらい、全体のディスカッションを通してテーマに関する理解を深めます。

成績評価と基準

平常点(授業への参加度と貢献度) 40%

学期末レポート 60%

履修上の注意(準備学習・復習、関連科目情報等を含む)

授業の運営上、定員を12名とします。受講希望者は必ず初回授業に参加してください。

オフィスアワー・連絡先

E313

e-mail:asakukra@port.kobe-u.ac.jp

学生へのメッセージ

映画やドラマなどの映像作品は、ただ見るのではなく、自分ならではの視点を持つてみると、さらに深く鑑賞することができます。授業を通して、その楽しさをいっしょに学んでいきましょう。

今年度の工夫

教科書

プリント配布。

参考書・参考資料等

必要に応じ、適宜、授業で紹介。

授業における使用言語

日本語

キーワード

ファッション、映画

開講科目名	専門演習 B(2)		
担当教員	大月 一弘、康 敏	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

現在のWWWの多くのページは、決まった内容を表示するのではなく、利用者からの要求などに応じてダイナミックに表示する内容を変えて表示しています。例えば、検索サイトは、利用者の入力するキーワードに対応した結果を表示するし、掲示板・チャット用のサイトは利用者の投稿を即座にWebページに反映させます。また、授業アンケートのように異なる回答者から送られてきたデータをまとめて処理し、結果を表示することもあります。本演習では、このようなWebアプリケーションの仕組みについて学習し、実際にそのようなページをプログラミングして作成することを目標にします。

授業の概要と計画

次の2点について、演習を行う。

- (1) Webアプリケーションに関する調査
どんな仕組みがあるか？実存するWebページの調査
- (2) Webアプリケーションの作成
スクリプト言語phpを用いて、Webページを作成する。
- (3) Webアプリケーションの利用について議論を行う。

成績評価と基準

出席、プログラム作成課題、レポート課題で評価する。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

プログラムは、積み上げ式に理解する必要があるので、毎回出席し、予習・復習を入念に行なうこと。

オフィスアワー・連絡先

火曜昼休み、事前連絡必要
大月：ohtsuki@kobe-u.ac.jp
康：kang@people.kobe-u.ac.jp

学生へのメッセージ

今年度の工夫

教科書

Webテキストを利用する。

参考書・参考資料等

初回の授業で説明する。

授業における使用言語

日本語

キーワード

開講科目名	専門演習 B(2)		
担当教員	西澤 晃彦	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

社会学を勉強したい。この「ものの見方」は、自分が何がしかの意味を引き出そうとしている対象にとりあえずの引っ掛かりを見出す上でたいへん有効である。なんとなく卒論のテーマは決めているのだが、どう手出しをしているのか分からないときに、ひとまず「社会的」に考えてみると、あれこれ言えそうになるということは多分ある、と思う。そういうものの見方を色々と言い合いながら身につける演習にしたい。

授業の概要と計画

こちらで指定した文献の輪読、討論。このゼミは、毎週、テキストのある範囲の内容について、報告者（2名）、司会者、コメンテーターを決めて討論会形式で進める。討論会なので全員参加（私は傍観者）。報告者は、白書や過去の新聞記事など資料も準備して、報告に臨む。

成績評価と基準

報告（発表、レジュメ、質問への応答。なおパワーポイントの使用を推奨する）60%、ディスカッションへの参加の程度40%。そこから欠席分を減点する。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

文献は全員が事前に必ず読んでおくこと。

オフィスアワー・連絡先

学生へのメッセージ

今年度の工夫

教科書

申し訳ないが、私も著者の一人である、西澤晃彦・渋谷望『社会学をつかむ』有斐閣をテキストにしたいと思う。初回までに準備しておいていただきたい。

参考書・参考資料等

授業における使用言語

日本語

キーワード

--

開講科目名	専門演習 B(2)		
担当教員	小笠原 博毅	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

テーマ：「神戸の街の逆説と矛盾を歩く」
「ホーム」をキーワードに「復興」を疑います。
「復興」という言葉で何が言われ、何が隠蔽されているのか、それによって「ホーム」の感覚がどのように変容したのか。
「復して興した」はずなのに、「もう昔の神戸は二度と戻らない」という声が聞かれます。
誰かの「ホーム」は同時に他の誰かにとっての「アウェー」でしかないのか。
「ホーム」の感覚はどのように構成されるのか。
街を歩くことと耳を傾けることで「ホーム」について考える。阪神淡路大震災から20年とは、誰に誰によるなんのための「節目」とされているのでしょうか。。。

授業の概要と計画

レス・バック『耳を傾ける技術』および西岡研介・松本創『二つの震災』を講読し、川端浩平『ジモトを歩く』を携えながら「ホーム」をテーマに神戸の街路を歩き、話を聞き、写真を撮り、レポートをまとめる。
その他、文献資（史）料講読（英日）、文学・広告・映画・写真・現代アートの表象分析等、カルチュラル・スタディーズのありとあらゆる方法を駆使して、具体的な材料に対峙。
毎回一人ないし二人の研究・読書報告。

成績評価と基準

参加、思考、表現、理解。
開講中に数回の発表・報告を課します。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

前年度後期の演習に参加している3年生以上であること。
発表担当ではなくともテキストをきちんと読んでくること。
毎回の議論を各自再検証すること。

オフィスアワー・連絡先

木曜日 昼休み hirokio@kobe-u.ac.jp 内線7464

学生へのメッセージ

耳を傾けなければいけないのはなぜなのか、耳を傾けてしまうのはなぜなのか、考えましょう。

今年度の工夫

きちんと文献を読み込んでこないと、ゼミに参加する意味はありません。
予習を怠らぬこと。

教科書

耳を傾ける技術 / レス・バック：せりか書房, 2014, ISBN:9784796703345
ジモトを歩くー身近な世界のエスノグラフィ / 川端浩平：御茶の水書房, 2013, ISBN:9784275010421
二つの震災 / 西岡研介・松本創：講談社, 2012, ISBN:9784062175807

参考書・参考資料等

映像・音響その他資料を随時紹介していきます

授業における使用言語

日本もしくは英語

キーワード

開講科目名	専門演習 B(2)		
担当教員	藤野 一夫	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

芸術文化政策の理論と課題について、各種の文献講読を踏まえて根本的に討議する。

授業の概要と計画

芸術文化政策とその実践としてのアートマネジメントについて、歴史、理論的根拠付け、国際比較、事例研究、文化振興条例、芸術文化振興計画などを分析、考察し、新しい市民社会における文化環境をデザインする。

成績評価と基準

授業での積極的な参加（発表、発言）態度（二分の一）、期末のレポート（二分の一）。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

アートマネジメント系科目を履修することを希望する。

オフィスアワー・連絡先

金・昼休み fujino@kobe-u.ac.jp

学生へのメッセージ

文化政策、芸術の内容、アートマネジメントについて、その実践的関心だけでなく、グローバル化する社会、世界の中での理論的考察に関心をもってほしい。

今年度の工夫

教科書

授業中に指示。

参考書・参考資料等

授業中に指示する。

授業における使用言語

日本語

キーワード

開講科目名	専門演習 B(2)		
担当教員	清光 英成	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

データの構造化や組織化の基本について演習形式で習得できるようにします。主に分類や分解という物事を論理的に解釈するための方法論を理解できるようになります。

授業の概要と計画

数名のグループを作って協調的に、ある時は競争的に演習します。おもに、

- ・目に見える実体が存在するものの分類
- ・また、その部品展開(分解)
- ・組織体の分類と分解

等を例にします。

さらに、

- ・データ操作言語 (SQL)
- ・PostgreSQL

を用いて実際のデータベースを体験します。

成績評価と基準

出席とグループ内での貢献度で評価します。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

情報資料構成論（C045）を受講していることが望ましい。毎週の積み上げによって最終課題が完成しますので、復習は必須です。

オフィスアワー・連絡先

随時。（但し、事前連絡が必要。E-Mail: kiyomitsu@carp.kobe-u.ac.jp）
研究室B407

学生へのメッセージ

今年度の工夫

PostgreSQLを使ってSQLの演習も行います。

教科書

使用しない

参考書・参考資料等

都度指示、或いは配布する。

授業における使用言語

日本語

キーワード

Big Data, Information Retrieval, Data Structure, Data Type, Classification, Data Modeling

開講科目名	専門演習 B(2)		
担当教員	松家 理恵	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

18世紀から19世紀のイギリスにおける風景に関する美学（特に「サブライム」）と絵画、詩、庭園といった芸術作品との関係について、その根底にある自然観に着目しつつ、個々の作品を歴史的・社会文化的文脈から深く理解することを目指します。

授業の概要と計画

参加者の興味・関心を考慮に入れて、テーマに関する広い視野を獲得するための基本テキストを設定し、その講読を中心に授業を進めます。さらに各参加者は、具体的な芸術作品を自分で選んでテーマに関連した研究を行い、その成果を授業で発表し、授業でのディスカッションを経て、最終的に一本の論文（期末レポート）に仕上げます。

成績評価と基準

平常点50%、期末レポート50%

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

テキストの予習が毎回必須です。前年度後期の「近代表象文化論」の講義を受講していることが望ましいですが、演習のみの受講も可とします。

オフィスアワー・連絡先

連絡の上随時
janjur@kobe-u.ac.jp

学生へのメッセージ

初回の授業で参加者の関心を聞いて具体的な授業のテーマを絞り、テキストを決めるので、必ず初回から出席すること。

今年度の工夫

教科書

授業中に指示します。（下の参考書リスト等から選択する。）

参考書・参考資料等

崇高と美の観念の起源 / エドモンド・パーク：みすず，ISBN:4622050412
 暗い山と栄光の山 / M. H. ニコルソン：国書刊行会，ISBN:4336024634
 イギリス風式庭園の美学―「開かれた庭」のパラドックス / 安西信一：東京大学出版会，ISBN:4130160192
 庭のイングランド―風景の記号学と英国近代史 / 川崎寿彦：名古屋大学出版会，ISBN:4815803307
 ロマン派のエコロジー―ワーズワスと環境保護の伝統 / ジョナサン・ベイト：松柏社，ISBN:4881988972

授業における使用言語

日本語

キーワード

18－19世紀イギリス文化 風景

開講科目名	専門演習 B(2)		
担当教員	木下 資一	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

主に日本の伝承の問題について、多様な角度から考察し、理解を深める。各自の課題意識に基づいて、文献やその他資料、またフィールドワークによる調査資料などを集め、これらを駆使して報告を行う。今期は『古今著聞集』「怪異・変化」の説話を調べることを通じ、上記の目標を達成する。

授業の概要と計画

『古今著聞集』は鎌倉時代中期の建長六年（1254）、橘成季によって編纂・完成された。平安以来の貴族文化全般を体系的に分類し、神祇・釈教などの項目を設け、それぞれに属する説話を集め、時代順に配列している。これらの項目の中で、現代の妖怪文化などにもつながる「怪異・変化」の説話に注目し、それらを読みつつ、それら説話の成立する歴史的背景や文化的土壌について考究してみたい。

- 1. 『古今著聞集』「怪異・変化」輪読入門
- 2. 資料の調べ方 1
- 3. 資料の調べ方 2
- 4. 『古今著聞集』「怪異・変化」輪読 1（毎回 2 名程度の発表を見込む）
- 5. 『古今著聞集』「怪異・変化」輪読 2
- 6. 『古今著聞集』「怪異・変化」輪読 3
- 7. 『古今著聞集』「怪異・変化」輪読 4
- 8. 『古今著聞集』「怪異・変化」輪読 5
- 9. 『古今著聞集』「怪異・変化」輪読 6
- 10. 『古今著聞集』「怪異・変化」輪読 7
- 11. 『古今著聞集』「怪異・変化」輪読 8
- 12. 『古今著聞集』「怪異・変化」輪読 9
- 13. 『古今著聞集』「怪異・変化」輪読 10
- 14. レポートの書き方
- 15. 博物館訪問など

成績評価と基準

出席（報告者への質問・意見など：4 割）、報告（3 割）、レポート（3 割）で判断する。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

発表に際しては、十分な時間をかけて準備してください。

オフィスアワー・連絡先

昼休みなど。
研究室E201

学生へのメッセージ

積極的な授業参加を求めます。

今年度の工夫

多くの一次資料にふれる機会をもつ

教科書

古今著聞集 / 永積安明校注 : 岩波書店 , ISBN:

参考書・参考資料等

授業における使用言語

日本語（古文・漢文を含む）

キーワード

古今著聞集 怪異 変化 妖怪 鎌倉時代 説話
橘成季

開講科目名	専門演習 B(2)		
担当教員	片 茂	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

このゼミでは、近代化をめぐる様々の論争点について、学部生としてより高度な水準をねらって理解を深めることを目標とする。

授業の概要と計画

R. カステル『社会問題の変容』を講読する。参加者は、テキストを分析し説明するプレゼンテーションを課せられる。

成績評価と基準

出席と活発な参加 70%
最終レポート 30%

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

よく準備してくること

オフィスアワー・連絡先

廳 ：金曜日 13：00-13：20

学生へのメッセージ

今年度の工夫

教科書

R. カステル『社会問題の変容』ナカニシヤ出版

参考書・参考資料等

授業における使用言語

日本語

キーワード

開講科目名	専門演習 B(2)		
担当教員	王 柯	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

近代東アジアにおける日中関係
 とくに20世紀に起こった事例を取り上げ、様々な側面から日中関係の問題点を分析し、相互理解の必要性和重要性を再確認する

授業の概要と計画

時代に沿って、「戦後日中交流の始まり」、「両国間交流の拡大」、「日中交流を妨害する諸事件」、「両国国交正常化の前夜」、「日中国交の回復」、「日中関係の新たな発展」、「21世紀における日中関係」をテーマに、教員による講義、一緒に資料を調べること、テキストの輪読などの形をとって授業を進める。

成績評価と基準

出席率、学習の態度、期末レポートの成績を総合的に判断して成績を評価する。
 （出席と学習の態度は50%、期末レポートは50%）

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

1、中国および日中関係関連の新聞記事を入念に調べること。
 2、授業中に発表者の発表内容に対して積極的に質問すること。

オフィスアワー・連絡先

水曜日 12:30-13:10
 E214室、内線7459

学生へのメッセージ

心で学問を学ぼう。

今年度の工夫

教科書

授業中に指示

参考書・参考資料等

授業における使用言語

日本語

キーワード

開講科目名	専門演習 B(0)		
担当教員	定延 利之	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

ことばとコミュニケーションにおける発話キャラクタと表現キャラクタについて、比較的高度な記述とモデル化を検討する。今年度はメディア文化研究センター主催の「わたしのちょっと面白い話コンテスト」の作品等をも扱う予定。

授業の概要と計画

「キャラクタ」概念の導入後、それぞれのキャラクタについて担当者を決めて発表してもらう。

成績評価と基準

発表の内容と期末レポートの内容で評価する。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

毎回、十分な準備を行なうこと。

オフィスアワー・連絡先

水曜昼休み（要予約）

学生へのメッセージ

さまざまな資料を調べてもらう、授業外の時間が要求される。

今年度の工夫

教科書

使用しない

参考書・参考資料等

日本語社会のぞきキャラくり / 定延利之：三省堂,2011 ,ISBN:9784385365251
ヴァーチャル日本語 役割語の謎 / 金水敏：岩波書店 ,2003 ,ISBN:9784000068277

授業における使用言語

日本語

キーワード

開講科目名	専門演習 B(2)		
担当教員	定延 利之	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

ことばとコミュニケーションにおける発話キャラクタと表現キャラクタについて、比較的高度な記述とモデル化を検討する。今年度はメディア文化研究センター主催の「わたしのちょっと面白い話コンテスト」の作品等をも扱う予定。

授業の概要と計画

「キャラクタ」概念の導入後、それぞれのキャラクタについて担当者を決めて発表してもらう。

成績評価と基準

発表の内容と期末レポートの内容で評価する。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

毎回、十分な準備を行なうこと。

オフィスアワー・連絡先

水曜昼休み（要予約）

学生へのメッセージ

さまざまな資料を調べてもらう、授業外の時間が要求される。

今年度の工夫

教科書

使用しない

参考書・参考資料等

日本語社会のぞきキャラくり / 定延利之：三省堂,2011,ISBN:9784385365251
ヴァーチャル日本語 役割語の謎 / 金水敏：岩波書店,2003,ISBN:9784000068277

授業における使用言語

日本語

キーワード

開講科目名	専門演習 B(2)		
担当教員	市田 良彦	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

近現代の「共和主義」問題。社会主義圏の崩壊以降、「共和主義」は唯一残った可能かつ正しい政治体制のように語られることも多いが、福祉国家体制の危機や宗教問題の勃興により、共和体制の限界もまた目に見えるようになってきている。そうした現状を背景に、「共和主義」とはなにかを思想史的に探ることを目標とする。

授業の概要と計画

何冊かの書物を紹介しますので、その一部または全体を口頭発表（要レジュメ）してもらいます。さしあたり、下記のような書物を候補に考えています。歴史と現状のバランスに留意したいと思います。初回に簡単な「共和主義」思想のガイダンスを行います。

成績評価と基準

出席と発表。議論に参加する積極性を重視します。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

特にありませんが、自分の担当でない箇所についても、あらかじめ必ず読んでくること。

オフィスアワー・連絡先

E304。事前にメールで連絡してください。ucml（アット）kobe-u.ac.jp

学生へのメッセージ

難しい本にも挑戦する姿勢をだいじにしてください。

今年度の工夫

教科書

思想としての〈共和国〉/ レジス・ドゥブレその他：,,ISBN:
民主主義と宗教/ マルセル・ゴッシュェ：,,ISBN:
社会問題の変容/ ロベール・カステル：,,ISBN:
マキアヴェリアン・モーメント/ ポーコック：,,ISBN:

参考書・参考資料等

授業における使用言語

日本語

キーワード

共和主義 福祉国家 賃労働 宗教 民主主義

開講科目名	専門演習 B(2)		
担当教員	吉岡 政徳	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

文化人類学の基本的な考え方を習得することを目標とする。

授業の概要と計画

今年度は、参加者が興味を持っているテーマに関する文献を読み、それらに関する発表を交代で行う。発表担当者以外も同じ論文を読み、その内容、論旨について発表担当者に質問し、全員でその発表をめぐって討論を行う。

成績評価と基準

出席点を80点満点(発表や議論への発言などを考慮して評価する)、学期末のレポートを20点満点とする。出席点に関しては、1回欠席するたびにマイナス10点とするので、5回欠席すると合格点に満たなくなるので注意すること。

履修上の注意(準備学習・復習、関連科目情報等を含む)

出席点の中には、発表と討論を行うことが含まれる。毎回、討論ができるように文献を読み込んでおくこと。なお、1年生用の講義「文化人類学」を受講済みが望ましい。

オフィスアワー・連絡先

yoshioka[at]tiger.kobe-u.ac.jp ([at]を@に変換すること)に連絡してアポを取るようにしてください。

学生へのメッセージ

今年度の工夫

教科書

毎回、次の演習で用いる資料を配布する。

参考書・参考資料等

授業における使用言語

日本語

キーワード

文化人類学 討論 基礎的課題

開講科目名	専門演習 B(2)		
担当教員	阪野 智一	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

本演習は、「移民問題の政治化」をテーマとしている。冷戦崩壊後のヨーロッパ諸国において、移民規制強化の政策や特にイスラム系移民を排斥しようとする政治運動が台頭しつつある。まずEUレベルでの移民・難民政策を検討した後、欧州化（Europeanization）という視点から、ヨーロッパ諸国の移民政策の変容を検討したい。さらに注目されるべきは、ポピュリスト的性格を伴った極右政党もしくは団体による新しいスタイルの移民排斥運動の展開である。ヨーロッパ主要国におけるポピュリズムの事例を比較検討し、そうした現象が投げかけている政党政治や現代デモクラシーの問題や課題について考察していきたい。

授業の概要と計画

章毎に担当者による報告・コメントを基に、参加者によるディスカッションを通じて理解を深めていく。初回に分担とスケジュールを決めるので、参加希望者は是非出席してください。

- 第1回：ガイダンス：問題の所在
- 第2回：EUレベルでの移民・難民政策－理論的枠組み
- 第3回：ヨーロッパ諸国の移民政策の欧州化（Europeanization）
- 第4回：ドイツにおける移民・外国人政策の転換
- 第5回：オーストリアにおける移民問題とその歴史的位相
- 第6回：移民問題とポピュリズム－問題の位相
- 第7回：新しい右翼の台頭とポピュリズム－比較分析と理論研究の枠組み
- 第8回：ドイツにおける右翼ポピュリズム
- 第9回：フランスにおけるポピュリズムと国民戦線
- 第10回：イギリスにおけるポピュリズム－新自由主義から反移民・反EUへ
- 第11回：イタリアにおけるポピュリズム
- 第12回：オーストリアにおけるポピュリズムとハイダー自由党
- 第13回：スウェーデン民主党と福祉ショーヴィニズム
- 第14回：日本におけるポピュリズムと外国人問題

成績評価と基準

報告 50%（報告の論理性、独創性、批判力など）
授業での活動 40%（ディスカッションへの参加度、質問力など）
出席点 10%

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

準備学習として報告の担当者は、自分が担当する章についてレジュメを作成すること、また他の履修者は疑問点を整理しておくことが求められる。復習として、各回の冒頭で前回の主要な論点について理解を確認する。

オフィスアワー・連絡先

毎週金曜日の昼休み。研究室（E414）。
それ以外は事前にメールで連絡して下さい。
E-mail: sakano@kobe-u.ac.jp

学生へのメッセージ

実態を知ることと同時に、その意味や理論的視点も重視しています。理論は、多面的な様相を持つ事象を理解する上で、ガイドラインの役割を果たすからです。

今年度の工夫

教科書

国境を超える政策実験・EU / 平島健司：東京大学出版会，2008，ISBN：
国際移動の比較政治学 / 日本比較政治学会：ミネルヴァ書房，2009，ISBN：
移民と政治 / 河原祐馬：昭和堂，2011，ISBN：
ポピュリズム時代のデモクラシー / 高橋進・石田徹：法律文化社，2013，ISBN：

参考書・参考資料等

授業における使用言語

日本語

キーワード

移民問題、移民政策、欧州化（Europeanization）、ポピュリズム、極右政党、福祉ショーヴィニズム

開講科目名	スラヴ文化論		
担当教員	青島 陽子	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

現在、EUの東の境界線はいまだ安定していない。旧共産圏の中東欧諸国、旧ソ連圏のウクライナ・ベラルーシはEUの東方拡大の最前線になっており、EUとロシアとのあいだで熾烈な駆け引きが繰り返されている。旧共産圏の東欧諸国はEU統合の成功のカギを握っており、旧共産圏の中東欧諸国やウクライナやベラルーシは、いわば、ヨーロッパとはどこまでなのか、ヨーロッパとは何なのか、また、ヨーロッパの外には何があるのか、などを考える一つの重要なファクターとなっている。

本講義は、こうした現代の状況を念頭に置きながら、現在の政治状況を概観し、さらに当地域の文化的・社会的・政治的なコンフリクトの源流を歴史学的アプローチによって理解することをめざす。

授業の概要と計画

第一部：ウクライナ情勢を中心に現代の国際情勢を見る

1. イントロダクション…ウクライナ情勢を振り返る…初回小レポート
2. ソ連の崩壊とEUの東方拡大
3. 旧東欧諸国の現在
4. ロシアはどこへ行く？
5. ウクライナとベラルーシの現在
6. まとめと中間テスト

第二部：歴史を振り返る

7. 旧共産圏・ソ連圏の文化的源流
8. 近世の国際情勢
9. 近代的諸帝国の興亡
10. ロシア革命と第一次世界大戦…「民族」と「国境」
11. ソ連とはどのような世界か
12. 第二次世界大戦による破壊の連鎖
13. ソ連の崩壊、秩序は再編されるのか
14. ヨーロッパ東部辺境地域における政治的分断線と文化的分断線
15. エピローグ

以上は予定であり、進捗状況を鑑みて適宜変更する可能性がある。

成績評価と基準

初回小レポート15%、中間テスト35%、期末テスト50%で評価をします

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

西洋史の知識やロシア・東欧の現代事情に関する知識がない方も歓迎しますが、積極的に西洋史全体について、現代の国際情勢全般について、学習し、思考する姿勢が望まれます。とくに日々の国際ニュースを注意深く読むようにしてください。また、授業のなかで分からないことがあれば必ず調べるようにしてください。ロシアやヨーロッパの歴史・社会・文化に関わる授業と関連して履修することをお勧めします。

オフィスアワー・連絡先

研究室E219

メールにて事前に連絡すること。

yaoshima(at)dolphin.kobe-u.ac.jp

学生へのメッセージ

東欧・ロシアは地味なテーマだと思うかもしれませんが、ヨーロッパの諸問題は凝縮したかたちでこの地域にあらわれます。本講義では、東欧・ロシアをヨーロッパの秩序を考えるときの鍵になる地域として論じていきたいと思っています。

今年度の工夫

パワーポイントを用いながら、分かりやすい授業を心がけます。

教科書

参考書・参考資料等

授業における使用言語

日本語

キーワード

ロシア 東欧 歴史 民族 宗教

開講科目名	専門演習 B(2)		
担当教員	村尾 元	開講区分	単位数
		前期	2単位
授業のテーマと到達目標			
2年次後期から3年次後期にかけて開講される、一連の専門演習B(1)-(3)では、コミュニケーション、社会、経済における現実の現象を分析するための手法を学びます。			
3年次前期の専門演習B(2)では、コンピュータを利用して実際にデータを分析する方法を学びます。			
授業の概要と計画			
コミュニケーション、社会、経済における現象を、コンピュータを用いて分析する方法に関する書籍をそれぞれが分担、紹介しつつ、実際にコンピュータを利用して実習を行うという形式で勉強を進めます。			
この演習を履修するにあたってプログラミングなど、コンピュータに関する専門的な知識は必要ありませんが、一通りのコンピュータ操作ができることが望ましいです。			
成績評価と基準			
以下の点から評価を行います。 -出席および学習態度、発表や議論への参加によるゼミへの貢献(60%) -レポートや課題などの提出物(40%)			
履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）			
2年次後期に開講される「専門演習B(1)」を受講していることが望ましいです。			
オフィスアワー・連絡先			
いつでもどうぞ。ただし、あらかじめ電子メールで連絡をして下さい。 電子メール：hajime.murao@mulabo.org 研究室：B棟4階B409室			
学生へのメッセージ			
今年度の工夫			
教科書			
初回授業時に指定します。			
参考書・参考資料等			
必要に応じて随時指定します。			
授業における使用言語			
日本語			
キーワード			
社会システム科学、数理社会学、ゲーム理論、心理統計学、データマイニング			

開講科目名	専門演習 B(2)		
担当教員	吉田 典子	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

絵画を中心に、デザイン、ファッションなど、視覚文化と社会に関する問題を扱う。芸術と社会、ジャポニズムなど異文化間の交流、芸術とジェンダーなどのテーマについて考察し、芸術表象に関する研究の基礎を作ることを目的とする。

授業の概要と計画

テキストには、印象派以降の近現代絵画を鑑賞するために必要な知識や視点を主題別に解説した本を用いる。演習形式により、テキストを精読して十分な理解をした上で、さらにテキストの中で各自が興味をもったテーマや作品について口頭発表をおこない、レポート（小論文）を作成する。

成績評価と基準

出席と平常の活動(50%)、期末の小論文(50%)を総合して判断する。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

演習では、報告担当者だけではなく参加者全員が文献を読んでもくこと、ディスカッションに積極的に参加することが求められます。自分の意見を他の参加者に伝えられるよう、各自しっかりと文献を読んだり、関連資料を探したりするなど、予習をしてきてください。また、各自考察してみたいと思う具体的な対象について、自主的に調査・研究を進めてください。

オフィスアワー・連絡先

随時（メールで事前連絡のこと）
ynoriko@kobe-u.ac.jp

学生へのメッセージ

授業でも、随時作品紹介を行うので、各自で積極的に鑑賞するようにしてください。
芸術文化論コースではオペラ、コンサート、映画鑑賞会や美術展鑑賞も行う予定です。

今年度の工夫

教科書

まなざしのレッスン(2)西洋近現代絵画 / 三浦篤：東京大学出版会 ,2015 ,ISBN:978-4-13-083031-7

参考書・参考資料等

授業における使用言語

日本語

キーワード

開講科目名	専門演習 B(2)		
担当教員	林 良子	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

外国人に日本語を教えようとするときに、どのような知識が必要となるのか、どのような教材がふさわしいのかを議論し、言語学、外国語教授法の観点からまとめ、マルチメディアを用いて教材を自作する。

授業の概要と計画

本演習では、外国人に対する日本語教育において必要な知識を整理し、実際の外国人学習者とインターネット上でコンタクトを取りながら、自作した教材について議論することを予定している。授業は2部に分かれる。前半は、以下のテーマについて文献の報告を行なう。後半は、グループに分かれて、海外の学習者と協働しながら、「私のちょっと面白い話」をテーマに実際に動画、静止画による教材を共同作成し、意見交換していく（予定）。

テーマ：

1. 日本語学習者の学習の動機とニーズ分析
2. 日本語教材分析
3. 日本語において習得困難な点（文字、音声、文法、その他）とその要因について

成績評価と基準

積極的な授業参加態度（授業での発表）30%＋文献の報告30%＋共同作業による作品づくり40%

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

積極的な授業態度と課外におけるリサーチ（インタビュー、メール交換など）を望みます。休む際には必ず連絡をください。

オフィスアワー・連絡先

火曜日・木曜日昼休み（事前メール連絡要）

学生へのメッセージ

今年度もフランスのレンヌ大学で日本語を学ぶ学習者とコンタクトを取りながら演習をすすめていきます（他の大学とは交渉中）。情報コミュニケーション講座以外の学生の参加も歓迎します。

今年度の工夫

インターネットを用いて、実際の海外の日本語学習者と連携しあって授業を展開していく予定です。

教科書

授業時に詳しく説明します。海外の日本語教育事情に関しては、以下のURLを参考にしてください。

参考書・参考資料等

海外における日本語教育の概要については以下のHPを参照してください。

授業における使用言語

日本語、部分的にフランス語、英語など

キーワード

開講科目名	専門演習 B(2)		
担当教員	櫻井 徹	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

現代世界における移住と移民

今学期は、グローバル・ジャスティスを考える際の前提となるべき問い「なぜ人々は国境を越えるのか——または越えようとししないのか——」という問題について考えるために、カースルズ&ミラー『国際移民の時代』を教科書として採り上げ、移民についての歴史を振り返るとともに、世界的に増大しつつある移民・移住の現状と課題について深くかつ網羅的に考えたい。

このような学習を通じて、内戦、経済格差、貧困問題、人権侵害といったグローバルな諸課題を前にして、国境というボーダーが果たしていかなる道徳的意味をもつのか、そのボーダーを越えて利益と負担の分配を調整することが可能なのか、そのためにはいかなる原理が必要とされているのか、を考えていきたい。

授業の概要と計画

テキストにはカースルズ&ミラー『国際移民の時代』(名古屋大学出版会)を使用し、毎週1章ずつをめどに、各受講生に簡単なショート・エッセイをもとに疑問・批判を発表してもらうという形式で討論を進めていきます。

成績評価と基準

ショート・エッセイ30%、プレゼンテーションとディスカッション40%、出席30%。特に、毎回のレポートをいかに丁寧かつ緻密に作成できたか、ゼミでの討論にいかに積極的に貢献できたかを中心に評価します。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

上にも述べたように、毎回、各人に簡単なショート・エッセイをもとに疑問・批判等を発表してもらいます。演習は参加者みんなで作り上げる授業ですから、無断欠席を禁止します。やむを得ず授業を欠席する場合は、メール等で事前に連絡してください。

オフィスアワー・連絡先

電子メール(sakurait@kobe-u.ac.jp)にて随時。

学生へのメッセージ

現代世界にとって喫緊の課題についてあらためて自分の頭で考えてみるという体験は、卒業論文作成や社会人になってからのプレゼンなどいろいろな場面で役立つと思います。

今年度の工夫

適宜、授業のテーマに関係のある映画も鑑賞し、その背景を解説します。

教科書

カースルズ&ミラー『国際移民の時代』(名古屋大学出版会)。第1回目の授業までに入手してください。

参考書・参考資料等

授業における使用言語

日本語

キーワード

国境、移住、移民、人権、自由、貧困、国民

開講科目名	専門演習 B(2)		
担当教員	塚原 東吾	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

STSと、原発とバイオテクノロジー：「読書マラソン」による徹底的な情報収集

授業の概要と計画

STSの領域を広くあつかうが、なかでも、原発問題とバイオテクノロジーについて、毎週一冊の本を読む「読書マラソン」を行う。それに合わせて、関係のドキュメンタリィフィルムを毎週一本見る、「フィルム・マラソン」も、併用して、問題の基本的な枠組みをとらえる。

成績評価と基準

毎週のレポート、エッセイ、書評と映評の提出

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

知のマラソンなので、かなりの体力を必要とする。塚原の他の授業も全てとらないと、履修はかなり厳しいと思う。だから、「授業のつまみ食い」はやめよう。

オフィスアワー・連絡先

木・ヒル、7435

学生へのメッセージ

毎週最低3時間（通常5時間程度）の予習を必要とする。

今年度の工夫

予習をしないとわからないような授業になっている。マラソンの名にふさわしいような、持久的で持続的な「知的筋トレ」を目指す。だから、「じわじわくる」、知的な興奮を味わうことができる。

教科書

参考書・参考資料等

授業における使用言語

日本語だが、英語のテキストも利用するし、英語のドキュメンタリィ・フィルムなどは、原語での視聴を試みる。中・独・仏の場合、サブタイトルは英語。第2外国語が中・独・仏の場合、それらの原語の使用も試みる。

キーワード

原発、バイオテクノロジー、バイオキャピタリズム、311

開講科目名	専門演習 B(2)		
担当教員	萩原 守	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

この授業のテーマと目標は、歴史や環境問題等を含む広い意味での「北アジア研究」とする。

授業の概要と計画

詳細は参加者の希望を聞いた上で決定するが、予定としては、モンゴルや中国に関して日本語で書かれた研究論文・研究書をなるべく多角的な視点から選定して、参加者に順次紹介・発表してもらい、それによって、現在の研究状況や代表的な研究手法、史料状況等を広く把握する。参加者は、各自の関心に応じて研究論文を選び、参加者全員の前で内容の要約と批評を行う。可能であれば、参加者自身による研究をも、発表してもらう。

1. 自己紹介
2. 最近の北アジア研究の潮流（歴史、人類学、法学）
3. 参加者自身の選定した論文の紹介

成績評価と基準

演習なので、出席と質疑応答内容80パーセント、発表20パーセントの割合で評価する。発表しない時でも、質問することが重要。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

なるべく欠席しないこと。また、他の学生が発表しているときにも、参考となりそうな点に常に注意を払う必要がある。発表には予習が必要であり、発表後は、入念な復習によって、より効果的な授業となる。

オフィスアワー・連絡先

月曜・木曜昼休み 研究室はE-206
連絡先は、hagihara@kobe-u.ac.jp

学生へのメッセージ

気軽に参加してください。

今年度の工夫

学生の希望に配慮したい。

教科書

特になし。論文はコピーで配布し、参考文献は授業中に指示する。

参考書・参考資料等

授業中に指示する。

授業における使用言語

日本語

キーワード

北アジア モンゴル 中国

開講科目名	専門演習 B(2)		
担当教員	井上 弘貴	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

このゼミ（専門演習 B）では、地域再生、都市景観、まちづくり、NPO、市民と行政の協働といった都市や地域にかかわるテーマをとりあつかい、グローバル化のうねりがローカルな場所にもたらすさまざまな問題を受講してくれたみなさんと考えます。今年度前期は、都市空間の再生と公共性をテーマにします。国際文化学部 of ゼミとしてこのテーマを扱うなかで、欧米ならびに日本における都市空間再生の試みのなかに生じているさまざまな可能性と問題点の双方を考え、それをつうじて都市空間のもつ公共性とはどのようなものなのかについて理解を深めていければと考えています。

授業の概要と計画

まず参加者の共通理解を深めるために、都市空間の再生に関連するテキストを全員で輪読のうえディスカッションをする回を最初に複数回設けます。その共通理解を踏まえたうえで、今期のテーマに関係する個人報告をそれぞれの参加者にしてもらいます。

成績評価と基準

平常点で評価をおこないます。平常点は毎回の出席状況とテキスト輪読時の貢献状況、個人報告とそのあとのフィードバックを中心とした演習への貢献によって総合的に算定します。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

出席を重視します。なお、この演習の履修を考えているひとは、初回のゼミにできるだけ参加してください。

オフィスアワー・連絡先

随時応相談
hiro_inouye@port.kobe-u.ac.jp

学生へのメッセージ

都市空間の再生は都市工学や建築学といったハードの面からの研究が盛んですが、都市空間が生み出す文化の多様性や都市空間の持続可能性をめぐるのは、どのような合意形成が可能かということも含めてソフトの面でも研究も不可欠です。国際文化学部のゼミとして、この後者に力点を置いて考えてみましょう。

今年度の工夫

昨年度からメーリングリストを活用し、演習のなかで議論しきれなかったトピックや演習での議論のまとめと反省を各回の報告者には事後的にML上でレポートしてもらっています。昨年度の試行を踏まえ、今年度もこれを継続します。

教科書

今期のテキストは基本的にコピー配布を予定しています。テキストの詳細は初回のゼミで説明を予定しています。現段階でテキストとしてその一部を使用する可能性があるものは、参考書の欄に掲載します。
/: , ISBN:

参考書・参考資料等

以下のもの以外は、ゼミの議論の方向性を見極めて、適宜ご紹介します。
人間の街——公共空間のデザイン / ヤン・ゲール: 鹿島出版会, 2014, ISBN: 978-4306046009
ジェントリフィケーションと報復都市: 新たな都市のフロンティア / ニール・スミス: ミネルヴァ書房, 2014, ISBN: 978-4623070015
HIGH LINE アート、市民、ボランティアが立ち上がるニューヨーク流都市再生の物語 / ジョシュア・デイヴィッド、ロバート・ハモンド: アメリカン・ブック&シネマ, 2013, ISBN: 978-4903825090
サードプレイス——コミュニティの核になる「とびきり居心地よい場所」 / レイ・オルデンバーグ: みすず書房, 2013, ISBN: 978-4622077800

授業における使用言語

日本語

キーワード

ジェントリフィケーション リノベーション コミュニティ 合意形成 ポケット・パーク 空き家問題 バンクシー 公共交通 コンパクトシティ

開講科目名	専門演習 B(2)		
担当教員	塚原 東吾	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

原発と廃棄物（ガレキ）とバイオテクノロジー：現地での情報収集と徹底的な情報収集@もんじゅ、上関、豊島、直島、産業廃棄物

授業の概要と計画

前半は徹底的な読書とフィルム・ドキュメンタリィなどによる情報収集を行う。
後半には廃棄物（ガレキ）の問題について、瀬戸内海の豊島産業廃棄物問題を考えるために、現地調査をおこな
い、昨年の、瀬戸内アートフェスティバルの取り組みなどを検証する。また原発については敦賀原発および「もん
じゅ」の現地調査を試みる。バイオテクノロジーについては各種研究機関・エージェントの調査を試みる。

成績評価と基準

毎週のレポート、およびエッセイ。
また現地調査での企画書・現地報告・分析、
研究計画書などによって評価する。
基準は世界レベルで通用するオリジナリティとプライオリティがあるかどうかという以外に、アカデミアでの意味
はない。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

かなり面白い。だが時間がかかりかかるし、多くの予備知識が必要なので、塚原の他の授業を取っておくことを推
奨する。基本的に毎回最低でも3時間程度（通常で5時間）の予習がない場合には、授業について来れない。

オフィスアワー・連絡先

木ヒル、E406

学生へのメッセージ

ポスト311の時代に、何をどうする？
でも、学問の面白さだけは、蘭学者並みに、スゴイ。

今年度の工夫

原発と廃棄物（ガレキ）とバイオテクノロジーについて、事前の情報収集と現地での徹底的な情報収集を組み合わ
せ、しかもそこに豊島・直島という瀬戸内海の調査（アート・フェスティバル）を加えたところ。

教科書

参考書・参考資料等

授業における使用言語

日本語だが、英語ができない人は困る。

キーワード

もんじゅ、上関、豊島、直島、産業廃棄物

開講科目名	専門演習 B(2)		
担当教員	近藤 正基	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

現在、先進諸国では福祉再編の取り組みが活発化し、福祉政治のあり方も変わりつつあります。本演習では、ドイツを中心に、日本や他のヨーロッパ諸国との比較を交えながら、現代福祉国家・政治の変容について学んでいきます。

授業の概要と計画

①文献の輪読。鎮目真人・近藤正基編『比較福祉国家』や新川敏光編『福祉国家変革の理路』（ともにミネルヴァ書房）などを予定しています。担当者の発表の後、受講者で討論を行います。
 ②講演。福祉や政治の現場で活動する方々の講演会を数回開催する予定です。
 ③調査・研究報告。演習内容を踏まえ、各グループが調査した内容について報告し、受講者で議論します。
 ※合同ゼミを開催する可能性があります。

成績評価と基準

授業への参加、発言（40点）、調査・研究報告（30点）、プレゼンテーション（30点）。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

遅刻および欠席は減点対象となるので、気を付けてください。初回の授業で具体的な授業計画を立てるので（輪読・コメント・研究報告の担当者などの確定）、受講者は、必ず初回の授業に参加してください。参加しない場合、履修が認められない可能性があります。

オフィスアワー・連絡先

オフィスアワーは特に定めません。授業内容や研究に関して質問がある方は、メールでアポイントメントをとってください。メールアドレス：mmrkondo@gmail.com。

学生へのメッセージ

今年度の工夫

教科書

授業中に指定します。

参考書・参考資料等

授業中に指定します。
 比較福祉国家——理論・計量・各国事例 / 鎮目真人・近藤正基編：ミネルヴァ書房, 2013年, ISBN:4623066622
 現代ドイツ政治——統一後の20年 / 西田慎・近藤正基編：ミネルヴァ書房, 2014年, ISBN:4623072045

授業における使用言語

日本語、ドイツ語、英語

キーワード

ドイツ政治、比較福祉国家論、比較政治学

開講科目名	専門演習 B(2)		
担当教員	山崎 康仕	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

テーマ：「生命をめぐる法と倫理」

目標：生命倫理をめぐる諸問題において、いかなる倫理や規範が問題とされ、どのような対応が求められるのかについて考察することを通して、倫理や道德などの文化規範を新たに形成したり再構成する際に要請される、多角的な視点と論証能力、さらにそれらを通しての問題解決能力の育成を、この演習は目標としている。

授業の概要と計画

最初に総論的な文献を使用して、生命倫理に関する基本的な諸問題を概観する。担当者の報告(担当個所の要約とコメント)を参加者全員で検討するという形で演習を進める。次に各自の関心領域についてより詳しい報告を検討するという形で進める。

成績評価と基準

平常点(授業での議論への貢献度)70%, および学期末のレポート30%で評価する。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

毎回の検討箇所の予習をし要約レポートを提出すること。

オフィスアワー・連絡先

随時。要連絡。

yy@people.kobe-u.ac.jp

学生へのメッセージ

今年度の工夫

教科書

赤林朗『入門・医療倫理』（勁草書房, 2005）

粟屋剛『生命倫理学講義スライドノート』（ふくろう出版,2013）

A.ジャンセン『生命倫理学の誕生』（勁草書房,2009）

立岩真也ほか『生死の語り行い〈1〉尊厳死法案・抵抗・生命倫理学』（生活書院,2012）

/：,2005,ISBN:

参考書・参考資料等

今井道夫『生命倫理学入門 第3版』（産業図書,2011）鈴森 薫(訳)『生殖医療をめぐるバイオエシックスー生殖補助医療と遺伝学の接点:技術的・社会的・倫理的ならびに法的諸問題』（メジカルビュー社,2009）

香川 知晶『命は誰のものか』（ディスカヴァー・トゥエンティワン,2009）

香川 知晶・樫則章(編)『生命倫理の基本概念(シリーズ生命倫理学)』（丸善出版,2012）

浅井篤・高橋隆雄(編)『臨床倫理(シリーズ生命倫理学)』（丸善出版,2012）

今井道夫・森下直貴(編)『生命倫理学の基本構図(シリーズ生命倫理学)』（丸善出版,2012）

菅沼信彦・盛永審一郎(編)『生殖医療(シリーズ生命倫理学)』（丸善出版,2012）

倉持武・丸山英二(編)『脳死・移植医療(シリーズ生命倫理学)』（丸善出版,2012）

香川 知晶『生命倫理の成立』（勁草書房,2000）

授業における使用言語

日本語

キーワード

生命倫理学 法と道德 法哲学 医療倫理 生殖医療

開講科目名	専門演習 B(2)		
担当教員	宗像 恵	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

ジェンダーに関わる問題をテーマにします。現在の社会にはジェンダーに関わるいろいろな現象や問題が見られます。たとえば、恋愛と結婚の分離によるロマンティック・ラブのゆらぎ（婚活）、草食系男子や肉食系女子にみられる男らしさ・女らしさの問い直し、性別分業を前提にした近代家族制度の機能不全、セクシュアル・ハラスメントやドメスティック・バイオレンス、などなど。
演習では、これらの問題について書かれた本を読んで報告してもらい、参加者全員でディスカッションしながら、いったい何が問題なのか、見通しをつけてもらうことを、目標にしています。

授業の概要と計画

はじめに、イントロダクションとして、概観的な説明や文献の紹介をします。
その後で、ゼミ参加者それぞれに、自分の関心にあったテーマを選び、関係図書を読んで報告してもらいます。報告者以外の参加者には、報告を聞き、報告者をまじえてディスカッションしてもらいます。

私の研究室には、ジェンダーに関わる心理学や文学、ファッション論やマンガ論、イメージ論や魔女論、男性論などのほか、女性の職業問題、家族、母性、セクシュアル・ハラスメント、ドメスティック・バイオレンスなど、ジェンダー関連図書がたくさんありますので、それらを使ってもらっても結構です。

成績評価と基準

報告内容（レジュメ、口頭発表、質問への応答）60%、授業に出席しディスカッションへ参加した度合40%。
全回出席を原則とします。無断欠席は大きく減点します。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

この授業は演習ですから、自分の報告の準備はしっかりしてください。
また自分の報告のないときも、必ず毎回出席してディスカッションに参加してください。
1年次にジェンダー文化論を受講していない人は、受講するようにしてください。

オフィスアワー・連絡先

随時行なっていますが、事前に下記に連絡を下さい。
munakatsアットマークperson.kobe-u.ac.jp
研究室はE306です。

学生へのメッセージ

性（ジェンダー）の枠組みは、社会のすみずみにまで浸透して、私たちの生活に影響しています。何か変だとか、おかしいとか、面白いとか感じる人がいる人は、ぜひ演習に参加してください。他講座所属の学生さんも歓迎します。

今年度の工夫

受講者数にもよるのですが、できるだけ受講者の関心に基づく発表の機会を多くしたいと思っています。

教科書

教科書としては使いませんが、上に書いたように、報告のための参考文献を適宜使ってもらいます。

参考書・参考資料等

授業における使用言語

日本語

キーワード

ジェンダー

開講科目名	専門演習 B(2)		
担当教員	野谷 啓二	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

宗教と文化に関連する問題を各自の関心にしながら設定し、授業で発表する。また発表のために用意するレジメをもとに学期末まで小論文を作成していただきます。その際、教員は参考文献、注の付け方等をチェックしますので、卒業論文作成の準備練習の意味合いもあります。

授業の概要と計画

受講生は各自の関心にしながら発表しますが、参考文献をチェックしますので、事前に文献表を教員に提出していただきます。

成績評価と基準

授業の発表 60%とレポート 40%の総合評価

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

口頭発表の前にレジメを作成し、メールで教員に送信すること。復習としては、次回の演習の冒頭で、1週間考えたことをまとめて報告すること。

オフィスアワー・連絡先

研究室：E204
Email: notani@kobe-u.ac.jp

学生へのメッセージ

今年度の工夫

教科書

使用しない

参考書・参考資料等

授業における使用言語

日本語

キーワード

開講科目名	専門演習 B(2)		
担当教員	藤濤 文子	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

大きなテーマは、異文化間コミュニケーションとしての翻訳です。日常的に接している翻訳テキストが、異文化間コミュニケーション行為の産物であり、テキスト成立にコミュニケーションの諸要因がどのような作用を及ぼしているのかについて、議論を深めることを目指します。その際、文献による理論的理解と、翻訳実践、さらに原文と翻訳の比較分析という3本柱で、文化の差異が言語テキストにどのように現れるかを学習していきます。

授業の概要と計画

1. 翻訳理論についての基礎的文献を読む。
2. 特定ジャンルの理論を読む。
3. 原文と訳文の比較分析をする。
4. 翻訳実践と翻訳批評を行う。

成績評価と基準

平常点40%（積極的参加）
報告30%（内容・プレゼンテーション能力）
レポート30%（論理性・独創性）

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

第一回目の授業で履修者数が多い場合は、情報コミュニケーション論講座の学生を優先します。テーマに関する準備学習が毎回必要です。

オフィスアワー・連絡先

随時。前もってメールでご連絡ください。
fumiko@kobe-u.ac.jp
研究室：B411

学生へのメッセージ

2年次配当の「言語間コミュニケーション論」を履修しておいてください。

今年度の工夫

グループ作業を取り入れます。

教科書

翻訳研究のキーワード / 藤濤文子（監修）：研究社,2013,ISBN:9784327401634

参考書・参考資料等

必要に応じて授業中に指示します。

授業における使用言語

日本語

キーワード

翻訳、コミュニケーション、訳文比較

開講科目名	卒論演習		
担当教員	定延 利之	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

卒業論文を作成するための演習です。まず卒論のテーマを明確にするところからはじめます。次に、そのテーマで卒論を書くにはどうすればよいのかを考えましょう。最終目標は卒論そのものです。

授業の概要と計画

開講時間や曜日は定められていませんので、基本的には学生の卒業研究のスケジュールに応じて進めます。可能な限り実証的な研究、具体的には実験ないし調査を中心にした卒業論文が書けるように指導します。

成績評価と基準

卒業論文そのものの評価と関連するのですが、努力を主として評価します。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

毎回、予習・復習を入念に行なうこと。

オフィスアワー・連絡先

各指導教員に連絡して下さい。

学生へのメッセージ

熱意をもって取り組んで下さい。

今年度の工夫

教科書

参考書・参考資料等

教科書はありません。過去の卒業論文が重要な参考資料です。

授業における使用言語

日本語ですが、もし英語で卒業論文を書くのであれば、英語でも対応します。

キーワード

開講科目名	卒論演習		
担当教員	櫻井 徹	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

卒業論文を作成するための演習です。まず卒論のテーマを明確にするところからはじめます。次に、そのテーマで卒論を書くにはどうすればよいのかを考えましょう。最終目標は卒論そのものです。

授業の概要と計画

開講時間や曜日は定められていませんので、基本的には学生の卒業研究のスケジュールに応じて進めます。可能な限り実証的な研究、具体的には実験ないし調査を中心にした卒業論文が書けるように指導します。

成績評価と基準

卒業論文そのものの評価と関連するのですが、努力を主として評価します。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

毎回、予習・復習を入念に行なうこと。

オフィスアワー・連絡先

各指導教員に連絡して下さい。

学生へのメッセージ

熱意をもって取り組んで下さい。

今年度の工夫

教科書

参考書・参考資料等

教科書はありません。過去の卒業論文が重要な参考資料です。

授業における使用言語

日本語ですが、もし英語で卒業論文を書くのであれば、英語でも対応します。

キーワード

開講科目名	卒論演習		
担当教員	梅屋 潔	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

卒業論文を作成するための演習です。まず卒論のテーマを明確にするところからはじめます。次に、そのテーマで卒論を書くにはどうすればよいのかを考えましょう。最終目標は卒論そのものです。

授業の概要と計画

開講時間や曜日は定められていませんので、基本的には学生の卒業研究のスケジュールに応じて進めます。可能な限り実証的な研究、具体的には実験ないし調査を中心にした卒業論文が書けるように指導します。

成績評価と基準

卒業論文そのものの評価と関連するのですが、努力を主として評価します。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

毎回、予習・復習を入念に行なうこと。

オフィスアワー・連絡先

各指導教員に連絡して下さい。

学生へのメッセージ

熱意をもって取り組んで下さい。

今年度の工夫

教科書

参考書・参考資料等

教科書はありません。過去の卒業論文が重要な参考資料です。

授業における使用言語

日本語ですが、もし英語で卒業論文を書くのであれば、英語でも対応します。

キーワード

開講科目名	卒論演習		
担当教員	坂本 千代	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

卒業論文を作成するための演習です。まず卒論のテーマを明確にするところからはじめます。次に、そのテーマで卒論を書くにはどうすればよいのかを考えましょう。最終目標は卒論そのものです。

授業の概要と計画

開講時間や曜日は定められていませんので、基本的には学生の卒業研究のスケジュールに応じて進めます。可能な限り実証的な研究、具体的には実験ないし調査を中心にした卒業論文が書けるように指導します。

成績評価と基準

卒業論文そのものの評価と関連するのですが、努力を主として評価します。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

毎回、予習・復習を入念に行なうこと。

オフィスアワー・連絡先

各指導教員に連絡して下さい。

学生へのメッセージ

熱意をもって取り組んで下さい。

今年度の工夫

教科書

参考書・参考資料等

教科書はありません。過去の卒業論文が重要な参考資料です。

授業における使用言語

日本語ですが、もし英語で卒業論文を書くのであれば、英語でも対応します。

キーワード

開講科目名	卒業研究		
担当教員	定延 利之	開講区分	単位数
		通年	10単位

授業のテーマと到達目標

書き上がった卒業論文を評価します

授業の概要と計画

卒業論文作成自体の指導は卒論演習で行います。

成績評価と基準

時間をかけて書いた卒論を高く評価します。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

特にありません

オフィスアワー・連絡先

各指導教員に連絡して下さい。

学生へのメッセージ

いっしょにがんばりましょう。

今年度の工夫

教科書

使用しません。

参考書・参考資料等

必要なものは何でも使いましょう。

授業における使用言語

日本語が原則ですが、英語でも対応します。

キーワード

開講科目名	卒業研究		
担当教員	櫻井 徹	開講区分	単位数
		通年	10単位

授業のテーマと到達目標

卒業論文の作成。

授業の概要と計画

卒業論文のテーマに基づく。

成績評価と基準

卒業論文の完成度、独創性などを総合的に評価する。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

指導教員と定期的に相談する機会をもってください。

オフィスアワー・連絡先

学生へのメッセージ

卒業論文は大学生活の総括です。

今年度の工夫

教科書

特になし。

参考書・参考資料等

授業における使用言語

日本語。

キーワード

開講科目名	卒業研究		
担当教員	梅屋 潔	開講区分	単位数
		通年	10単位

授業のテーマと到達目標

卒業論文の作成。

授業の概要と計画

卒業論文のテーマに基づく。

成績評価と基準

卒業論文の完成度、独創性などを総合的に評価する。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

指導教員と定期的に相談する機会をもってください。

オフィスアワー・連絡先

学生へのメッセージ

卒業論文は大学生活の総括です。

今年度の工夫

教科書

特になし。

参考書・参考資料等

授業における使用言語

日本語。

キーワード

開講科目名	卒業研究		
担当教員	坂本 千代	開講区分	単位数
		通年	10単位
授業のテーマと到達目標			
卒業論文の作成。			
授業の概要と計画			
卒業論文のテーマに基づく。			
成績評価と基準			
卒業論文の完成度、独創性などを総合的に評価する。			
履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）			
指導教員と定期的に相談する機会をもってください。			
オフィスアワー・連絡先			
学生へのメッセージ			
卒業論文は大学生活の総括です。			
今年度の工夫			
教科書			
特になし。			
参考書・参考資料等			
授業における使用言語			
日本語。			
キーワード			

開講科目名	教育実習事前事後指導		
担当教員	教務委員会	開講区分	単位数
		通年	1単位

授業のテーマと到達目標

<作成中>

授業の概要と計画

<作成中>

成績評価と基準

<作成中>

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

<作成中>

オフィスアワー・連絡先

<作成中>

学生へのメッセージ

<作成中>

今年度の工夫

<作成中>

教科書

<作成中>

参考書・参考資料等

<作成中>

授業における使用言語

<作成中>

キーワード

<作成中>

開講科目名	高等学校教育実習		
担当教員	教務委員会	開講区分	単位数
		通年	2単位

授業のテーマと到達目標

<作成中>

授業の概要と計画

<作成中>

成績評価と基準

<作成中>

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

<作成中>

オフィスアワー・連絡先

<作成中>

学生へのメッセージ

<作成中>

今年度の工夫

<作成中>

教科書

<作成中>

参考書・参考資料等

<作成中>

授業における使用言語

<作成中>

キーワード

<作成中>

開講科目名	中学校教育実習I		
担当教員	教務委員会	開講区分	単位数
		通年	2単位

授業のテーマと到達目標

<作成中>

授業の概要と計画

<作成中>

成績評価と基準

<作成中>

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

<作成中>

オフィスアワー・連絡先

<作成中>

学生へのメッセージ

<作成中>

今年度の工夫

<作成中>

教科書

<作成中>

参考書・参考資料等

<作成中>

授業における使用言語

<作成中>

キーワード

<作成中>

開講科目名	中学校教育実習Ⅱ		
担当教員	教務委員会	開講区分	単位数
		通年	4単位
授業のテーマと到達目標			
<作成中>			
授業の概要と計画			
<作成中>			
成績評価と基準			
<作成中>			
履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）			
<作成中>			
オフィスアワー・連絡先			
<作成中>			
学生へのメッセージ			
<作成中>			
今年度の工夫			
<作成中>			
教科書			
<作成中>			
参考書・参考資料等			
<作成中>			
授業における使用言語			
<作成中>			
キーワード			
<作成中>			

開講科目名	博物館実習II		
担当教員	木下 資一、池上 裕子	開講区分	単位数
		前期	1単位

授業のテーマと到達目標

学芸員資格取得のため、必要な基本的知識と技術について学ぶ。

授業の概要と計画

主として近隣の博物館や美術館などを見学し、それらの施設で活躍している学芸員の講義を聞き、また施設や展示の実態を学ぶ。

成績評価と基準

実際に参加した上で、レポートを提出する。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

相手先のあることでもあり、よく予習し、真剣かつ積極的に学んでください。

オフィスアワー・連絡先

前期は月曜日昼休みなど
研究室E201

学生へのメッセージ

博物館、美術館を楽しんでください

今年度の工夫

教科書

参考書・参考資料等

授業における使用言語

日本語

キーワード

博物館 美術館 見学 実習 学芸員 資格

開講科目名	博物館実習Ⅲ		
担当教員	吉田 典子	開講区分	単位数
		通年	1単位
授業のテーマと到達目標			
博物館実習の総仕上げとして、外部施設での実習を行い、学芸員として実際に仕事をする上での必要な技能を身につける。			
授業の概要と計画			
成績評価と基準			
学生による実習レポート、および実習先施設の担当者からの報告を合わせて、合否を判定する。			
履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）			
この科目を履修する前に、学芸員資格取得のために必要なすべての科目を修得していること（もしくは同学期に修得予定であること）が必要である。			
オフィスアワー・連絡先			
メールで事前に連絡のこと。 ynoriko@kobe-u.ac.jp			
学生へのメッセージ			
今年度の工夫			
教科書			
特になし。			
参考書・参考資料等			
授業における使用言語			
日本語			
キーワード			

開講科目名	英米文学概論		
担当教員	西谷 拓哉	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

アメリカ文学の大まかな流れに沿って各時代の特徴と個々の作家の特徴を理解する。

授業の概要と計画

教員による講義と学生諸君による発表を織り交ぜて進めていく。

主なトピックは次の通り。
1. アメリカン・ルネサンスの文学
2. 南北戦争後のリアリズム作家
3. 世紀転換期の文学
4. モダニズムの文学
5. 児童文学
6. 黒人文学
7. 現代文学

詳しい計画と発表予定は開講時にあらためて提示する。

成績評価と基準

出席とクラスへの貢献（20%）、発表(30%)、期末レポート(50%)を総合して判断する。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

あらかじめ教科書をよく読んでくこと、できるだけ作品を多く読むこと

オフィスアワー・連絡先

takuyan@kobe-u.ac.jp

学生へのメッセージ

今年度の工夫

全体の見取り図の提示と、各時代の代表的な作品の紹介、学生による発表

教科書

八木敏雄ほか『アメリカの文学』（南雲堂）各自、購入されたい。

参考書・参考資料等

授業における使用言語

キーワード

開講科目名	アートマネジメント実習		
担当教員	大谷 燦	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

アートマネジメントの現代社会における意義を实践（調査、企画制作、ファンドレイジング）を通じて学習する。アートマネジメントを实践するうえで必要なネットワーク形成について学習する。アートの持つ力（創造力、想像力、コミュニケーション力等）を社会に活かすコーディネート力をつける。

授業の概要と計画

・アメリカ、フランス、日本の芸術支援の歴史 2・世界各
 国の劇場やアートの事例の学習と検証
 3・EU文化首都や世界の創造都市の活動及び運営について学習する
 4・NPO法人DANCE BOXの活動を事例にしながらアートNPOの可能性を考える
 5・芸術文化における地域再生を徳島県神山町、北海道東川町等の事例から検証する
 6・イギリスのアーツカウンシルを事例にしながら日本のアーツカウンシルについて考察する 7・震災
 時におけるアート活動について学習する 8・アートと福
 祉、教育、医療等との新しい関係のあり方を学習する 9・舞台芸術の制作広報
 に関して学習する 10・芸術文化事業を実施するた
 めの資金調達（ファンドレイズ）に関して学習する 1～10で学習したことを基礎として地域
 社会と連動したアートプロジェクトを構想する。また、フィールドワークを通じて地域の資源や課題を発見し街の
 魅力、アイデンティティをアートによってどのように確立できるかを考える

成績評価と基準

授業への参加及び発言20% 最終レポート（授業の内容の理解度、独創性、論理性）80%

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

毎回、十分な準備をおこなうこと。多様なアートに可能な限り、触れておくこと。

オフィスアワー・連絡先

otani-db@rock.sannet.ne.jp

学生へのメッセージ

現在アートは世界的な経済不況のなかで、人が生きがいを見つけ豊かな生活を送るために必要なものとして見直されています。アートマネジメントは文化的な豊かな社会を生み出すためにアートと市民をつなげていく仕事です。これからの日本にとっても重要な役割を果たす大きな可能性をもつ仕事です

今年度の工夫

コンテンポラリーなアートを先鋭性とコミュニティアートという両面から見直し、今日的なアーツマネジメントを考察します。また、インターローカルな視点から現代社会が抱える課題についてのアートによる解決の可能性を探求します。メッシュワーク的にアートマネジメントの仕事を考えます

教科書

特定の教科書は使用しません。授業内容にあわせた資料を毎回配布します。

参考書・参考資料等

新しい広場をつくる / 平田オリザ：岩波書店、2013年、ISBN:9784000220798
 おとなの背中 / 鷺田清一：角川学芸出版、2013年、ISBN:9784046532862

授業における使用言語

キーワード

開講科目名	近代文化言説論		
担当教員	石田 圭子	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

芸術が政治や記憶の問題に関わろうとすると、そこにはどのような意義や効果、可能性があるのか、また、いかなる問題が生じるのだろうか。授業では主に、絵画や映画など造形芸術の活動を取り上げ、芸術家たちが政治という領域にどのようなアプローチを試み、どのような問題を提起しているのかを考える。

授業の概要と計画

第1回 ガイダンス 芸術・政治・記憶
 第2回 戦争と美術 戦争画をめぐる
 第3回 戦争と映画①
 第4回 戦争と映画②
 第5回 戦争と映画③
 第5回 記憶と映画 <ショアー>とホロコースト①
 第6回 記憶と映画 <ショアー>とホロコースト②
 第7回 記憶と映画 <ショアー>とホロコースト③
 第8回 ベルリンの記憶アートと記念碑
 第9回 アンゼルス・キーファーと歴史・神話
 第10回 ゲルハルト・リヒターと歴史へのまなざし
 第11回 <クール・ジャパン>をめぐる
 第12回 メキシコ壁画運動 革命とアート
 第13回 ニューディール期におけるアメリカの芸術政策
 第14回 民主主義政体の表象
 第15回 試験

成績評価と基準

平常点（授業への積極的参加等）と試験による

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

参考文献表を配るので、それを手がかりに学習を深めてほしい。

オフィスアワー・連絡先

随時。次のアドレスまで連絡してください。keikoishida27@gmail.com

学生へのメッセージ

芸術は政治・社会と緊密な関係を結んでいます。そのことを意識して映画やアートをあらためて見直してみてください。

今年度の工夫

映像資料の活用等

教科書

参考書・参考資料等

授業時に参考文献表を配布する。

授業における使用言語

日本語

キーワード

芸術、美術、映画、政治、記憶

開講科目名	美的言説論		
担当教員	石田 圭子	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

芸術が政治や記憶の問題に関わろうとすると、そこにはどのような意義や効果、可能性があるのか、また、いかなる問題が生じるのだろうか。授業では主に、絵画や映画など造形芸術の活動を取り上げ、芸術家たちが政治という領域にどのようなアプローチを試み、どのような問題を提起しているのかを考える。

授業の概要と計画

第1回 ガイダンス 芸術・政治・記憶
第2回 戦争と美術 戦争画をめぐる
第3回 戦争と映画①
第4回 戦争と映画②
第5回 戦争と映画③
第5回 記憶と映画 <ショアー>とホロコースト①
第6回 記憶と映画 <ショアー>とホロコースト②
第7回 記憶と映画 <ショアー>とホロコースト③
第8回 ベルリンの記憶アートと記念碑
第9回 アンゼルス・キーファーと歴史・神話
第10回 ゲルハルト・リヒターと歴史へのまなざし
第11回 <クール・ジャパン>をめぐる
第12回 メキシコ壁画運動 革命とアート
第13回 ニューディール期におけるアメリカの芸術政策
第14回 民主主義政体の表象
第15回 試験

成績評価と基準

平常点（授業への積極的参加等）と試験による

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

参考文献表を配るので、それを手がかりに学習を深めてほしい。

オフィスアワー・連絡先

随時。次のアドレスまで連絡してください。keikoishida27@gmail.com

学生へのメッセージ

芸術は政治・社会と緊密な関係を結んでいます。そのことを意識して映画やアートをあらためて見直してみてください。

今年度の工夫

映像資料の活用等

教科書

参考書・参考資料等

授業時に参考文献表を配布する。

授業における使用言語

日本語

キーワード

芸術、美術、映画、政治、記憶

開講科目名	文化施設制度論		
担当教員	榊原 均、近藤 のぞみ	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

日本における戦後の舞台文化施設の発展を概観し、また神戸の文化施設を訪問をまじえながら、現代社会の中で文化施設のもつ役割や可能性について考える。

授業の概要と計画

I.戦後の舞台文化施設の発展
 II.神戸の文化施設と文化事業
 III.文化施設訪問（神戸文化ホール、区民センター、神戸アートビレージセンター等のうち1～2つを予定）
 IV.文化施設の運営と文化政策
 V.文化施設の外へ広がる文化施設の役割
 ※順番は入れ替わることがあります

成績評価と基準

授業への参加50%
 授業中に行う小レポート50%

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

神戸市内の文化施設へ訪問を行ないます（1～2ヶ所）。交通費は自己負担となります。施設訪問等、場合によっては、土日に振替になることがあります。

文化事業について、意識してできるだけ多くの施設を訪ねたり、催し物に行ったり、情報誌を読んだりしてください。可能であれば、アートマネジメント系の関連科目も受講することが望ましいです。

オフィスアワー・連絡先

kondo@kobe-bunka.jp（近藤）まで。

学生へのメッセージ

理論だけでなく、実際に現場をみて話を聞きながら、考えを深めてください。また、文化施設への訪問の際は、遅刻厳禁です。質問をするなど積極的な参加を期待します。

今年度の工夫

教科書

参考書：藤野一夫編「公共文化施設の公共性」水曜社。
 その他、授業中に紹介。

参考書・参考資料等

授業における使用言語

キーワード

開講科目名	外国語演習（韓国語）（グローバル専門科目）		
担当教員	岡田 浩樹	開講区分	単位数
		前期	2単位
授業のテーマと到達目標			
韓国語でのコミュニケーションに必要な慣用表現、中級レベルの読解力を習得する。			
授業の概要と計画			
韓国語（現代コリア語、朝鮮語）の初級レベル修得者を対象に、パターンプラクシスによる慣用表現の習得、および初級→中級のリーディングを行う。辞書を用いて韓国語の新聞を読めるようになることが最終的な目標。			
成績評価と基準			
演習への出席：40% 課題A（韓国語作文）：30%・毎回提出 課題B（リーディング）：30%・毎回提出			
履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）			
韓国語辞書（韓日、日韓）、韓国語が引ける電子辞書が必要です（毎回持参） この演習はすでに韓国語初級レベルの講義を受験していることを必要とする。まったくの初歩から始める学生は、現代コリア語を受講してください。			
オフィスアワー・連絡先			
水曜日昼休み （事前にアポイントをとることが必要）			
学生へのメッセージ			
今や韓国語に触れる機会はいくらでもあります。 DVDやテレビなど、まずは韓国語に親しむ機会をもってください。この演習は実践形式で行いますので、市販の韓国語入門、文法書を1冊買っておくと参考になるでしょう。			
今年度の工夫			
受講生のレベルを考慮し、初級から中級へ、魔界の課題をこなすことで段階的な			
教科書			
プリント使用			
参考書・参考資料等			
授業における使用言語			
韓国語、日本語、場合によって英語			
キーワード			
韓国語 中級			

開講科目名	外国語演習（中国語）		
担当教員	王 柯	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

文法についての理解力、文章の読解力の向上を目指す

授業の概要と計画

第1回 授業の進め方、テキストの使い方について説明

第2回から、選定したテキストの内容に沿って、以下の手順で授業を行う。

① 教員についてテキストを朗読、②受講生による発音練習、③教員による文法ポイントの説明、④教員の指導のもとで受講生によるテキストの内容の翻訳

第1課：女子学生の就職活動

第2課：恋愛なんか止めておけ

第3課：家庭の実権を握るのは夫か妻か

第4課：離婚の理由

第5課：留学ブームの影で

第6課：なぜ見て見ぬふりをするのか

第7課：公務員試験

第8課：教育における都市と農村との格差

第9課：「誰が中国を養うのか」の正鶴

第10課：農村の貧困にどう立ち向かうか

第11課：環境保護

第12課：九寨溝の観光と環境

第13課：エネルギー戦略

第14課：工業技術発展の課題

第15課：ハッカー

第16課：ハイアールの企業文化

第17課：SARS治療と医療従事者

第18課：エイズ予防に関する調査

第19課：医師に「謝礼」を送るか

第20課：ピンポン外交

第21課：日中国交正常化交渉

第22課：アトランタ・オリンピックと米中関係

第23課：中国の民族と国家

第24課：テロと戦争

成績評価と基準

出席20%・平常点50%（授業活動参加の積極性30%、準備20%）・期末レポートの成績30%として評価します。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

テキストには日本語の全訳がついていますが、毎回の授業の前に準備と予習が必要です。

オフィスアワー・連絡先

水曜日昼休み、E214

学生へのメッセージ

中国に関心のある人、中国のことを理解したい人なら歓迎します。

今年度の工夫

グループ学習方式を取ります。

教科書

『21世紀中国の課題』 東方書店 第5版

馮誼光・王柯・石原享一

参考書・参考資料等

授業における使用言語

日本語

キーワード

開講科目名	国際文化特殊講義（アジア共同体論）		
担当教員	坂井 一成	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

アジア共同体の可能性と課題を考える際、現在の安全保障や経済状況だけを見て判断を下すことは十分とは言えない。各国や国境を越えた地域、さらには民族のもつ歴史への眼差しと、真の共同体の形成には人の移動・交流が大きな意味を持つことを考えると、そこで生じる文化摩擦や文化受容への理解についても併せて考察することが欠かせない。本講義は、まさにそうした要請に応えることをテーマとしている。

また、アジアの事情を考えるのに、アジアの中からだけでなく、その外からの視点も重要である。EU（欧州連合）の進展によって地域統合の先進地域となっている欧州各国から日本研究・アジア研究の気鋭の研究者を招いて講師を務めてもらうことは、そうした分析視角の相対化を促し、グローバルな視点でのアジア共同体の可能性と課題を考えることにもつながるものであり、そうした幅広い視点を養うことを目標とする。

授業の概要と計画

【序】
4/9 イントロダクション：地域統合・地域協力の現在 坂井一成（神戸大学教授）

【アジア共同体とアジア諸国】
4/16 日本とアジア共同体 大庭三枝（東京理科大学）
4/23 中国とアジア共同体 山崎直也（国際教養大学）
5/7 朝鮮半島とアジア共同体 岡田浩樹（神戸大学）
5/14 ASEANとアジア共同体 貞好康志（神戸大学）

【国際社会のなかのアジア共同体】
5/21 オーストラリアとアジア共同体 窪田幸子（神戸大学）
5/28 アメリカとアジア共同体 安岡正晴（神戸大学）
6/4 ロシアとアジア共同体 河原地英武（京都産業大学）
6/11 EUとアジア共同体* Lluc López Vidal（カタロニア放送大学）

【アジア共同体への視角】
6/18 アジア共同体の課題と展望 佐藤洋治（ワンアジア財団）
6/25 歴史・思想から見るアジア共同体* Noemi Lanna（ナポリ東洋大学）
7/2 安全保障からみるアジア共同体* Guibourg Delamotte（フランス国立東洋言語文化学院）
7/9 文化交流からみるアジア共同体 岸清香（都留文科大学）
7/16 政治経済からみるアジア共同体 谷川真一（神戸大学）

【総括】
7/23 総括／学期末試験 坂井一成（神戸大学）

*は英語での授業

成績評価と基準

学期末試験

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

新聞の国際面等に目を通し、授業で触れるアジア共同体の可能性をめぐる国際問題への認識を深めること。参考文献を授業時に指摘するので、授業後に読み込んで理解を深めること。

オフィスアワー・連絡先

国際文化学部・研究科の教員へは各教員のメールアドレスへ連絡してアポを取ること。
他大学・欧州からの招へい教員については、坂井（kazu[at]harbor.kobe-u.ac.jp）が窓口となる。

学生へのメッセージ

今年度の工夫

教科書

アジア共同体を考える / 坂井一成（編）：芦書房 ,2015 ,ISBN:

参考書・参考資料等

アジア共同体の創成に向かって / 佐藤洋治・鄭俊坤（編）：芦書房 ,2011 ,ISBN:9784755612459

授業における使用言語

日本語ないし英語

キーワード

開講科目名	専門演習 B(0)		
担当教員	片 茂	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

このゼミでは、近代化をめぐる様々の論争点について、学部生としてより高度な水準をねらって理解を深めることを目標とする。

授業の概要と計画

R. カステル『社会問題の変容』を講読する。参加者は、テキストを分析し説明するプレゼンテーションを課せられる。

成績評価と基準

出席と活発な参加 70%
最終レポート 30%

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

よく準備してくること

オフィスアワー・連絡先

廳 ：金曜日 13：00-13：20

学生へのメッセージ

今年度の工夫

教科書

R. カステル『社会問題の変容』ナカニシヤ出版

参考書・参考資料等

授業における使用言語

日本語

キーワード

開講科目名	専門演習 B(0)		
担当教員	林 良子	開講区分	単位数
		前期	2単位

授業のテーマと到達目標

外国人に日本語を教えようとするときに、どのような知識が必要となるのか、どのような教材がふさわしいのかを議論し、言語学、外国語教授法の観点からまとめ、マルチメディアを用いて教材を自作する。

授業の概要と計画

本演習では、外国人に対する日本語教育において必要な知識を整理し、実際の外国人学習者とインターネット上でコンタクトをとりながら、自作した教材について議論することを予定している。授業は2部に分かれる。前半は、以下のテーマについて文献の報告を行なう。後半は、グループに分かれて、海外の学習者と協働しながら、「私のちょっと面白い話」をテーマに実際に動画、静止画による教材を共同作成し、意見交換していく（予定）。

テーマ：

1. 日本語学習者の学習の動機とニーズ分析
2. 日本語教材分析
3. 日本語において習得困難な点（文字、音声、文法、その他）とその要因について

成績評価と基準

積極的な授業参加態度（授業での発表）30%＋文献の報告30%＋共同作業による作品づくり40%

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

積極的な授業態度と課外におけるリサーチ（インタビュー、メール交換など）を望みます。休む際には必ず連絡をください。

オフィスアワー・連絡先

火曜日・木曜日昼休み（事前メール連絡要）

学生へのメッセージ

今年度もフランスのレンヌ大学で日本語を学ぶ学習者とコンタクトをとりながら演習をすすめていきます（他の大学とは交渉中）。情報コミュニケーション講座以外の学生の参加も歓迎します。

今年度の工夫

インターネットを用いて、実際の海外の日本語学習者と連携しあって授業を展開していく予定です。

教科書

授業時に詳しく説明します。海外の日本語教育事情に関しては、以下のURLを参考にしてください。

参考書・参考資料等

海外における日本語教育の概要については以下のHPを参照してください。

授業における使用言語

日本語、部分的にフランス語、英語など

キーワード

開講科目名	English for Academic Purposes（グローバル専門科目）		
担当教員	クーパー	開講区分	単位数
		前期	1単位

授業のテーマと到達目標

This integrated skills class aims to improve overall language proficiency, particularly in the skills of writing and speaking. In this class you will be encouraged to develop independent thought, and to analyse a variety of global topics with critical thinking. You will receive instruction how to write academic essays and to participate actively in class discussions.

授業の概要と計画

Students will look at various interesting global topics, and after discussing these in groups and working on vocabulary and language functions , students will develop the topic into a presentation or written assignment. Special emphasis will be given on how to present a logical argument to support your opinions.

成績評価と基準

Class participation 30% / Writing and presentation assignments 50% / Final essay 20% .

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

Homework assignments should be completed on time . Students should review the vocabulary after each class, and come prepared.

オフィスアワー・連絡先

Fridays 6th period

学生へのメッセージ

It is important to attend class regularly and to practice , review and prepare.

今年度の工夫

教科書

Global Connections . Cengage . Sarah Morikawa . ISBN 978-1-305-58442-6

参考書・参考資料等

授業における使用言語

English

キーワード

開講科目名	English for Academic Purposes（グローバル専門科目）		
担当教員	クーパー	開講区分	単位数
		前期	1単位

授業のテーマと到達目標

This integrated skills class aims to improve overall language proficiency, particularly in the skills of writing and speaking. In this class you will be encouraged to develop independent thought, and to analyse a variety of global topics with critical thinking. You will receive instruction how to write academic essays and to participate actively in class discussions.

授業の概要と計画

Students will look at various interesting global topics, and after discussing these in groups and working on vocabulary and language functions , students will develop the topic into a presentation or written assignment. Special emphasis will be given on how to present a logical argument to support your opinions.

成績評価と基準

Class participation 30% / Writing and presentation assignments 50% / Final essay 20% .

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

Homework assignments should be completed on time . Students should review the vocabulary after each class, and come prepared.

オフィスアワー・連絡先

Fridays 6th period

学生へのメッセージ

It is important to attend class regularly and to practice , review and prepare.

今年度の工夫

教科書

Global Connections . Cengage . Sarah Morikawa . ISBN 978-1-305-58442-6

参考書・参考資料等

授業における使用言語

English

キーワード

開講科目名	English for Academic Purposes（グローバル専門科目）		
担当教員	アダムズ	開講区分	単位数
		前期	1単位

授業のテーマと到達目標

Living and studying abroad can be a life changing experience. It both broadens our understanding of another culture and enables us to see our own culture more clearly. Encountering another culture sometimes can be uncomfortable. The reason is that most of our culture is unconsciously learned; we don't know that we have it. When we go abroad, the people in the host country also have learned most of their culture unconsciously. We often encounter cultural differences, but we don't understand what the problem is. It can be very helpful if we bring these invisible aspects of culture to the surface and study them before going abroad. This class will provide valuable preparation for both social and academic life abroad.

Methods of education are very much part of culture. They are not universal. Japanese education prepares students to participate in a collectivist society in which individuals are in vertical, hierarchical relation to others according to each person's status. Information and instructions are received passively from authority, and in their classes students should reproduce accurately on tests the information they have learned. Education in the West prepares students to be members of an individualist society. Students should take some responsibility for the learning process, and on tests they should show that they have incorporated what they learned into their own thinking processes. In this class you will be encouraged to acquire gradually a second way of studying, a second way of communicating verbally, and a second way of arranging thoughts in formal writing, the modes of learning that are expected of students in universities in the West.

授業の概要と計画

To develop independent thought, various courses at Western universities require essay writing. You will receive some instruction and practice in this class in how to write essays. We will also give some attention to how to answer test questions. In Western universities there are few multiple choice tests; students are required instead to give written answers to quiz and test questions, demonstrating their own understanding of the course material. The quizzes in this class will prepare you for such tests at your host university. Students will read short articles on various aspects of comparative culture. These will be read in advance as preparation for brief lectures/explanations from me and for student presentations/discussions in small groups in class. These readings and discussions will provide content for writing paragraphs and, later in the semester, writing essays and giving presentations to the class as a whole.

Weeks 1 ? 3 What is culture? Consciously and unconsciously acquired culture, cultural transmission. Analyzing paragraphs for structure, identifying main ideas. Writing paragraphs.

Weeks 4 - 6 Ranking: vertical and horizontal social organization, dependence and individuality, unconscious relation to space and time. Connecting paragraphs, thesis statement, conclusion.

Weeks 7 ? 10 Historical origins of culture. Writing essays. First draft of final essay due.

Weeks 10 - 12 European Enlightenment and Tokugawa developments, modern cultural differences. Week 13: Final essay due. Final oral reports

成績評価と基準

In class oral reports and discussions, writing exercises, quizzes 40%; Homework writing exercises 40%; Final essay 10%; Final report 10%

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

Weekly reading and writing exercises, preparation for oral presentations

オフィスアワー・連絡先

Contact email address will be provided in class

学生へのメッセージ

It is very important to attend class regularly and do all preparation for class on time.

今年度の工夫

教科書

There is no textbook to purchase. Some materials will be provided in class; some will be available on the Web (URLs provided in class -- you must be able to print from the internet.)

参考書・参考資料等

授業における使用言語

English

キーワード

Comparative culture, cultural differences, mirror neurons, social structure, ranking, Confucius, Japanese Confucianism, Aristotle, European Enlightenment

開講科目名	English for Academic Purposes（グローバル専門科目）		
担当教員	アダムズ	開講区分	単位数
		前期	1単位

授業のテーマと到達目標

Living and studying abroad can be a life changing experience. It both broadens our understanding of another culture and enables us to see our own culture more clearly. Encountering another culture sometimes can be uncomfortable. The reason is that most of our culture is unconsciously learned; we don't know that we have it. When we go abroad, the people in the host country also have learned most of their culture unconsciously. We often encounter cultural differences, but we don't understand what the problem is. It can be very helpful if we bring these invisible aspects of culture to the surface and study them before going abroad. This class will provide valuable preparation for both social and academic life abroad.

Methods of education are very much part of culture. They are not universal. Japanese education prepares students to participate in a collectivist society in which individuals are in vertical, hierarchical relation to others according to each person's status. Information and instructions are received passively from authority, and in their classes students should reproduce accurately on tests the information they have learned. Education in the West prepares students to be members of an individualist society. Students should take some responsibility for the learning process, and on tests they should show that they have incorporated what they learned into their own thinking processes. In this class you will be encouraged to acquire gradually a second way of studying, a second way of communicating verbally, and a second way of arranging thoughts in formal writing, the modes of learning that are expected of students in universities in the West.

授業の概要と計画

To develop independent thought, various courses at Western universities require essay writing. You will receive some instruction and practice in this class in how to write essays. We will also give some attention to how to answer test questions. In Western universities there are few multiple choice tests; students are required instead to give written answers to quiz and test questions, demonstrating their own understanding of the course material. The quizzes in this class will prepare you for such tests at your host university. Students will read short articles on various aspects of comparative culture. These will be read in advance as preparation for brief lectures/explanations from me and for student presentations/discussions in small groups in class. These readings and discussions will provide content for writing paragraphs and, later in the semester, writing essays and giving presentations to the class as a whole.

Weeks 1 ? 3 What is culture? Consciously and unconsciously acquired culture, cultural transmission. Analyzing paragraphs for structure, identifying main ideas. Writing paragraphs.

Weeks 4 - 6 Ranking: vertical and horizontal social organization, dependence and individuality, unconscious relation to space and time. Connecting paragraphs, thesis statement, conclusion.

Weeks 7 ? 10 Historical origins of culture. Writing essays. First draft of final essay due.

Weeks 10 - 12 European Enlightenment and Tokugawa developments, modern cultural differences. Week 13: Final essay due. Final oral reports

成績評価と基準

In class oral reports and discussions, writing exercises, quizzes 40%; Homework writing exercises 40%; Final essay 10%; Final report 10%

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

Weekly reading and writing exercises, preparation for oral presentations

オフィスアワー・連絡先

Contact email address will be provided in class

学生へのメッセージ

It is very important to attend class regularly and do all preparation for class on time.

今年度の工夫

教科書

There is no textbook to purchase. Some materials will be provided in class; some will be available on the Web (URLs provided in class -- you must be able to print from the internet.)

参考書・参考資料等

授業における使用言語

English

キーワード

Comparative culture, cultural differences, mirror neurons, social structure, ranking, Confucius, Japanese Confucianism, Aristotle, European Enlightenment

開講科目名	専門基礎演習		
担当教員	ウアン マリアン	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

This course provides an opportunity for students to look at culture and diversity through immigration and migration. Students will look at migration flows from and to Japan. Additional field research in the Kansai region will be offered as an option for students to engage in outside of class. Students will also research migration in other countries and conduct a comparative analysis of immigration policies.

授業の概要と計画

Week 1: Course syllabus and class rules
Week 2: Japan and immigration
Weeks 3-6: First group project on looking at immigration in the Kansai region, organizing field activities, and participating in field research.
Week 7: Reflection of first group project.
Weeks 8-12: Second group project on comparative analyses of immigration policies. Graded group presentations.
Weeks 13-14: Looking at American immigration using political cartoons
Week 15: Reflection and course evaluation

成績評価と基準

Group projects = 90%
Attendance and participation = 10%

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

You must have access to the Internet and be comfortable with searching for online documents.

オフィスアワー・連絡先

Wednesday, Period 4 (15:10-16:40), D619
Email: marianwang@people.kobe-u.ac.jp

学生へのメッセージ

Please be prepared to participate in English only. Arriving after the bell is late (6 Lates = Fail). Coming in 20 minutes late will be counted as absent. Sleeping in class may be counted as absent. Using your phone in class may be counted as absent. 4 absences = Fail. No late assignments. Bring handouts and complete homework on time.

今年度の工夫

教科書

参考書・参考資料等

授業における使用言語

English only

キーワード

Immigration, migration, diversity

開講科目名	ヨーロッパ精神文化論		
担当教員	伊東 史明	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

テーマ：リヒアルト・ワーグナーと『トリスタンとイゾルデ』。
音楽の歴史を変えたといわれるワーグナーであるが、その影響は音楽のみならず、文学、哲学、そして社会現象にまで及ぶものである。この講義で彼の人物像に迫り、その代表作の一つである『トリスタンとイゾルデ』をどのように解釈されるべきかなどを演出方法も含めて、見て行きます。

授業の概要と計画

前半はワーグナーの年表等を使って、彼の活動、その思想等を見て行きます。
後半はVIDEOを使い、具体的にその作品『トリスタンとイゾルデ』を見ながらそこに含まれている思想を検証します。また出来るだけ複数のVIDEOを使い、その演出方法も検討していきます。

成績評価と基準

授業への参加（授業への積極的な取り組み、その度毎のレポート）30%、
期末テスト（授業の理解度と独創性）70%

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

プリント配布（第2回目の授業及び後半とに分けて配布いたします）のために、人数確認の必要がありますので、初回講義は必ず出席のこと。その時に授業方針等を説明します。また他学部学生は、人数制限をしますが、希望者は必ず受講カードを持って、初回に出席をしてください。
毎回授業前に配布プリントは読んでくること。また適宜関連書物等を読むようにしてください。

オフィスアワー・連絡先

授業中、授業後いつでも質問等は受け付けます。

学生へのメッセージ

音楽、特にオペラに強く興味を持っている人に受講を望みます。
なお特に後半は欠席すると作品内容が分からなくなるので、欠席しないように。

今年度の工夫

出来る限りヴィヴィットな授業をしたいと思います。

教科書

プリント使用

参考書・参考資料等

授業における使用言語

日本語

キーワード

ワーグナー、オペラ

開講科目名	外国語演習（フランス語）		
担当教員	岩本 和子	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

仏語IAB, IIABなどで習得したフランス語の知識を確認し、さらに発展させつつ、グローバルな視点を養うことを目標とする。

授業の概要と計画

フランスやベルギーの新聞（Le Monde, Le Soir）や雑誌の記事を読み、社会情勢や文化状況を知るとともに、読み書き、話し聴く力をつけて行きます。映画鑑賞、留学生との討論なども考えています。

成績評価と基準

予習、授業への参加 50%
 期末試験 50%

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

授業に積極的に参加することはもちろんですが、予習（音読、訳）もきちんとした上での授業参加を重視します。

オフィスアワー・連絡先

随時（メールにて事前連絡）iwamotok@kobe-u.ac.jp

学生へのメッセージ

ひとつおりの基礎を終えたフランス語をこれからは使えるようにしましょう。できればフランス語能力試験や留学などもめざしましょう。

今年度の工夫

フランス語や、フランスやヨーロッパの文化にできるだけ直接触れたいと思います。

教科書

テキストはコピーを配布する。

参考書・参考資料等

授業における使用言語

日本語、フランス語

キーワード

開講科目名	外国語演習（ドイツ語）（グローバル専門科目）		
担当教員	ベティーナ・ゲッシュ	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

この授業はドイツの事情{文化・社会} について勉強しながら、ドイツ語で受講ができるようなコミュニケーション能力を身につけるものです。授業の内容、文章と映画の理解、メモをとる、意見を言う、プレゼンテーションと討論のスキルを高めることを目指します。単語と表現を増やすことだけではなくて、最近のドイツとユーロッパの事情がもっと深くわかるようになりますと思います。In this class we study recent cultural topics and topics related to society, especially former East Germany, the wall and the situation of immigrants in Germany. The aim is to deepen the understanding of modern Germany and to improve writing, speaking, listening and reading skills such as understanding the lesson, the texts and the films, taking notes, expressing one's opinion, doing presentations and participate in discussions.

授業の概要と計画

1. "Va bene":イタリア人が見たドイツ 2、3. Doris Doerrie: "Die Friseurse" 面白い社会的な現象 4. 会議所の中の美術品の意味 5、6. ベルリンの壁：ドキュメンタリ 7、8. 旧東ドイツの日常生活："Barbara" 9. Goerlitz市の面白い経済的な秘密 10. ベルリンのユダヤ美術館の構造 11、12. ドイツの中のトルコ人の移民：Willkommen in Allmany 13. ドイツのテロ対策 14. 15. 最近のニュース：Deutsche Welle und Tagesschau

成績評価と基準

授業への参加50%、小テスト、レポート50%

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

得にありません。

オフィスアワー・連絡先

特定していませんが、授業の前と後は相談ができます。

学生へのメッセージ

ドイツ語の勉強をもっと簡単に効果的にできるためにたくさんのヒントをしますから、楽しく勉強することができますと思います。

今年度の工夫

教科書

資料のコピーを配布します。

参考書・参考資料等

Langenscheidt / : , ISBN:

授業における使用言語

ドイツ語

キーワード

ドイツ語、アカデミック

開講科目名	近代表象文化論		
担当教員	松家 理恵	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

「風景」をテーマとして、近代以降の人間の文化と自然（あるいは場所）との関係の特質とその変化について、18世紀から19世紀の主にイギリスを中心とする文学、絵画、庭、美学思想における際立った潮流を概観する。それによって、「近代化」に含まれる人間と自然や土地との関係の変化とその問題性を考察するための歴史的な視野を獲得することを目指す。

授業の概要と計画

授業では、具体的な風景画作品や庭の写真を見たり、18世紀イギリスでの特に山をめぐる崇高論の展開や19世紀ロマン派の詩を紹介しながら、以下のテーマについて考察する。

1. 「場所性」と「没場所性」：現代人と土地・風景との関係について
2. 近代ヨーロッパにおける「風景」の誕生と遠近法
3. 「理想の田園」という虚構：文学・絵画におけるパストラルの伝統
4. 18世紀イギリスの風景美学（1）風景式庭園
5. 18世紀イギリスの風景美学（2）崇高と山
6. 19世紀ロマン主義と崇高の美学
7. ロマン主義における「場所」と記憶

成績評価と基準

平常点（小テストを含む） 20%
期末試験 80%

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

随時、美学、文学のテキストや絵画について課題を出し、それについてのディスカッションを授業に取り入れていきますので、課題についての予習が必要になります。

オフィスアワー・連絡先

連絡の上随時
janjur@kobe-u.ac.jp

学生へのメッセージ

当たり前だと思っている自分の風景の見方、自然に対する感じ方が、文化によって規定されているのだということ、そしてそれが大きな歴史的変遷の上にあるのだということを感じとって欲しい。

今年度の工夫

授業評価アンケートの記述を参考にして、レジュメをより分かりやすいものにする。

教科書

場所の現象学—没場所性を越えて *Place and Placelessness* / エドワード・レルフ E. Relph : ちくま学芸文庫, ISBN:9784480084798
空間の経験—身体から都市へ *Space and Place* / イーファー・トゥアン : ちくま学芸文庫, 1993, ISBN:978-4480081032

参考書・参考資料等

対訳 ワーズワス詩集 / ウィリアム・ワーズワス : 岩波文庫, 1998, ISBN:9784003221822
トポフォリアー人間と環境 / イーファー・トゥアン : ちくま学芸文庫, 2008, ISBN:9784480091413
崇高と美の観念の起源 A Philosophical Enquiry into the Origin of Our Ideas of the Sublime and Beautiful / エドモンド・バーク Edmund Burke : みすず, ISBN:9784622050414
世界美術大全集 / : 小学館, ISBN:
岩波世界の美術 ロマン主義 / デーヴィッド・ブレイニー・ブラウン : 岩波書店, 2004, ISBN:9784000089784

授業における使用言語

日本語

キーワード

風景 サブライム ロマン主義 場所

開講科目名	アメリカ多元文化表現論		
担当教員	西谷 拓哉	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

「アメリカ映画研究入門」
本講義では、映画を通してアメリカ研究を行なうための基本的な視点と方法を身につけることを目標とする。映画研究はカルチュラル・スタディーズの大きな柱でもあるので、他地域にも適用できるような内容としたい。

授業の概要と計画

以下のようなトピックについて何回かにわたり講述する。

1. 映画の美学的考察
フレームからシークエンスに至る映画の構成単位について具体例を見ながら考察する。この単位の感覚は絶対に身につけてもらいたい。
2. 映画と社会の関係
(1) ハリウッド映画には様々なジャンルがある。ここではその成立の歴史を追いながら、各ジャンルの特徴と時代状況との関わりを探りたい。フィルム・ノワール、西部劇の構造、ヴェトナム戦争映画史、ミュージカル映画といった話題をとりあげる予定。
(2) 人種、民族の表現
多民族社会特アメリカに特有といってもいい主題である人種・民族関係が、映画においてどのように表されているかを探る。ここでは特に黒人について見ていきたい。
3. 映画と小説の関係
多くの映画が小説を原作としおり、原作に対する忠実性が問題とされる場合が多い。ここではアダプテーション（脚色）の諸問題に触れながら、映画と小説という二つのジャンルの特徴を対比的に捉えたい。

詳しい進行予定は開講時に改めて掲示する。

成績評価と基準

以下の基準によって判断する。
出席およびクラスでの活動 30%
小レポート2回 30%
期末レポート 40%

各、小レポートは15、13、10の三段階評価。

期末レポートの判定基準は以下の通り。
・着眼点のよさ、オリジナリティ 5割
・論述のわかりやすさ・正確さ 3割
・各種（文献・映像）資料の活用度 2割

ただし出席が6割に満たない場合（開講後3週目から数える）、レポートが出ていたとしても総合成績は不可とする。その意味で出席重視である。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

言及する作品を予習あるいは復習として出来るだけ多く見ること。ビデオ、DVDが視聴できる環境にあることが望ましい。また、レポート作成等のため、ビデオ、DVD等を借りる必要があるかも知れないが、その料金は自分で負担することになる。

オフィスアワー・連絡先

研究室 E202
メールアドレス takuyan@kobe-u.ac.jp

学生へのメッセージ

映画をよく見、よく聴きましょう。よく観察することが何事においても基本です。

今年度の工夫

優れた小レポートの抜粋の配布によって、学生の理解を促進する。

教科書

特になし。

参考書・参考資料等

詳しくは各回で紹介するが、全般的な入門書として、
ウォーレン・バックランド『フィルムスタディーズ入門』（晃洋書房、2007）
藤原帰一『映画のなかのアメリカ』（朝日新聞社、2006）
ロバート・スクラー『アメリカ映画の文化史』（講談社学術文庫、1995）

授業における使用言語

主として日本語、配付資料は英語もあり。

キーワード

開講科目名	東南アジア宗教・社会論		
担当教員	伊藤 友美	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

東南アジアの人々と親しくなると、もっとも印象深く感じるものの一つは、彼らの生活、行動、ものの考え方の中に、伝統宗教が深く根付いていることといえるでしょう。ビルマ、タイ、ラオス、カンボジア、ベトナムなど、東南アジア大陸部の国々では仏教、インドネシア、マレーシアなど、島嶼部の国々ではイスラーム、フィリピン、東ティモールではカトリックというように、東南アジア以外の地域で誕生した世界宗教がこの地域に根をおろし、歴史と経験を人々と共にしてきました。

この講義では、まず東南アジア地域の歴史における重層的な宗教受容について検討し、さらに伝統的な宗教実践の論理と近現代の政治・社会運動において展開したスピリチュアリティの役割について考察します。

授業の概要と計画

1. 東南アジアにおける宗教的重層性の形成
2. 世界宗教とそのローカルな実践
3. フィリピンのフォーク・カトリシズム
4. イスラームの受容と現代宗教運動
5. 上座部仏教社会の基本構造
6. 植民地化と宗教
7. ナショナリズムと宗教
8. 冷戦期における社会主義と宗教
9. グローバル化と大伝統の再発見
10. 社会にかかわる仏教

成績評価と基準

リアクション・ペーパー 50%
 期末テスト 50%

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

授業で配布する文献リストを参照し、毎回、準備学習・復習を行うようにしてください。

オフィスアワー・連絡先

Email連絡にて随時。
 Email: itot@kobe-u.ac.jp

学生へのメッセージ

現代日本社会を生きる私たちにとって、宗教のスピリチュアリティとは、なかなかピンとこないものの一つかもしれません。しかし、それは異文化理解の要であると共に、文化の違いを超えた共感をもたらしてくれるものでもあります。この講義をきっかけに、東南アジア地域に対する関心と理解を深め、東南アジアの人々と世界観の一部を共有し、豊かな関係を築いていって欲しいと思います。

今年度の工夫

教科書

使用しない

参考書・参考資料等

授業の際に、指示します。

授業における使用言語

日本語

キーワード

開講科目名	非言語コミュニケーション論		
担当教員	山本 真也	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

共感や思いやりが社会生活において大切であることには皆さん気づかれていることと思います。それでは、私たちはどのようにして他者の心を理解しているのでしょうか。実は、非言語コミュニケーションが非常に大きな役割を果たしています。面と向かって話していると、電話やメール以上に相手の気持ちが伝わってくるでしょう。私たちは、言語以外を使ってさまざまな情報を伝え合っているのです。この授業では、ヒト・ヒト幼児・ヒト以外の動物がどのように他者と意思疎通をおこない、感情を理解し、共同生活を営み、社会や文化を形成しているかについてお話しします。ヒト以外の動物を理解することは、ヒトの本質を理解するためにもかかせません。そのうえで、私たちヒトに特徴的なコミュニケーションについても一緒に考えていきたいと思います。学問分野でいうと、心理学全般、とくに実験心理学・認知心理学・社会心理学・進化心理学・発達心理学・比較認知科学・神経科学など、広い範囲を扱います。人間や動物の行動を研究するための方法の基礎についても学んでいただきます。

授業の概要と計画

授業で扱う主なトピックを列挙します。各トピックを2-4回の授業で扱う予定です。

共感（ミラーニューロン・感情伝染・同情）
 他者理解（自己認識・視点取得・心の理論）
 協力（利他行動・互惠性・評判）
 文化（教育・社会学習・累積文化）

最新の研究も取り上げることで、科学そのものの面白さ・大切さもお伝えできればと思います。また、適宜実験研究のデモもおこなう予定です。積極的な参加を望みます。

成績評価と基準

基本的に期末試験のみを成績評価基準とする。
 ただし、平常点、とくに授業と関連して実施する調査や実験への協力度を加味することもあります。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

上記概要中に記したトピックについて、少なくとも聞いたことがない言葉については下調べしてくることを求めます。

オフィスアワー・連絡先

月曜昼休みをオフィスアワーとします。事前にshinyayamamoto1981@gmail.comまで連絡ください。

学生へのメッセージ

これまでにヒト・チンパンジー・ボノボで比較研究をおこなうと同時に、30か国以上を旅して異文化に触れてきました。種による違い・文化による違いを感じるとともに、それぞれに共通するものの多さにも気づかされています。心理学をベースに、ヒトや動物の非言語コミュニケーションの面白さを一緒に考えていきましょう。

今年度の工夫

心理系で卒業研究をおこなう予定のある人はぜひ受講してください。現在もっともホットなトピックである分野を扱います。「一般的な」心理学とは少し違いますが、研究の最先端に触れてみてください。

教科書

心と行動の進化を探る：人間行動進化学入門 / 五百部裕・小田亮編著：朝倉書店,2013,ISBN:9784254523041

参考書・参考資料等

適宜、授業の中でお伝えします。
 進化と人間行動 / 長谷川寿一・長谷川真理子：東京学術出版会,2000,ISBN:9784130120326
 心の進化：人間性の起源を求めて / 松沢哲郎・長谷川寿一編：岩波書店,2000,ISBN:9784000053815
 社会のなかの共存(岩波講座 コミュニケーションの認知科学 第4巻) / 山岸俊男・亀田達也編：岩波書店,2014,ISBN:4000113747

授業における使用言語

日本語

キーワード

非言語コミュニケーション、共感、協力、他者理解、社会学習、文化、実験心理学、認知心理学、社会心理学、進化心理学、発達心理学、比較認知科学、神経科学

開講科目名	国際関係論		
担当教員	坂井 一成	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

国際関係の基本的枠組み（歴史の大枠や基礎的理論）と、現代国際関係の主要課題を理解する視座を、とくに「文化」の視点から掘り下げる。地域としてはEU（欧州連合）に軸足を置いて講義を行う。多文化の共生をめぐる問題は、国家内にとどまらず、広く国際社会に関わっている。国民あるいは国家を一つの文化的集団と捉えるならば、国際関係も地球という一つの社会における多文化共生のあり方を問う対象領域である。また、現代国際関係においては、国民国家だけでない多様なアクターが登場している。こうした要素を含め、国境をこえて生起する多様な異文化コミュニケーションの場としての国際関係をリアルに認識できるようにしたい。EUの検討は、そうした格好の題材となる。

〔EUJ科目〕

授業の概要と計画

1. 国際関係論への文化の観点からのアプローチ
 2. 国際関係の展開
 3. 国際関係の基礎理論
 4. 外交と国益：外交政策はどのように決定されるのか
 5. 予防外交の意義と実践
 6. 安全保障の変容
 7. 地域統合の意義：EU統合を中心に
 8. EUにおける民族問題
 9. EU拡大と多文化共生
 10. 日EU関係
 11. グローバリゼーションの功罪：誰のためのグローバリゼーションか？
 12. 多文化共生を可能にする国際関係とは？
- なお、ビデオを見て考察するなどの時間を適宜織り交ぜる。

成績評価と基準

授業時に複数回課すコメントペーパー（講義の理解の度合いをみる）（60%）、授業内容に関わるレポート（講義内容に即した応用力をみる）（40%）

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

新聞の国際面等に絶えず目を通し、授業で触れるアクチュアルな国際問題への認識を深めること。
教科書の関連箇所は授業時に指摘するので、授業後に読み込んで理解を深めること。

オフィスアワー・連絡先

随時。ただしメール（kazu[at]harbor.kobe-u.ac.jp）で事前連絡が望ましい。
国際文化学研究科・学部 E407研究室

学生へのメッセージ

今年度の工夫

教科書

ヨーロッパの民族対立と共生〔増補版〕 / 坂井一成：芦書房,2014,ISBN:

参考書・参考資料等

国際安全保障論 / 吉川元：有斐閣,2007,ISBN:
新版グローバリゼーション国際関係論 / 坂井一成（編）：芦書房,2014,ISBN:
ヨーロッパ統合の国際関係論〔第2版〕 / 坂井一成（編）：芦書房,2007,ISBN:

授業における使用言語

日本語及び補助的に英語。ただしコメントペーパーや期末レポートは英語・フランス語でも構わない。

キーワード

外交 文化 EU 地域統合 民族問題 グローバリゼーション

開講科目名	中国語会話II		
担当教員	姜 春潔	開講区分	単位数
		後期	1単位

授業のテーマと到達目標

「習うより慣れよ」という。言葉に慣れることが最も大切です。しっかりとした発音と基本的な会話能力を身につけることが目標です。

授業の概要と計画

第1回 中国語の特徴、及び発音について説明、また授業の進め方とテキストの使い方について説明。
 第2回から、選定したテキストの内容に沿って、以下の手順で授業を行う。
 ①発音の練習と問題指摘 ②文章の朗読 ③自分の関心のある事柄について紹介 ④相手を意識し、適切な表現

成績評価と基準

出席10%・平常点40%（授業活動参加の積極性20%、準備20%）・期末試験の成績50%として評価します。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

中級コースの学生を対象とする授業なので、履修する場合、事前の準備と予習も必要です。

オフィスアワー・連絡先

学生へのメッセージ

中国語を学びたい、中国の歴史と現状を理解したい学生なら誰でも歓迎します。

今年度の工夫

教科書

石原享一・王柯・馮誼光『21世紀中国の課題－ゼミ形式で学ぶ』東方書店 第6刷。

参考書・参考資料等

授業における使用言語

中国語、日本語

キーワード

開講科目名	ヨーロッパ女性文化論		
担当教員	坂本 千代	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

テーマ：「フランス女性作家たちが描いた社会と人間」
 19世紀を代表する女性作家ジョルジュ・サンドを中心に、フランス文学で重要な位置を占める女性作家たちの作品を通して近現代フランス社会とそのさまざまな問題を検討します。彼女たちの作品は同時代の男性作家たちとどこが共通でどこが違うのでしょうか。そして現代日本に生きる私たちの抱える問題について、彼女たちの作品はなにか解決のヒントを与えてくれるのでしょうか。

授業の概要と計画

取り上げる作家たち（予定）
 1. スキュデリー嬢とプレシューズたち
 2. スタール夫人
 3. サンド
 4. コレット
 5. ボーヴォワール
 6. デュラス
 7. サガン
 8. ノトン

成績評価と基準

平常点（授業に出席して出席票に毎回何か書いてもらいます。また、受講態度も評価。）：30点
 期末試験（論述式。配布プリントとノートは持ち込み可。）：70点

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

講義中に挙げる参考書等を読んで復習してください。フランス語を履修していなくても大丈夫です。

オフィスアワー・連絡先

国際文化学部E215

学生へのメッセージ

講義を聞いたあと、興味を持ったことについて自分で調べてみてください。そういう作業が知識の幅を広げ、自分で考える習慣を作ります。

今年度の工夫

DVDなどを使って、できるだけ単調にならない授業をめざします。

教科書

プリント配布

参考書・参考資料等

授業における使用言語

日本語

キーワード

フランス文学 女性作家

開講科目名	Cultures and Societies in Japan I（グローバル専門科目）		
担当教員	ランカシャー	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

Japanese Cultures and Societies from prehistoric times to the Sengoku period. The aim of this class is for students to be able to understand and explain Japanese culture and history in English.

授業の概要と計画

After an orientation the class will proceed by introducing aspects of Japanese prehistory working through to the various historical periods up to and including the Sengoku period. Particular cultural aspects of each period will be focused on ranging from religious and thought systems, to various aspects of the arts, from the literary to the Japanese performing arts.

成績評価と基準

Attendance and positive contribution to the class 20%, end of term report 80%. A demonstration of understanding of the course and originality of ideas expressed logically in the report is necessary.

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

This class is a "global specialized education" class taught in English with the aim of fostering global talent. Students from other departments can also enrol. An ability to follow an English language lecture is necessary. Class preparation and revision is best achieved by reading texts recommended in class. The publication "A history of Japan: from Stone Age to Superpower" by Kenneth Henshall is recommended for both preparation and revision.

オフィスアワー・連絡先

I can be consulted at the end of the class.

学生へのメッセージ

Understanding Japanese history and culture in English.

今年度の工夫

Will occasionally use audio-visual materials.

教科書

参考書・参考資料等

Will recommend background texts in class.

授業における使用言語

English

キーワード

Japanese cultures and history

開講科目名	現代社会理論		
担当教員	西澤 晃彦	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

「貧しさ」と「私らしさ」をキーワードとして近現代の時空間について認識を深め、この時代、この社会における自らの立ち位置について理解したい。現代人の無意識、身体、感情、ライフスタイル、風俗、意識、思想などなどに関連する様々な部分を切り取って並べながら、現代人と現代社会の可能性と限界を社会学的に論じていくが、結果的に、私やあなたという現代人が実に分かりやすく製造された存在であるとともに、それなりの事情のもとそこに収まりきらない存在にもなっていくことが何となく見えてくればいいと思う。

授業の概要と計画

それぞれの回を以下のタイトルのもとに行う予定。1 近代という時空間? 「貧しさ」と「私らしさ」? 2 貧困の隠蔽? 視覚の優越? 3 貧困の忘却? 「総中流」の神話? 4 現代という時空間? ポスト高度成長の社会? 5 「世間並み」の解体と「私らしさ」? 加速する個人化? 6 「私らしさ」は私の中にある?? 心理学主義と「自己責任論」? 7 貧困の犯罪化? 新自由主義の刻印? 8 「かわいい」の専制? 「人間関係」に悩む人々? 9 物語の拡散とデータベース化? 私たちに「未来」はない?? 10 もう家族しかない? 11 ポルノグラフィー化される死 12 貧困の再発見? 誰が排除されているのか? 13 なぜ虫は嫌われるのか? 隠蔽される自然? 14 人間にとって都市とは何か 15 社会の消滅?

成績評価と基準

期末試験の評価。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

容易に分かった気になれないような他者の行為や言葉に注意を傾けてほしい。逆に分かった気になれてしまうような世界からは離脱を試みてほしい。街の人々を常に観察するようにして欲しいし、友人の読まない本を読み友人の立ち入らない場所で秘密の友人を作ってほしいと思う。ほんとうは、身近な人々について分かった気になれているのは都合のいい誤解に基づくものなのだがそれはそれとして、分かった気になることから逸れて、分からない、分かりにくい現実を楽しんでほしい。普段からそういう風な楽しみをもっていたいただければ、社会学屋の話の効果も倍増する。講義における説明の論理、概念について分かりにくければ、参考書にあげた西澤晃彦・渋谷望『社会学をつかむ』（有斐閣、2007）を社会学事典代わりに参照していただければ。

オフィスアワー・連絡先

学生へのメッセージ

今年度の工夫

教科書

使用しない。

参考書・参考資料等

講義中にその都度紹介する。自分がすでに書いていることについて話すことも多くなるのでとりあえず以下の三点は示しておくが、これらは講義の一部をしかカバーしない。
 貧者の領域 / 西澤晃彦: 河出書房新社, 2010, ISBN:9784309624136
 社会学をつかむ / 西澤晃彦・渋谷望: 有斐閣, 2007, ISBN:9784641177055
 都市の社会学? 社会がかたちをあらわすとき? / 町村敬志・西澤晃彦: 有斐閣, 2000, ISBN:9784641121034

授業における使用言語

日本語

キーワード

自己、他者、貧困、「私らしさ」

開講科目名	国際文化特殊講義		
担当教員	山縣 康浩	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

(テーマ名)「大学で学ぶ」を考える～社会人になる前に
漠然とかもしれませんが、将来は企業に就職を考えている方も多いと思います。ここでは、「働く」とはどういうことなのかを少しでも理解してもらうために、実際の現場で行われていることを豊富に取り入れて講義を進めていきたいと思っています。ゴールイメージとしては、「就職」というターゲットを自分なりに見据えることで、「大学」という場で何を学ぶ必要があるかを自らが気づき、そして考え、実行する大切さを理解し、知識が高まるよりもモチベーションが高まる状態であることを目指します。

授業の概要と計画

ステップとして、まず実際の職場についてケースを用いてシミュレーションし、「働く」ことを仮想体験してもらいます。ケース自体には、それほど情報量が含まれていませんが、自らの体験と繋げてみると、一方では自己分析に、もう一方では課題発見につながります。自己分析からは、就職活動やキャリアへと展開していけますし、課題発見からは、解決方法やマーケティング手法など、実践面に役立つスキルについて興味を持てると思います。そしてベースとなるコミュニケーションについても深く考えていきたいと思っています。講義内容は特に固定せず、みなさんの理解度によって都度対応してゆきます。

成績評価と基準

私自身が人事として評価制度に携わっていた関係上、「成果」を重視したいと思っています。成果とは、「結果×プロセス」のことを言います。講義への積極的な参加と最終レポート評価との総合判断で評価します。プロセス面として、講義が修了した際に、レポートを提出してもらいその内容によって評価をします。結果面としては、最終講義でレポート課題の提出となります。プロセス60%、成果40%という配分で、実践面を特に評価します。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

グループディスカッションやディベートを行う予定です。時間厳守、誹謗中傷の厳禁など一緒に講義を受ける方への配慮を忘れないで下さい。また、講義の最後に提出したレポートでの内容を、どれだけ実践できているかが重要だと考えていますので、次回の講義までに実践したことを踏まえておいてください。また、連携創造本部主催の講義など、関連科目として参加することで、より理解も深まると思います。

オフィスアワー・連絡先

〒662-0044
兵庫県西宮市平松町2-25-1001
yyamaga@otemae.ac.jp

学生へのメッセージ

ものごとの始まりは「驚き」にあります。講義を通じて、是非色々な驚きに遭遇して下さい。

今年度の工夫

教科書

特にありません。

参考書・参考資料等

講義の都度紹介します。

授業における使用言語

日本語

キーワード

開講科目名	専門諸言語（モンゴル語）		
担当教員	萩原 守	開講区分	単位数
		後期	1単位

授業のテーマと到達目標

この授業のテーマは、「現代モンゴル語入門」である。初心者が辞書を引きつつ何とか読める程度にまでモンゴル語を学ぶことが目標である。

授業の概要と計画

全くの初心者のために、現代モンゴル語を、文字、発音、文法から丁寧に教える。最後の頃には、なんとかモンゴル文語の読解や現代モンゴル語による歴史論文読解にまで行けるであろう。また必要に応じて、内陸アジア地域の諸言語や文字史など、やや言語学的な歴史の講義もすることになろう。モンゴル人留学生も、毎回呼び、彼らにはキリル文字やモンゴル文語のローマ字転写法を学んでもらったり、発音指導をしてもらう予定。

- 1.モンゴル語という言語とその文字の位置づけ
- 2.現代モンゴル語とモンゴル文語に関する辞書・文法書の紹介
- 3.キリル文字による発音・文法と正書法
- 4.キリル文字モンゴル文の読解
- 5.モンゴル文語の文字
- 6.モンゴル文語の文法と正書法
- 7.モンゴル文語の読解

成績評価と基準

初級外国語の演習なので、出席・授業参加を中心に総合的に評価する。試験もレポートもなしとするが、発音、音読、読解等に際してしゅっちゅう当てるので、そのつもりでいてほしい。評価は、出席回数と当たったときの回答状況、自発的な質問の回数、質問の内容等々を総合的に判断して決めるため、好奇心旺盛で、かつ積極的な姿勢が必要となる。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

極力欠席しないこと。欠席が多いと、ついてこれない可能性もある。予習と復習も当然、必要。

オフィスアワー・連絡先

月曜・木曜昼休み 研究室はE-206 hagihara@kobe-u.ac.jp

学生へのメッセージ

恐れず気楽な気持ちで、モンゴル語にチャレンジしてほしい。文法は日本語とほとんど同じなので、モンゴル語は、おそらく日本人にとって最も学びやすい外国語であると思われる。ただ、文字がやや難しく、初級の授業でもあるので、何よりも続けて出席することが肝要。

今年度の工夫

今年度もモンゴル人留学生を呼び、細かい文法上のニュアンスの違いや、発音上の違いを解説してもらう予定。

教科書

特になし。必要に応じてプリントを配布する。辞書も高価で、図書館にあるため、購入の必要はなし。

参考書・参考資料等

文字や文法事項はコピーにて配布するため、購入の必要は全くない。
 ゼロから話せるモンゴル語：会話中心 / 温品廉三：三修社、2006、ISBN:9784384054002
 モンゴル語四週間 / 小沢重男：大学書林、1986、ISBN:9784475010207
 世界の言語シリーズ3 モンゴル語 / 塩谷茂樹・中嶋善輝：大阪大学出版会、2011、ISBN:9784872593273

授業における使用言語

日本語

キーワード

モンゴル語 比較言語学 モンゴル文字 キリル文字 アルタイ諸言語

開講科目名	情報科学演習Ⅲ		
担当教員	森下 淳也、西田 健志	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

コンピュータのプログラミングを学ぶことでコンピュータのソフトウェアがどのように動いているかを理解し、自分でもソフトウェアを作成してコンピュータを望み通りに動かすことができるということを実感する。入門用プログラミング言語Scratchでのプログラミングが一通りできるようになること、およびソフトウェアの動作やプログラミングの概念について説明できるようになることを目標とする。

授業の概要と計画

コンピュータ演習室で実際に作業を行いながらの授業となる。
授業のスケジュールは以下のように予定している。

1. はじめてのプログラミング
2. 変数・条件式・繰り返し・条件分岐
3. キーボードやマウスに反応させる（イベント）
4. 複数のものを連携させる（メッセージパッシング）
5. 実習1：インタラクティブなアニメーションの制作
6. 複雑なプログラムは設計してから作る
7. 実習2：アドベンチャーゲームの制作

実習では全体の進捗を見ながら1、2回ずつを実習時間と作品についての発表時間にあてる。

成績評価と基準

- ・授業中の練習課題（授業中に教員が評価）
 - ・実習課題
 - ・実習課題についての発表
- を総合して評価する。

- ・各課題は最低要件を満たしている場合に70点、独自の工夫がある場合には加点、要件を満たしていない場合には減点します。
- ・講義に出席できない場合も、課題の提出や講義時間外での個別発表などで対応します。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

情報関連科目を復習しておいてください。簡単な内容からはじめますが、前に習った内容を理解していないとその後ついていけなくなりますので、少しでもわからないことがあれば質問し、よく復習するようにしてください。この授業はプログラミングを知らない人を対象としたもので、「プログラミング基礎」の前段階となる授業です。

オフィスアワー・連絡先

いつでもどうぞ。なるべく事前にメール等で連絡してください。
メール：tnishida@people.kobe-u.ac.jp
研究室：B棟4階408

学生へのメッセージ

情報科学演習の集大成となる授業です。プログラミングが出来るようになると胸を張って「大学で情報技術を学びました」と言えるようになりますし、自分で作ったソフトウェアが動くのを体験するとコンピュータを見る目も変わるでしょう。楽しくそこまで案内します。

今年度の工夫

教科書

特に使用しません。Web教材を用意する予定です。

参考書・参考資料等

授業における使用言語

日本語

キーワード

開講科目名	芸術文化社会論		
担当教員	朝倉 三枝	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

フランスをはじめとするヨーロッパの芸術文化の特質を、老舗のファッションブランドの歴史を通して学ぶ。授業を通して、新しい価値の創造とその継承がどのように行われ今日に至るのか、さらに人はなぜブランド品に心惹かれるのか、という問題について考える。

授業の概要と計画

基本的に毎回ひとつブランドを取り上げ、その起源やアイコンアイテムの誕生、経営戦略などを、同時代の芸術潮流や社会背景に照らし合わせながら検討する。
授業で取り上げるブランドは以下を予定：ブレゲ、カルティエ、ショーメ、エルメス、ルイ・ヴィトン、バーバリー、ゲラン、ランバン、シャネルなど。

成績評価と基準

平常点（毎回、提出してもらうコメントカードの内容）40%
学期末レポート60%

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

学期末に提出するレポート作成に向け、普段から情報を収集するなど、早めに準備を進めておくこと。

オフィスアワー・連絡先

随時。メール(asakura@port.kobe-u.ac.jp)で事前に連絡をすること。E313。

学生へのメッセージ

モノがあふれ、ファッションも使い捨てになった今の時代だからこそ、自分にとって本当に価値あるものは何かを改めて考えてみてください。

今年度の工夫

パワーポイントや映像資料を活用し、より具体的に解説する。

教科書

プリントを配布。

参考書・参考資料等

必要に応じ適宜、授業で紹介する。

授業における使用言語

日本語

キーワード

フランス、ファッション、ブランド、美術、経営戦略

開講科目名	情報科学演習I		
担当教員	清光 英成、村尾 元、森下 淳也、西田 健志、佐藤 仁	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

国際文化学部では、実際の情報教育によって、自在にコンピュータが扱える学生を育成することを目指している。この授業では、コンピュータを実際に使い、基本的な情報技術を活用する手法を学ぶ。オンラインコミュニケーションや、ワードプロセッサ、表計算など、具体的な活用方法を演習でマスターしていく。さらに、プレゼンテーションを学び、自らの情報発信に備える。

授業の概要と計画

以下のような内容を予定している。なお、その順序は時によって異なる。また、演習時間の都合によって一部、演習できない項目もある。

- ・オンラインコミュニケーション（3回）
近年急速に普及しつつあるSNS等のコミュニケーションツールの利用方法や注意点を実際に利用しながら学ぶ。
- ・文書作成（4回）
ワードプロセッサの利用はレポートや論文の作成に不可欠である。単なる文章入力ではなく、組版の仕組みまでを学び、高度な文書作成を身に付けるよう演習する。
- ・表計算（4回）
アンケートの結果や収集されたデータの分析に非常によく活用されている表計算(Spread Sheet)を演習する。もっともコンピュータらしい使い方を学ぶであろう。
- ・プレゼンテーション（4回）
コンピュータを用いた発表はビジネスのみならず、ここ大学でも活用されるようになっていく。自らを他に主張するための重要な手段である。このDTPR(DeskTop PResentation)を演習する。

成績評価と基準

1つの単元を複数回の授業で演習する。毎回、演習課題を出し、単元毎にレポートとして課すことになる。出席とそれらの達成度で評価する。たとえ課題の提出がなされていても出席回数が少ない場合、評価しない。出席が十分なもののみ、提出課題で評価する。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

学部必修の授業である。演習であり、授業中に課題の作成を行なうため、出席する事が大切である。
この授業の後には、学部選択科目として、情報科学演習Ⅱ（ホームページ作成など）と情報科学演習Ⅲ（プログラミング）が用意されている。

オフィスアワー・連絡先

随時。但し、要事前連絡。(連絡先メールは詳細情報へ)
研究室: 鶴甲第1キャンパスB棟4階, B401研究室(新B棟最上階階段横)

学生へのメッセージ

授業は、実際にコンピュータを用いた演習を行ない、多くの概念と操作を身に付けて貰う。できるだけ休まずに演習を受けること。万一、休んだ場合には、自分で必ず、遅れを取り戻しておくこと。
コンピュータを使うことは、今や、大学で勉強する為の必要条件となっています。この機会にしっかり身に付けて下さい。

今年度の工夫

教科書

基本的に、全ての教材をコンピュータ上に準備する。

参考書・参考資料等

理解を助けるための補助となるものについては、授業中に配布あるいは指示する。

授業における使用言語

日本語

キーワード

開講科目名	東アジア社会経済論		
担当教員	谷川 真一	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

China under Mao and Deng

This course provides an introduction to the political and social history of China under the rules of Mao Zedong and Deng Xiaoping. Particular emphasis is given to a dynamic, rather than static, understanding of China's recent past. Students will learn not only about changes in state structures and policies, but also about those in social structures and individual lives. The land reform and socialist transformation in the 1950s, mass political movements of the Mao era—above all, the Great Leap Forward and the Cultural Revolution, and Deng's “reform and open-door” policies all had profound impacts on the Chinese society, and brought about social tensions and conflicts. The powerful “party-state” has also adapted to social changes and strains, transforming itself to suit new realities. This course is focused on such interactions between the state and social forces.

授業の概要と計画

- 1) Introduction
- 2) A short history of the Chinese Revolution
- 3) Coming of the People's Republic
- 4, 5) Land reform and early political campaigns
- 6) Socialist transformation and agricultural collectivization
- 7) From the Hundred Flowers Campaign to the Anti-Rightist Struggle
- 8) The Great Leap Forward
- 9) Economic adjustment and the Socialist Education Campaign
- 10, 11) The Cultural Revolution
- 12, 13) Deng's "reform and open-door" policies
- 14) Tiananmen student movement of 1989

成績評価と基準

Participation: 30 percent

End of the term exam or paper: 70 percent

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

Complete reading assignments in advance.

オフィスアワー・連絡先

Tuesdays at lunch time at E203

学生へのメッセージ

Ask questions whenever you are not sure!

今年度の工夫

教科書

TBA

参考書・参考資料等

授業における使用言語

English

キーワード

China, contemporary history, politics, state, society, Mao Zedong, Deng Xiaoping

開講科目名	英会話（上級）Ⅱ		
担当教員	ショルト グレゴリー ポール	開講区分	単位数
		後期	1単位

授業のテーマと到達目標

The ultimate goal of this course is to improve students' abilities to communicate in English in real world situations and on topics of personal interest. Emphasis is placed on development of vocabulary knowledge and fluency skills through exploration of various reading, writing, speaking, and listening tasks. In each class, students will be required to actively use English and to express their own ideas and opinions on relevant topics. An important theme of the course is preparation for successful study and use of English after university has been completed.

授業の概要と計画

The instructional approach will center on students engaging in a variety of tasks that require the use of English to complete. Tasks will require listening, speaking, reading and writing in English but may vary in terms emphasis on one or more of the language skills. The topic of each task will change but be grounded in real world situations and focus on the interests of the class. Based on performance of the task, students will identify personal areas of need and work to enhance their skills and knowledge in those areas.

The course will be divided into three parts:

Part I (Approximately 5 Class Sessions)

In the first part of the course, the instructor will explain and guide students through the task structure and then provide the topics and activities for each task. These topics will be selected from current, newsworthy events related to intercultural issues. Additional topics focus on self-study strategies and activities

Part II (Approximately 4 Class Sessions)

After students have become accustomed to the task structure of lessons, they will begin to contribute to the topic selections. In the second part of the course, students will collectively identify and select topics for the class to use. The instructor will provide specific tasks based on these student-selected topics. Additional topics focus on preparation for professional life and English needs after university

Part III (Approximately 4 Class Sessions)

Finally, students will work in groups to develop and implement their own designed tasks based on topics of personal interest for a class project. Each group will lead the class using their designed tasks.

成績評価と基準

Attendance: 15%
Participation: 10%
English Self-Study Notebook: 30%
Projects and Evaluations: 45%

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

Since this course is conducted entirely in English, students must have a high enough proficiency level to be able to communicate with the teacher and classmates in English. A minimum Toefl iBT score of 60 (= 500 paper-based) or Toeic score of 600 is recommended.

オフィスアワー・連絡先

Tuesday 4th Period, Wednesday 3rd Period

Other appointments can be made by contacting the instructor in person or through email: gsholdt@people.kobe-u.ac.jp

学生へのメッセージ

Students will need to bring a dictionary to each class and have access to English language media through the internet or library. Active participation is essential to successful completion of this course. Students in the Department of Intercultural Studies and students enrolled in the teacher's certificate program get priority in this course. If there is any space remaining, then students from other departments may join. Auditors will not be accepted.

本授業の履修を希望する学生が多ければ、以下の順に希望者へ履修許可を出します。

1. 国際文化学部学生

2. 教育職員免許状（英語）を取得しようとする学生

1と2の学生が履修をして、それでも残席がある場合に限り、国際文化学部以外の学部生の受講を許可します。

また、本授業では聴講を認めていません。履修者以外の学生が本授業に参加することは認められていないので注意すること。

今年度の工夫

Lessons adjusted to reflect current trends. Use of latest technology.

教科書

The materials for this course include:

1. Specific instructions on participating in tasks developed by the instructor.
2. Authentic materials obtained from current articles published on the internet including news websites such as CNN, the New York Times, and the Washington Post. Some will be selected by the instructor and some selected by students.

参考書・参考資料等

None.

授業における使用言語

English only.

キーワード

Intercultural Communication Self-Study Skills

開講科目名	中国語会話II		
担当教員	姜 春潔	開講区分	単位数
		後期	1単位

授業のテーマと到達目標

「習うより慣れよ」という。言葉に慣れることが最も大切です。しっかりとした発音と基本的な会話能力を身につけることが目標です。

授業の概要と計画

第1回 中国語の特徴、及び発音について説明、また授業の進め方とテキストの使い方について説明。
第2回から、選定したテキストの内容に沿って、以下の手順で授業を行う。
①発音の練習と問題指摘 ②文章の朗読 ③自分の関心のある事柄について紹介 ④相手を意識し、適切な表現

成績評価と基準

出席10%・平常点40%（授業活動参加の積極性20%、準備20%）・期末試験の成績50%として評価します。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

中級コースの学生を対象とする授業なので、履修する場合、事前の準備と予習も必要です。

オフィスアワー・連絡先

学生へのメッセージ

中国語を学びたい、中国の歴史と現状を理解したい学生なら誰でも歓迎します。

今年度の工夫

教科書

石原享一・王柯・馮誼光『21世紀中国の課題－ゼミ形式で学ぶ』東方書店 第6刷。

参考書・参考資料等

授業における使用言語

中国語、日本語

キーワード

開講科目名	英会話（上級）Ⅱ		
担当教員	QUINN Cynthia	開講区分	単位数
		後期	1単位

授業のテーマと到達目標

Course Objectives

- practice English to improve spoken fluency, accuracy and natural expression
- expand English vocabulary
- learn about foreign perspectives on social phenomenon

授業の概要と計画

Main Course Assignments

Weekly Listening Journals

Students will choose a 3-5 minute online audio or video segment to listen to each week and then will report on the contents in class. These will be kept in the class notebook.

Ted.com Talks

Class material will mostly be based on Ted.com presentations. We will use these Talks for listening skills/strategies practice, vocabulary study, shadowing, summarizing, and opinion-response writing and discussion. Both teacher and students will choose which Talks to study. Preparation and follow-up work will be kept in class notebook.

“Ask the Expert” group presentation and discussion

Students will introduce one of their personal interests to a small group via an image-based audience handout or poster.

Final project:

Based on a theme from a Ted Talk that students self-selected or listened to, students design and administer a survey to fellow Kobe University students. Then, students tally the results and report their data in poster format. Finally, students expand on their data with some online research and then introduce their information to the class.

Class 1 Course introduction

Class 2 Sample course assignments. Start listening journals (LJs).

Class 3 LJs. Ted Talk (Teacher).

Class 4 LJs. Ted Talk (Student).

Class 5 LJs. Ted Talk (Teacher).

Class 6 LJs. Ted Talk (Student).

Class 7 LJs. Ted Talk (Teacher).

Class 8 LJs. Ted Talk (Student).

Class 9 LJs. Ted Talk (Teacher).

Class 10 LJs. Ted Talk (Student).

Class 11 Test

Class 12 Prepare for survey project

Class 13 Prepare for survey project

Class 14 Survey project presentations

Class 15 Survey project presentations

成績評価と基準

Group presentations 20%

Final project 20%

Test 10%

Participation 10%

* Participation grade includes attendance and teacher-observed in-class participation and effort.

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

Weekly homework will be assigned.

It is expected that students will have their homework completed for each class, as this is necessary to participate in the class activities.

オフィスアワー・連絡先

Tuesdays, 4th period (by appointment)

Email: cynthia@people.kobe-u.ac.jp

学生へのメッセージ

今年度の工夫

教科書

All class materials will be distributed by the teacher or will be from online resources. No textbook required.

参考書・参考資料等

授業における使用言語

English

キーワード

開講科目名	外国語演習（ドイツ語）（グローバル専門科目）		
担当教員	クレック	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

この演習では、ドイツの文化、政治、経済、そして社会生活について検討します。ドイツの新聞記事を読んでその内容を要約し、ドイツのニュース番組やテレビの報道番組を見て、メディアで描かれたドイツの文化、政治、経済、そして社会生活を議論します。受講生が広くドイツについての理解を深めることができ、ドイツに滞在する準備ができるようにという狙いです。教室ではドイツ語を用いて受講生のドイツ語理解力、話す力、書く力を鍛えます。

授業の概要と計画

ドイツ語理解力、話す力、書く力をもっと効果的に伸ばすために、幅広い課題と実習をします。新聞記事を読んでそれを要約してもらいます。テレビ番組を見てそれについて話し合い、ゼミで話題の材料にするための短い文章を書いてもらいます。この演習の目的は今日のドイツについての理解を深めるところにあるので、ドイツの社会におけるスポーツの役割、そしてドイツの政治、文化芸術など単一的な話題に焦点を当てます。

成績評価と基準

出席、課題提出、演習への参加の度合いを総合的に判断して合計100パーセント。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

授業中、学生単独またはグループの課題を課す。
また、事前学習として文献を読んできたり、短い要約を課すこともある他、授業中は議論への参加が要求される。

オフィスアワー・連絡先

学生へのメッセージ

この授業は、特に将来ドイツの大学に留学したいというような希望を持つ学生を想定して組み立てられています。また、ドイツの留学から帰ってきた学生にも向いています。

今年度の工夫

教科書

参考書・参考資料等

授業における使用言語

German

キーワード

Germany, German culture, German politics, German language

開講科目名	専門基礎演習		
担当教員	QUINN Cynthia	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

This is an English writing course on genre analysis, in which students will...

- Learn about genre theory and do genre analyses of both Japanese and English texts
- Complete several genre-based writing assignments in English
- Learn about the cultural expectations of English audiences (= readers)
- Improve their ability to describe and explain Japanese cultural conventions

授業の概要と計画

Genre is one approach to learning about writing. Basically, a genre means a particular type of text, such as a recipe or an instruction manual or a news story. In this class, we will study the linguistic patterns of certain genres. Then, students will apply this linguistic study to their own writing, as they write their own example of the genre.

Genre Assignments:

Students will study and write in five genres during the course: email requests, recipes, event narratives, newspaper advice columns, and book reviews. It's possible that the instructor may change these assignments depending on the students' interests.

Language Analysis:

As a follow-up to these genre analyses, students will practice using the text structures through communication-oriented writing and speaking activities. These activities will help learners write more accurate texts when they write their own genre assignment and learn more about appropriate communication in English.

Cross-cultural Discussions:

In order to build on the cross-cultural text analyses we do, students will read articles on cultural themes in order to improve their ability to describe, explain, and justify cultural conventions (in particular, explaining Japanese culture in English).

Final Writing Portfolio/Course File:

Throughout the semester, students will maintain a file that contains all of the writing they have completed in the course (genre assignments and other homework). They are expected to revise each of the five writing assignments (based on teacher feedback) and submit the first and final version in this file at the end of the course.

Overall, class time will be spent discussing homework in English, so students will have many opportunities to speak English in class. Writing and research will be done at home.

Class 1 Course introduction

Class 2 Introduction to genre theory.

Class 3 Genre Analysis Unit 1

Class 4 Genre Analysis Unit 1. Cross-cultural discussion.

Class 5 Submit Genre Assignment 1. Genre Analysis Unit 2.

Class 6 Cross-cultural discussion. Genre Analysis Unit 2.

Class 7 Submit Genre Assignment 2. Genre Analysis Unit 3

Class 8 Genre Analysis Unit 3.

Class 9 Submit Genre Assignment 3. Genre Analysis Unit 4

Class 10 Genre Analysis Unit 4. Cross-cultural discussion.

Class 11 Submit Genre Assignment 4. Genre Analysis Unit 5

Class 12 Genre Analysis Unit 5

Class 13 Submit Genre Assignment 5. Genre Analysis Unit 6. Cross-cultural discussion.

Class 14 Genre Analysis Unit 6

Class 15 Submit Final Writing Portfolio (includes Genre Assignment 6).

成績評価と基準

Final Writing Portfolio 40%

Homework 30%

Discussion preparation and participation 20%

Class participation 10%

* Participation grade includes attendance and teacher-observed in-class participation and effort.

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

Weekly homework will be assigned.

It is expected that students will have their homework completed for each class, as this is necessary to participate in the class activities.

オフィスアワー・連絡先

Tuesdays, 4th period (by appointment)

Email: cynthia@people.kobe-u.ac.jp

学生へのメッセージ

今年度の工夫

教科書

The Instructor will provide all class learning materials. No textbook purchase required.

参考書・参考資料等

授業における使用言語

English

キーワード

開講科目名	フランス語会話II		
担当教員	バニユウヴェンヌイズ ブルーノ	開講区分	単位数
		後期	1単位

授業のテーマと到達目標

この授業では、次のような日常的なコミュニケーションの練習を行います。

- 簡単な作文
- ペアでの会話練習
- 語彙と文法の習得

授業の概要と計画

本授業ではCALL室を利用します。また、少人数制の授業であるため、非常によい環境で学習できます。

成績評価と基準

授業の評価は授業中の小テスト・会話テスト又は出席と授業への参加度合いによって行われます。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

この授業の対象は、（1）国際文化学部 of フランス語選択（特に2年生）の学生、（2）他学部でモチベーションの高く早く上達したいと思っている学生（フランス留学希望者など）です。

オフィスアワー・連絡先

vannieu@dragon.kobe-u.ac.jp

学生へのメッセージ

今年度の工夫

教科書

教科書なし

参考書・参考資料等

授業における使用言語

フランス語、日本語

キーワード

コミュニケーション フランス語 会話 語彙

開講科目名	ラテンアメリカ社会文化論		
担当教員	禪野 美帆	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

「ラテンアメリカから世界そして日本を見る」ラテンアメリカの社会と文化について概観し、さらにいくつかの個別テーマを取り上げ、学生と教員で共に議論を発展させる。

授業の概要と計画

次のテーマそれぞれについて2-3回の授業時間を使う。学生の関心に応じて順序が代わることがある。1) ラテンアメリカ地域の概要 2) 先住民をめぐる社会・文化状況 3) 先スペイン期および植民地時代の歴史の現代における意味付け 4) 「〇〇人(例:メキシコ人、マヤ人)」の表象 5) ラテンアメリカの政治状況と音楽 5) 日本におけるラテンアメリカ出身日系人 6) 総括とレポート作成の説明

成績評価と基準

平常点(35%)：おもに小レポートの提出とその内容 期末レポート(65%) 注：期末レポートのみ提出しても最終成績評価の対象にならない。小レポートを含め、提出物にいわゆるコピペされた文章が引用注なく使われた場合、その学生は最終成績評価の対象にならない。

履修上の注意(準備学習・復習、関連科目情報等を含む)

1) 講師の専門は文化人類学、研究対象は現代メキシコの先住民である。講義では講師の調査内容も扱う。2) 履修者に意見を求めたり、短い発表を当てることがある。3) 期末レポートのみ提出しても最終成績評価の対象にならない。また授業内小レポートや期末レポートに剽窃(コピー&ペーストなど)が発覚した場合は成績評価の対象にならない。4) 授業開始10分後からは教室に入室できない。私語をやめない場合は教室からの退出を求める。

オフィスアワー・連絡先

授業後に講師に声をかけるか、lasamericaszennno@gmail.com にメールで連絡のこと。神戸大学の専任ではないのでオフィスアワーはない。

学生へのメッセージ

1) 大学のレポート、卒業論文、そして職場での報告、みな、「具体例」を大事にしてください。その点も授業でお話します。

今年度の工夫

教科書

なし

参考書・参考資料等

授業中に適宜示す。

授業における使用言語

日本語

キーワード

開講科目名	日本伝承文化論		
担当教員	木下 資一	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

テーマと目標

伝承の世界は、文化の基層面にに関わり、各分野に及ぶ。現代日本人の考え方、行動、生活様式も、過去からの伝統の上に成り立っている。過去の日本人は自分たちの周囲の世界をどのように捉えていたのか。海の彼方や死後の世界などを、どのように考えていたのか。長く日本に住んでいても、わかっているようで、わかっていないことは少なくない。日本文化の根底にある世界観、宗教観、時空観などを、様々な説話・伝説や民俗伝承などを取り上げつつ、考えてみたい。

ビデオなども利用し、祭礼など宗教行事や祭礼と関係深い芸能などについても触れる機会をもち、その背後にある問題について解説し、かつ面白さについて話してみたい。

日本文化の基層と関わる様々な歴史や伝承文化についての基礎的知識を持ち、その特色と魅力についての理解を深めることを目標とする。

授業の概要と計画

内容と計画

以下のようなテーマで講義を進める。

- 1 日本人の時間一暦の話
- 2 日本の季節感と生活、文化
- 3 日本の祭礼と信仰
- 4 日本の祭礼と御霊信仰
- 5 御霊信仰と現代
- 6 祭礼と芸能ー春日の祭礼と能
- 7 祭礼と芸能ーエビス信仰と人形浄瑠璃
- 8 日本人の天上他界観ー天人と月世界・羽衣伝説
- 9 日本人の海中他界観ー浦島説話と竜宮
- 10 日本人の地中他界観 1ー黄泉の国から地獄へ
- 11 日本人の地中他界観 2ー地獄と地蔵、
- 12 日本人の冥界観ー極楽と浄土信仰
- 13 日本人の異境意識ー渡航僧の話 1
- 14 日本人の異境意識ー渡航僧の話 2
- 15 聖徳太子信仰と日本文化
- 16 試験

成績評価と基準

主として期末試験によります。出席もとります。（試験成績 8 割・出席 2 割：指名して質問します）

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

プリントを使用。参考書や関連論文は、授業で紹介します。

オフィスアワー・連絡先

水曜日昼休みなど。
研究室E201

学生へのメッセージ

受講にあたってノートをしっかり取ってください。ノートを取ると言うことは、板書を写すことではありません。講義で話されている内容を理解し、自分の言葉で要点を整理し、メモすることです。

一般論ですが、大学の講義は、高校に近いレベルから学界の最先端の問題にまで及ぶことが少なくありません。特に文系の講義は、資料の読解さえ出来ればかなり高度な議論が可能なので、短時間に多くの、かつ幅広い領域のことが話されることがあります。理解できなかった所は、後で関連の本や論文を読み、補うような勉強も必要です。質問は歓迎です。

今年度の工夫

視聴覚資料を多用する。

教科書

プリントを使用する。

参考書・参考資料等

授業で紹介する

授業における使用言語

日本語（古文・漢文も含む）

キーワード

日本文化 文化基盤 伝承 宗教 世界観 芸能 説話

開講科目名	情報通信システム論		
担当教員	大月 一弘	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

インターネット、携帯電話、デジタル放送など、日頃我々が利用している情報通信システムの仕組みを概説する。特に日常生活を通して我々が持っている断片的な知識を、仕組みを知ることにより、正確に理解することを目指す。

授業では、パソコンを使ってインターネット上の情報を検索しながら、課題を解決していく。各自の知識状態に応じて、自分なりの知識を深めていくことを目指す。本授業を通じて、情報通信システムにとどまらず、様々な問題に対して自分で情報を探して、解決していく力をつけることを第二の目標とする。

授業の概要と計画

講義で得た知識を、実際のコンピュータを操作しながら確認をしていく。以下のテーマを扱う

1. インターネットの歴史
2. 電子メールのしくみ
3. スпамメールとは
4. ウェブのしくみ
5. クッキーとSSL(暗号化通信と電子署名)
6. パケット通信とは(TCP/IP)
7. 携帯電話とインターネット
8. 地上デジタルテレビ放送

成績評価と基準

メーリングリストあるいはFacebookでの発言(20%)、授業中あるいは平常時に課題(40%)、最終レポート(40%)などから総合的に判断する。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

実際の機器を操作しながら学習するので、出席することが重要になる。
また、各自のコンピュータ環境の調査などの簡単な準備学習を行ってもらい、その結果をもとに授業での解説を行う。

オフィスアワー・連絡先

月曜昼休み（事前にメール連絡が望ましい：ohtsuki@kobe-u.ac.jp）

学生へのメッセージ

コンピュータの不得意な人でも、現在のインターネットや情報社会のからくりに興味がある人は、問題なく授業についていけると 생각합니다。

今年度の工夫

ノート作成用のメモを電子ファイルで配布します。

教科書

使用しない

参考書・参考資料等

授業における使用言語

日本語

キーワード

開講科目名	近代経済思想論		
担当教員	市田 良彦	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

今日における資本主義の変容と統治問題
情報化やグローバル化をキーワードに語られる今日の資本主義が、18世紀以来の古典的資本主義とどのように異なり、また同じであるかを考える。その際、問題を経済的次元に限定させることなく、政治、とりわけ市場や人間の生そのものの管理や統治をめぐる諸思想との関連に留意する。

授業の概要と計画

次のような個別テーマについて数回ずつ論じるが、その順序は変更の可能性あり。

- 1) 福祉国家の終焉
- 2) 古典的リベリズムとネオリベリズム
- 3) 労働の変容と価値概念
- 4) 金融市場と「帝国」の政治
- 5) 倫理問題の政治経済的意義

成績評価と基準

期末のレポートによる。講義でとりあげたトピックスに関連するテーマを自分で設定し、4000から6000字で論じる。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

予習と復習を怠らずに。なにを予習してほしいかは予告します。

オフィスアワー・連絡先

昼休みならいつでもけっこうです。なるべくメールで事前連絡を。ucml（アット）kobe-u.ac.jp

学生へのメッセージ

アクチュアルな社会問題に関心を！

今年度の工夫

教科書

なし。

参考書・参考資料等

授業中に指示します。

授業における使用言語

日本語

キーワード

開講科目名	日本文化交流論		
担当教員	寺内 直子	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

大きな目標＝文化に関する洞察力を深め、考察した結果を的確な文章で表現できるようにする。具体的なテーマ＝「宮廷芸能のポリティクス」の考察。この授業では日本本土の宮廷芸能（雅楽）と沖縄の宮廷芸能を取り上げ、両者を取りまく歴史と社会がどのように音楽・芸能に影響を及ぼしてきたかを比較的观点から分析する。

授業の概要と計画

1)授業テーマに関連する重要キーワード：宮廷、権威、中央、周縁、伝統、現代、文化と政治、日本、西洋、文化は誰のものか
2)雅楽の実際：音楽、楽器、舞踊、楽人
3)天皇制と宮廷儀礼（平安時代）
4)雅楽と「近代」：西洋との出会いと宮廷行事の再編
5)現代における雅楽の新しい潮流1：廃絶伝承・楽器の「復元」
6)現代における雅楽の新しい潮流2：現代芸術音楽とのコラボレーション
7)現代における雅楽の新しい潮流3：雅楽とポップス、またはワールドミュージックとエスニシティ
第二部
8)沖縄芸能入門1：沖縄の歴史：中国冊封使、日本との関わり、宮廷芸能
9)沖縄芸能入門2：民俗芸能
10)観光と芸能
11)芸能復興と文化政策：民俗芸能の「古典芸能」化と首里城復元、組踊劇場をめぐるポリティクス
12)沖縄ポップスとワールドミュージックマーケット、沖縄の表象
13)沖縄ディアスポラにおける芸能：ハワイ、LA、南米
14)まとめと討論

成績評価と基準

出席30%（毎回、授業中にコメントを書いてもらう） 中間レポート30% 期末レポート40%／授業をよく聞いて内容を理解し、得られた視点、分析方法、論理などを応用し、レポートでオリジナルな意見が述べられるように、日頃から考えておくこと。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

2回のレポートのテーマは授業の初回で提示される。授業をよく聞いて内容を理解し、得られた視点、分析方法、論理などを応用し、レポートでオリジナルな意見が述べられるように、日頃から考えておくこと。

オフィスアワー・連絡先

by appointment (naokotk (at) koe-u.ac.jp)

学生へのメッセージ

身近な事象を自分の頭で分析できるようになってください。

今年度の工夫

教科書

参考書・参考資料等

授業中に指示

授業における使用言語

日本語

キーワード

雅楽、天皇制、西洋音楽、宮廷行事、復元、現代音楽、ポップス、ワールドミュージック、エスニシティ、沖縄芸能、観光、文化政策、沖縄ディアスポラ

開講科目名	外国語演習（英語）（グローバル専門科目）		
担当教員	齋藤 剛	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

本演習は、演習担当者が指定した英語文献を基礎資料として用い、受講生の英語文献の適切な読解と分析能力、英語でのプレゼンテーション、議論の能力などを高めることを目的とする。受講生自身による関連資料の収集と分析、そして自分自身の意見の提示など、研究を進めていくうえで必要となる基礎能力の向上も本演習の目的となる。

授業の概要と計画

演習は、文献資料についての発表と、受講生によるその内容についての問題提起と、議論から構成される。

発表：
・発表に際しては、発表当日よりも2日ほど前に発表内容の概略を記したレジュメ（英文）の提出を行なうことが求められる。
・レジュメにまとめる内容は、指定された資料の概要にとどまらず、自分で調べた反証例や異なる意見の提示、それらについての発表者自身の分析、考察、理解の提示などを含むものとする。
・また、発表に際しては、単にレジュメに記載されたことを読み上げるのではなく、口頭で言葉を補いつつ丁寧に説明を施すこと。
・発表担当者以外の受講生は、事前に提出された発表レジュメを演習の前に読み込んだうえで、意見を提示できるように必ず準備をすること。

成績評価と基準

成績評価：
平常点（50パーセント）：
・平常点の内訳は、発表20パーセント、議論への参加30パーセントである。
・欠席は1回につきマイナス4パーセント。比重が大きく、成績評価に大きく影響するので注意すること。
・4回以上欠席の場合は、単位は与えられない。

テスト：
・テストは、中間テスト（25パーセント）と期末課題テスト（25パーセント）から成る。
・中間テストでは、それまでの演習での議論を踏まえたレポート（英文）の作成と提出を演習時間内に実施する。
・期末課題テストでは、演習担当者が指定した2000単語から2500単語程度のテキストの全文暗記が求められる。テキストは、余裕をもって暗記に取り組めるよう演習初回で提示するので、時間をかけて暗記すること。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

・演習での使用言語は英語である。
・演習には積極的な参加が求められる。ゆえに発言などが全くない場合には授業への参加があったとは認められず、欠席相当の扱いとなることもある。

オフィスアワー・連絡先

演習に際して伝える。

学生へのメッセージ

今年度の工夫

教科書

なし。

参考書・参考資料等

演習に際して、適宜伝える。

授業における使用言語

英語

キーワード

開講科目名	専門基礎演習		
担当教員	阪野 智一、坂井 一成、安岡 正晴	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

グローバル化は私たちに幸せにするのか？ 宗教や民族が異なる人々の平和な共存には何が必要か？ 戦争はどのように国際関係や人々の生活を変化させるのか？ こうした問いに答える政治学は、「国際文化学」の重要な柱の一つです。「政治」は一国内のあるいは国際的な異文化コミュニケーション、多文化共生の仕組みや、世界各地の地域文化の深い理解には、欠かすことのできない要素です。この演習では、そうした政治が織りなす様々な側面を、国際政治経済学・比較政治学、国際関係論・EU政治論、比較政策論・アメリカ政治論という立場から掘り下げ、2年次以降での政治の分野での専門研究への橋渡しとしたいと思います。

授業の概要と計画

初回はイントロダクションとし、授業の計画を説明、次回以降の授業への準備を指示します。また、受講者の数によっては、各回の報告はグループ発表になる可能性が高いので、グループ分けもここで行います。そのため受講希望者は、初回に必ず出席して下さい。

▼阪野：国際政治経済学・比較政治学

1. 越境する親密圏
2. 冷戦後の国際社会をどう捉えればよいのか？
3. デモクラシーは私達の生活をよくしてくれているのだろうか？そもそもデモクラシーとは何か？
4. 私たちは何を基準に投票を行っているのか？メディアは政治にどのような影響を与えているのか？

▼坂井：国際関係論・EU政治論

1. 国際政治のどこに注目することが重要なのか？
2. 安全保障はどのように変わってきたのか？
3. EU統合は国際政治にどのような意味を持つのか？
4. 文化外交に紛争予防の可能性はあるのか？

▼安岡：比較政策論、アメリカ政治論

1. 少子高齢化に対応するためにはどのような制度改革が必要か？
2. ジェンダー、階級、エスニシティなど社会的属性が政治に与える影響は何か？
3. キリスト教国やイスラム教国において、宗教が政治に果たす役割は何か？
4. 環境保護と経済成長は両立できるか？持続可能な成長とは何か？

成績評価と基準

平常点（報告内容と議論への参加状況）50%、レポート50%

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

履修は原則として1年生のみ。

【準備学習・復習】

演習なので毎回出席が大前提である。発表者はもちろん、参加者は毎回のテーマに関する綿密な予習が欠かせない。授業後には、授業時に取り上げられた重要な概念について、指定するテキスト等で十分に復習し知識の定着を図ること。

オフィスアワー・連絡先

阪野：メールで随時（sakano[at]kobe-u.ac.jp）
 安岡：メールで随時（yasuoka[at]kobe-u.ac.jp）
 坂井：メールで随時（kazu[at]harbor.kobe-u.ac.jp）

学生へのメッセージ

今年度の工夫

教科書

授業時に指示する。

参考書・参考資料等

授業における使用言語

日本語

キーワード

開講科目名	外国語演習（英語）		
担当教員	山本 真也	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

ヒトを含めた動物の心理学を扱います。テキスト・研究原著論文を中心に、心理学の背景知識に基づいて読みこなすことを目的とします。原著論文の講読では、研究論文の構造を理解し、論文に必要な構成要素とスタイルを学ぶことも重視します。その上で論理展開を追い、どのようにして仮説が検証されていくのかについて学びます。

授業の概要と計画

専門雑誌に掲載された研究原著論文を講読し、論文構成や仮説検証の流れを理解します。担当者には詳細なレジュメ作成および発表をおこなってもらいますが、担当者以外の履修者も全員が文献を読むことを必須とします。積極的な議論への参加を求めます。

成績評価と基準

出席、平常の授業態度、ならびに授業内での発表の内容、議論への参加等から総合的に評価をおこないます。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

「非言語コミュニケーション論」の履修がなされていることが望ましい。また、文献資料は自らの担当以外についても、必ず目を通し、不明の用語を調べるなど予習を行い、概要を理解して授業に臨んでください。欠席などの場合は、必ず次回までの課題を確認するようにしてください。

オフィスアワー・連絡先

月曜昼休みをオフィスアワーとします。必ず事前にメールで連絡してください。連絡先：shinyayamamoto1981@gmail.com

学生へのメッセージ

心理学系で卒業研究をおこなうことを考えている方はぜひ履修してください。専門学術雑誌に掲載された論文を原著で読むという体験をおこなうことは、今後研究を進めるうえで非常に有益です。ひとつの事実や可能性を示すために、いかに多くの手間が積み重ねられているのかを知る良い機会になると思います。

今年度の工夫

論文読解・レジュメ作成・発表・議論を通じて、研究の世界を英語で理解できるようにすることを目指します。

教科書

授業内で適宜指示します。

参考書・参考資料等

授業内で適宜指示します。

授業における使用言語

日本語、英語

キーワード

Psychology, Comparative Cognitive Science, Evolution

開講科目名	ロシア語会話II		
担当教員	グレチュコ、ヴァレリー グレチュコ	開講区分	単位数
		後期	1単位

授業のテーマと到達目標

ロシア語会話の初級用の授業です。日常生活に密着した平易なロシア語を聞き、話し、読み、書くために必要な基礎的知識を身につけることを目標にします。

授業の概要と計画

前期に引き続いて、「ロシアについて知りたいこと」、「自分にとって興味あるテーマ」などのトピックを設定し、相手に伝えたいことをしっかり表現できるよう、会話練習を重点的に行います。日常生活でよく使われる表現を、ビデオなどの映像も使いながら、楽しく学びましょう。

成績評価と基準

平常点（出席状況、授業への積極的参加・発言）70%、小テスト30%

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

授業の後に必ず復習するようにしてください。授業中に配布するプリントに出てきた新しい単語や言い回しは必ず覚えるようにしましょう。

オフィスアワー・連絡先

必要なときはメールで連絡してください。vgretchko@hotmail.com

学生へのメッセージ

前期に履修していなくても参加可能です。ロシア語やロシアの文化・社会に少しでも興味のある人はぜひ履修してください。簡単な会話練習をたくさんおこなって、少しでも話せるようになれば、外国語学習はぐんと楽しいものになりますよ。ぜひトライしてみてください。

今年度の工夫

少人数クラスの利点を生かし、インタラクティブな授業にします。

教科書

プリントを配布します。

参考書・参考資料等

授業中に指示します。

授業における使用言語

ロシア語

キーワード

ロシア語 初級会話

開講科目名	外国語演習（英語）		
担当教員	宗像 恵	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

ジェンダーに関わる英語の学術書の抜粋を読むことを通して、学術的な英語文献を読むスキルを身につけるとともに、ジェンダーに関する理解を深めることを目的とします。

授業の概要と計画

輪読しながら受講者により訳読してもらうことを基本としますが、進度に応じて逐語的な訳ではなく、段落ごとに要約してもらうことなども考えています。
そのうえで、内容的な議論を行うつもりでいます。

成績評価と基準

訳読や要約の正確さ、議論への参加状況をもとに評価します。
毎回の出席が求められます。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

自分が輪読の当番でないときも、きちんと予習をしてこないと理解が難しいと思います。毎回の予習と復習を欠かさないようにしてください。

オフィスアワー・連絡先

随時。ただし事前にメールで連絡してください。
munakatsアットマークperson.kobe-u.ac.jp
研究室はE 3 0 6です。

学生へのメッセージ

ジェンダーに関心のある人の受講を歓迎します。

今年度の工夫

受講生の関心に応じたテキストを選びたいと思います。

教科書

使用するテキストは授業の初めに配布します。

参考書・参考資料等

授業における使用言語

日本語

キーワード

ジェンダー

開講科目名	現代越境文化論		
担当教員	遠田 勝	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

異なる言語と文化が正面からぶつかりあう翻訳作業の現場は、越境する文化とは何かを考えるのに最適なフィールドのひとつだろう。わずか数語の英語テキストを前に、それをどう日本語に移し変えたらよいのか、もがき苦しむとき、翻訳者には、どのような武器と戦略が用意されているのか。辞書やウェブ上のリソースのような道具のレベルから、文化の翻訳というやや高度な理念まで、具体例によりながら、わかりやすく解説・概観してゆく。翻訳の言語文化論的背景を理解し、翻訳の実践力を身につけることを目標とします。

授業の概要と計画

授業の前半は講義形式、後半は提出された課題訳の検討・訂正という演習形式で授業をすすめる。
前半の講義では教科書の4部（1 訳読という制度 2 訳読から解説へ 3 翻訳の現場 4 文化の翻訳 ）を再構成し、1 英語を読む 2 日本語を書く 3 文化の境界を越える 4 ジャンルに対応する という形で授業をすすめる。
ただし、翻訳というのは、きわめて実務的な技能でもあるから、理解や知識だけでなく、実践力も身につけておきたい。受講者には、学期中、毎回か隔週で（受講生の人数により変わる可能性あり）課題訳を提出してもらい、それを授業で検討しながら、完成稿にしあげるという実技練習を授業の後半におく。

成績評価と基準

出席および課題訳の提出回数と内容による総合評価（100パーセント）。ただし、授業の進め方と課題訳の提出回数などは、受講生の人数と使用できる教室によって変わることがあるので、受講希望者は必ず初回のガイダンスに出席すること。課題の提出方法、ホームページの利用方法など、授業の進め方についての解説は、二週目以降はおこなわない。また、原稿の書式や提出についてのルールを守っていない提出物は、提出とは認めず、単位も与えないので、注意すること。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

授業前に教科書を読んでおくこと。毎回の課題は、提出にあたっていない場合も、翻訳しておくこと。授業後は、HPに掲載される添削例を参考に、自分でも添削してみること。

オフィスアワー・連絡先

水曜昼休み、またはメールで随時。

学生へのメッセージ

受講希望者は必ず、初回授業に出席すること。

今年度の工夫

教科書

翻訳の方法 / 川本 皓嗣、井上 健：東京大学出版会 ,1997 ,ISBN:9784130830249

参考書・参考資料等

授業における使用言語

Japanese

キーワード

開講科目名	現代コリア語I		
担当教員	高 正子	開講区分	単位数
		後期	1単位

授業のテーマと到達目標

"現代コリア語Iでは、ハングルの構成や読み書きを中心に挨拶などの言葉を学び、コリアについての関心を持つことを目標とする。

授業の概要と計画

授業は基本的には発音したり、聞き取る練習をする。だから、授業への参加が必須である。1. 母音（基本母音）2. 子音（1）3. 激音（子音）4. 濃音（子音）5. 複合母音6. 終声音7. 発音8.詩暗唱

成績評価と基準

出席加算点20点満点、中間テスト40点満点、定期試験40点満点

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

文字の読み書きを基本的に行うので、復讐を徹底的に行う。その時、音読を常にすること。

オフィスアワー・連絡先

E-mail:kojeongja2002@yahoo.co.jp

学生へのメッセージ

基礎的な学習をしっかりとすると自習で韓国語の能力は高まる。できれば、韓国へ短期留学なども考えてほしい。

今年度の工夫

ハングル検定を視野に入れた教科書だ。現代コリア語IとIIを履修することでハングル検定5級の文法や単語に照準を合わせている。また、今年度はセンテンスの暗唱を通して基礎的な会話力も身に着けるようにしたい。

教科書

『パランセ韓国語初級』朝日出版社/"金京子・喜多恵美子：,2009年 ,ISBN:978-4-255-55609-

参考書・参考資料等

授業における使用言語

キーワード

開講科目名	ラテン語入門Ⅱ		
担当教員	山澤 孝至	開講区分	単位数
		後期	1単位
授業のテーマと到達目標			
<作成中>			
授業の概要と計画			
<作成中>			
成績評価と基準			
<作成中>			
履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）			
<作成中>			
オフィスアワー・連絡先			
<作成中>			
学生へのメッセージ			
<作成中>			
今年度の工夫			
<作成中>			
教科書			
<作成中>			
参考書・参考資料等			
<作成中>			
授業における使用言語			
<作成中>			
キーワード			
<作成中>			

開講科目名	ドイツ語会話II		
担当教員	トゥルンマー フカダ シュテファン	開講区分	単位数
		後期	1単位

授業のテーマと到達目標

この授業の目標は、受講生一人ひとりのレベルに合わせた会話練習によって、今まで習った単語と文法をリフレッシュし、ゲーム等を通して更に語彙を増やすと共に、イディオムにも慣れ、それらを実際の会話でより豊かに使えるようにすることです。

授業の概要と計画

授業は会話が中心となりますが、具体的な内容は受講生と話し合いながら決めたいと考えています。受講生一人ひとりのニーズにできるだけ応えながら、EUの言語教育方針にも対応した、ドイツ語圏内で行われる外国語としてのドイツ語教育にも通じる授業を目指しています。

会話の基本はまず、自分と自分の身の回りのことを表現してみることですが、いうまでもなく、その内容は一人ひとり異なっている部分が多いです。一般化された抽象的な内容ではなく、自分にとって必要だと思われる内容を覚えていただきたいため、人数が許す限り、受講生全員が話せるように時間配分していきたいと思います。

成績評価と基準

平常の授業活動 (65%)
レポート (35%)
総合評価を行う予定です。会話ですので、積極的な参加が一番大事だと思います。自ら言いたいことを言えるようになることを目標に、質問に答えるだけではなく、質問したり、自分の体験したことを積極的に語ったりすることが評価の対象となります。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

日本でも近年よく課題になっていることですが、EUの「言語教育共通参照枠」に沿った教育においていわゆるCan-do-statementsを利用します。学習者がすでにこなしているタスクを表に書き留めることです。たとえば「ドイツ語で挨拶ができます」など書き留めることによって、学習成果をまとめながら再認識するのが狙いですが、やはり「できた」ことを書き留めるのが新しい目標を考え出す時でもあります。これらの新しい目標や、いろいろと勉強はしているけれども「できた」とどうしても言い切れない内容を教えていただければこちらも指針を指し示すことができ、間違いなく効率性の高い授業になると思います。

オフィスアワー・連絡先

水曜日12時20分 - 13時10分

学生へのメッセージ

ワークシートやYoutubeを用いた自習を積極的に行ってください。

今年度の工夫

神戸大学の交流協定校であるドイツ語圏の大学（グラーツ大学とハンブルク大学）で行われるドイツ語教育との連携強化。

教科書

授業では、神戸大学国際コミュニケーションセンターのMoodle（学習マネジメントシステム）を使用する予定です。

参考書・参考資料等

授業における使用言語

ドイツ語・日本語

キーワード

会話、ドイツ語

開講科目名	比較文明論		
担当教員	三浦 伸夫	開講区分	単位数
		後期	2単位
授業のテーマと到達目標			
比較文明論入門 古代中世を中心に、現代を常に見つめ振り返りながら文明の動態を探り、これからの世界を考える手がかりをつかむことを目指す。			
授業の概要と計画			
・比較文明とはなにか ・古代文明 - エジプト文明と現代エジプト ・古代地中海世界 - 文明移転の諸問題 ・古代ギリシャ文明 - 西洋中心主義の起源とその問題 ・中世アラビア文明 - イスラームと現代 ・中世ユダヤ文明 - 一神教と現代 ・中世大学の成立 - 大学の諸問題 ・科学革命 - 科学技術思想と現代 ・現代科学思想 - 科学技術の諸問題 以上のテーマを、2015年の世相に合わせて紹介していく。			
成績評価と基準			
最後のレポート：出席点：：9：1。出席点は講義中に感想などを書くことで代用する。レポート作成にはかなりの準備を要することになる。			
履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）			
高等学校初歩程度の世界史の知識を前提とする。復習を必ずすること。次回に質問することがある。			
オフィスアワー・連絡先			
事前にメールにて日程調整。			
学生へのメッセージ			
歴史的過去と現代がいかに結びつくか、歴史をいかに生かしたいかを考えていきたい学生の参加を望む。			
今年度の工夫			
現代の出来事をも視野に入れるので、講義内容の具体的事例は変化する可能性がある。			
教科書			
テキストは用いない。資料はこちらで準備する。			
参考書・参考資料等			
ファラオの生活文化図鑑 / ギャリー・J・ショー著 ; 近藤二郎訳 : 原書房 , 2014 , ISBN:9784562049714 伊東俊太郎著作集 / : 麗澤大学出版会 , , ISBN:			
授業における使用言語			
日本語			
キーワード			
比較文明論、科学技術、一神教			

開講科目名	スペイン語入門Ⅱ		
担当教員	平田 和重	開講区分	単位数
		後期	1単位

授業のテーマと到達目標

スヘ?イン語初級文法の習得。動詞の直説法現在形再帰動詞から接続法現在形や命令文まで?を中心に学び?ます。

授業の概要と計画

テキストの第8課から第14課まで、各課につき授業2回のヘ?ースて?進みます。

成績評価と基準

第2回目の授業より毎回授業の最初に実施する小テスト40% 学期末試験60%

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

毎回授業開始時に小テストを実施します。しっかり復習をして授業に臨んで?くた?さい。授業を休んだ?場合は、クラスメートに授業内容を確認し、小テストに備えて自習してくた?さい。期末試験の結果に、日頃の予習状況、授業態度を加味します。指定された予習事項を準備して授業に臨んで?くた?さい。

オフィスアワー・連絡先

学生へのメッセージ

出席点はありません。毎回遅刻せず?出席して、小テストでしっかり解答することか?出席点になると考えてくた?さい。

今年度の工夫

毎回会話練習の機会を設けます。

教科書

4コマ・スペイン語 初級
4コマ・スペイン語 初級 / 福嶋教隆 : 朝日出版社 ,2014年 ,ISBN:978-4-255-55067-1

参考書・参考資料等

高垣敏博編『ホ?ケットフ?ロク?レッシフ?西和・和西辞典』小学館 他に『西和中辞典』小学館や『現代スヘ?イン語辞典』『和西辞典』白水社を収録した電子辞書(またはコンテンツカート?)か?ありますので?、そちらを利用してもよいで?しょう。
ポケットフ?ロク?レッシフ?西和・和西辞典 / 高垣敏博他編 : 小学館 ,2003年 ,ISBN:ISBN:4-09-506131-6

授業における使用言語

スペイン語・日本語

キーワード

スペイン語初級文法 スペイン ラテンアメリカ

開講科目名	ドイツ語会話II		
担当教員	トゥルンマー フカダ シュテファン	開講区分	単位数
		後期	1単位

授業のテーマと到達目標

この授業の目標は、受講生一人ひとりのレベルに合わせた会話練習によって、今まで習った単語と文法をリフレッシュし、ゲーム等を通して更に語彙を増やすと共に、イディオムにも慣れ、それらを実際の会話でより豊かに使えるようにすることです。

授業の概要と計画

授業は会話が中心となりますが、具体的な内容は受講生と話し合いながら決めたいと考えています。受講生一人ひとりのニーズにできるだけ応えながら、EUの言語教育方針にも対応した、ドイツ語圏内で行われる外国語としてのドイツ語教育にも通じる授業を目指しています。
会話の基本はまず、自分と自分の身の回りのことを表現してみることですが、いうまでもなく、その内容は一人ひとり異なっている部分が多いです。一般化された抽象的な内容ではなく、自分にとって必要だと思われる内容を覚えていただきたいため、人数が許す限り、受講生全員が話せるように時間配分していきたいと思います。

成績評価と基準

平常の授業活動 (65%)
レポート (35%)
総合評価を行う予定です。会話ですので、積極的な参加が一番大事だと思います。自ら言いたいことを言えるようになることを目標に、質問に答えるだけではなく、質問したり、自分の体験したことを積極的に語ったりすることが評価の対象となります。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

日本でも近年よく課題になっていることですが、EUの「言語教育共通参照枠」に沿った教育においていわゆるCan-do-statementsを利用します。学習者がすでにこなしているタスクを表に書き留めることです。たとえば「ドイツ語で挨拶ができます」などと書き留めることによって、学習成果をまとめながら再認識するのが狙いですが、やはり「できた」ことを書き留めるのが新しい目標を考え出す時でもあります。これらの新しい目標や、いろいろと勉強はしているけれども「できた」とどうしても言い切れない内容を教えていただければこちらも指針を指し示すことができ、間違いなく効率性の高い授業になると思います。

オフィスアワー・連絡先

水曜日12時20分 - 13時10分

学生へのメッセージ

ワークシートやYoutubeを用いた自習を積極的に行ってください。

今年度の工夫

神戸大学の交流協定を結んでいるドイツ語圏の大学で行われるドイツ語教育との連携強化。

教科書

授業では、神戸大学国際コミュニケーションセンターのMoodle（学習マネジメントシステム）を使用する予定です。

参考書・参考資料等

授業における使用言語

ドイツ語・日本語

キーワード

会話、ドイツ語

開講科目名	言語脳科学		
担当教員	林 良子	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

言語産出と理解に関する神経学的基盤とその調査方法について概観する。失語症を中心とした様々な言語コミュニケーションの障害と、その生理メカニズム・脳内過程処理について解説する。

授業の概要と計画

1) 脳とことばの関係
2) ことばの産出・知覚のしくみ
3) 脳計測の方法と仕組み
4) 「ことばの鎖」と様々なコミュニケーション障害
5) 失語症とは
6) ことばの獲得と発達
また、言語臨床の専門家を招き、学期中に1度ほど講演を行なってもらうことを予定している。

成績評価と基準

授業中に課題（数回）および学期末テスト（60%）により評価する。テストは持ち込み禁止なので十分に授業内容を理解してとりくむこと。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

1年次に情報コミュニケーション概論を履修した学生を対象としています。履修していない人にもわかるように話を進めますが、ある程度の言語学やコミュニケーションに関する知識を前提とします。毎回、次の授業での内容の教科書での該当箇所を知らせますので、予習をし、教科書内容との照らし合わせ等復習を入念に行なうこと。

オフィスアワー・連絡先

火・木昼休み（事前メール連絡要）

学生へのメッセージ

授業はパワーポイント、ビデオを使って進める。パワーポイントのコピーは留学生以外には配布しないので、授業中の話やビデオをよく聞いてください。

今年度の工夫

教科書

酒井邦嘉「言語の脳科学」中公新書を予定

参考書・参考資料等

毛束真知子「絵でわかる言語障害」学研
本庄巖「脳から見た言語」中山書店
岩田誠「脳とことば」共立出版
アントニオ・ダマジオ「生存する脳」講談社

授業における使用言語

日本語

キーワード

開講科目名	日本語コミュニケーション		
担当教員	河野 美抄子	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

にほんごの かいわの れんしゅうをします。／コミュニケーションの基本となる会話能力や口頭発表能力の向上を目指す。/Conversation in Japanese

授業の概要と計画

にほんごの ロールプレイや スピーチなどをします。／ロールプレイ、インタビュー、ディスカッション、スピーチ、ディベート、プレゼンテーションなどのタスクを通して、日本語によるコミュニケーションとはどのようなものかについて考えていく。現代社会の問題点など資料を読みながら議論を進めることもある。

成績評価と基準

にほんごの ロールプレイや スピーチなどで ひょうかします。クラスに きてください。そして、クラスでたくさん はなしてください(70%)。また、はっぴょうも あります(30%)／授業活動(発言の積極性、妥当性、授業態度など)70%(欠席は減点対象)。発表・スピーチ30%

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

このクラスには りゅうがくせいと にほんじんがくせいが います。しらべるしゅくだいが ときどき あります。／この授業は留学生を対象とするが、日本人学生の参加も歓迎する。日本人学生は留学生のクラス活動を補助しつつクラスに参加することが求められる。受講者にはかなりの頻度で発言を求めるので、積極的なクラス参加が望まれる。また発表やディスカッションの際にはテーマについて十分に調べてから（予習・準備）参加されたし。

オフィスアワー・連絡先

mori.misako@nifty.com

学生へのメッセージ

にほんじんがくせいと いっしょに かいわの れんしゅうをします。いろいろな もんだいを いっしょに かんがえたり、にほんの ぶんかを べんきょうしたり します。／日本語ネイティブは最大30人までとする。希望者が多い場合は抽選の予定。なお留学生は制限なし。

今年度の工夫

にほんじんがくせいと たくさん はなすチャンスを つくります。／留学生と日本人学生とが協力して行う課題を多く出す予定である。

教科書

つかいません。／特に定めない。必要に応じてハンドアウトを配布する。

参考書・参考資料等

授業における使用言語

にほんご/日本語 Japanese

キーワード

にほんごかいわ/日本語会話、ディスカッション、ロールプレイ

開講科目名	文化混交論		
担当教員	齋藤 剛	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

ヒト・モノ・情報などの国境を越えた移動の飛躍的な増加と、世界的な規模での社会・政治・経済構造の変動への関心が高まっている。グローバリゼーションとも呼ばれるこの現象は、われわれに多様な問題を提起するものであるが、しかし、たとえば人の移動は、グローバリゼーションの展開以前から広くみられる現象でもある。本講義では、講義担当者がこれまで研究を行ってきた北アフリカなどにおける人の移動の諸相を事例とし、文化人類学における研究成果を援用することで、グローバリゼーションと呼ばれる現象とそれに関わる一連の問題群——移民、ディアスポラ、他者表象など——の問題点を明らかにするとともに、理解を深めることを目的とする。

授業の概要と計画

本講義は各論として以下のようなテーマを扱う予定である。

- ・移動とグローバリゼーションが提起する問題の広がり
 - ・人類学における移動をめぐる諸理論
 - ・グローバリゼーションと国民国家
 - ・オリエンタリズムとグローバリゼーション
 - ・地域の捉え方
 - ・移動のさまざまな捉え方：
- 移動、移民、ディアスポラ、トランスナショナルリティ
- ・中東における移動の諸相：
- リフラ（旅）、ハーッジ（巡礼）、ズィヤーラ（参詣）など

＊順序は変更される可能性がある。

成績評価と基準

- ・平常点：50パーセント（リアクションペーパーや課題確認テストなど）
- ・期末試験：50パーセント

- ・欠席は、1回ごとにマイナス4パーセント。
 - ・リアクションペーパーは、著しい遅刻をした場合、授業時間外に提出をされた場合などには、成績評価の対象とはならない。
 - ・リアクション・ペーパーに記載された内容が講義と無関係と判断されたり、あるいは 記載が著しく短い場合にも、成績評価の対象とはならない。
- 遅刻、私語、携帯電話の使用などがあった場合には、リアクション・ペーパーは、提出をされても成績評価の対象とはならない。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

- ・遅刻、私語、携帯電話の使用は厳禁。これらの事態があつ多場合には、退出を命じることがある。
- ・期末試験は、電子辞書も含め参考資料・レジュメなどの持ち込みは一切認められない。

オフィスアワー・連絡先

初回講義の際に伝える。

学生へのメッセージ

今年度の工夫

教科書

参考図書は講義の際に伝える。

参考書・参考資料等

授業における使用言語

日本語

キーワード

文化人類学、異文化理解、移動、中東、グローバリゼーション

開講科目名	情報環境論		
担当教員	村尾 元	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

情報に関するイントロダクション的な授業です。

情報というとパソコンや携帯電話など、その仕組や活用に目を奪われがちですが、より大きなシステムとして我々の社会に密接に関連していますし、また認知や分析といった、我々がその過程を気づかない所でも大きな貢献をしています。

この講義は様々な形で世の中に寄与している情報の世界を皆さんに理解してもらう事を目的としています。

授業の概要と計画

1回から数回の講義を1セットとして、1セット毎に、我々を囲む情報システムまたは情報に関連する最近の話題を取り上げ、解説を行います。

成績評価と基準

学期末試験により評価を行います。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

オフィスアワー・連絡先

いつでもどうぞ。ただし、あらかじめ電子メールで連絡をして下さい。
電子メール：hajime.murao@mulabo.org
研究室：B棟4階B409室

学生へのメッセージ

今年度の工夫

教科書

使用を予定していません。配付資料を用いる予定です。

参考書・参考資料等

必要に応じて随時指定します。

授業における使用言語

日本語

キーワード

コンピュータ, 情報家電, インターネット, 携帯電話

開講科目名	視覚文化論		
担当教員	吉田 典子	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

この授業のテーマは、絵画を中心とする視覚イメージを通して、西洋近代の歴史・社会・文化の特性を考察することである。現代文化の基盤となっている西洋近代は、国民国家の形成、ナショナリズムの発揚、大都市の成立、大衆消費社会の興隆、技術の発達、帝国主義と戦争などによって特徴づけられる一方で、西洋の「外部」すなわち異文化との接触が活発になっていく時期でもある。絵画や視覚の歴史も、これらの変化と切り離すことはできない。この授業では、視覚イメージを通じて時代を読むと同時に、イメージそのものの社会的意義を考察することを目的とする。

授業の概要と計画

次のような主題について、パワーポイントで多くの絵画を提示しながら、順次講義する。

- (1) 西洋伝統絵画の世界（ルネサンスから18世紀まで）
- (2) 近代国家の形成と視覚イメージの利用
- (3) ナショナリズムとオリエンタリズム
- (4) 近代都市パリの形成と近代絵画の成立
- (5) 美術とジェンダー
- (6) ジャポニズムとプリミティヴィズム
- (7) 産業化社会と近代デザイン

成績評価と基準

授業時に数回課すコメント・ペーパー（出席状況と講義の理解度を見る）30%、授業中に指示する提出課題30%、および学期末テスト（授業内容の理解、論理性、文章表現力などを見る）40%

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

提出課題のひとつとして、学期中に開催されている展覧会を各自見学し、レポートを提出してもらうが、それ以外にも積極的に美術館等に足を運んだり、画集を見るなどして、美術作品に親しんでほしい。

オフィスアワー・連絡先

メールによる事前連絡にて随時。
ynoriko@kobe-u.ac.jp

学生へのメッセージ

西洋絵画を楽しむにはある程度の知識が必要です。美術史は高校までの授業科目にはほとんど含まれていませんが、西洋の歴史や文化を理解する上で欠かせないものだと思います。美術史をある程度学んでいれば、ヨーロッパやアメリカで、美術館や教会を訪れることが楽しみになるでしょう。この授業では、西洋絵画へのイントロダクションを行うとともに、フランス19世紀の近代絵画を中心に学びます。その後のアートの展開については、2年次以降の「モダニズム芸術論」「現代アート論」「芸術文化社会論」などで学びます。

今年度の工夫

教科書

プリント使用

参考書・参考資料等

授業中に指示する。

授業における使用言語

日本語

キーワード

フランス 近代社会 絵画 美術 ジェンダー 異文化交流

開講科目名	統計情報処理		
担当教員	康 敏	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

高度情報化の現在において、統計的情報処理は人文科学の多くの分野で不可欠なものとなっている。世論調査などで得られた数値データを統計的な方法で処理し、その結果を解析する手法は、社会現象を取り扱うアプローチのひとつとして、頻繁に使われている。これと逆に、数値データに基づき、現象の数理モデル化を行い、そのモデルに対してシミュレーションを実行することによって、その現象の起こる機構を明らかにし、また、その現象の行方を推測することも、よく行われるアプローチである。講義では、適当な例を取り、上の二つのアプローチによる解析を行うことによって統計的情報処理のテクニックを学ぶとともに、その有効性と限界についての理解を深める。

授業の概要と計画

1. 人文科学の統計学入門
 - ・データと変量
 - ・1変量についてのデータ分析（代表値、ヒストグラム等）
 - ・2変量についてのデータ分析（相関係数、回帰分析等）
 - ・確率と分布
 - ・推定と検定
2. EXCELによるデータ処理
 - ・EXCELの基本操作法
 - ・統計関数の使用法
 - ・グラフ及び回帰直線の作成法
3. 社会現象を例としたシミュレーション
 - ・成長と飽和のモデル
 - ・ゲーム理論によるシミュレーション
4. 統計的アプローチの応用

成績評価と基準

出席、授業中の質疑応答、レポート等で最終評価を行う。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

毎回、予習・復習を入念に行なうこと。

オフィスアワー・連絡先

昼休み 事前連絡必要・
kang@people.kobe-u.ac.jp

学生へのメッセージ

統計処理を行うには、用いるアプローチのコンセプトに対する理解がとても大切であることを念頭において受講してほしい。

今年度の工夫

教科書

使用しない。

参考書・参考資料等

講義の最初に紹介する。

授業における使用言語

日本語

キーワード

開講科目名	環境倫理学（グローバル専門科目）		
担当教員	櫻井 徹	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

Social and Global Justice

This year, this class will address the theme "Social and Global Justice", which is much broader than that of "Environmental Ethics," because we are now required to consider environmental issues in the context of much broader social problems in an increasingly globalized world.

Since the 1970s, there have been long and enthusiastic arguments about what is the just method or process to distribute not only the benefits of social cooperation but also the economic and social burden created in society. Michael Sandel, a professor at Harvard University, says: "To ask whether a society is just is to ask how it distributes the things we prize--income and wealth, duties and rights, powers and opportunities, offices and honors."

In addition, particularly in these two decades, not just social inequalities within a society, but also political and socioeconomic inequalities between societies have received much attention. A discipline engaged in the latter issue is called "global justice," and so much literature on this topic has been produced in these years.

This class is conducted in English, and aims to understand the basic issues of social and global justice and to have lively discussions on these issues. The issues we will take up in the class are, for example, "Is it always morally right to save the lives of five people at the sacrifice of one life?" "What, if any, can justify an unequal distribution of goods we all prize?" and "Why, and to what extent, national borders are morally significant?" etc.

授業の概要と計画

We use Michael Sandel's famous book *Justice*(Penguin, 2010) as a textbook and are going to deal with one chapter of the book each week. Each student is required to prepare a one-page essay stating his/her questions and criticism to the chapter every week and to present it in a small group.

Class schedule is as follows:

Week 1 Class Orientation and Lecture

Week 2 Doing the Right Thing

Week 3 The Greatest Happiness Principle: Utilitarianism

Week 4 Do We Own Ourselves?: Libertarianism

Week 5 Hired Help: Markets and Morals

Week 6 What Matters Is the Motive: Immanuel Kant

Week 7 The Case for Equality: John Rawls

Week 8 Arguing Affirmative Action

Week 9 Who Deserves What?: Aristotle

Week 10 What Do We Owe to One Another: Dilemmas of Loyalty

Week 11 Justice and the Common Good

Week 12 Final Presentations

成績評価と基準

Students' achievement will be measured in terms of their performance in the following three areas:

(1) Short Essay 30%

(2) Class Presentations and Discussions 30%

(3) Final Essay 40%

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

This is a class offered for global specialized education and open for all the undergraduate students of Kobe University. However, this is not just a one-way lecture class but uses an interactive teaching method that requires the students' active learning. Therefore, absence without due notice is prohibited. Whoever wants to be absent from class should contact me via e-mail (sakurait@kobe-u.ac.jp) in advance.

オフィスアワー・連絡先

I can be contacted as needed via e-mail (sakurait@kobe-u.ac.jp)

学生へのメッセージ

High TOEFL or TOEIC score is not required to take this class. However, students are asked to read 20-30 pages of the textbook and submit a short essay every week. They are also required to participate actively in a small-group discussion in English language.

今年度の工夫

教科書

Michael J. Sandel, *Justice: What's the Right Thing to Do?* London : Penguin, 2010. Students are required to buy the textbook by the first day of the class through, for example, Amazon.co.jp.

参考書・参考資料等

Michael J. Sandel ed., *Justice: A Reader*, New York: Oxford University Press, 2007.

授業における使用言語

English

キーワード

justice, human rights, utilitarianism, equality, libertarianism, national borders

開講科目名	日本近現代社会論		
担当教員	長 志珠絵	開講区分	単位数
		後期	2単位
授業のテーマと到達目標			
歴史学および文化史研究の手法と題材を用い、東アジア同時代史の枠組みのなかで戦後日本の占領期像を検討する。占領期を歴史認識の対象として考える試み。			
授業の概要と計画			
1 歴史認識としての「占領期」/占領期像 占領期概論と占領期研究の現在 世界史のなかの/東アジア史のなかの占領期			
2 文化研究と占領期 英語の時代 住宅と都市空間 民主化の諸相とジェンダー メイドインオキュペイドジャパン			
3 戦争の記憶と帝国の忘却 占領軍とは誰か？-転戦部隊としての占領軍 空爆と核のあいだ 敗戦とセクシャリティ 検閲の時代 基地と文化研究 朝鮮戦争と文化研究			
テスト			
成績評価と基準			
平常点は、出席、コメントシート、受講人数によっては討論参加などクラスへの貢献も含めた総合評価。常識に欠ける遅刻は出席コメント提出不可、理由書等を求める場合があります。 レポートの評価基準は以下；学術的かつ人に伝わる言葉で書かれているか、見出し付けや文献参照などの作法が整っているか、論理的な整合性を示しながら自分の立場を明らかにできているか、課題設定、議論ともにひとりよがりではなく、フェアな議論を根拠を示しながら展開できているか、等。			
履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）			
初回の講義等で講義全体の概略を示します。これらについて、自分の興味関心とのマッチングを理解したうえでの受講を求めます。また毎回配布物があるので、講義の前後によく読んでおいてください。			
オフィスアワー・連絡先			
研究室E207。オフィスアワーは随時。要事前連絡（講義時に指示する）			
学生へのメッセージ			
今年度の工夫			
視覚資料等を多用する。			
教科書			
なし			
参考書・参考資料等			
親米と反米 / 吉見俊哉：岩波新書 ,2007 ,ISBN:9784004310693 敗北を抱きしめて 上 /J.ダワー：邦訳、岩波書店 ,2004 ,ISBN:9784000244206 敗北を抱きしめて 下 /J.ダワー：邦訳、岩波書店 ,2004 ,ISBN:9784000244213			
授業における使用言語			
日本語			
キーワード			
占領期研究 生活史 進駐軍 冷戦文化 ジェンダー			

開講科目名	外国語演習（中国語）		
担当教員	姜 春潔	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

中国語テキストと資料を使い、受講生諸君と中国の歴史、目下中国が抱えている社会問題、そして日中関係を考える。

授業の概要と計画

第1回 授業の進め方、テキストの使い方について説明

第2回から、選定したテキストの内容に沿って、以下の手順で授業を行う。

①主な品詞とその用法 ②文法と基本文型の説明 ③文章の翻訳 ④それぞれの課題をめぐってディスカッション

成績評価と基準

出席10%・平常点40%（授業活動参加の積極性20%、準備20%）・期末レポートの成績50%として評価します。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

テキストには日本語の訳文がついています。そのため、語学の授業というより、むしろ中国社会と日中関係の勉強になります。受講する前に、関連する新聞記事のチェックをおすすめします。

オフィスアワー・連絡先

学生へのメッセージ

中国語を学びたい、中国の歴史と現状を理解したい学生なら誰でも歓迎します。

今年度の工夫

教科書

石原享一・王柯・馮誼光『21世紀中国の課題－ゼミ形式で学ぶ』東方書店 第6刷。

参考書・参考資料等

授業における使用言語

中国語、日本語

キーワード

開講科目名	多文化政治社会論		
担当教員	近藤 正基	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

異なる文化的背景を持つ人々とともに、安心して暮らしていける社会をどのように構想し、どのように作り上げていけばよいのでしょうか。ヨーロッパ諸国では、他国に先行して様々な取り組みが見られます。本講義では、ドイツを中心に、移民の社会統合の現状、移民政策の展開、移民政策の政治力学、移民の社会統合と福祉国家の関係について考察します。

授業の概要と計画

講義は、①移民の社会統合の現状、②移民の政治、③移民と福祉国家の関係の三部から構成されます。第一部では、スカーフ問題やモスク建設などのトピックを取り上げて、移民の社会統合の現状について論じます。第二部では、福祉国家類型論・福祉政治論について解説したうえで、各国の福祉国家と移民政策のリンケージについて論じます。第三部では、現代デモクラシーの変容と関連付けながら、右翼ポピュリズム政党や移民政策コーポラティズムについて論じます。受講者数によっては、随時、グループディスカッションの時間を設けて、受講者が発言する機会を作ります。

成績評価と基準

期末テスト、70点。授業への参加、30点。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

講義中に指定する参考書について、各自が読み進めておくことが望ましいです。

オフィスアワー・連絡先

オフィスアワーは特に定めません。授業内容に関して質問がある方は、メールでアポイントメントをとってください。メールアドレス：mmrkondo@gmail.com。

学生へのメッセージ

今年度の工夫

教科書

なし

参考書・参考資料等

適宜授業中に指定します。

授業における使用言語

日本語、ドイツ語、英語

キーワード

移民政策、比較政治、比較福祉国家

開講科目名	ヨーロッパ・アメリカ宗教文化論		
担当教員	野谷 啓二	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

キリスト教は歴史的にその受容者の強力なアイデンティティを構成し、特徴的な文化を創造してきました。異宗教文化との間に、対立、武力衝突の原因をも作り出してきました。しかし他方では、異文化を統合する共通文化をも創造しました。つまり、文化的な実態としてのキリスト教は、民族のアイデンティティを構成する重要な要因であったと同時に、民族を超える普遍的な価値を持つ文化をも生み出したのです。本講義では、まずキリスト教とはどのような宗教なのかについてユダヤ教から考察し、中世の西洋キリスト教世界、さらに宗教改革を経て、プロテスタンティズムを基盤とする西洋近代社会文化の諸相を明らかにすることを目標とします。[EUIJ科目]

授業の概要と計画

1. イントロダクション 宗教と文化の関係
 2. 古代社会 ヘレニズムとヘブライズム 旧約聖書の世界
 3. 救済史
 4. ユダヤ教とユダヤ民族
 5. シナイ契約
 6. イエスの登場
 7. キリスト教会の成立
 8. 中世 ヨーロッパの誕生
 9. 修道院文化
 10. 宗教改革 近代西欧社会
 11. 近代社会とプロテスタンティズム
 12. キリスト教と資本主義
 13. 日本のキリスト教 キリスト教の受容と文化変容
- その他

成績評価と基準

出席し、前回の内容にかかわる質問に答える(10%)、ブック・レポート(40%)、期末レポート(50%)の総合評価。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

成績評価方法では出席し、前回の内容にかかわる質問に答えることが10%となっていますが、欠席が5回以上になると自動的に放棄したと見なしますので注意して下さい。当然のことながら、前回の質問に答えるためには、講義中に理解できないことは質問し、復習をすることが求められています。

オフィスアワー・連絡先

研究室：E204
Email: notani@kobe-u.ac.jp

学生へのメッセージ

宗教が文化の形成にどのように関わっているか、個人と文化のアイデンティティ構成要素としての宗教に関心がある学生を歓迎します。

今年度の工夫

受講者には復習をするよう促すために、授業開始時に時間をとって質問するようにした。

教科書

教科書は特に使用しません。講義資料をプリントで配布します。また適宜文献を紹介します。

参考書・参考資料等

参考書：ノーマン・タナー著『教会会議の歴史』（教文館）、ノーマン・サイクス著『イングランド文化と宗教伝統:近代文化形成の原動力となったキリスト教』（開文社）、野谷啓二著『イギリスのカトリック文芸復興:体制文化批判者としてのカトリック知識人』（南窓社）、タナー『新カトリック教会小史』（教文館）

授業における使用言語

日本語

キーワード

開講科目名	専門基礎演習		
担当教員	ショルト グレゴリー ポール	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

The purpose of this class is to explore options, goals, and benefits of participating in English language study abroad programs. Students will engage in reading and conduct research outside of class and participate in discussion during the seminar class sessions. They will work to identify particular study abroad options that fit their particular interests and develop critical components of typical application requirements. Students who have already participated in study abroad or home-stay programs will be encouraged to share their experiences in class. The instructor will provide guidance, lead discussion, and facilitate the development of personal application materials. A critical part of the course will be the continued study and improvement of students' English knowledge and skills. Students will maintain a personalized English Language Notebook throughout the course.

授業の概要と計画

The content of the course is presented in the following outline:

Week 1 Overview and introduction

- Explain the course, meet teacher and other students
- Discuss general goals and benefits of study abroad
- Introduce My English Notebook

Weeks 2-5 Setting Goals & Application Materials

- The Curriculum Vita
- Personal statements and application essays
- Tests

Weeks 6-9 Gathering Information and Resources

- Resources and research skills
- Identifying critical components
- Class presentations

Weeks 10-13 Finding a Study Abroad Program

- Homestay & English language study programs
- University year abroad programs
- Graduate school and short-term study programs
- Class presentations

Weeks 14-15 Round-up and evaluation

- Discuss the program and get feedback from the students
- Final English Language Notebooks checked
- Application portfolio turned in
- Evaluate the program

成績評価と基準

Attendance and active participation 15%

Classwork 10%

English Language Notebooks 30%

Project 1 15%

Project 2 20%

Application Portfolio 10%

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

No special requirements

オフィスアワー・連絡先

Office Hours: Tuesday, 4th period & Wednesday, 3rd period

Email: gsholdt@people.kobe-u.ac.jp

学生へのメッセージ

Students will need to bring a dictionary to each class and have access to English language media through the internet or library. Active participation is essential to successful completion of this course.

今年度の工夫

The latest trends and technology will be incorporated into the course.

教科書

The classes will be based around a series of instructor-devised worksheets, handouts and tasks that will involve the students in active use of English to learn about and discuss topics related to study abroad. Furthermore, students will learn techniques for and engage in internet research to find authentic materials and information about study abroad programs of their own personal interest.

参考書・参考資料等

授業における使用言語

English only.

キーワード

English, Study Abroad, Intercultural Communication

開講科目名	近代社会思想論		
担当教員	芹 茂	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

この講義は、モダニティ（近代性）をめぐる社会的、経済的、政治的、文化的な諸理論についての概観を学生に提供することを目標とする。

授業の概要と計画

授業は下記の4つのパートにおいて進められる。
1. 社会理論とは何か
2. 近代社会の主要な理論
3. 近代社会から現代社会へ
4. 現代社会と文化、ならびにグローバル化をめぐる諸理論

成績評価と基準

最終試験 100%

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

毎回授業で渡すペーパーの再確認を繰り返してください。

オフィスアワー・連絡先

金曜日 13:00-13:20

学生へのメッセージ

十分に準備してくること

今年度の工夫

教科書

使用しない

参考書・参考資料等

参考文献は授業にて指示（Reference books are to be referred in class.） / : , ISBN:

授業における使用言語

日本語

キーワード

開講科目名	音声コミュニケーション論（グローバル専門科目）		
担当教員	水口 志乃扶	開講区分	単位数
		後期	2単位
授業のテーマと到達目標			
Theme: Introduction to Phonetics Goals: 1. Learn Introductory Phonetics 2. Study how to use Praat. 3. Research on a topic on speech communication and present the research in class.			
授業の概要と計画			
1. Introduction 2. Place of articulation 3. Manner of articulation 4. Vowels and Consonants 5. Phonology and Phonetics Transcription: Consonants 6. Phonology and Phonetics Transcription: volwes 7. Praat 8. Suprasegmental Phonetics: Syllables 9. Suprasegmental Phonetics: Stress 10. Suprasegmental Phonetics: Intonation 11. Acoustic Phonetics: Vowels 12. Acoustic Phonetics: Consonants 13. Acoustic Phonetics: Sprectrograms 14. Exam 15. Presentation			
成績評価と基準			
assignment 30% performance test 10% presentation 10% exam 50%			
履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）			
No linguistic prerequisite necessary. Basic computer literary is assumed.			
オフィスアワー・連絡先			
Fri. 13.20 - 14.50 and by arrangement Office: B311			
学生へのメッセージ			
Enjoy listening and analyzing your sounds.			
今年度の工夫			
We will study articulatory phonetics first, and then suprasegmental phonetics, since students show more interests in the Kansai accent and English with Japanese accent.			
教科書			
Ladgefoged, P. and K. Johnson / A Course in Phonetics, 6th edition : Wadsworth, Cengage Learning ,2011 ,ISBN:9781428231269			
参考書・参考資料等			
Wells, Peter / English Intonation : Cambridge University Press ,2006 ,ISBN:9780521683807 日本語音声学入門 / 斎藤純男 : ,2006 ,ISBN:9784385345888			
授業における使用言語			
English			
キーワード			
Articulatory Phonetics Acoustic Phonetics Suprasegmental Phonetics Praat			

開講科目名	芸術文化環境論		
担当教員	藤野 一夫	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

劇場、ホール、ミュージアムなどの芸術文化環境を考える上で避けることのできない文化政策の必要性、歴史的生成、理論的基礎、国際比較を通して、日本における文化政策の課題と展望を探る。

授業の概要と計画

文化、とりわけ芸術にとってなぜ「政策」が必要なのか？この問いに答えるために、まず文化の「公共性」について、歴史的、理論的考察を深めます。さらに現代のヨーロッパ諸国との比較を通じて、日本における文化政策（とその実践分野であるアートマネジメント）の課題と展望を明らかにします。劇場法（仮称）の制定を視野に入れて、ミュージアムも含め、文化施設やアートシーンの全般を対象にします。

《授業計画》(1)ヨーロッパにおける芸術と社会のかかわり (2)国民国家形成と文化政策 (3)近代市民社会形成と文化政策 (4)文化政策と公共性 (5)文化政策と都市政策 (6)ドイツ及びヨーロッパ諸国の文化政策の実践 (7)日本の文化政策（国家、自治体、民間） (8)アートマネジメントの使命と実際 (9)劇場・ホール・美術館・博物館の運営の現状と課題 (10)文化多様性と文化政策

成績評価と基準

授業の参加態度（三分の一）、4回程度の質問・感想文（三分の一）、及び期末試験（三分の一）の総合点により判定。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

「文化施設制度論」「アートマネジメント論」「アートプロジェクト」「アートマネジメント実習」等の関連科目の体系的履修が望ましい。

オフィスアワー・連絡先

随時・要連絡 fujino@kobe-u.ac.jp

学生へのメッセージ

芸術文化活動によって社会とかかわることに興味のある学生の履修を希望します。

今年度の工夫

実践的事例を通して、自発的に課題を発見し、その理論化と解決方法を提案できるように誘導する。

教科書

使用しない

参考書・参考資料等

公共文化施設の公共性 / 藤野一夫 : 水曜社, 2011, ISBN:9784880652573

授業における使用言語

日本語

キーワード

開講科目名	専門基礎英語（文章表現、会話）Ⅱ（グローバル専門科目）		
担当教員	QUINN Cynthia	開講区分	単位数
		後期	1単位

授業のテーマと到達目標

* This course is a continuation of the previous semester

Whether you plan to attend a foreign university or do some other international activity that requires English, this course aims is to help students raise their test scores and communicate at a more advanced level.

Course Objectives:

1. Raise test scores through regular practice and study
2. Improve academic study skills, especially writing and speaking
3. Increase advanced/academic vocabulary
4. Learn more about English communication style

授業の概要と計画

This semester, we will continue to work on writing skills and vocabulary, in addition to more time spent on listening, speaking, and reading comprehension.

New(*) and continued assignments for this semester:

Vocabulary study

Writing practice on Criterion software

*Poster presentations (to review vocabulary)

*Weekly online listening and speaking/writing practice

*Newsgroup discussions

*Other readings, oral summaries, writing fluency practice, etc.

Class 1 Welcome back. Begin weekly vocabulary study.

Class 2 Introduction to News discussions. Online listening introduction.

Class 3 Listening/Speaking

Class 4 Vocabulary poster presentations. Reading/Writing.

Class 5 Criterion essay. Listening/Speaking

Class 6 News discussions. Reading/Writing.

Class 7 Vocabulary poster presentations. Reading/Writing

Class 8 Vocabulary Test 1. Listening/Speaking

Class 9 Criterion essay. Listening/Speaking

Class 10 News discussions. Reading/Writing

Class 11 Vocabulary poster presentations. Reading/Writing

Class 12 Listening/Speaking

Class 13 News discussions. Listening/Speaking

Class 14 Vocabulary poster presentations. Listening/Speaking

Class 15 Vocabulary Test 2

成績評価と基準

Class notebook 40%

Vocabulary tests and Criterion essays 30%

Homework 20%

Participation 10%

* Class notebook includes all vocabulary study, writing practice, speaking preparation, listening notes and summaries, and other class work.

* Participation includes attendance and teacher-observed class participation and effort.

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

Weekly homework will be assigned.

It is expected that students will have their homework completed for each class, as this is necessary to participate in the class activities.

オフィスアワー・連絡先

Tuesdays, 4th period (by appointment)

Email: cynthia@people.kobe-u.ac.jp

学生へのメッセージ

今年度の工夫

教科書

Other class materials besides the course textbook are provided by the teacher or are from online resources.
400 Must-Have Words for the TOEFL, 2nd edition / Stafford-Yilmaz and Zwier : McGraw Hill ,2014
,ISBN:9780071827591

参考書・参考資料等

授業における使用言語

English

キーワード

開講科目名	専門基礎英語（文章表現、会話）Ⅱ（グローバル専門科目）		
担当教員	ワッツ・デイビッド	開講区分	単位数
		後期	1単位

授業のテーマと到達目標

To help students further improve their fluency and vocabulary range as well as to help them increase their own confidence in their abilities to communicate effectively about a wide range of current global and international issues in the English language.

授業の概要と計画

All communicative tasks are based on areas of interest to university students, with a focus on Western culture. There is a strong emphasis on the use of authentic audio, visual and written material.

成績評価と基準

Students' grades are based on ongoing classroom task participation. This means that active participation in all classes is compulsory.

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

Attendance, punctuality and active participation in all classes is mandatory. The entire course will be conducted exclusively in English, both by the teacher and students.
This syllabus is subject to modification at the discretion of the teacher.

オフィスアワー・連絡先

To be arranged.

学生へのメッセージ

The best way to learn a language is to enjoy it!

今年度の工夫

教科書

All materials provided by the teacher.

参考書・参考資料等

授業における使用言語

100% English.

キーワード

開講科目名	専門基礎英語（文章表現、会話）Ⅱ（グローバル専門科目）		
担当教員	ショルト グレゴリー ポール	開講区分	単位数
		後期	1単位

授業のテーマと到達目標

The ultimate goal of this course is to improve students' abilities to communicate in English in real world situations and on topics of personal interest. However, emphasis for this course will be placed on topics related to interpreting, discussing, and writing about quantitative data from research, economics, or other reports. In each class, students will be required to actively use English and to express their own ideas and opinions on topics being studied.

授業の概要と計画

The instructional approach will center on students engaging in a variety of tasks that require the use of English discussion or writing to complete; however, tasks will require general English-related communication skills and strategies. The topic of each task will change but be grounded in real world situations and focus on the interests of the class. Based on performance of the task, students will identify personal areas of need and work to enhance their skills and knowledge in those areas.

The course will be divided into three parts:

Part I (Approximately 5 Class Sessions)

In the first part of the course, the instructor will explain and guide students through the task structure and then provide the topics and activities for each task. These topics will be selected from current, newsworthy events related to intercultural issues and quantitative topics. The instructor will teach specific skills and strategies related to academic-style English discussion and writing.

Part II (Approximately 5 Class Sessions)

After students have become accustomed to the task structure of lessons, they will begin to contribute to the topic selections. In the second part of the course, students will collectively identify and select topics for the class to use. The instructor will provide specific tasks based on these student-selected topics.

Part III (Approximately 5 Class Sessions)

Finally, students will work in groups to develop and implement their own designed tasks based on topics of personal interest for a class project. Each group will lead the class using their designed tasks. Students will take the TOEFL iBT on the last day of class.

成績評価と基準

Attendance/Active Participation: 15%
Class/Home Work: 10%
English Self-Study Notebook: 30%
Projects/Evaluations: 30%
Final Paper: 15%

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

Since this course is conducted entirely in English, students must have a high enough proficiency level to be able to communicate with the teacher and classmates in English. Students can prepare for the class by reviewing English vocabulary related to mathematics and research. Students will need to complete the assigned reading and writing activities before each class period. この科目はグローバル人材育成のために外国語で授業を行うグローバル専門科目です。

他学部生の履修：否

オフィスアワー・連絡先

Tuesday 4th Period, Wednesday 3rd Period
Other appointments can be made by contacting the instructor in person or through email: gsholdt@people.kobe-u.ac.jp

学生へのメッセージ

Students will need to bring a dictionary to each class and have access to English language media through the internet or library. Active participation is essential to successful completion of this course.

今年度の工夫

Lesson topics adjusted to reflect current trends. New technology used.

教科書

The materials for this course include:

1. Specific instructions on participating in tasks through worksheets developed by the instructor.
2. Specific instructions on academic-style writing and discussion through worksheets developed by the instructor.
2. Authentic materials obtained from current articles published on the internet including news websites such as CNN, the New York Times, and the Washington Post. Some will be selected by the instructor and some selected by students.

参考書・参考資料等

授業における使用言語

English only

キーワード

Intercultural communication, quantitative research, グローバル

開講科目名	専門基礎英語（文章表現、会話）Ⅱ（グローバル専門科目）		
担当教員	ウアン マリアン	開講区分	単位数
		後期	1単位
授業のテーマと到達目標			
English for Intercultural Studies (Advanced Level) is intended for students to improve their communicative skills in English and expose students to cross cultural issues and current events.			
授業の概要と計画			
Week 1: Course syllabus and class rules Week 2: Needs analysis, getting to know your classmates Week 3: Choosing topics of interest Week 4-8: First graded group project Weeks 9-12: Second graded group project Week 13-14: Reflection and course evaluation Weeks 15: Final activity (ungraded)			
成績評価と基準			
Group projects = 90% Attendance and participation = 10%			
履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）			
You must have access to the Internet and be comfortable with searching for online documents. この科目はグローバル人材育成のために外国語で授業を行うグローバル専門科目です。 他学部生の履修：否 履修する上での語学能力：英語で授業を行うため、TOEIC 600点以上又はTOEFL 500 (iBT=60) 点以上の英語能力が必要です。			
オフィスアワー・連絡先			
Monday, Period 4 (15:10-16:40), D619 Email: marianwang@people.kobe-u.ac.jp			
学生へのメッセージ			
Please be prepared to participate in English only. Arriving after the bell is late (6 Lates = Fail). Coming in 20 minutes late will be counted as absent. Sleeping in class may be counted as absent. Using your phone in class may be counted as absent. 4 absences = Fail. No late assignments. Bring handouts and complete homework on time.			
今年度の工夫			
教科書			
参考書・参考資料等			
授業における使用言語			
English only			

キーワード

Global, cross-cultural issues, current events

英語

グローバル

開講科目名	専門基礎英語（文章表現、会話）Ⅱ（グローバル専門科目）		
担当教員	QUINN Cynthia	開講区分	単位数
		後期	1単位

授業のテーマと到達目標

* This course is a continuation of the previous semester

Whether you plan to attend a foreign university or do some other international activity that requires English, this course aims is to help students raise their test scores and communicate at a more advanced level.

Course Objectives:

1. Raise test scores through regular practice and study
2. Improve academic study skills, especially writing and speaking
3. Increase advanced/academic vocabulary
4. Learn more about English communication style

授業の概要と計画

This semester, we will continue to work on writing skills and vocabulary, in addition to more time spent on listening, speaking, and reading comprehension.

New(*) and continued assignments for this semester:

Vocabulary study

Writing practice on Criterion software

*Poster presentations (to review vocabulary)

*Weekly online listening and speaking/writing practice

*Newsgroup discussions

*Other readings, oral summaries, writing fluency practice, etc.

Class 1 Welcome back. Begin weekly vocabulary study.

Class 2 Introduction to News discussions. Online listening introduction.

Class 3 Listening/Speaking

Class 4 Vocabulary poster presentations. Reading/Writing.

Class 5 Criterion essay. Listening/Speaking

Class 6 News discussions. Reading/Writing.

Class 7 Vocabulary poster presentations. Reading/Writing

Class 8 Vocabulary Test 1. Listening/Speaking

Class 9 Criterion essay. Listening/Speaking

Class 10 News discussions. Reading/Writing

Class 11 Vocabulary poster presentations. Reading/Writing

Class 12 Listening/Speaking

Class 13 News discussions. Listening/Speaking

Class 14 Vocabulary poster presentations. Listening/Speaking

Class 15 Vocabulary Test 2

成績評価と基準

Class notebook 40%

Vocabulary tests and Criterion essays 30%

Homework 20%

Participation 10%

* Class notebook includes all vocabulary study, writing practice, speaking preparation, listening notes and summaries, and other class work.

* Participation includes attendance and teacher-observed class participation and effort.

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

Weekly homework will be assigned.

It is expected that students will have their homework completed for each class, as this is necessary to participate in the class activities.

オフィスアワー・連絡先

Tuesdays, 4th period (by appointment)

Email: cynthia@people.kobe-u.ac.jp

学生へのメッセージ

今年度の工夫

教科書

Other class materials besides the course textbook are provided by the teacher or are from online resources.
400 Must-Have Words for the TOEFL, 2nd edition / Stafford-Yilmaz and Zwier : McGraw Hill ,2014
,ISBN:9780071827591

参考書・参考資料等

授業における使用言語

English

キーワード

開講科目名	専門基礎英語（文章表現、会話）Ⅱ（グローバル専門科目）		
担当教員	ワッツ・デイビッド	開講区分	単位数
		後期	1単位

授業のテーマと到達目標

To help students further improve their fluency and vocabulary range as well as to help them increase their own confidence in their abilities to communicate effectively about a wide range of current global and international issues in the English language.

授業の概要と計画

All communicative tasks are based on areas of interest to university students, with a focus on Western culture. There is a strong emphasis on the use of authentic audio, visual and written material.

成績評価と基準

Students' grades are based on ongoing classroom task participation. This means that active participation in all classes is compulsory.

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

Attendance, punctuality and active participation in all classes is mandatory. The entire course will be conducted exclusively in English, both by the teacher and students.
This syllabus is subject to modification at the discretion of the teacher.

オフィスアワー・連絡先

To be arranged.

学生へのメッセージ

The best way to learn a language is to enjoy it!

今年度の工夫

教科書

All materials provided by the teacher.

参考書・参考資料等

授業における使用言語

100% English.

キーワード

開講科目名	民族誌学		
担当教員	柴田 佳子	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

テーマ：民族誌(ethnography)と、その作成の根拠となっているフィールドワークについて多種多様な個別具体的事例の内容をふまえて理解を深める。と同時に、それらに付随する諸問題を吟味する。
到達目標：上記に絡む、調査する側とされる側、書く／表象する側と書かれる／表象される側の不均衡な関係性、知（ローカル・ノレッジ含む）の性質や権力性などを自省的に批判する力を養成する。それらを通して、フィールドワークのあり方、倫理性、ポジション、他者表象の困難、相互関係によって構築される「異文化理解」の諸側面、複雑で多様な「当事者／ネイティブの視点」、「当事者／ネイティブ」による自己表象（と政治化）などについて再考できる力がつくこと。

授業の概要と計画

フィールドワーク、エスノグラフィ作成／生産や公開、利用といった諸側面について、何人かの有名な人類学者の足跡を文献や映像資料などをもとに検討する。注目するのは、たとえば以下のとおり。（１）フィールドワークの重要性、可能性と限界や諸問題（言語、通訳を含め）（２）「調査地被害」（誰のため？、何のため？）、関与や民族誌公表による論争（３）オリエンタリズム、本質主義批判（４）交錯する「ネイティブの視点」、「部分的真実」、（５）政治性／権力性、メディア利用、（６）ナラティブ、フィクションの問題（７）過去、歴史、「伝統」への視座

成績評価と基準

平常点（60％）、学期末の判定対象物（40％：ただし、テストかレポートかは授業開始後に決定。テスト／レポートは、授業内容の理解度を問うもの。教員と相談の上、独自のフィールドワークをもとにした民族誌的レポートの作成も大いに奨励する。その場合は出来具合により加点する。）

☆平常点は出席していないと書けない「コメントペーパー」による。（ただ授業に漫然と出席するだけでは書けない。）

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

- 1）映像資料も多用しますが、理解を深めるために、配布資料を必ず事前によく読むことは必須です。その上でしっかり視聴し、咀嚼しましょう。参考文献や映像資料も復習に積極的に活用して下さい。
- 2）1年時の「文化人類学」をはじめ、他の人類学関係の授業も履修していると理解は深まります。

オフィスアワー・連絡先

随時：ただし、あらかじめメールなどでアポイントメントをとってください。yoshibat@kobe-u.ac.jp

学生へのメッセージ

☆人類学に限定された問題系ではなく、「調査」や「表象」を伴う人文社会系の領域に広く関連するものです。こちらから毎回、いわゆる「正解」のない問いを投げかけています。問題意識をもち、質問などして下さい。

今年度の工夫

これまでより多く講義者自身の経験からの話を盛り込む予定。
これまでのコメントペーパーの内容を活用。

教科書

「教科書」はなし。

参考書・参考資料等

参考文献などは適宜、授業中に指示

授業における使用言語

日本語、必要に応じて英語

キーワード

深い異文化／他者理解へ

開講科目名	日本歴史民俗論		
担当教員	小栗栖 健治	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

私たちの暮らしには、古くからの伝統が受け継がれている。春の祭りや秋の祭り、正月や盂蘭盆の風習、葬送の風俗は、とりわけ身近な存在である。本科目では、現行の民俗を中心に、歴史的要素を抽出し、地域社会の成り立ちや現代生活の源流について考える。
日本人の生活習慣や伝統が、その時代の宗教や社会構造の影響を受けて成立、展開し、現代社会に受け継がれていることを理解する。

授業の概要と計画

- 1 歴史と民俗
- 2 地方文化への関心
(祭りに歴史を読む)
- 3 村の開発伝承と祭り
- 4 地域社会の発展と祭り
- 5 旧住人と新住人
- 6 祭礼文化の地方伝播
(暮らしと民俗)
- 7 家の一年
- 8 家を訪れる正月神
- 9 正月の鬼
(地獄絵の世界)
- 10 仏教伝来
- 11 死者供養の民俗
- 12 六道輪廻
- 13 地獄観の変化
- 14 死後世界の案内人
- 15 試験

成績評価と基準

試験（8割 授業内容の理解度）
授業への参加（2割）

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

広い領域のことが話題になるので、参考書や講義中に紹介した文献等を参考に、予習復習をすること。

オフィスアワー・連絡先

授業終了後

学生へのメッセージ

自分たちの周りで行われている伝統的な行事や風俗・習慣に関心を持ってください。

今年度の工夫

教科書

プリントを配布する。

参考書・参考資料等

ひょうごの民俗芸能 / 兵庫県民俗芸能調査会 : 神戸新聞総合出版センター, 1998年, ISBN:434300032
ふるさとの原像 兵庫の民俗写真集 / 小栗栖健治・久下正史 : 神戸新聞総合出版センター, 2012年, ISBN:9784343006639
図説 地獄絵の世界 / 小栗栖健治 : 河出書房新社, 2013年, ISBN:9784309762050

授業における使用言語

日本語のみ

キーワード

日本文化 神と仏 祭り 鬼 正月 荘園 村 城下町 宮座 地獄絵 熊野比丘尼 追善供養

開講科目名	英会話（上級）Ⅱ		
担当教員	ウアン マリアン	開講区分	単位数
		後期	1単位

授業のテーマと到達目標

English for Intercultural Studies Ⅱ (Advanced) is designed for students to be able to discuss issues related to current events. Students will be expected to lead discussions, give presentations and involve their peers in language activities. Students will research topics based on intercultural issues. The overall emphasis will be on students to do peer teaching activities. Students will receive guidance to organize their presentations and discussions.

授業の概要と計画

Week 1: Course syllabus and class rules
Week 2: Needs analysis, getting to know your classmates
Week 3: Choosing topics of interest
Weeks 4-14: Graded group peer teaching activities
Week 15: Reflection and course evaluation

成績評価と基準

Group projects = 90%
Attendance and participation = 10%

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

You must have access to the Internet and be comfortable with searching for online documents.

オフィスアワー・連絡先

Monday, Period 4 (15:10-16:40), D619
Email: marianwang@people.kobe-u.ac.jp

学生へのメッセージ

Please be prepared to participate in English only. Arriving after the bell is late (6 Lates = Fail). Coming in 20 minutes late will be counted as absent. Sleeping in class may be counted as absent. Using your phone in class may be counted as absent. 4 absences = Fail. No late assignments. Bring handouts and complete homework on time.

今年度の工夫

教科書

参考書・参考資料等

授業における使用言語

English only

キーワード

Peer teaching, current events, intercultural issues, speaking

開講科目名	Academic Writing（グローバル専門科目）		
担当教員	クーパー	開講区分	単位数
		後期	1単位
授業のテーマと到達目標			
In this course we will be reinforcing the basic principles of academic writing. Students will start to learn how to write several different kinds of simple paragraphs, and later move on to longer multi-paragraph essays. The focus will be on producing written language that has a strong, logical argument and which is clearly constructed.			
授業の概要と計画			
Week 1. Introduction and outline of course. Self-introduction. Week 2 & 3 : Paragraph Structure Week 4. Supporting sentences Weeks 5 & 6. Introductions and conclusions Weeks 7 & 8 Comparing and contrasting paragraphs Week 9 & 10. Descriptive paragraphs Week 10 & 11. Logical organisation of ideas Weeks 12& 13: Unity and coherence Week 14: Making a plan and transition signals Week 15: Review			
成績評価と基準			
Students will be graded on several short written assignments and one final paper.			
履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）			
Students must come to class regularly or they may not be able to follow.			
オフィスアワー・連絡先			
Fridays after class			
学生へのメッセージ			
Please do your best , prepare for class and review every week.			
今年度の工夫			
教科書			
Alice Oshima, Ann Hogue, Introduction to Academic English Level 3			
参考書・参考資料等			
Dictionary and Thesaurus			
授業における使用言語			
キーワード			

開講科目名	Academic Writing（グローバル専門科目）		
担当教員	アダムズ	開講区分	単位数
		後期	1単位

授業のテーマと到達目標

Educational systems are the products of culture. Japanese education prepares students to be successful in a collectivist culture, performing their jobs and interacting with others appropriately in various personal and professional hierarchical relations. Education in the West enables students to develop independent thought, preparing them to participate in an individualist society. Rhetoric, the art of speaking and writing well, is a foundation of Western education. In ancient Greece, because participation in democracy required citizens to speak effectively and persuasively, rhetoric was the core in the preparation of young men to become useful and successful members of society. Today the curriculum has been adapted to the modern world, however rhetorical proficiency, in writing as well as in speaking, remains an essential element. Students are required to write essays because in the process of writing clearly about a subject they understand it more thoroughly than if they only read about it or listen to lectures. In writing essays and research papers students show that they not only have understood the course material but have incorporated it into their own thinking. Having experience in this kind of writing is a valuable part of learning the English language, and it is very important for students planning to study abroad.

Because they belong to an individualist society, English speakers have a strong sense of ownership about the things they create: their inventions, designs, ideas, and what they write. English speakers must distinguish clearly in their writing between what are their own thoughts and words and where they have incorporated the work of other writers. There is a system that enables readers to see this distinction easily. In this class students will become familiar with this system.

授業の概要と計画

Students will read short articles and chapters about topics of interest in the world community. They will discuss the main points of the articles in small groups and then write essays based on their reading and discussions.

Weeks 1 ? 3: Paragraph writing, paraphrasing, bibliography.

Weeks 4 ? 5: Essay writing; thesis statement, connecting paragraphs, conclusions, quotations. Weeks 6 - 12: Essay writing, documenting sources.

Week 13: Final writing exercise due

成績評価と基準

Homework (discussion preparation, writing exercises) 40%; In class writing exercises 30%; Final Writing Exercise 30%

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

Weekly reading and writing exercises

オフィスアワー・連絡先

Contact email address will be provided in class

学生へのメッセージ

It is very important to attend class regularly and do all preparation for class on time.

今年度の工夫

教科書

There is no textbook to purchase. Some materials will be provided in class; some will be available on the Web (URLs provided in class -- you must be able to print from the internet.)

参考書・参考資料等

授業における使用言語

English

キーワード

Rhetoric, essay writing, documentation

開講科目名	専門基礎演習		
担当教員	吉田 典子	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

ルネサンスから19世紀初めにかけての西洋伝統絵画を主題として、西洋美術史についての専門的な知識を得、その方法論についても学ぶことを目標とする。

授業の概要と計画

最初の2,3回は、イントロダクションとして、西洋美術史にかんする基本的な事項や文献の案内を交えながら授業を進める。テキストは、神話画、宗教画、寓意画、古代史と幻想、肖像画、風景画、風俗画、静物画というジャンルに分かれている。人数にもよるが、毎回担当者を決めて報告してもらう形式で進める。

成績評価と基準

平常点（発表や授業中の議論への参加）が50%、期末レポート50%で評価する。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

学芸員の資格を取りたいと思っている人は、是非受講して下さい。

オフィスアワー・連絡先

随時。できれば事前にメールで連絡のこと。ynoriko@kobe-u.ac.jp

学生へのメッセージ

伝統的な西洋絵画を楽しむためには、ちょっとした知識が必要です。この演習を通して、絵を見ることの面白さを知ってもらえればと思います。また、この授業は後期ですが、6月16日から9月27日まで京都市美術館で「ルーヴル美術館展」が開催されます。かなりいい作品がくるので是非見てみてください。

今年度の工夫

教科書

まなざしのレッスン(1)西洋伝統絵画 / 三浦篤：東京大学出版会,2001,ISBN:

参考書・参考資料等

授業における使用言語

キーワード

開講科目名	言語構造論		
担当教員	金田 純平	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

言語を客観的に考える方法や分析する方法を学び、後にそれらを使って実際に言語現象を分析できるようになることを目指す。

授業の概要と計画

言語を研究する意義から始めて、コトバを客観的に考えるための枠組みについて解説する。一般言語学の中心分野である音声学、音韻論、語彙論・形態論、統語論、意味論、語用論について話題を提供し、関連項目も取り上げて授業を進める。

- 第1回 導入：言語とは何か？言語を研究することとは何か？
- 第2回 言語を較べる：通時態と共時態
- 第3回 音と音素：音声学と音韻論
- 第4回 語彙と形態素：形態論
- 第5回 品詞と文法範疇：統語論 1
- 第6回 語順と構文：統語論 2
- 第7回 主語と主題、焦点：統語論 3
- 第8回 単語と文の意味：意味論
- 第9回 言語の理解とこころの動き：言語と認知
- 第10回 言語とコミュニケーション 1：語用論
- 第11回 言語とコミュニケーション 2：社会言語学
- 第12回 文字 1：世界の文字
- 第13回 文字 2：視覚言語としての文字表現
- 第14回 言語とコンピュータ

成績評価と基準

記述式の期末試験にて判定する。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

専門用語や抽象概念が多く出てくるので、正しく身に付けられるよう復習することをお勧めします。

オフィスアワー・連絡先

非常勤講師のため、メールにて連絡すること。

学生へのメッセージ

日常において、身の回りの言語について観察してみましょう。そして、何か変なところ、面白いところなどに気づいていけるように言語感覚・感性を磨きましょう。一見、役に立たないと思うかもしれませんが、文章を書くとき、外国語を学ぶとき、他人とコミュニケーションをとるときなどにきっと役に立つはずです。

今年度の工夫

文字やコンピュータとの関係など、現代における言語の使用についても取り扱い、日常のコミュニケーションにおける言語の役割について考える機会を設けている。

教科書

使用しない

参考書・参考資料等

話題に関連する文献を授業中に紹介する

授業における使用言語

日本語

キーワード

言語 コミュニケーション 記号 活動 分析

開講科目名	専門基礎英語（文章表現、会話）Ⅱ（グローバル専門科目）		
担当教員	ショルト グレゴリー ポール	開講区分	単位数
		後期	1単位

授業のテーマと到達目標

The ultimate goal of this course is to improve students' abilities to communicate in English in real world situations and on topics of personal interest. However, emphasis for this course will be placed on topics related to interpreting, discussing, and writing about quantitative data from research, economics, or other reports. In each class, students will be required to actively use English and to express their own ideas and opinions on topics being studied.

授業の概要と計画

The instructional approach will center on students engaging in a variety of tasks that require the use of English discussion or writing to complete; however, tasks will require general English-related communication skills and strategies. The topic of each task will change but be grounded in real world situations and focus on the interests of the class. Based on performance of the task, students will identify personal areas of need and work to enhance their skills and knowledge in those areas.

The course will be divided into three parts:

Part I (Approximately 5 Class Sessions)

In the first part of the course, the instructor will explain and guide students through the task structure and then provide the topics and activities for each task. These topics will be selected from current, newsworthy events related to intercultural issues and quantitative topics. The instructor will teach specific skills and strategies related to academic-style English discussion and writing.

Part II (Approximately 5 Class Sessions)

After students have become accustomed to the task structure of lessons, they will begin to contribute to the topic selections. In the second part of the course, students will collectively identify and select topics for the class to use. The instructor will provide specific tasks based on these student-selected topics.

Part III (Approximately 5 Class Sessions)

Finally, students will work in groups to develop and implement their own designed tasks based on topics of personal interest for a class project. Each group will lead the class using their designed tasks. Students will take the TOEFL iBT on the last day of class.

成績評価と基準

Attendance/Active Participation: 15%
Class/Home Work: 10%
English Self-Study Notebook: 30%
Projects/Evaluations: 30%
Final Paper: 15%

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

Since this course is conducted entirely in English, students must have a high enough proficiency level to be able to communicate with the teacher and classmates in English. Students can prepare for the class by reviewing English vocabulary related to mathematics and research. Students will need to complete the assigned reading and writing activities before each class period. この科目はグローバル人材育成のために外国語で授業を行うグローバル専門科目です。

他学部生の履修：否

オフィスアワー・連絡先

Tuesday 4th Period, Wednesday 3rd Period
Other appointments can be made by contacting the instructor in person or through email: gsholdt@people.kobe-u.ac.jp

学生へのメッセージ

Students will need to bring a dictionary to each class and have access to English language media through the internet or library. Active participation is essential to successful completion of this course.

今年度の工夫

Lesson topics adjusted to reflect current trends. New technology used.

教科書

The materials for this course include:

1. Specific instructions on participating in tasks through worksheets developed by the instructor.
2. Specific instructions on academic-style writing and discussion through worksheets developed by the instructor.
2. Authentic materials obtained from current articles published on the internet including news websites such as CNN, the New York Times, and the Washington Post. Some will be selected by the instructor and some selected by students.

参考書・参考資料等

授業における使用言語

English only

キーワード

Intercultural communication, quantitative research, グローバル

開講科目名	専門基礎英語（文章表現、会話）Ⅱ（グローバル専門科目）		
担当教員	ウアン マリアン	開講区分	単位数
		後期	1単位
授業のテーマと到達目標			
English for Intercultural Studies (Advanced Level) is intended for students to improve their communicative skills in English and expose students to cross cultural issues and current events.			
授業の概要と計画			
Week 1: Course syllabus and class rules Week 2: Needs analysis, getting to know your classmates Week 3: Choosing topics of interest Week 4-8: First graded group project Weeks 9-12: Second graded group project Week 13-14: Reflection and course evaluation Weeks 15: Final activity (ungraded)			
成績評価と基準			
Group projects = 90% Attendance and participation = 10%			
履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）			
You must have access to the Internet and be comfortable with searching for online documents. この科目はグローバル人材育成のために外国語で授業を行うグローバル専門科目です。 他学部生の履修：否 履修する上での語学能力：英語で授業を行うため、TOEIC 600点以上又はTOEFL 500 (iBT=60) 点以上の英語能力が必要です。			
オフィスアワー・連絡先			
Monday, Period 4 (15:10-16:40), D619 Email: marianwang@people.kobe-u.ac.jp			
学生へのメッセージ			
Please be prepared to participate in English only. Arriving after the bell is late (6 Lates = Fail). Coming in 20 minutes late will be counted as absent. Sleeping in class may be counted as absent. Using your phone in class may be counted as absent. 4 absences = Fail. No late assignments. Bring handouts and complete homework on time.			
今年度の工夫			
教科書			
参考書・参考資料等			

授業における使用言語

English only

キーワード

Global, cross-cultural issues, current events

英語

グローバル

開講科目名	バイオエシックス		
担当教員	山崎 康仕	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

テーマ：「生死をめぐる規範の形成と制度化」
 目標：科学技術による人間生命の操作や地球規模での環境問題の深刻化など、現代社会においては「生命」に関する倫理や規範が揺らぎ、再構築が求められている。一方において体外授精技術、ES細胞研究、遺伝子研究などの人の生まれに関わる諸問題、他方において脳死、安楽死などの人の死に関わる諸問題など解決を求められている。この講義は、これら具体的な諸問題を通して「生命」に関する規範形成とその制度化の問題を考察することを目標とすると共に、ESD(Education for Sustainable Development)科目として生命倫理におけるSustainabilityについての理解の促進を目標としている。

授業の概要と計画

Introduction-----法・倫理と文化規範、そして Sustainability

1. 「生」をめぐる文化規範
 - 1-1. "Bioethics"の生成と発展
 - 1-2. 「生殖技術」の発展とヒトの受精卵の地位
 - 1-3. 生殖補助医療の発展
 - 1-4. 「中絶論争」の変遷
 - 1-5. 「遺伝子研究」と「人間の尊厳」
 - 1-6. 「代理母」と家族観の変遷
2. 「医療」をめぐる文化規範
 - 2-1. 医療の質的転換と医師像の変更
 - 2-2. 医療における自己決定
 - 2-3. 医療倫理と研究倫理
3. 「死」をめぐる文化規範
 - 3-1. 「死」の概念
 - 3-2. 脳死・臓器移植問題
 - 3-3. 「安楽死」問題
4. 「生死の文化規範」の制度化とSustainability

成績評価と基準

原則として学期末の試験によって100%の評価を行うが、授業中に課す課題作成で10%を上限に成績評価に加点することもある。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

参考文献にあげた文献のどれかに目を通して授業に参加すること。
 授業中に時々課題を課すことがあるので、授業には必ず出席すること。

オフィスアワー・連絡先

yy@people.kobe-u.ac.jp

学生へのメッセージ

問題意識をもって授業に積極的に参加することを期待します。

今年度の工夫

教科書

教科書としては特に指定しない。

参考書・参考資料等

児玉 聡・なつたか『マンガで学ぶ生命倫理:わたしたちに課せられた「いのち」の宿題』化学同人 (2013)
樋口 範雄『ケース・スタディ生命倫理と法 第2版 (ジュリスト増刊)』有斐閣 (2012)
安藤 泰至・高橋 都編『第4巻 終末期医療(シリーズ生命倫理学)』丸善出版 (2012)
笹栗 俊之・武藤 香織編『第15巻 医学研究(シリーズ生命倫理学)』丸善出版 (2012)
霜田 求・虫明 茂編『第12巻 先端医療(シリーズ生命倫理学)』丸善出版 (2012)

池田 典昭・加藤 良夫編『第18巻 医療事故と医療人権侵害』丸善出版 (2012)
甲斐 克則他編『安楽死・尊厳死(シリーズ生命倫理学)』丸善出版 (2012)
伴 信太郎・藤野 昭宏『第19巻 医療倫理教育』丸善出版 (2012)
菅沼信彦・盛永審一郎(編)『生殖医療(シリーズ生命倫理学)』(丸善出版,2012)
倉持武・丸山英二(編)『脳死・移植医療(シリーズ生命倫理学)』(丸善出版,2012)
玉井真理子・大谷いづみ(編)『はじめて出会う生命倫理(有斐閣アルマ)』有斐閣 (201
A.ジャンセン『生命倫理学の誕生』(勁草書房,2009)

授業における使用言語

日本語

キーワード

生命倫理学 バイオエシックス 医療倫理 ヒト胚 研究倫理 代理母 安楽死 人間の尊厳 文化規範

開講科目名	Academic Writing（グローバル専門科目）		
担当教員	クーパー	開講区分	単位数
		後期	1単位
授業のテーマと到達目標			
<作成中>			
授業の概要と計画			
<作成中>			
成績評価と基準			
<作成中>			
履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）			
<作成中>			
オフィスアワー・連絡先			
<作成中>			
学生へのメッセージ			
<作成中>			
今年度の工夫			
<作成中>			
教科書			
<作成中>			
参考書・参考資料等			
<作成中>			
授業における使用言語			
<作成中>			
キーワード			
<作成中>			

開講科目名	Academic Writing（グローバル専門科目）		
担当教員	アダムズ	開講区分	単位数
		後期	1単位

授業のテーマと到達目標

Educational systems are the products of culture. Japanese education prepares students to be successful in a collectivist culture, performing their jobs and interacting with others appropriately in various personal and professional hierarchical relations. Education in the West enables students to develop independent thought, preparing them to participate in an individualist society. Rhetoric, the art of speaking and writing well, is a foundation of Western education. In ancient Greece, because participation in democracy required citizens to speak effectively and persuasively, rhetoric was the core in the preparation of young men to become useful and successful members of society. Today the curriculum has been adapted to the modern world, however rhetorical proficiency, in writing as well as in speaking, remains an essential element. Students are required to write essays because in the process of writing clearly about a subject they understand it more thoroughly than if they only read about it or listen to lectures. In writing essays and research papers students show that they not only have understood the course material but have incorporated it into their own thinking. Having experience in this kind of writing is a valuable part of learning the English language, and it is very important for students planning to study abroad.

Because they belong to an individualist society, English speakers have a strong sense of ownership about the things they create: their inventions, designs, ideas, and what they write. English speakers must distinguish clearly in their writing between what are their own thoughts and words and where they have incorporated the work of other writers. There is a system that enables readers to see this distinction easily. In this class students will become familiar with this system.

授業の概要と計画

Students will read short articles and chapters about topics of interest in the world community. They will discuss the main points of the articles in small groups and then write essays based on their reading and discussions.

Weeks 1 ? 3: Paragraph writing, paraphrasing, bibliography.

Weeks 4 ? 5: Essay writing; thesis statement, connecting paragraphs, conclusions, quotations. Weeks 6 - 12: Essay writing, documenting sources.

Week 13: Final writing exercise due

成績評価と基準

Homework (discussion preparation, writing exercises) 40%; In class writing exercises 30%; Final Writing Exercise 30%

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

Weekly reading and writing exercises

オフィスアワー・連絡先

Contact email address will be provided in class

学生へのメッセージ

It is very important to attend class regularly and do all preparation for class on time.

今年度の工夫

教科書

There is no textbook to purchase. Some materials will be provided in class; some will be available on the Web (URLs provided in class -- you must be able to print from the internet.)

参考書・参考資料等

授業における使用言語

English

キーワード

Rhetoric, essay writing, documentation

開講科目名	Cultures and Societies in Japan III（グローバル専門科目）		
担当教員	ワッツ・デイビッド	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

The course is intended to provide students with opportunities to raise awareness of various aspects of Japanese culture. Japanese first language students will improve their ability to describe and discuss their culture in English, while Japanese second language students will improve their ability to describe and discuss Japanese culture in Japanese.

授業の概要と計画

This is a communicative, student-centred course in which students are required to carry out weekly research on a wide variety of aspects of Japanese culture and present their findings in small groups, leading to discussion and intercultural exchange.

成績評価と基準

This course is continually assessed, based on students' weekly contribution to performance in their group presentation preparation, presentation and subsequent discussions (90%). Credit is also given for participation throughout the course (10%). Therefore attendance is compulsory.

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

Student numbers are strictly limited to a maximum of 30. Students will be selected based on completion of a written assignment in Week 1.

Attendance and punctuality is mandatory. Students who have not completed weekly homework research assignments will not be allowed to participate in the class and will therefore be marked as absent. The class will be conducted entirely in English by Japanese first language students and in Japanese by Japanese second language students.

This syllabus is subject to modification at the discretion of the lecturer.

オフィスアワー・連絡先

To be arranged.

学生へのメッセージ

今年度の工夫

教科書

None.

参考書・参考資料等

Internet, newspapers, library resources, student initiated research.

授業における使用言語

All students will be expected to speak 100% in their second language.

キーワード

開講科目名	国際コミュニケーション演習I（グローバル専門科目）		
担当教員	ワッツ・デイビッド	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

The course is intended to provide students with an introductory opportunity to engage with a variety of subject matter and to raise awareness of communication skills in a global, international context.

授業の概要と計画

Students are encouraged, both as individuals and groups, to carry out their own research on topics of general interest outside the classroom and to present their findings afterwards to other small groups and to the group as a whole. In addition, students are given an opportunity to engage in discussions on various global issues.

成績評価と基準

This course is continually assessed, based on students' weekly contribution to performance in their group presentation preparation, presentation and subsequent discussions (90%). Credit is also given for participation throughout the course (10%). Therefore attendance is compulsory.

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

Student numbers are strictly limited to a maximum of 30. Students will be selected based on completion of a written assignment in Week 1.

Attendance and punctuality is mandatory. Students who have not completed weekly homework research assignments will not be allowed to participate in the class and will therefore be marked as absent. The class will be conducted entirely in English.
This syllabus is subject to modification at the discretion of the lecturer.

オフィスアワー・連絡先

To be arranged.

学生へのメッセージ

今年度の工夫

教科書

None.

参考書・参考資料等

Internet, newspapers, library resources, student initiated research.

授業における使用言語

100% English.

キーワード

開講科目名	市民表象文化論		
担当教員	朝倉 三枝	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

フランスをはじめとするヨーロッパの芸術文化の特質を、老舗のファッションブランドの歴史を通して学ぶ。授業を通して、新しい価値の創造とその継承がどのように行われ今日に至るのか、さらに人はなぜブランド品に心惹かれるのか、という問題について考える。

授業の概要と計画

基本的に毎回ひとつブランドを取り上げ、その起源やアイコンアイテムの誕生、経営戦略などを、同時代の芸術潮流や社会背景に照らし合わせながら検討する。
授業で取り上げるブランドは以下を予定：ブレゲ、カルティエ、ショーメ、エルメス、ルイ・ヴィトン、バーバリー、ゲラン、ランバン、シャネルなど。

成績評価と基準

平常点（毎回、提出してもらうコメントカードの内容）40%
学期末レポート60%

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

学期末に提出するレポート作成に向け、普段から情報を収集するなど、早めに準備を進めておくこと。

オフィスアワー・連絡先

随時。メール(asakura@port.kobe-u.ac.jp)で事前に連絡をすること。E313。

学生へのメッセージ

モノがあふれ、ファッションも使い捨てになった今の時代だからこそ、自分にとって本当に価値あるものは何かを改めて考えてみてください。

今年度の工夫

パワーポイントや映像資料を活用し、より具体的に解説する。

教科書

プリントを配布。

参考書・参考資料等

必要に応じ適宜、授業で紹介する。

授業における使用言語

日本語

キーワード

フランス、ファッション、ブランド、美術、経営戦略

開講科目名	広域文化共生論		
担当教員	近藤 正基	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

異なる文化的背景を持つ人々とともに、安心して暮らしていける社会をどのように構想し、どのように作り上げていけばよいのでしょうか。ヨーロッパ諸国では、他国に先行して様々な取り組みが見られます。本講義では、ドイツを中心に、移民の社会統合の現状、移民政策の展開、移民政策の政治力学、移民の社会統合と福祉国家の関係について考察します。

授業の概要と計画

講義は、①移民の社会統合の現状、②移民の政治、③移民と福祉国家の関係の三部から構成されます。第一部では、スカーフ問題やモスク建設などのトピックを取り上げて、移民の社会統合の現状について論じます。第二部では、福祉国家類型論・福祉政治論について解説したうえで、各国の福祉国家と移民政策のリンケージについて論じます。第三部では、現代デモクラシーの変容と関連付けながら、右翼ポピュリズム政党や移民政策コーポラティズムについて論じます。受講者数によっては、随時、グループディスカッションの時間を設けて、受講者が発言する機会を作ります。

成績評価と基準

期末テスト、70点。授業への参加、30点。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

講義中に指定する参考書について、各自が読み進めておくことが望ましいです。

オフィスアワー・連絡先

オフィスアワーは特に定めません。授業内容に関して質問がある方は、メールでアポイントメントをとってください。メールアドレス：mmrkondo@gmail.com。

学生へのメッセージ

今年度の工夫

教科書

なし

参考書・参考資料等

適宜授業中に指定します。

授業における使用言語

日本語、ドイツ語、英語

キーワード

移民政策、比較政治、比較福祉国家

開講科目名	国際コミュニケーション演習Ⅲ（グローバル専門科目）		
担当教員	ワッツ・デイビッド	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

The course is intended to provide students with further opportunities to engage with a variety of subject matter and to raise further awareness of communication skills in a global, international context.

授業の概要と計画

Students are encouraged, both as individuals and groups, to carry out their own research on topics of general interest outside the classroom and to present their findings afterwards to other small groups and to the group as a whole. In addition, students are given an opportunity to engage in discussions on various global issues.

成績評価と基準

This course is continually assessed, based on students' weekly contribution to performance in their group presentation preparation, presentation and subsequent discussions (90%). Credit is also given for participation throughout the course (10%). Therefore attendance is compulsory.

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

Student numbers are strictly limited to a maximum of 30. Students will be selected based on completion of a written assignment in Week 1.

Attendance and punctuality is mandatory. Students who have not completed weekly homework research assignments will not be allowed to participate in the class and will therefore be marked as absent. The class will be conducted entirely in English.
This syllabus is subject to modification at the discretion of the lecturer.

オフィスアワー・連絡先

To be arranged.

学生へのメッセージ

今年度の工夫

教科書

None.

参考書・参考資料等

Internet, newspapers, library resources, student initiated research.

授業における使用言語

100% English.

キーワード

開講科目名	宗教文化論		
担当教員	野谷 啓二	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

キリスト教は歴史的にその受容者の強力なアイデンティティを構成し、特徴的な文化を創造してきました。異宗教文化との間に、対立、武力衝突の原因をも作り出してきました。しかし他方では、異文化を統合する共通文化をも創造しました。つまり、文化的な実態としてのキリスト教は、民族のアイデンティティを構成する重要な要因であったと同時に、民族を超える普遍的な価値を持つ文化をも生み出したのです。本講義では、まずキリスト教とはどのような宗教なのかについてユダヤ教から考察し、中世の西洋キリスト教世界、さらに宗教改革を経て、プロテスタンティズムを基盤とする西洋近代社会文化の諸相を明らかにすることを目標とします。[EUIJ科目]

授業の概要と計画

1. イントロダクション 宗教と文化の関係
 2. 古代社会 ヘレニズムとヘブライズム 旧約聖書の世界
 3. 救済史
 4. ユダヤ教とユダヤ民族
 5. シナイ契約
 6. イエスの登場
 7. キリスト教会の成立
 8. 中世 ヨーロッパの誕生
 9. 修道院文化
 10. 宗教改革 近代西欧社会
 11. 近代社会とプロテスタンティズム
 12. キリスト教と資本主義
 13. 日本のキリスト教 キリスト教の受容と文化変容
- その他

成績評価と基準

出席し、前回の内容にかかわる質問に答える(10%)、ブック・レポート(40%)、期末レポート(50%)の総合評価。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

成績評価方法では出席し、前回の内容にかかわる質問に答えることが10%となっていますが、欠席が5回以上になると自動的に放棄したと見なしますので注意して下さい。当然のことながら、前回の質問に答えるためには、講義中に理解できないことは質問し、復習をすることが求められています。

オフィスアワー・連絡先

研究室：E204
Email: notani@kobe-u.ac.jp

学生へのメッセージ

宗教が文化の形成にどのように関わっているか、個人と文化のアイデンティティ構成要素としての宗教に関心がある学生を歓迎します。

今年度の工夫

受講者には復習をするよう促すために、授業開始時に時間をとって質問するようにした。

教科書

教科書は特に使用しません。講義資料をプリントで配布します。また適宜文献を紹介します。

参考書・参考資料等

参考書：ノーマン・タナー著『教会会議の歴史』（教文館）、ノーマン・サイクス著『イングランド文化と宗教伝統:近代文化形成の原動力となったキリスト教』（開文社）、野谷啓二著『イギリスのカトリック文芸復興:体制文化批判者としてのカトリック知識人』（南窓社）、タナー『新カトリック教会小史』（教文館）

授業における使用言語

日本語

キーワード

開講科目名	Academic Writing（グローバル専門科目）		
担当教員	ワッツ・デイビッド	開講区分	単位数
		後期	1単位

授業のテーマと到達目標

To improve and demonstrate basic competences in reading and writing skills for academic purposes in English.

授業の概要と計画

A process-oriented approach to research writing, to produce short essays on topical issues (such as education, the economy, politics and climate change). Skills practised include online research, referencing, reading & note taking, grammar, academic vocabulary activation, essay planning - drafting - peer-reviewing - redrafting, language error recognition & self-correction.

成績評価と基準

Formative, based on regular short essays (60%) (specific criteria to be provided) and summative in regular revision quizzes (20%). Attendance (10%) and active class participation (10%) will also be taken in consideration in awarding a final grade.

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

The class will be conducted entirely in English. Attendance and punctuality is mandatory. Students who have not completed written or research homework will not be allowed to participate in the class and will therefore be marked as absent.Excessive absence throughout the semester will result in a fail. This syllabus is subject to modification at the discretion of the lecturer.

オフィスアワー・連絡先

To be arranged.

学生へのメッセージ

今年度の工夫

教科書

All materials will be provided by the teacher.

参考書・参考資料等

授業における使用言語

100% English.

キーワード

開講科目名	TOEFL演習		
担当教員	ゲイリー	開講区分	単位数
		後期	1単位
授業のテーマと到達目標			
<作成中>			
授業の概要と計画			
<作成中>			
成績評価と基準			
<作成中>			
履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）			
<作成中>			
オフィスアワー・連絡先			
<作成中>			
学生へのメッセージ			
<作成中>			
今年度の工夫			
<作成中>			
教科書			
<作成中>			
参考書・参考資料等			
<作成中>			
授業における使用言語			
<作成中>			
キーワード			
<作成中>			

開講科目名	専門演習 B(1)		
担当教員	康 敏、西田 健志	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

この演習は、コンピュータ・ネットワーク等情報機器の操作・利用・設定・管理の基礎として、そのハード的構造およびソフト的構造の理解および実際の情報機器を用いた技術の修得を目標としている。

授業の概要と計画

- 1.コンピュータの構造
- 2.コンピュータを構成する部品
- 3.コンピュータの組み立て
- 4.BIOSの設定
- 5.OSのインストール
- 6.コンピュータの設定・管理
- 7.ネットワークの基本
- 8.種々のアプリケーションソフトのインストール

成績評価と基準

授業への積極的な参加、課題レポートを中心に評価する。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

情報環境論等の情報関連科目を受講していることが望ましい。毎回、予習・復習を入念に行なうこと。

オフィスアワー・連絡先

昼休み。メール(康：kang@people.kobe-u.ac.jp、または、西田：tnishida@people.kobe-u.ac.jp)で事前連絡してください

学生へのメッセージ

この演習を通じて、パソコン等に対するアレルギーを無くし、トラブルを楽しめるようになってください。

今年度の工夫

教科書

使用しない

参考書・参考資料等

授業中に指示する。

授業における使用言語

日本語

キーワード

開講科目名	専門演習 B(1)		
担当教員	安岡 正晴	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

主に2回生を対象とした、この演習では、世界と日本が直面している様々な政治・経済・社会問題について多面的に議論することを目標とします。社会問題を考える際にも突き詰めると「いいか悪いか」「好きか嫌いか」で論じがちな人が多いですが、この演習ではそうした単純な二元論に陥ることなく、むしろ「どうなっているのか?」、「どうしたらいいのか」という視点から実践的で政策志向型思考のトレーニングを積んでいきたいと思っています。講座や思想を問わず、様々な意見を持った皆さんが集まって、議論を交わすゼミにしたいと思っています。

授業の概要と計画

テーマは時事的なものを扱い、受講生の関心に応じて柔軟に変更していきますが、問題群としては例えば以下のようものが考えられます。

1. イスラム過激派と欧米諸国はなぜ対立しているのか?
2. グローバル化と少子高齢化の進展で福祉国家は維持できなくなってきたのか?
3. 環境保護と経済成長は両立できるのか?
4. 東京一極集中を是正し、地方を活性化するために何が必要か?
5. ロシアや中国と欧米諸国はどう向き合うべきか?
6. 安倍政権は近隣諸国とどう向き合うべきか?
7. 女性が働きやすい社会づくりには何が必要か?
8. 安心、安全なまちづくりのために各国は何を行っているのか?
9. 成長産業を生み出すために科学技術政策はどうあるべきか?
10. 感染症対策のために国際社会が取り組むべき課題は何か?
11. TPPなどの貿易自由化と農業改革は両立可能か?
12. 電力エネルギー改革のゆくえ
13. 少子高齢化時代の医療・介護改革
14. グローバル化に対応した教育改革とは何か?
15. 集団的自衛権と日本の安全保障政策の今後

成績評価と基準

演習でのプレゼンテーション・発言 40%
 論点コメント 60%
 を総合して評価します。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

履修希望者は初回の授業(10/5)に必ず出席してください。初回に出席しない場合は履修を認めません。毎週の授業発表の論点に対して、それぞれ400-800字のコメント提出が必要です。それを平常点の60%として計算します。授業での研究発表は平常点の40%として計算します。他講座や今期から初めて私の演習を受講する方も歓迎します。

オフィスアワー・連絡先

水、金の昼休み、他は要予約
 研究室 E409
 E-mail yasuoka@kobe-u.ac.jp

学生へのメッセージ

「何かについて全てを語り、全てについて何かを語れる」力をつけることを目標に頑張りましょう。様々な社会問題に視野を広げて、ニュースに接して、「ああゼミでやったな」と思えるような先見性のある演習にしてゆきたいと考えています。

今年度の工夫

議論のしやすさだけでなく、知識を体系的に身に付けられるように工夫したいと思います。

教科書

特に使用しない。

参考書・参考資料等

堀井秀之『問題解決のための「社会技術」：分野を超えた知の協働』中公新書、2004
 枝廣淳子・小田理一郎『なぜあの人の解決策はいつもうまくいくのか?』東洋経済新報社、2007
 大江・梅垣・岡部『総合政策学：問題発見・解決の方法と実践』慶応義塾大学出版会、2006

授業における使用言語

日本語

キーワード

開講科目名	専門演習 B(1)		
担当教員	安岡 正晴	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

後期月曜4時限の演習では、主に3年生を対象として、個人研究報告と卒論研究の準備としてレポートの作成を指導します。本演習では、G8（アメリカ、イギリス、フランス、ドイツ、イタリア、カナダ、ロシア、日本）諸国を比較政治・社会的に考察していくことをメインテーマとします。大きく分けて、1. G8諸国と国際政治経済、2. G8諸国における政治・経済・社会問題、3. 比較外交政策、4. 大衆消費文化（テレビ、映画、音楽など）に反映されている政治・経済・社会問題などをカバーします。講座や学年を問わず、意欲のある皆さんの積極的な受講を歓迎します。

授業の概要と計画

前期月曜4時限の演習と同様に、この演習でも基本的に世界や日本が直面している様々な社会問題について、①問題の所在や背景②各国の対応③改善策・提言を発表する、提言型の授業を行います。主な問題群としては、前期と同様に

1. 格差を是正し、調和のとれた社会をどのように実現するか？（福祉、教育、地方分権政策）
2. 階級、性別、地域、学歴、人種・民族・国籍、宗教など社会経済的・文化的背景が異なる人々はどのようにすれば共存できるのか？（ジェンダー政策、エンパワーメント、移民・外国人・少数民族政策、言語政策、文化政策、人権政策）
3. 経済成長や競争力の向上には何が必要か？（産業、科学技術、経済政策）
4. 安心・安全な社会や世界をどう実現するのか？（防災、防犯、予防医学、安全保障・軍縮政策）
5. 持続可能な社会作りには何が必要か？（環境、エネルギー、資源、食糧、農林漁業政策）
6. 生きがいのある国や世界をどう作るか？（文化、スポーツ振興、生涯教育、観光、余暇政策、少子高齢化政策）

などが挙げられます。なお今年度も慶應義塾大学法学部・岡山裕ゼミナール（アメリカ政治外交）との合同ゼミナールを予定しています。今年は神戸大学に慶應義塾大学の皆さんをお迎えして行う予定ですが、その機会に発表したい方も歓迎します。

成績評価と基準

演習でのプレゼンテーション・発言 40%
提出コメント 60%
を総合して評価します。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

毎週、発表の論点に対するコメントを提出する必要があります。この提出コメントが平常点の60%で、授業中のプレゼンテーションや発言が残りの40%で計算します。
履修を希望する場合は、初回の授業（10/5）に必ず出席してください。初回の授業に出席していない学生の履修は認めません。今年度も慶應義塾大学法学部・岡山裕ゼミナール（アメリカ政治外交）との合同ゼミナールを予定しています（今年は神戸大学で開催します）が、積極的な皆さんの参加を期待しています。

オフィスアワー・連絡先

オフィスアワー 水、金の昼休み、それ以外は要予約
研究室 E409
E-mail yasuoka@kobe-u.ac.jp

学生へのメッセージ

3年生後期の演習は、メンバーでまとまって勉強する最後の機会になります。卒業論文に向けて大学での勉強の集大成となるように積極的に取り組んで、思い出に残るようなゼミにしたいと思います。今期から初めて私のゼミに参加する人も歓迎します。

今年度の工夫

就職活動のスケジュールが昨年から変更され、就職活動が遅くなったので、3年生後期のうちに卒論指導の場として専門演習でも具体的に指導してゆきたいと思います。

教科書

特に使用しない。

参考書・参考資料等

梶田孝道編『新・国際社会学』名古屋大学出版会、2006
スティーブン・R・リード『比較政治学』ミネルヴァ書房、2006
田口富久治・中谷義和編『比較政治制度論（第3版）』法律文化社、2006
桜田大造・伊藤剛編『比較外交政策?イラク戦争への対応外交』明石書店、2004

授業における使用言語

日本語

キーワード

開講科目名	専門演習 B(1)		
担当教員	昆野 伸幸、長 志珠絵	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

近代日本における宗教観についての専門的理解を深めるとともに、卒業論文の執筆に向けて受講生各自の問題意識を明確にすることを目指す。

授業の概要と計画

下記の資料講読と受講生各自の関心に応じた研究報告を並行して進める。資料講読を通じ、書かれていることを正確に読み取る力、またそのうえで各自の関心にもとづいて独自な問題を発見・展開していく力等の養成を目指す。後期は昆野が担当し、日本人の宗教観に関わる諸問題を扱う。

成績評価と基準

平常点7割、期末レポート3割
演習なので、成績は、討論への積極的な参加や報告の準備状況などを総合して評価する。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

初回の講義でレジュメの担当者などを決めるので、やむをえない事情で初回を欠席する場合には、必ずメールで連絡を入れること。
報告者以外も事前にテキストを読んだうえで出席し、授業中の討論に積極的に参加すること。討論にあらわれた重要な論点について各自で調べること。

オフィスアワー・連絡先

随時。事前に連絡すること（nobuyuki@port.kobe-u.ac.jp）。

学生へのメッセージ

今年度の工夫

教科書

日本人にとってイスラームとは何か / 鈴木規夫: 筑摩書房, 1998, ISBN:
国家神道と日本人 / 島蘭進: 岩波書店, 2010, ISBN:

参考書・参考資料等

適宜、講義中に紹介する。

授業における使用言語

日本語

キーワード

宗教 神道 イスラーム 仏教

開講科目名	専門演習 B(1)		
担当教員	西谷 拓哉	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

この授業では、アメリカ合衆国の文化全般を扱うが、特に文学、映画、絵画、音楽等の芸術、大衆文化を通してアメリカの特質を理解することを目的とする。資料の収集や分析方法を学ぶとともに、特に英語文献の読解力を高めることも目指す。卒業研究につながるテーマを見つけることも課題の一つである。

授業の概要と計画

基本的には、受講生みずから設定した課題について発表し、それに対する質疑応答によって進めていくが、相談の上で、芸術や大衆文化の側面からアメリカ研究を進めるための共通の文献を読むことも考えている。期末にはゼミ論集をまとめた。

ちなみに前年度は、アメリカの教科書、アメリカにおける市民生活と芸術、ニューヨークにおける棲み分け、パニック映画、音楽とジェンダー、アロハシャツの歴史などの話題を論じた。かくの如く、自由にテーマを設定して自由に論じてもらいたい。

成績評価と基準

出席と発表、クラスへの貢献(50%)、期末レポート(50%)を総合して判断する。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

- ・事前にテーマを発表すること。
- ・レジュメを必ず準備すること。
- ・質疑応答を活発にすること。
- ・授業を受けて、自分で気づかなかった点について十分に復習すること。

オフィスアワー・連絡先

メールアドレス takuyan@kobe-u.ac.jp

研究室E202

学生へのメッセージ

自分で追究したいテーマを持っていないと苦しいことになるでしょう。しかし、それを発見するためのゼミでもあります。（3回生に）ESにおいて、書きにくい、分類しにくいゼミです。その点注意してください。

今年度の工夫

質問、議論を活発にするための事前学習、ゼミ論集の作成

教科書

特になし。

参考書・参考資料等

授業において指示する。

授業における使用言語

日本語

キーワード

アメリカ文化

開講科目名	専門演習 B(1)		
担当教員	遠田 勝	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

明治以降の日本の短編小説のいくつかを原典と英訳で読みます。本来、原典を正確に移し換えていることが、翻訳の存在する理由なのですが、日本文学の翻訳作品についていえば、こんなに違ってしまっているの？と思えるくらい、異なる読書体験、異なる文学世界が生まれることがあります。それはなぜでしょう？その理由、原因を個々の作品に沿って議論し、考えていきます。テキスト批判とテキストの多文化的理解の基礎を身につけることを目標とします。

授業の概要と計画

学期中3?5篇程度の短編を読みますが、どの作家、どの作品を論じていても、議論の中心は、1 言葉（日本語と英語）の非対応、2 文化(日本文化と欧米文化)の非対応、3 言語と文化の力関係（オリエンタリズムなど）の3点に集約されると思います。

成績評価と基準

授業中の発言内容や授業への貢献度3割、期末レポート7割。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

予習・復習をしっかりと受講すること。

オフィスアワー・連絡先

水曜昼休み、またはメールで随時。

学生へのメッセージ

毎回配布される日本語と英文のテキストを読み授業に臨むこと。授業後は、資料と議論の結果をレポート用にまとめておくこと。

今年度の工夫

教科書

使用しない

参考書・参考資料等

プリント配布。

授業における使用言語

Japanese

キーワード

開講科目名	専門演習 B(1)		
担当教員	西澤 晃彦	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

現代社会論をやりたい。私たちの行為や意識・無意識を拘束する現代社会という「檻」について、それを相対化し論じる、そういう視点を色々と言い合いながら身につける演習にしたい。もしあなたが＜現在＞において＜現代的な＞現象を対象化して何かを見出そうとしているのならば、何かしら「ためになる」ものはあると思う。

授業の概要と計画

こちらで指定した文献の輪読、討論。このゼミは、毎週、テキストのある範囲の内容について、報告者（2名）、司会者、コメンテーターを決めて討論会形式で進める。討論会なので全員参加（私は傍観者）。文献はあくまで議論を触発させるためのものに過ぎない。報告者には、テキストから出発して(テキストを批判的に読んで)大胆に現代社会論を展開させることが期待される。それゆえ、テキスト以外の各種資料(新聞記事や白書類が手頃だろう)も参照して報告していただきたい。

成績評価と基準

報告（発表、レジュメ、質問への応答。なおパワーポイントの使用を推奨する）60%、ディスカッションへの参加の程度40%。そこから欠席分を減点する。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

文献は全員が事前に必ず読んでおくこと。

オフィスアワー・連絡先

学生へのメッセージ

今年度の工夫

教科書

以下のものを、初回までに準備しておいていただきたい。
東浩紀『動物化するポストモダン』講談社現代新書（2001）.
北田暁大『増補 広告都市・東京』ちくま学芸文庫（2011）.

参考書・参考資料等

授業における使用言語

日本語

キーワード

開講科目名	専門演習 B(1)		
担当教員	石田 圭子	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

「写真」をテーマとします。現代の生活には、広告や報道からSNSにアップされるプライベートな写真やいわゆる「自撮り」まで、至る所に写真があふれています。私たちが写真を撮ったり見たりするとき、そこにどんな欲望が秘められているのだろうか？私たちはどんな写真に魅力を感じ、惹きつけられるのだろうか？写真はほかのメディアとどのように異なり、どんな可能性や限界があるのか？そのようなことをフランスの思想家ロラン・バルトやアメリカの批評家スーザン・ソントグなどの有名な写真論を手がかりにしながら考えていきたいと思います。

授業の概要と計画

講義ではまず、いくつかの写真論を丁寧に読んでいきます。毎回決められた担当者がレジュメを作り内容について説明します。さらに、私が解説を加えたうえで参加者全員で議論します。また、各自が選んだ具体的な写真イメージを取り上げて（芸術的作品・広告・報道・プライベート写真いずれも可）発表する回を設けます。発表では、授業で読んだ理論を参考にして、それぞれの「作品」が「なにを」「どのように」表現し、それがどのような効果を挙げているのか（あるいは失敗しているか）について説明することを求めます。また、最終的にそれに基づいたレポートを書いて提出してもらいます。

成績評価と基準

平常点（授業への積極的な参加等）と発表およびレポートによって評価します。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

テキスト講読の回では参加者全員、必ず決められた範囲を読んでくること。

オフィスアワー・連絡先

随時。keikoishida27@gmail.comまで連絡してください。

学生へのメッセージ

それぞれのテキストはけっして易しいものではありませんが、理論として面白いだけでなく、写真への愛にあふれた、それ自体として魅力的なものでもあります。テキストとじっくりつきあってほしいと思います。

今年度の工夫

視覚イメージを活用する。

教科書

教科書および参考書については授業時にあらためて指示します。

参考書・参考資料等

授業における使用言語

日本語

キーワード

写真、イメージ

開講科目名	専門演習 B(1)		
担当教員	青島 陽子	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

東欧・ロシアを中心とするヨーロッパ周辺地域の研究を通じて、ヨーロッパ全体を概観する視点、日本を相対化する視点を養うことを目的とする。

授業の概要と計画

EU拡大による周辺地域の包摂と排除の問題、また、EU自身のアイデンティティがどう変容したのかという問題、EUにおける移民問題を扱う予定である。

全体で基本となるテキスト（英語文献を用いる）を解説したのち、各自、それぞれテーマを選び、文献を集めて分析をし、レジュメを作成して、授業で報告をする。授業では報告をもとに討論を行う。最終的には報告をもとにレポートを提出する。

授業での各自の報告や議論では、ヨーロッパ周辺地域を通してヨーロッパ全体の理解を深めるとともに、日本やアジアとの比較も通じて、グローバルな視野を養うことをめざす。

成績評価と基準

授業での発言・積極的な参加（20%）、報告内容（40%）、レポート（40%）

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

授業中の積極的な発言が求められます。毎回、疑問点や不明点を調べて授業にのぞんでください。ヨーロッパやアメリカの歴史や文化に関係した授業を履修することを勧めます。

オフィスアワー・連絡先

研究室E219
適宜メールなどで事前に連絡すること。
yaoshima(at)dolphin.kobe-u.ac.jp

学生へのメッセージ

現代のEUの諸問題に関心のある方、とくに東欧・ロシアを中心としたヨーロッパの周辺部に興味のある方を歓迎します。

今年度の工夫

教科書

特になし

参考書・参考資料等

授業中に適宜指示する。

授業における使用言語

日本語

キーワード

ロシア 東欧 ヨーロッパ 歴史 文化 政治

開講科目名	専門演習 B(1)		
担当教員	村尾 元	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

2年次後期から3年次後期にかけて開講される、一連の専門演習B(1)-(3)では、コミュニケーション、社会、経済における現実の現象を分析するための手法を学びます。

2年次後期の専門演習B(1)では、コミュニケーション、社会、経済における現象を分析する方法としてどのようなものがあるかを学びます。

授業の概要と計画

コミュニケーション、社会、経済における現象を分析する方法に関する入門的な書籍をそれぞれが分担し、みんなで議論しながら読み進めるという輪講形式で勉強を進めます。

この演習を履修するにあたって、プログラミングなど、コンピュータに関する知識は必要ありません。

成績評価と基準

以下の点から評価を行います。

- 出席および学習態度、発表や議論への参加によるゼミへの貢献(60%)
- レポートや課題などの提出物(40%)

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

オフィスアワー・連絡先

いつでもどうぞ。ただし、あらかじめ電子メールで連絡をして下さい。

電子メール：hajime.murao@mulabo.org

研究室：B棟4階B409室

学生へのメッセージ

今年度の工夫

教科書

初回授業時に指定します。

参考書・参考資料等

必要に応じて随時指定します。

授業における使用言語

日本語

キーワード

社会システム科学、数理社会学、ゲーム理論、心理統計学、データマイニング

開講科目名	専門演習 B(1)		
担当教員	小笠原 博毅	開講区分	単位数
		後期	2単位
授業のテーマと到達目標			
人種と文化と資本の関係について多角的に考察します。 具体的には； 人種は差別の対象なのか投資＝金儲けのネタなのか。 文化は人種差別に抵抗し同時に人種差別しながら資本とどのような関係にあるか。 資本は差別を利用しそれに基づいて文化を食い物にしているのか。 資本と文化の関係を理解し考えるために人種は今どこまで有効／無効な人間のカテゴリーなのか。 グローバル資本主義における人種差別を考えるために文化はどこまで有効／無効な視点なのか。 哲学、思想をはじめとして、スポーツ、アート、映画、文学、都市など現代文化における＜I＞人種＜／I＞のあり方、動き方、力について思考（試行）錯誤してみます。 その中で3年生は卒業論文で取り組むテーマを発見し、それを追及するための理論力と感性を養ってください 2年生は3年生になってからの専門教育を最大限活用するための「知的活動力」を培うことが目標。			
授業の概要と計画			
テーマに沿った理論書を徹底輪読します 毎回最低1人の報告・発表を中心に行います			
成績評価と基準			
参加、思考、表現、理解。			
履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）			
受講条件（とても重要なので心して読むこと） 1. 担当教員の研究テーマと研究活動を事前に知っていること 2. 英語を読み、英語表現に接することを厭わない 3. 自分で課題を見つけることができる 4. 積極的にディスカッションやミーティングをオーガナイズできる 5. 答えをすぐに求めない 6. Sense of humourがある、もしくは解する 7. なんでもかんでもすぐに真に受けない 8. 前期科目「メディア文化論」を受講済みであることが望ましい 9. 必ずテキストを読んでくること 10. 復習をしっかりとすること			
オフィスアワー・連絡先			
木曜日 昼休み hirokio@kobe-u.ac.jp 内線7464			
学生へのメッセージ			
できるとかできないではなく、やるかやらないかです			
今年度の工夫			
教科書			
テキストは10月の第1回で紹介します			
参考書・参考資料等			
映像・音響資料その他を随時紹介していきます			
授業における使用言語			
英語もしくは日本語			
キーワード			
Race, Culture, Capital			

開講科目名	専門演習 B(1)		
担当教員	阪野 智一	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

本演習は、現代民主政治における「大統領制化」(presidentialization)をテーマとしている。現代民主主義国において、執政府、政党、選挙過程において、党首や首相といったリーダーへの権力集中と議会や内閣からのリーダーの自律性増大といった現象が多く見られる。選挙過程では、こうした現象は、政治的リーダーの人格への注目が高まる、政治の「人格化」(personalization)ないし政治の「メディア化」といった現象とも連動している。また、政党、執政府では、党首や首相は、政党や議会、内閣を迂回して、直接国民に訴え、信任を得ようとする。こうした「大統領制化」の実態を各国の比較分析を通じて明らかにし、それが提示している民主政治への問題を考察したい。

授業の概要と計画

共通の文献を素材にして、章毎に担当者による報告・コメントを基に、参加者によるディスカッションを通じて理解を深めていく。初回に分担とスケジュールを決めるので、参加希望者は是非出席してください。

第1回：ガイダンス：問題の所在

第2回：民主主義社会における政治の大統領制化

第3回：イギリスにおける中核的執政の変化と大統領制化

第4回：ドイツにおける政党国家と大統領制化

第5回：イタリアにおける大統領制化

第6回：スペインにおける大統領制化

第7回：デンマーク－コンセンサス・デモクラシーにおける大統領制化

第8回：スウェーデンにおける大統領制化

第9回：フランス－半大統領制における双頭の大統領制化

第10回：半主権的なアメリカの大統領

第12回：政治の大統領制化をめぐる論争

成績評価と基準

報告 50% (報告の論理性、独創性、批判力など)

授業での活動 40% (ディスカッションへの参加度、質問力など)

出席点 10%

履修上の注意 (準備学習・復習、関連科目情報等を含む)

準備学習として報告の担当者は、自分が担当する章についてレジュメを作成すること、また他の履修者は疑問点を整理しておくことが求められる。復習として、各回の冒頭で前回の主要な論点について理解を確認する。

オフィスアワー・連絡先

毎週金曜日の昼休み。研究室 (E414)。
それ以外は事前にメールで連絡して下さい。
E-mail: sakano@kobe-u.ac.jp

学生へのメッセージ

実態を知ることと同時に、その意味や理論的視点も重視しています。理論は、多面的な様相を持つ事象を理解する上で、ガイドラインの役割を果たすからです。

今年度の工夫

教科書

民主政治はなぜ「大統領制化」するのか / T・ボグントケ、P・ウェブ：ミネルヴァ書房, 2014, ISBN:

参考書・参考資料等

授業における使用言語

日本語

キーワード

大統領制化（presidentilaization）、人格化（personalization）、政治のメディア化、議院内閣制、大統領制、執政府

開講科目名	専門演習 B(1)		
担当教員	齋藤 剛	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

本年度の演習では、人類学者マルク・オジェによる『同時代世界の人類学』をテキストとして取り上げ、グローバル化の広がりが強調される今日の世界的な状況を理解するための人類学的な視座と理論的枠組みを学ぶことを目的とする。

授業の概要と計画

事前に発表担当者を決め、毎回、テキストを一定量ずつ読み進める。発表者は担当箇所を要約したレジュメを日本語で用意し、授業に際して配布する。発表者による要約および論題提起を受けて、受講生全員で議論をしてゆく。

成績評価と基準

出席点30パーセント、発表30パーセント、期末レポート40パーセントとする。

＊出席は、議論への参加度を含めたものであるため、単に演習室にいただけでは出席とはみなされない。

- ・欠席は、1回ごとにマイナス4パーセント。
- ・レポート未提出の場合には、単位を与えないので注意をすること。
- ・レポート提出の遅延は大幅な減点の対象となりうる。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

- ・第1回目の授業の際に発表者の分担を決定するので、受講希望者は必ず出席すること。
- ・発表担当者のみならず、受講生は全員、あらかじめ発表対象となっている箇所を読み、内容をきちんと理解したうえで、演習に参加することが義務づけられる。

オフィスアワー・連絡先

演習初回に際して伝える。

学生へのメッセージ

受講生の皆さんの積極的な議論を期待しています。

今年度の工夫

教科書

マルク・オジェ『同時代世界の人類学』（森山工訳、藤原書店、2002年）

参考書・参考資料等

授業における使用言語

日本語

キーワード

文化人類学

開講科目名	専門演習 B(1)		
担当教員	青山 薫	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

「現代日本のジェンダーとセクシュアリティ」をテーマに、この社会にあるさまざまな性関係を、法制度、社会規範、表象などから多面的に検討します。新しい市民権としての「親密権」についても紹介しつつ、「性的自由」とは何か、「性的権利」あるいは「親密権」とは何か、そもそも「性」とは何かを考えるヒントをつかむことが目標です。

授業の概要と計画

受講生の希望も入れてテキストを選び、討論によってこれを解説します。「テキスト」は、文字だけでなく映像や現在進行形の運動／出来事などをふくめる場合もあります。

一人の報告者がレジュメを用意してくるのではなく、各回交代で学生が務める司会者を中心に、すべての時間を議論に使います。

成績評価と基準

討論司会と参加：50% 期末レポート：50%

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

Active Readingという、全員がその週の課題テキストから議論すべき点を考えてくる方式です。基本的に欠席はしないでください。

「現代日本の…」と言った場合、日本の国境の中、日本語圏内で理解されている現象だけをあつかうことはほとんど不可能です。文化的な比較や、歴史的な比較もあり得ます。とくに、この分野の情報量が多い英語の読解は必須と考えてください。

オフィスアワー・連絡先

事前にEmailで、差出人を明記して、連絡してください。kaoru@jca.apc.org

学生へのメッセージ

沈黙と参加は両立しませんのでご注意を。第1回目は、全体の構想とテキスト選定のすり合わせをします。テーマの範囲内で、ある程度具体的な「考えたいこと」をもって来てください。「ジェンダー社会論」の受講経験があること、または、並行して受講することが望ましいです。

今年度の工夫

理論的な学習に力を入れます。

教科書

特定の一冊はありませんが、下記参考資料には目を通すことが前提です。

参考書・参考資料等

下記のほか、Plummer, Ken, 2003, Intimate Citizenship: Private Decision and Public Debate, University of Washington Press
「セックスワーカー」とは誰か / 青山薫：大月書店, 2007, ISBN:9784272350261
自由への問い 8 生 / 加藤秀一編：岩波書店, 2010, ISBN:9784000283588
欲望・暴力のレジーム 揺らぐ表象/格闘する理論 / 竹村和子編：作品社, 2008, ISBN:9784861821790

授業における使用言語

日本語。期末のレポートは英語可。

キーワード

開講科目名	専門演習 B(1)		
担当教員	岩本 和子	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

芸術活動とそれを支える制度の形成過程や諸現象、社会とのかかわりについて、また文化的多様性について、深く理解することをめざします。芸術に関するテキストの解説、プレゼンテーション、ディスカッションの技術を身につけます。

授業の概要と計画

今回は、言語芸術と視覚芸術（とくに写真）の関係について具体的な作品に触れながら一緒に考えたいと思います。

前半は、フランス語圏（フランスやベルギーなど）が主な対象となりますが、小説や自伝、記憶の記述などにおいて写真やイメージがどのようにに関わり影響を与えあっているか、写真とは、イメージとは何かといった問題についてテキスト読解により一緒に考察します。テキストは『写真と文学：何がイメージの価値を決めるのか』（教科書欄参照）という複数の論者による論文集です。内容は：Ⅰ文学の境界－写真小説小史Ⅱシュルレアリスムによる写真の変容Ⅲ写真論からイメージ論へ

後半は各自で関心のある国や地域の言語・視覚芸術に係る作品を自由に選び、具体的な作品紹介や分析の実践を試みます。

いずれも授業ごとに分担を決めてプレゼンテーションをしてもらい、全員で質疑応答、ディスカッションを行います。関連作品やテキストを事前に用意して全員が予習（鑑賞）して授業に参加できるようにします。

また学期末には発表に基づいたレポートを作成してもらうので、それに向けてのアカデミック・ライティング（論文・レポートの書き方）を並行して学んでいきます。適宜、美術館見学や映画鑑賞も行い、全員で作品について話す機会を持ちたいと思います。

成績評価と基準

授業への参加・議論への貢献：50％
レポート評価：50％

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

資料や文献を読んで準備してくること。ディスカッションに積極的に参加することが求められます。発表者だけでなく各自でも各回のテーマについて予習をし、質問やコメントができるようにして下さい。

オフィスアワー・連絡先

随時（メールにて事前連絡）iwamotok@kobe-u.ac.jp

学生へのメッセージ

多様な地域や時代の事例や実際の芸術作品にたくさん触れ、そこから感じたり考えたりしてほしいと思います。またマイノリティ文化にも目を向け、多角的な視野を持つように心がけて下さい。

今年度の工夫

教科書

塚本昌則編『写真と文学：何がイメージの価値を決めるのか』平凡社、2013年（その他のテキストとも、コピーを配布する）

参考書・参考資料等

適宜授業中に指示する

授業における使用言語

日本語

キーワード

言語芸術、写真、イメージ、フランス語圏、文化的多様性、芸術と社会

開講科目名	専門演習 B(1)		
担当教員	岡田 浩樹	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

この演習では、質的社会調査の手法として文化人類学のfieldworkと民族誌の理論と実践を学ぶ加えて,Photo Ethnographyの手法による、fieldworkにおける民族誌的データの収集、加工、編集のスキルと、民族誌の構成について受講者自らが民族誌を作り上げ、手法を学ぶ

授業の概要と計画

本講義は、映像データ (Photography, Video)を用いたfieldworkの基本的知識の習得、さらに民族誌を作成する実験的演習である。受講者は各自、短期のfieldworkを行い、そこで得たデータを基にして、Photo Ethnographyを作成する。この過程を通して、民族誌データの収集、分類、加工、編集などのskillを学ぶ。作成したPhoto Ethnographyはweb上で公開される。

成績評価と基準

学期末は、受講生の研究テーマに即したPhoto Ethnographyを作成し、提出
講義への参加：40%（発表と発表についてのコメント提出による評価）
レポート評価（Photo Ethnography)60%

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

受講者は、初回講義に必ず出席すること。Photo Rhnographyを作成するためにステップごとに指定した予習および課題を行って出席すること。
最終的に、課題はweb上で公開されるので、発表後に指導を受けながら講義内容の復習を兼ねた修正を行うこと。

オフィスアワー・連絡先

水曜日 昼休み
事前のメール連絡必要
基本的に掲示板で連絡を行う

学生へのメッセージ

- ・課題が出されるので、必ず準備して出席すること。課題提出がない場合、出席とは認められない。
- ・やむを得ず欠席する場合は、当日朝までに掲示板で連絡すること。

今年度の工夫

他大学の教員と連携し、同様の演習を行うことで、学生が自分の到達度、レベルを把握できるようにした。
また、専門家を招聘し、課題作成のサポートを行う。

教科書

参考書・参考資料等

授業における使用言語

日本語（必要に応じて、英語）

キーワード

Photo Etnography fieldwork

開講科目名	専門演習 B(1)		
担当教員	山澤 孝至	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

古代ギリシア・ローマ人の世界観を考える。

授業の概要と計画

古代ギリシア・ローマ人の世界観を窺うことのできる原典資料の英訳、または英語による研究文献を講読する。内容の正確な把握に努め、かつ、現代の事例とどうオーバーラップさせ、そこから何を学び取ればよいかを、具体的に考える。

成績評価と基準

授業への積極的参加（５０％）、並びに、期末のレポート（５０％）による。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

文献を事前に十分読みこなし上で授業に臨むこと。また、毎回の授業内容を次週までに自分なりにまとめておくこと。

オフィスアワー・連絡先

月曜・昼休み（乞事前連絡）
yamasawa@kobe-u.ac.jp

学生へのメッセージ

今年度の工夫

教科書

プリントを配布する予定である。

参考書・参考資料等

授業中に指示する。

授業における使用言語

日本語。

キーワード

開講科目名	専門演習 B(1)		
担当教員	井上 弘貴	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

このゼミ（専門演習 B）では、地域再生、都市景観、まちづくり、NPO、市民と行政の協働といった都市や地域にかかわるテーマをとりあつかい、グローバル化のうねりがローカルな場所にもたらすさまざまな問題を受講してくれたみなさんと考えます。今年度後期は、観光（ツーリズム）をテーマとします。エコツーリズムやカルチュラル・ツーリズムなど、近年ではいろいろな形容詞のついたツーリズムの形態が出現しています。そうしたさまざまなツーリズムの今日の形態を欧米ならびに日本の実例に即して考えながら、観光という文化実践について考えたいと思います。

授業の概要と計画

まず参加者の共通理解を深めるために、ツーリズムに関連したテキストを全員で輪読のうえでディスカッションをする回を最初に複数回設けます。その共通理解を踏まえたうえで、今期のテーマに関係する個人報告をそれぞれの参加者にしてもらいます。

成績評価と基準

平常点で評価をおこないます。平常点は毎回の出席状況とテキスト輪読時の貢献状況、個人報告とそのあとのフィードバックを中心とした演習への貢献によって総合的に算定します。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

出席を重視します。なお、この演習の履修を考えているひとは、初回のゼミにできるだけ参加してください。

オフィスアワー・連絡先

随時応相談
hiro_inouye@port.kobe-u.ac.jp

学生へのメッセージ

たとえば今日の日本では、インバウンド観光が成長産業としてもはやされつつあります。ですが、多様な文化をもった観光客を受け入れるということは、文化間の軋轢の調停や文化的差異の受容に私たちは本当に真剣に取り組む用意があるのか、ということを意味しており、これは単なる産業の問題ではありません。国際文化学部のゼミとして、観光の未来がもつ可能性と課題について考えていきましょう。

今年度の工夫

昨年度からメーリングリストを活用し、演習のなかで議論しきれなかったトピックや演習での議論のまとめと反省を各回の報告者には事後的にML上でレポートしてもらっています。昨年度の試行を踏まえ、今年度もこれを継続します。

教科書

今期のテキストは基本的にコピー配布を予定しています。詳細は初回のゼミのなかで説明する予定です。

参考書・参考資料等

詳しくはゼミのなかで紹介します。

授業における使用言語

日本語

キーワード

ツーリズム まち歩き インバウンド観光 LCC FIT客 地域ブランド MICE

開講科目名	専門演習 B(1)		
担当教員	米本 弘一	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

『シンデレラ』や『白雪姫』のような童話の形式と意味、それが子供の成長過程で果たす役割について、文化人類学や心理学などの観点から論じたテキスト（英文）を読む。子供向けの「おとぎ話」と言われているジャンルを大人の視点で読み直すことによって、こういった物語が持つ意義と影響力について考察し、理解を深めることを目標とする。

授業の概要と計画

授業では、毎回担当者に発表してもらいながらテキストを読み、問題点について議論する。

成績評価と基準

授業中の発表、議論への積極的参加度などの平常点 40%、期末レポート 60%。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

担当者以外の受講者もあらかじめ指定された部分を読んで予習をしておくこと。また、授業のあと重要な点をまとめ、復習をすること。

オフィスアワー・連絡先

金曜 3 限
B4 1 3 研究室

学生へのメッセージ

今年度の工夫

教科書

プリントを配布する。

参考書・参考資料等

授業中に適宜紹介する。

授業における使用言語

日本語

キーワード

童話 昔話 おとぎ話

開講科目名	専門演習 B(1)		
担当教員	小澤 卓也	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

ラテンアメリカ研究や食文化研究をメインテーマとします。受講生が自ら選んだテーマについて自主的に研究・調査し、研究報告やレポートというかたちで学問的見解を説得的に示せるようになることを到達目標とします。

授業の概要と計画

各受講生が自ら選んだテーマについて研究・調査を進め、レジュメやパワーポイントを使用した個人口頭発表（最低2回）をしてもらいます。参加者に司会やコメンテーターをやってもらうこともあります。必要に応じて、クラス全体にとって有益と思われるラテンアメリカ関連文献の読み合わせや映像資料の分析・検討も行うこともあります。

成績評価と基準

3回以上無断欠席した場合、単位を認定しません（なお、遅刻は3回で1回分の欠席とみなす）。高い出席率を前提条件とした上で、授業中の積極性やコメントの学術性（20%）、口頭発表（30%）、期末レポート（50%。レポートは4000字以上）によって総合的に判断します。受講生には最低2回の口頭発表が義務づけられます。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

本演習はラテンアメリカ関連研究、および食文化研究に強い関心をもつ学生のために開講されていますのでご注意ください。なお、ヨーロッパやアメリカに比べて、ラテンアメリカ関連の日本語文献は多くありません。そのため文献や資料探しには受講生自身の努力も必要とされます（ただし、そのぶん研究が進んだときの喜びや達成感も大きい）。受講に先立って、手がかりとなる基礎文献を自らリストアップしておくことが求められます。食文化研究の場合、準備学習として新書でも良いので関連図書にあたり、テーマに関してあらかじめ検討しておいてください。復習や問題の再検討に関するアドバイスについては、学生の研究状況を見ながら授業中におこなうこととします。

オフィスアワー・連絡先

オフィスアワーは水曜日4限目（メールによるアポが必要）。メールアドレスは ozataku(AT)harbor.kobe-u.ac.jp です。

学生へのメッセージ

「成績の評価と基準」と「履修上の注意」をよく読み、納得したうえで履修登録をしてください。まず第1回目の授業に参加し、本演習の方向性について再確認したうえで履修登録してください。

今年度の工夫

民族文化や食文化の映像資料を多く盛り込んでいきたいと思います。

教科書

特に指定しません。必要な資料はプリントにして配布します。

参考書・参考資料等

必要に応じて授業中に紹介します。

授業における使用言語

日本語

キーワード

南北アメリカ関係 ラテンアメリカ 中南米 食文化 フードシステム

開講科目名	専門演習 B(1)		
担当教員	窪田 幸子	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

この演習では、文化人類学の多様なテーマをとりあげ、文献資料を購読、分担を決めた上で、担当者が発表し、その内容について議論を行なう。議論を提示し、意見を交わし、考えることの面白さを理解することをめざす。

授業の概要と計画

グローバル化と観光というテーマに関わる論文を購読することを考えている。受講者それぞれの興味に基づき担当論文を決定し、毎回、基礎論文を全員で共有する。担当者は自分なりに文献調査を行い、発表を組み立て、論点を提示し、それをめぐって議論をおこなう。最終的に、自分の調査、議論を踏まえて、期末レポートを作成する。

- 1 はじめに一少数者をめぐる政策とは
- 2 同化主義と多文化主義
- 3 日本における多文化主義
- 4 日本における先住民問題
- 5? 1 4 各国における多文化主義
- 15 総合討論

成績評価と基準

出席は必須。
発表内容、発表態度、議論への参加、最終レポートなどを総合的に判断して評価する。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

文化人類学関係の講義は少なくとも一つ程度、履修済みであることが望ましい。指定する論文を必ず読んで、内容を理解し、授業に臨み、積極的に討議に参加すること。授業後は、疑問点について独自に学習し、次回の授業に反映することが望ましい。

オフィスアワー・連絡先

E222(要アポイント)
kubotas@people.kobe-u.ac.jp

学生へのメッセージ

プレゼンテーションと討論の方法についても、身につけることを目指します。活発な知的雑談も歓迎です。

今年度の工夫

学生間でのディスカッションをより活発にすることを試みる

教科書

特定の教科書は使用しない。必要なテキストは、配布する。

参考書・参考資料等

窪田幸子・野林厚志編『「先住民」とはだれか』世界思想社
岸上伸啓編『開発と先住民』明石書店

授業における使用言語

日本語

キーワード

開講科目名	専門演習 B(1)		
担当教員	櫻井 徹	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

現代世界における移住と移民

今学期は、グローバル・ジャスティスを考える際の前提となるべき問い「なぜ人々は国境を越えるのか——または越えようとししないのか——」という問題について考えるために、ジョン・トーピー『パスポートの発明』とクリスチャン・ヨブケ『軽いシティズンシップ』を教科書として採り上げ、移民についての近代史を振り返るとともに、世界的に増大しつつある移民・移住の現状と課題について深くかつ網羅的に考えたい。

このような学習を通じて、テロリズム、経済格差、貧困問題、人権侵害といったグローバルな諸課題を前にして、国境というボーダーが果たしていかなる道徳的意味をもつのか、そのボーダーを越えて利益と責任の分配を調整することが可能なのか、そのためにはいかなる原理が必要とされているのか、を考えていきたい。

授業の概要と計画

テキストにはジョン・トーピー『パスポートの発明』(法政大学出版局)とクリスチャン・ヨブケ『軽いシティズンシップ』(岩波書店)を使用し、毎週1章ずつをめどに、各受講生に簡単なショート・エッセイをもとに疑問・批判を発表してもらうという形式で討論を進めていきます。

成績評価と基準

ショート・エッセイ30%、プレゼンテーションとディスカッション40%、出席30%。特に、毎回のレポートをいかに丁寧かつ緻密に作成できたか、ゼミでの討論にいかに関与的に貢献できたかを中心に評価します。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

上にも述べたように、毎回、各人に簡単なショート・エッセイをもとに疑問・批判等を発表してもらいます。演習は参加者みんなで作り上げる授業ですから、無断欠席を禁止します。やむを得ず授業を欠席する場合は、メール等で事前に連絡してください。

オフィスアワー・連絡先

電子メール(sakurait@kobe-u.ac.jp)にて随時。

学生へのメッセージ

現代世界の喫緊の課題についてあらためて自分の頭で考えてみるという体験は、卒業論文作成や社会人になってからのプレゼンなどいろいろな場面で役立つと思います。

今年度の工夫

適宜、授業のテーマに関係のある映画も鑑賞し、その背景を解説します。

教科書

ジョン・トーピー『パスポートの発明』(法政大学出版局)。クリスチャン・ヨブケ『軽いシティズンシップ』(岩波書店)。

参考書・参考資料等

授業における使用言語

日本語

キーワード

国境、移住、移民、人権、自由、貧困、国民

開講科目名	専門演習 B(1)		
担当教員	楯岡 求美	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

芸術研究と批評（論文作成にむけての課題）

芸術作品、文化表象は言葉にできない感覚的なものを、再度言語化するという矛盾を抱えた作業である。本ゼミでは、芸術作品について書かれた論文を精密に読解し、関連作品を詳細に検討することで、芸術を論じることの可能性について考えてみたい。2回生は論文読解の技術を身につけること、3回生は卒論を実際を書く準備として課題に取り組むことが期待される。特に、言語化の難しいものとして、時間芸術としての演劇、映画を扱う。

授業の概要と計画

学期前半で演劇について、後半で映画についての論文を読み、鑑賞と分析の実践を行う。
扱う作品および論文は
授業開始時に指示する。

学期中に演劇鑑賞(学外・劇場)や映画鑑賞への参加が求められます。

1月に弁士を招いて無声映画の上映会を企画・実施します。

また、11月末に4回生の卒論報告を行います。1月には3回生のみなさんに卒論で予定するテーマについて仮報告をしてもらう予定にしています。

成績評価と基準

平常点：報告と討論への貢献度40%
中間レポート（演劇について）30%
期末レポート（映画について）30%

【平常点に関する注意】
演習は出席したうえで議論に参加することが前提となるため、欠席した場合は代替のミニレポートの提出が必要である。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

演習ですので、報告者だけではなく、参加者全員が事前準備（読解と資料収集、分析）を求められます。テキストに関連する文献について、ネットだけではなく、図書館や映像（DVD、テレビなど）も活用して、自分なりにテーマへのアプローチを考えながら準備してください。

オフィスアワー・連絡先

木曜日以外、随時。メールにて事前連絡が望ましい。
kumi3@kobe-u.ac.jp

学生へのメッセージ

課題となる観劇の際の入場料が必要になります。
弁士付きサイレント映画上映会の企画立案、宣伝等の活動を行ってまいります。
【注意】芸術文化論コースでは、演習Bの時間を使って、11月末に4回生による卒論の内容報告、1月に3回生による卒論テーマ報告を行う。受講生は必ず出席すること。また、他の演習Bで行われる報告にもできるだけ出席すること。

今年度の工夫

各自のテーマ発表も行う。論文精読とアカデミック・ライティング入門を行う。
アートマネジメントの実践の一環として、弁士付き映画上映会の企画実施を行う。

教科書

参考書・参考資料等

フィルム・アート 映画芸術入門 / D. ボードウェル : 名古屋大学出版会, 2007, ISBN:9784815805678
映画の教科書—どのように映画を読むか / ジェイムズ・モナコ : フィルムアート社, 1983, ISBN:9784845983483
演劇学の教科書 / 演劇学の教科書 : 国書刊行会, 2009, ISBN:9784336051059

授業における使用言語

日本語

キーワード

演劇、映画、20世紀

開講科目名	専門演習 B(1)		
担当教員	北村 結花	開講区分	単位数
		後期	2単位
授業のテーマと到達目標			
テーマ：文化の記憶 到達目標：1）日本古典文学を「原文で」読む。2）英文読解能力を鍛える。			
授業の概要と計画			
以下のテキストを用い、日本古典文学を概観する。毎週一章ずつ読解する。その際、各章に出てくる古典文学についても読解を行う。 使用テキスト： 1 大学生のための文学トレーニング 古典編」 2 Haruo Shirane 著 Traces of Dreams: Landscape, Cultural Memory, and the Poetry of Basho 章立ては以下の通り。 1 Introduction 2 Basho Myth East and West 3 Haikai Language, Haikai Spirit 4 The Art of Juxtaposition 5 Linking and Communal Poetry 6 The Poet as Guest 7 Seasonal Associations and Cultural Landscape 8 Remapping the Past 9 Awakening to the High, Returning to the Low.			
成績評価と基準			
平常点50％（授業での発表内容＋ディスカッションへの参加度）＋レポート50％。3回以上欠席の場合は単位を認めない。 なお、各自の報告の際に欠席した場合は、欠席の回数に関わらず、単位を認めない（ただし特段の理由—忌引、伝染性の病気など—がある場合は除く。診断書等の提出が必要。）			
履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）			
受講者全員、当然のことながら翌週の課題の読解は必須である。また、各章で取り上げられている原文（＝古文）を読むことも必要になるので、高校卒業レベルの古文の読解能力を求めたい。 なお、古語辞典を持参すること（電子辞書OK）。			
オフィスアワー・連絡先			
yuika<A t>kobe-u.ac.jp			
学生へのメッセージ			
英文テキストも読みますが、日本古典文学を読むこともこの授業の目指すところです。古文の読解力を磨き直してください。			
今年度の工夫			
教科書			
授業中に指示する			
参考書・参考資料等			
授業における使用言語			
日本語			
キーワード			
日本文学 古典文 作られた伝統 文化の記憶			

開講科目名	専門演習 B(1)		
担当教員	中村 覚	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

「中東における安全保障研究の方法」

- ・2回生は、国際安全保障学と中東・イスラーム研究を接合する観点を養う。日本語と英語の講読となる。
- ・3回生は、卒論の準備を行う。テーマを選定したり、国際政治を論じたりするための基本的な作法を体得する。

授業の概要と計画

- ・冷戦後の中東
- ・中東とアジアの接近
- ・911事件と「無知の衝突」
- ・全方位均衡論
- ・イラク戦争
- ・預言者風刺画事件
- ・ダーイシュ(いわゆるISIS, ISIL, 「イスラーム国」などと呼ばれる)やアルカーイダ等に対するテロ対策
- ・イランの核開発
- ・中東の開発
- ・メディアの役割
- ・紛争予防における国際機構や地域機構

成績評価と基準

(1)ゼミでの発表と発言の回数により、基礎点を計算します。(2)レポート提出の点数、(3)指定した国際セミナーへの参加など。

履修上の注意(準備学習・復習、関連科目情報等を含む)

アラブ文化論、教養原論、平和構築論などを履修して、イスラーム、中東政治、国際安全保障学の基礎を学んでから履修して下さい。
最初の1-2週間の報告を担当してくれる方は、ありがたいです。

オフィスアワー・連絡先

金曜日12:30-13:10

学生へのメッセージ

中東や発展途上国に関心のある学生を歓迎します。
卒論作成を通じて新しい発見をしようとする意欲を期待します。
国際安全保障学を中東研究に応用する観点を身につけましょう。学問(国際政治学等)を特定の事例・地域研究に応用する方法の訓練になるゼミだと思います。
世界の中で日本は地盤沈下しています。皆さんの奮闘を期待します。

今年度の工夫

最新の議論を検討する。一年間の海外出張の成果を紹介する。

教科書

リーディングリストを最初の授業で検討する。日本語では文献が少ないので、英語文献にするか、教員の談話を多くするかなどの方法を考えます。

参考書・参考資料等

手作りの卒論マニュアルを3?4種類、適宜、配布する。

授業における使用言語

日本語、英語

キーワード

中東、安全保障、国際関係、アラブ、イスラーム

開講科目名	専門演習 B(1)		
担当教員	王 柯	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

近代東アジアにおける日中関係
とくに20世紀に起こった事例を取り上げ、様々な側面から日中関係の問題点を分析し、相互理解の必要性和重要性を再確認する

授業の概要と計画

時代に沿って、「戦後日中交流の始まり」、「両国間交流の拡大」、「日中交流を妨害する諸事件」、「両国国交正常化の前夜」、「日中国交の回復」、「日中関係の新たな発展」、「21世紀における日中関係」をテーマに、教員による講義、一緒に資料を調べること、テキストの輪読などの形をとって授業を進める。

成績評価と基準

出席率、学習の態度、期末レポートの成績を総合的に判断して成績を評価する。
(出席と学習の態度は50%、期末レポートは50%)

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

1、中国および日中関係関連の新聞記事を入念に調べること。
2、授業中に発表者の発表内容に対して積極的に質問すること。

オフィスアワー・連絡先

水曜日 12:30-13:10
E214室、内線7459

学生へのメッセージ

心で学問を学ぼう。

今年度の工夫

教科書

授業中に指示

参考書・参考資料等

授業における使用言語

日本語

キーワード

開講科目名	専門演習 B(1)		
担当教員	寺内 直子	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

「能の美学」
この授業では、日本の伝統芸能「能」の役者であり、台本作家であり、理論家でもあった世阿弥（1363-1442頃）の著書『風姿花伝』を読みながら、能の様式美や演技者の心得などの美学を考える。合わせて、日本の古い書体＝変体仮名の読解能力も身につける。

授業の概要と計画

受講生は、割り当てられた箇所を予習し、文字の書き起し、現代語訳、語注をレジュメにまとめ、それに基づいて発表する。

成績評価と基準

出席（50%）、発表（50%）

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

オフィスアワー・連絡先

By appointment (naokotk (at)kobe-u.ac.jp)

学生へのメッセージ

今年度の工夫

教科書

参考書・参考資料等

市村宏全訳注『風姿花伝』講談社、2011
野上豊一郎・西尾実校訂『風姿花伝』岩波書店（岩波文庫）、1983

授業における使用言語

日本語

キーワード

能 世阿弥 美学 風姿花伝

開講科目名	専門演習 B(1)		
担当教員	森下 淳也	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

ゲームやマルチメディアを楽しむ環境として、Webサーバとブラウザがある。ブラウザによるWebページは今や様々なエンターテインメントのプラットフォームになっている。ここでは、ブラウザにおいて動的な操作を可能とする新しい規格、html5を使ったWebページ作成の上級編を解説するとともに、サーバ側の通信の仕組みを解説することで、複雑な通信を伴うWebページの構築を目指そう。
この仕組みに習熟すれば、スマホやタブレットのアプリ開発にも移行できる。時間に余裕があればチャレンジしよう。

授業の概要と計画

授業の概要と計画は次の通りである。常に最新の成果を採り入れて講義することに努めるつもりである。そのため、内容が変更されたり、時間の都合で割愛されることもある。了承願いたい。

1. HTML5の紹介
2. Javascript入門
3. サーバ・プログラミング(CGI, SSI) スクリプト言語入門
4. サーバーとの通信による協調型Webページの実現

-
5. タブレットでアプリに挑戦

成績評価と基準

出席状況と演習課題により評価する。多くの課題をレポートとして課すことになる。量が多いので遅れずについてくることを望む。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

コンピュータを一人一台使用する演習である。通常、2年前期メディア情報処理（森下）の履修を前提とする。2年後期情報科学演習Ⅲの履修があれば、理解の助けとなろう。いずれも必須ではない。

オフィスアワー・連絡先

随時。但し、要事前連絡。(連絡先メールは詳細情報へ)
研究室: 鶴甲第1キャンパスB棟4階, B401研究室(新B棟最上階階段横)

学生へのメッセージ

各自、自分でコンピュータでプログラミングを行いながら授業を進める予定です。
現在、我々が享受しているコンピュータとネットワーク環境に対する理解が深まると思います。

今年度の工夫

教科書

特に教科書は指定しない。必要とあれば授業中に指示する。

参考書・参考資料等

必要とあれば授業中に指示する。

授業における使用言語

日本語

キーワード

開講科目名	専門演習 B(1)		
担当教員	田中 順子	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

この専門演習Bでは、第二言語(L2)を使用するなかで見落としがちで、しかしながら母語話者からはL2話者であることが明らかであるような、言語項目の習得について学びます。例としては英語の形態素や日本語の助詞の習得があげられます。これらはいわゆる習得困難項目ですが、何故習得が困難なのかをL2の理解と使用の両面から検討します。

授業の概要と計画

授業開始後にcourse outlineを配布します。
授業前半では文献を読み、どのような点において母語話者とノンネイティブスピーカーとが異なるのかについての知識を得ます。後半部分では、グループ（あるいは個人）単位で実証的研究を行います。指導教員とともに学生が研究計画を立ててデータ収集し、分析して発表するという作業を行います。研究テーマの例は授業の中で紹介します。

成績評価と基準

出席と平常点（50%）、発表とレポート(50%)を総合して評価します。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

授業は普通教室とコンピュータ室を使って行う予定ですが、ワードやエクセルが使える人であれば受講に問題はありません。リピータも歓迎します。

オフィスアワー・連絡先

未定です。あらかじめメールで予約してください。

学生へのメッセージ

受講者が「第一言語」や「第二言語」にまつわる疑問を探求することのおもしろさに気づくよう期待しています。上回生で既に私の演習Bを履修している人も、繰り返しにならないような作業内容にします。

今年度の工夫

教科書

テキストは全章を使用するのではなく、それぞれ一部の章を取り扱います。
ことばの修得：母語獲得と第二言語習得 / 鈴木孝明・白畑知彦：くろしお出版,2012 ,ISBN:9784874245446
Second language acquisition: An advanced resource book. / De Bot, K., Lowie, W., & Verspoor, M. : Routledge ,2006 ,ISBN:9780415338707
ことばの発達謎を解く / 今井むつみ：,2013 ,ISBN:9784480688934

参考書・参考資料等

授業における使用言語

主として日本語。英語話者には英語を使用。

キーワード

SLA hard-to-learn-items "data analyses"

開講科目名	専門演習 B(1)		
担当教員	塚原 東吾	開講区分	単位数
		後期	2単位
授業のテーマと到達目標			
原発とバイオテクノロジーを始めとするSTS：「読書マラソン」による徹底的な情報収集			
授業の概要と計画			
STS的問題を広範に扱うが、中心としては、原発問題とバイオテクノロジーについて、毎週一冊の本を読む「読書マラソン」を行う。それに合わせて、関係のドキュメンタリーフィルムを毎週一本見る、「フィルム・マラソン」も、併用して、問題の基本的な枠組みをとらえる。			
成績評価と基準			
毎週のレポート、エッセイ、書評と映評の提出			
履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）			
知のマラソンなので、かなりの体力を必要とする。塚原の他の授業を全てとらないと多分、履修は無理である。			
オフィスアワー・連絡先			
木・ヒル、E406			
学生へのメッセージ			
毎週最低3時間（通常5時間程度）の予習を必要とする。			
今年度の工夫			
予習をしないとわからないような授業になっているだけではなく、マラソンの名に恥じない、限界的・持続的な知的体力トレーニングであること。			
教科書			
参考書・参考資料等			
授業における使用言語			
日本語だが、英語のテキストも利用するし、英語のドキュメンタリー・フィルムなどは、原語での視聴を試みる。中・独・仏の場合、サブタイトルは英語。第2外国語が中・独・仏の場合、それらの原語の使用も試みる。			
キーワード			
STS、原発、バイオテクノロジー、バイオキャピタリズム、3 1 1			

開講科目名	専門演習 B(1)		
担当教員	谷川 真一	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

現代中国の政治と社会
この授業は、現代中国のさまざまな課題や問題を社会科学の視点から検討することを目的とします。

授業の概要と計画

セミナー形式の授業ですので、学生の皆さんの発表とディスカッションを中心として授業を進めていきます。最初は、こちらで参考文献リストを用意しますので、そのなかから関心のあるものを選んでもらい、報告していただきます。その後は、皆さんが教員と相談しながら、自分で研究課題を見つけ、参考文献や資料を探し、発表してもらいます。報告者以外の方も、積極的にディスカッションに参加することを心がけてください。

成績評価と基準

発表：30%、授業への参加：30%、レポート：40%

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

報告が予定されている論文・研究書を全員が必ず授業当日までに読んでおくこと。また、報告者への質問、コメントを積極的に行うこと。

オフィスアワー・連絡先

火曜日昼休み、E203

学生へのメッセージ

「中国を見る目」を養いましょう！

今年度の工夫

教科書

TBA

参考書・参考資料等

授業における使用言語

日本語

キーワード

現代中国、社会科学、政治、社会、国際関係、日中関係

開講科目名	専門演習 B(1)		
担当教員	塚原 東吾	開講区分	単位数
		後期	2単位
授業のテーマと到達目標			
STS、原発とバイオテクノロジー：「読書マラソン」による徹底的な情報収集			
授業の概要と計画			
いわゆる、科学技術社会論（STS）の領域を広く扱うが、基礎文献を乱読してゆく。とくに、原発問題とバイオテクノロジーについて、毎週一冊の本を読む「読書マラソン」を行う。それに合わせて、関係のドキュメンタリィフィルムを毎週一本見る、「フィルム・マラソン」も、併用して、問題の基本的な枠組みをとらえる。			
成績評価と基準			
毎週のレポート、エッセイ、書評と映評の提出			
履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）			
知のマラソンなので、かなりの体力を必要とする。			
オフィスアワー・連絡先			
木・ヒル、7435			
学生へのメッセージ			
毎週最低3時間（通常5時間程度）の予習を必要とする。			
今年度の工夫			
予習をしないとわからないような授業になっている。			
教科書			
参考書・参考資料等			
授業における使用言語			
日本語だが、英語のテキストも利用するし、英語のドキュメンタリィ・フィルムなどは、原語での視聴を試みる。中・独・仏の場合、サブタイトルは英語。第2外国語が中・独・仏の場合、それらの原語の使用も試みる。			
キーワード			
原発、バイオテクノロジー、バイオキャピタリズム、311			

開講科目名	専門演習 B(1)		
担当教員	萩原 守	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

この授業のテーマと目標は、歴史や環境問題等を含む広い意味での「北アジア研究」とする。

授業の概要と計画

詳細は参加者の希望を聞いた上で決定するが、予定としては、モンゴルや中国に関して日本語で書かれた研究論文・研究書をなるべく多角的な視点から選定して、参加者に順次紹介・発表してもらい、それによって、現在の研究状況や代表的な研究手法、史料状況等を広く把握する。参加者は、各自の関心に応じて研究論文を選び、参加者全員の前で内容の要約と批評を行う。可能であれば、参加者自身による研究をも、発表してもらう。

1. 自己紹介
2. 最近の北アジア研究の潮流（歴史、人類学、法学）
3. 参加者自身の選定した論文の紹介

成績評価と基準

演習なので、出席と質疑応答内容80パーセント、発表20パーセントの割合で評価する。自分が発表しない時でも、積極的に質問する姿勢を評価したい。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

なるべく欠席しないこと。また、他の学生が発表しているときにも、参考となりそうな点に常に注意を払う必要がある。発表には予習が必要であり、発表後は、入念な復習によって、より効果的な授業となる。

オフィスアワー・連絡先

月曜・木曜昼休み 研究室はE-206
連絡先は、hagihara@kobe-u.ac.jp

学生へのメッセージ

気軽に参加してください。

今年度の工夫

学生の希望に配慮したい。

教科書

特になし。論文はコピーで配布し、参考文献は授業中に指示する。

参考書・参考資料等

授業中に指示する。

授業における使用言語

日本語

キーワード

北アジア モンゴル 中国 歴史 環境

開講科目名	専門演習 B(1)		
担当教員	塚原 東吾	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

原発と廃棄物（ガレキ）とバイオテクノロジー：現地での情報収集と徹底的な情報収集@もんじゅ、上関、豊島、直島、産業廃棄物

授業の概要と計画

前半は徹底的な読書とフィルム・ドキュメンタリィなどによる情報収集を行う。
 後半には廃棄物（ガレキ）の問題について、瀬戸内海の豊島産業廃棄物問題を考えるために、現地調査をおこな
 い、昨年の、瀬戸内アートフェスティバルの取り組みなどを検証する。また原発については敦賀原発および「もん
 じゅ」の現地調査を試みる。バイオテクノロジーについては各種研究機関・エージェントの調査を試みる。

成績評価と基準

毎週のレポート、およびエッセイ。
 また現地調査での企画書・現地報告・分析、
 研究計画書などによって評価する。
 基準は世界レベルで通用するオリジナリティとプライオリティがあるかどうかという以外に、アカデミアでの意味
 はない。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

かなり面白い。だが時間がかかりかかるし、多くの予備知識が必要なので、塚原の他の授業を取っておくことを推
 奨する。基本的に毎回最低でも3時間程度（通常で5時間）の予習がない場合には、授業について来れない。

オフィスアワー・連絡先

木ヒル、E404

学生へのメッセージ

ポスト311の時代に、何をどうする？
 でも、学問の面白さだけは、蘭学者並みに、スゴイ。

今年度の工夫

原発と廃棄物（ガレキ）とバイオテクノロジーについて、事前の情報収集と現地での徹底的な情報収集を組み合わ
 せ、しかもそこに豊島・直島という瀬戸内海の調査（アート・フェスティバル）を加えたところ。

教科書

参考書・参考資料等

授業における使用言語

日本語だが、英語ができない人は困る。

キーワード

もんじゅ、上関、豊島、直島、産業廃棄物

開講科目名	専門演習 B(1)		
担当教員	水口 志乃扶	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

テーマ：日英語のプロソディ研究

目標：1 先行研究を精読して正しく理解する

2 関連するテーマについて調査し、音声解析ソフトPraatを使って分析する

3 論文の書き方に準じてレポートを書く

授業の概要と計画

- 1 はじめに
- 2 日英語のアクセントの研究概観
- 3 日本人らしい発音
- 4 日英語の音声の連続と切れ目
- 5 英語の単語と語群のピッチパターン
- 6 日本語の単語と語群のピッチパターン
- 7 単語アクセントの音響的特徴
- 8 単語アクセントの分析
- 9 イントネーション、各自のテーマ決定
- 10 プロソディ
- 11 日本人の英語
- 12 「新情報」
- 13 英語と教育
- 14 発表
- 15 レポート提出

成績評価と基準

授業でのレポート	20%
個人テーマの発表	30%
レポート	50%

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

Praatを使えることがのぞましい。使ったことがない人は、情報コミュニケーション講座 演習A（H27年度前期）か、音声コミュニケーション論（H27年度後期）を受講してください

オフィスアワー・連絡先

金曜日13.20 - 14.50 または 事前調整
研究室B311

学生へのメッセージ

聞こえていると思っている音は、実際の音とは限りません

今年度の工夫

日本人の英語に特化して講義を進める

教科書

日本人の英語 / 杉藤美代子：,1996 ,ISBN:4870888181

参考書・参考資料等

English Intonation / Wells, Peter : Cambridge University Press ,2006 ,ISBN:9780521683807
A Course in Phonetics 6th Edition / Ladefoged, P. and K. Johnson : Wadsworth, Cengage Learning ,2011 ,ISBN:9781428231269

授業における使用言語

日本語、英語

キーワード

日本人の英語
イントネーション
アクセント
プロソディ
聞こえていると思っている音
実際の音

開講科目名	専門演習 B(1)		
担当教員	上野 成利	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

モダニティ論への誘い——政治思想・社会思想史的アプローチ

この演習では、「モダニティとは何か」という大きな問いをテーマに掲げながら、理論的なテキストを精読してゆく。「文献を丁寧に読み、それを文章にまとめる」というスタイルで演習を進めてゆくが、具体的にどんな文献を取り上げるかは開講時に決定する。S・フロイトの文明論やM・ウェーバーの社会理論、C・シュミットやH・アーレントら政治哲学の古典、Th・W・アドルノやM・フーコーら20世紀の現代思想、あるいはそれ以後の最新の哲学・社会思想等々、広汎な理論的テキスト群から重要かつ適切なものを選びたい。

なお、この演習では「読む」だけでなく「自分の見解を文章に書く」訓練にも力を入れる。卒業論文のための準備という意味合いもちろんある。しかしより重要なのは、「書く」ことこそ人に「考える」ことを促す恰好の契機となる、ということだ。2年生であれ3・4年生であれ、参加者はこの演習をつうじて、答えの容易に出ない問いに正面からぶつかり、徹底的に考え抜いてほしいと思う。

授業の概要と計画

取り上げるテキストについては開講時に決定します。毎回の授業の冒頭では、あらかじめ決められた担当者に、前回の議論をふりかえるペーパー（A4版で1枚）を提出してもらいます。これは参加者全体の理解を確実にすることを第一の目的とするものですが、担当者にとっては文章を要約して書く訓練という意味合いもあります。そのうえで、別の担当者に当日分のテキストのレジュメをもとに報告してもらい、テキストを精密に読み解いてゆきます。

なお演習の最後の数回は「アカデミック・ライティング」のトレーニングにあてる予定です。それまでに読んだテキストについて自分なりに論評を加えたショート・エッセイを各自が書き、それを参加者全員で相互に検討します。テキストの内容理解を深めるとともに「書く」技術を磨く機会としてもらいたいと思います。

いずれにせよこの演習で行なうのは、「読む」「書く」「議論する」、この三つに尽きます。その意味ではごくオーソドックスな、つまりきわめて古風なスタイルの演習といえます。

成績評価と基準

担当回の報告の内容、毎回の議論への参加、アカデミック・エッセイの内容等々をもとに、総合的に評価します。なお演習形式である以上、毎回出席することが前提となります。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

初回の授業でレジュメの担当者などを決めたりするので、一回目からかならず出席してください。やむをえない事情で初回を欠席する場合には、上野に連絡を入れてください。また「近代政治思想論」（上野）をすでに履修していることが望ましいので、未修者は前期にかならず履修してください。さらに「モダニティ論」分野の演習・講義をできるだけ同時に履修してほしいと思います。自分の興味関心に応じて無理のない履修計画を考えてください。

オフィスアワー・連絡先

金曜 12:20-13:20
ueno@people.kobe-u.ac.jp

学生へのメッセージ

今年度の工夫

教科書

取り上げるテキストについては開講時に決定します。

参考書・参考資料等

以下の文献のなかで、M・ホルクハイマー、Th・W・アドルノ、W・ベンヤミン、C・シュミットらの思想について私なりに簡単に解説しているので、参考文献として活用してもらえればと思います。

暴力（思考のフロンティア） / 上野成利：岩波書店, 2006, ISBN:9784000270090

岩波講座 政治哲学 5 理性の両義性 / 齋藤純一 編：岩波書店, 2014, ISBN:9784000113557

社会学ベーシックス9 政治・権力・公共性 / 井上 俊・伊藤公雄 編：世界思想社, 2011, ISBN:9784790715207

授業における使用言語

日本語

キーワード

開講科目名	専門演習 B(1)		
担当教員	山崎 康仕	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

テーマ：「生命をめぐる法と倫理」

目標：生命倫理をめぐる諸問題において、いかなる倫理や規範が問題とされ、どのような対応が求められるのかについて考察することを通して、倫理や道德などの文化規範を新たに形成したり再構成する際に要請される、多角的な視点と論証能力、さらにそれらを通しての問題解決能力の育成を、この演習は目標としている。

授業の概要と計画

前期の専門演習 B から継続した演習。前期での学習を前提として、参加者が生命倫理関係で関心のある問題を探究し報告する。担当者の報告を参加者全員で検討するという形で演習を進める。

成績評価と基準

平常点(授業での議論への貢献度) 70%, および学期末のレポート 30% で評価する。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

報告担当でない場合も、生命倫理関係の標準的な教科書を読み、議論の準備をすること。

オフィスアワー・連絡先

随時。要連絡。

yy@people.kobe-u.ac.jp

学生へのメッセージ

今年度の工夫

教科書

特に指定しない。

/：,2005,ISBN:

参考書・参考資料等

今井道夫『生命倫理学入門 第3版』(産業図書,2011)鈴森 薫(訳)『生殖医療をめぐるバイオエシックス—生殖補助医療と遺伝学の接点:技術的・社会的・倫理的ならびに法的諸問題』(メジカルビュー社,2009)

香川 知晶『命は誰のものか』(ディスカヴァー・トゥエンティワン,2009)

香川知晶・樫則章(編)『生命倫理の基本概念(シリーズ生命倫理学)』(丸善出版,2012)

浅井篤・高橋隆雄(編)『臨床倫理(シリーズ生命倫理学)』(丸善出版,2012)

今井道夫・森下直貴(編)『生命倫理学の基本構図(シリーズ生命倫理学)』(丸善出版,2012)

菅沼信彦・盛永審一郎(編)『生殖医療(シリーズ生命倫理学)』(丸善出版,2012)

倉持武・丸山英二(編)『脳死・移植医療(シリーズ生命倫理学)』(丸善出版,2012)

香川知晶『生命倫理の成立』(勁草書房,2000)

小林亜津子『生殖医療はヒトを幸せにするのか 生命倫理から考える』(光文社,2014)

授業における使用言語

日本語

キーワード

生命倫理学 法と道德 法哲学 医療倫理 生殖医療

開講科目名	専門演習 B(1)		
担当教員	宗像 恵	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

ジェンダーに関わる問題をテーマにします。現在の社会にはジェンダーに関わるいろいろな現象や問題が見られます。たとえば、恋愛と結婚の分離によるロマンティック・ラブのゆらぎ（婚活）、草食系男子や肉食系女子にみられる男らしさ・女らしさの問い直し、性別分業を前提にした近代家族制度の機能不全、セクシュアル・ハラスメントやドメスティック・バイオレンス、などなど。
演習では、これらの問題について書かれた本を読んで報告してもらい、参加者全員でディスカッションしながら、いったい何が問題なのか、見通しをつけてもらうことを、目標にしています。

授業の概要と計画

はじめに、イントロダクションとして、概観的な説明や文献の紹介をします。
その後で、ゼミ参加者それぞれに、自分の関心にあったテーマを選び、関係図書を読んで報告してもらいます。報告者以外の参加者には、報告を聞き、報告者をまじえてディスカッションしてもらいます。

私の研究室には、ジェンダーに関わる心理学や文学、ファッション論やマンガ論、イメージ論や魔女論、男性論などのほか、女性の職業問題、家族、母性、セクシュアル・ハラスメント、ドメスティック・バイオレンスなど、ジェンダー関連図書がたくさんありますので、それらを使ってもらっても結構です。

成績評価と基準

報告内容（レジュメ、口頭発表、質問への応答）60%、授業に出席しディスカッションへ参加した度合40%。
全回出席を原則とします。無断欠席は大きく減点します。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

この授業は演習ですから、自分の報告の準備はしっかりしてください。
また自分の報告のないときも、必ず毎回出席してディスカッションに参加してください。
1年次にジェンダー文化論を受講していない人は、受講するようにしてください。

オフィスアワー・連絡先

随時行なっていますが、事前に下記に連絡を下さい。
munakatsアットマークperson.kobe-u.ac.jp
研究室はE306です。

学生へのメッセージ

性（ジェンダー）の枠組みは、社会のすみずみにまで浸透して、私たちの生活に影響しています。何か変だとか、おかしいとか、面白いとか感じる人がいる人は、ぜひ演習に参加してください。他講座所属の学生さんも歓迎します。

今年度の工夫

受講者数にもよるのですが、できるだけ受講者の関心に基づく発表の機会を多くしたいと思っています。

教科書

教科書としては使いませんが、上に書いたように、報告のための参考文献を適宜使ってもらいます。

参考書・参考資料等

授業における使用言語

日本語

キーワード

ジェンダー

開講科目名	専門演習 B(1)		
担当教員	池上 裕子	開講区分	単位数
		後期	2単位
授業のテーマと到達目標			
この授業では、現代美術の諸問題について、様々なテキストを読みながら議論する。特に教科書は指定せず、トピックごとに重要な論文を配布し、その読解を通じて具体的な作品分析へとつなげる形式を取る。主な著者はクレメント・グリーンバーグ、レオ・スタインバーグ、石子順三、グリゼルダ・ポロック、榎木野衣、松井みどりなど。			
授業の概要と計画			
まず、最初の数回で重要なテキストを精読し、担当者を決めてポイントとなる部分について討議する。授業の後半では各学生が興味のあるトピックについて発表する。少人数の演習形式で、レジュメの作成、発表や議論の方法、資料の収集方法などを学ぶ。			
以下に議論の主なポイントを紹介する。			
1) 現代美術とは何か 2) モダニズム批評 3) 大衆文化とアート 4) ジェンダーと表現 5) 検閲と表現の自由 6) キュレーターの役割 など。			
成績評価と基準			
授業参加 50% レポート 50%			
履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）			
演習形式で行うため、授業には毎回出席することが前提となります。事前にテキストを読んで準備をした上で、討議への積極的な参加が必須であることを理解した上で登録してください。復習も必要です。現代美術の知識がある程度求められるので、前期に開講される「現代アート論」を受講しておいて下さい。			
オフィスアワー・連絡先			
ikegami@port.kobe-u.ac.jp			
学生へのメッセージ			
現代の文化や美術について考察するには、それなりの論理的なアプローチが必要です。漫然とテキストを読むのではなく、しっかりと論点を押さえた上で、自分の意見を言えるように準備してくる。また、英語のテキストも使用しますが、読みやすく、かつ重要な問題を論じたテキストなのでぜひ挑戦して下さい。この演習を通して批判的な思考力を高めましょう。			
今年度の工夫			
批判的思考力を養う。毎週リーディング・レスポンスを提出することで、論理的に文章を書く練習をする。			
教科書			
参考書・参考資料等			
グリーンバーグ批評撰集 / クレメント・グリーンバーグ: 勁草書房, 2005, ISBN:978-4326851850 日本・現代・美術 / 榎木野衣: 新潮社, 1998, ISBN:978-4104214013 アート: 「芸術」が終わった後の「アート」 / 松井みどり: 朝日出版社, 2002年, ISBN:978-4255001326			
授業における使用言語			
日本語			
キーワード			
現代美術、視覚文化			

開講科目名	専門演習 B(1)		
担当教員	近藤 正基	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

現在、先進諸国では福祉再編の取り組みが活発化し、福祉政治のあり方も変わりつつあります。本演習では、ドイツを中心に、日本や他のヨーロッパ諸国との比較を交えながら、現代福祉国家・政治の変容について学んでいきます。

授業の概要と計画

①文献の輪読。新川敏光編『福祉レジーム』（ミネルヴァ書房）や宮本太郎『福祉政治』（有斐閣）などを予定しています。担当者の発表の後、受講者で討論を行います。
 ②講演。福祉や政治の現場で活動する方々の講演会を数回開催する予定です。
 ③調査・研究報告。演習内容を踏まえ、各グループが調査した内容について報告し、受講者で議論します
 ※合同ゼミを開催する可能性があります。

成績評価と基準

授業への参加、発言（40点）、調査・研究報告（30点）、プレゼンテーション（30点）。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

遅刻および欠席は減点対象となるので、気を付けてください。初回の授業で具体的な授業計画を立てるので（輪読・コメント・研究報告の担当者などの確定）、受講者は、必ず初回の授業に参加してください。参加しない場合、履修が認められない可能性があります。

オフィスアワー・連絡先

オフィスアワーは特に定めません。授業内容や研究に関して質問がある方は、メールでアポイントメントをとってください。メールアドレス：mmrkondo@gmail.com。

学生へのメッセージ

今年度の工夫

教科書

授業中に指定します。

参考書・参考資料等

授業中に指定します。
 比較福祉国家——理論・計量・各国事例 / 鎮目真人・近藤正基編：ミネルヴァ書房, 2013年, ISBN:4623066622
 現代ドイツ政治——統一後の20年 / 西田慎・近藤正基編：ミネルヴァ書房, 2014年, ISBN:4623072045

授業における使用言語

日本語、ドイツ語、英語

キーワード

ドイツ政治、比較福祉国家論、比較政治学

開講科目名	専門演習 B(1)		
担当教員	貞好 康志	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

東南アジアを中心とする諸地域の歴史と現在の諸問題（植民地支配、ナショナリズム、経済開発と環境問題、人々の暮らしと価値観、社会・文化の変容、イスラームなどの宗教、国家・企業・NGOのあり方、日本社会や私たちの暮らしとの関係など）をテーマとする。テキスト講読や各自の研究発表、相互討論を通じ、やがて卒論につながる参加者各自の問題発見の場、同時に批判的な思考とプレゼンテーション能力向上のための「道場」となることを目指します。

授業の概要と計画

1. オリエンテーション（顔合わせの上で方針を確認、テキスト決定、担当割り当てなど）
2. 輪番で発表・討論
3. 締め括りのイベント（一昨年度はミニ・ディベート大会、昨年度は班対抗フィールド研究発表大会）

成績評価と基準

平常点65%、期末レポート35%。ただし、ここでの平常点とは、毎回の訓練によって発言能力を高めつつ、授業運営に積極的に参画する努力と成果のことです。黙して椅子を暖めるだけでは出席とみなしません。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

授業テーマに「東南アジア」と書きましたが、それ以外の地域に主たる関心を持つ人を排除するものではありません。むしろ多様な関心を持つ人を歓迎します。図書館や様々なメディアを活用して自主的に問題を解決したり掘り下げたりする主体的な学習態度を期待します。

オフィスアワー・連絡先

水曜昼休み、E221研究室にて。ただし事前に連絡・予約してください。Telp.(803)7458, ysd@kobe-u.ac.jp

学生へのメッセージ

共に楽しく学びましょう。

今年度の工夫

教科書

指定しない。 / : , ISBN:

参考書・参考資料等

初回の授業で人数を見、参加者の関心のありかを聞いた上で決定する予定です。

授業における使用言語

日本語

キーワード

厳しく楽しく学問を遊ぶ

開講科目名	専門演習 B(1)		
担当教員	野谷 啓二	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

宗教と文化に関連する問題を各自の関心にしながら設定し、授業で発表する。また発表のために用意するレジメをもとに学期末まで小論文を作成していただきます。その際、教員は参考文献、注の付け方等をチェックしますので、卒業論文作成の準備練習の意味合いもあります。

授業の概要と計画

受講生は各自の関心にしながら発表しますが、参考文献をチェックしますので、事前に文献表を教員に提出していただきます。

成績評価と基準

授業の発表 60%とレポート 40%の総合評価

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

口頭発表の前にレジメを作成し、メールで教員に送信すること。復習としては、次回の演習の冒頭で、1週間考えたことをまとめて報告すること。

オフィスアワー・連絡先

研究室：E204
Email: notani@kobe-u.ac.jp

学生へのメッセージ

今年度の工夫

教科書

使用しない

参考書・参考資料等

授業における使用言語

日本語

キーワード

開講科目名	専門演習 B(1)		
担当教員	石塚 裕子	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

ヨーロッパ、とりわけイギリスの文化を学び、西欧文化がどのように私たちに影響を与えているかを考えましよう。

授業の概要と計画

各学生のみなさんにヨーロッパに関する様々な文化の中から一つないし二つくらいのテーマを選んで、調査し、発表してもらい、他の学生さんと話し合い、理解を深め合いましょう。

成績評価と基準

積極的授業参加と発表の総合評価

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

予習・復習をしっかりと受講すること

オフィスアワー・連絡先

金曜日昼休み
ishizuka@kobe-u.ac.jp

学生へのメッセージ

今年度の工夫

教科書

参考書・参考資料等

授業における使用言語

日本語

キーワード

ヨーロッパ、イギリス、文化研究

開講科目名	情報コミュニケーション論特殊講義		
担当教員	宇津木 成介	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

トルストイのアンナ・カレーニナの冒頭部は"Happy families are all alike; every unhappy family is unhappy in its own way."から始まっています（www.gutenberg.org）。この言葉には、感情の機能を考える上で、重要な示唆がふくまれています。人間の心のはたらきの中で大きな位置を占めている「感情」について、心理学の立場から、その概要を理解することがこの授業の目標です。感情研究の「最先端」について知るというよりは、感情というやっかいな心のはたらきを概観して、できるだけそのポジティブな面に注意を向けてみます。認知心理学や社会心理学との接点が少なくないので、心理学のパースペクティブを縦方向だけでなく横方向に広げることができるでしょう。

授業の概要と計画

授業で扱われるトピックは以下の通りです。理解度によって、トピックを変更することがあります。

- ・感覚と感情
- ・動機づけと感情
- ・感情研究の歴史
- ・感情と認知
- ・感情と神経系
- ・感情の発達と異常
- ・感情とコミュニケーション
- ・感情制御

パワーポイントを使用して授業を進めます。授業に必要な資料を集めるため、また授業の理解度を高めるために授業中にアンケート調査や簡単な集団実験をすることがあります。3度に1度くらいの割合で「コミュニケーション・ペーパー」を配布します。質問、疑問、感想など記入してください。適宜まとめて回答します。回答は授業内容に含まれます。

成績評価と基準

期末テストの結果と出席によって評価します。期末試験の成績が70点以上の場合、原則として評価は得点だけで行います。60点以上70点未満の場合でかつ出席が2/3を下回る場合、欠席回数に応じて減点します。合格点の60点に数点足りない場合、欠席が2回以下であれば出席回数に応じて加点することがあります。最終的に得点の分布が、平均値を概ね75点とする正規分布に近くなるように調整します。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

教養原論等で「心理学概論」に相当する科目を履修していることが望ましい。この授業では特段の準備学習は要求しない。授業終了後に配布した資料及び自分でとったノート等を読みなおし、知らない用語、理解できない概念等があれば、友人に尋ねたり、図書館やwebで調べること。あるいは翌週の授業において質問すること。わからないままに放置してはいけない。

オフィスアワー・連絡先

非常勤講師なのでオフィスアワーはありません。授業時間後の相談等は積極的に受け入れます。その他の連絡は授業で示すメールアドレスをお願いします。

学生へのメッセージ

日常生活の中で、「感情」にかかわる体験を分析的に見るようにしてください。例えば、感情体験の原因を推測する、感情の作用のプラスとマイナスを評価してみる、感情のコントロールを試みる等々。親しい友人と自分の感情体験について話し合うのもよいと思います。映画「阪急電車」を観るのもよいでしょう。

今年度の工夫

神戸大学では初めて担当する授業ですが、他大学で改善を重ねてきた授業なので、特に新機軸となるような要素はありません。履修者数が少なければ、双方向性を心がけます。

教科書

教科書はありません。パワーポイントを使います。使用するパワーポイントの主要部分については、配布します。投影する画像と同じものではない場合があります。著作権にかかわる画像は、配布物から取除きます。適宜、メモを取るなどしてください。

参考書・参考資料等

基礎知識を得るために、"Hilgard's Introduction to Psychology" などを読むことをおすすめします。訳書もあります。いずれも、最新版でなく旧版で十分です。中古ならそこその値段で買えます。送料はかかりますがアメリカ合衆国のアマゾンでusedを買う手もあります。Conditionの悪いものは書き込みがあるので、楽しいかもしれません。下に示す参考書は初学者には少し難しいかもしれませんが、感情心理学の最先端に少し近いことが書かれています。

エモーショナル・ブレイン / ジョセフ・ルドゥー : 東京大学出版会, 2003, ISBN:4-13-063319-8

The Emotional Brain (上掲書の原本です) ペーパーバック版もあります。 / Joseph LeDoux : Touchstone, 1998, ISBN:0-684-80382-8

授業における使用言語

日本語で授業を行いますが、専門用語については外来語が出現します。

キーワード

感覚、感情、情動、情緒、欲求、動機づけ、学習理論、社会心理学、自律神経系、体性神経系、中枢神経系、コミュニケーション、臨床心理学、精神分析学、道徳感情、倫理、哲学史、C・ダーウィン、W・ジェームズ、IP・パヴロフ、S.フロイト。

開講科目名	グローバルキャリア特殊講義		
担当教員	箱田 徹	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

NGO、国際機関、グローバル企業などから全部で7人の講師を招聘し、リレー形式により、実例に学ぶ授業を受講者との双方向のやりとり重視で行なってもらい、なおかつ、授業と授業の合間の週にコーディネイター役の講師を中心として受講者に予備学習・復習を行なわせる。これにより、グローバルな活動に伴って生ずる諸問題と自らが積極的に関わって思考・考察し、議論に参加する能力を身につけさせるとともに、単に問題解決にとどまらず、問題発見を能動的に行なえる資質を養う。

グローバル人材に求められる能力には外国語能力において何があるか、また、グローバルな場においては何が問題となり、いかなる解決がありうるか、さまざまな事例について検証し、議論することを通して考察する。これにより、問題解決能力と併せ、問題発見能力を身につける。

授業の概要と計画

各回の内容は以下の通りです。

★重要★
初回講義でグループ分けを行いますので「必ず」参加すること。どうしても来られないが、受講したいという人は「事前」に連絡してください。

※講師と日程は決まり次第お知らせします。
第1回：講義全体の説明。グループ分け。次回講義の予習
第2回：ゲスト1
第3回：前回の振り返り、次回講義の予習
第4回：ゲスト2
第5回：前回の振り返り、次回講義の予習
第6回：ゲスト3
第7回：前回の振り返り、次回講義の予習
第8回：ゲスト4
第9回：前回の振り返り、次回講義の予習
第10回：ゲスト5
第11回：前回の振り返り、次回講義の予習
第12回：ゲスト6
第13回：前回の振り返り、次回講義の予習
第14回：ゲスト7

成績評価と基準

グループ発表の実施と全体議論への参加、期末レポート（必須）による。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

情報保障、学習支援が必要な学生は申し出てください。
ゲストは隔週での出講です。ゲストがいない回は、先週のゲストとの議論に関するディスカッションと、次週ゲストの発表内容に関するグループ発表を中心とします。単位が必要であれば、グループに参加して議論とプレゼンテーションを行ってください。
受講登録がなくても、好きなゲストの回に話を聞きに来てもらうことは構いません。

オフィスアワー・連絡先

授業の前後に教室で対応します。

学生へのメッセージ

この講義では「グローバルに働く」ことの意味を、ゲスト・スピーカーによるトークと受講者によるグループ発表を週替わりで実施することを通して考えます。

皆さんのほとんどは、学部卒業後に就職することを念頭に置いていることでしょう。でも「仕事をする」とはなんでしょう。就職活動や就職試験対策に取り組むことがすべてではない、そう頭ではわかっているながらも「自分は何がやりたいの?」「これで食べていけるのか?」と、はたと遠くを見て考えてしまうことはありませんか。

でもそれで普通なんです。20歳の頃から明確にやりたいことが定まっていて、思い描いた通りに、その後の人生を歩んでいる人なんてほとんどいません。

去年もこの講義を行いました。一線で活躍しているゲストの方が口々におっしゃっていたのは、中学高校や大学のときにふとしたきっかけでいただいた興味や関心を、少しずつかたちにしていくプロセスを経て現在がある、ということでした。後から見れば、たとえ一直線につながっているように見えても、その道のりは実際には平坦ではないのです。

では、そうした根っこにある関心とはどのようなものでしょうか? それがものすごく理想主義的なものだったとして、それで「食べていく」ことはできるのでしょうか?

隔週でお越しいただくゲストの方には、現在の仕事の紹介とあわせて、学生時代からの興味関心とのつながりなどを含めて、お話をうかがいます。なお講師をお願いするにあたっては、ジェンダー・バランスにも配慮しました。国際文化学部・大学院の出身者も3人招いています。

ゲストの話がない回では、前週の振り返りと、翌週の予習をグループ発表で行ってもらいます(詳しくは初回の授業で説明します)。学年やゼミを越えたつながりができますし、上回生の議論の仕方も見えて面白いです。積極的に参加してください。

今年度の工夫

学生の能動的参加を促すため、グループ活動を取り入れる。ゲストスピーカーや担当講師の話をいきなり聞くよりも、事前にある程度情報を持っていた方が、受講生の内容理解と能動的な授業参加が促されるためだ。

発表と討論をグループ単位で行うことは、チームでの議論と全体の前での発表とを両方経験することになる。議論やプレゼンテーションの力をつけるよい機会だ。昨年度の講義では、ゼミや学年を超えたつながりができることも確認できた。

ゲストスピーカーの選定にあたっては、国際NGO、多国籍企業、開発機関、社会的起業家と多様な職種の方に、ジェンダーバランスも考慮して依頼し、受講生に「グローバル人材」の多角的なイメージを抱いてもらうよう工夫している。また本学部・大学院OPにも加わってもらうことで、受講生が現実的な将来像をイメージする助けとなるよう配慮した。

教科書

なし

参考書・参考資料等

必要に応じて配布する

授業における使用言語

日本語

キーワード

グローバル人材育成、国際協力、国際人権、開発論、起業論、市民社会、NGO

開講科目名	博物館実習II		
担当教員	木下 資一	開講区分	単位数
		後期	1単位

授業のテーマと到達目標

学芸員資格取得のための知識と方法を学ぶ。

授業の概要と計画

博物館や美術館で学芸員として必要な現場の知識と方法を実際に身につける。

成績評価と基準

実習ノートの提出と口頭による報告およびレポート提出。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

実習先の指導・規則に従ってください。

オフィスアワー・連絡先

研究室E201

学生へのメッセージ

学芸員の仕事の楽しさを学んでください。

今年度の工夫

教科書

参考書・参考資料等

授業における使用言語

日本語

キーワード

博物館 美術館 学芸員 資格 実習

開講科目名	博物館実習Ⅲ		
担当教員	吉田 典子	開講区分	単位数
		後期	1単位

授業のテーマと到達目標

博物館実習の総仕上げとして、外部施設での実習を行い、学芸員として実際に仕事をする上での必要な技能を身につける。

授業の概要と計画

成績評価と基準

学生による実習レポートと実習先施設の担当者からの報告、およびを合わせて、合否を判定する。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

この科目を履修する前に、学芸員資格取得のために必要なすべての科目を修得していること（もしくは同学期に修得予定であること）が必要である。

オフィスアワー・連絡先

メールで事前に連絡のこと。 ynoriko@kobe-u.ac.jp

学生へのメッセージ

今年度の工夫

教科書

特になし。

参考書・参考資料等

授業における使用言語

日本語

キーワード

開講科目名	資料講読演習		
担当教員	長 志珠絵	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

歴史資料を具体的に分析する力を養う。題材は、学校日誌の記録（主に修学旅行記録）にみる戦前女性エリートをめぐる諸問題

授業の概要と計画

最初の数回は講義形式で、女子高等教育の歴史および歴史資料の読み方等について解説する。それ以降は演習形式。受講生は、事前に決められた史料の輪読箇所について、具体的に調査、分析して発表していく。報告担当者以外も予習し、議論に参加すること。

成績評価と基準

出席および議論への参加（30パーセント）、授業中の報告内容（40パーセント）、期末レポート（30パーセント）。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

指定された輪読用文献および自分の報告担当以外の史料を次の授業までに読み、議論に参加すること。担当を決めての発表は必ず行うこと。参考文献等は授業中に指示する。

オフィスアワー・連絡先

金曜日昼休み 要事前連絡

学生へのメッセージ

今年度の工夫

教科書

教科書は用いない。

参考書・参考資料等

帝国と学校 / 駒込武他編：昭和堂，2007，ISBN：
女性と高等教育 / 河村貞枝他編：，2008，ISBN：
女性と学歴 / 橘木俊昭：，2011，ISBN：

授業における使用言語

日本語

キーワード

開講科目名	卒論演習		
担当教員	定延 利之	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

卒業論文を作成するための演習です。まず卒論のテーマを明確にするところからはじめます。次に、そのテーマで卒論を書くにはどうすればよいのかを考えましょう。最終目標は卒論そのものです。

授業の概要と計画

開講時間や曜日は定められていませんので、基本的には学生の卒業研究のスケジュールに応じて進めます。可能な限り実証的な研究、具体的には実験ないし調査を中心にした卒業論文が書けるように指導します。

成績評価と基準

卒業論文そのものの評価と関連するのですが、努力を主として評価します。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

毎回、予習・復習を入念に行なうこと。

オフィスアワー・連絡先

各指導教員に連絡して下さい。

学生へのメッセージ

熱意をもってとりくんでください。

今年度の工夫

教科書

参考書・参考資料等

教科書はありません。過去の卒業論文が重要な参考資料です。

授業における使用言語

日本語ですが、もし英語で卒業論文を書くのであれば、英語でも対応します。

キーワード

開講科目名	卒論演習		
担当教員	櫻井 徹	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

卒業論文を作成するための演習です。まず卒論のテーマを明確にするところからはじめます。次に、そのテーマで卒論を書くにはどうすればよいのかを考えましょう。最終目標は卒論そのものです。

授業の概要と計画

開講時間や曜日は定められていませんので、基本的には学生の卒業研究のスケジュールに応じて進めます。可能な限り実証的な研究、具体的には実験ないし調査を中心にした卒業論文が書けるように指導します。

成績評価と基準

卒業論文そのものの評価と関連するのですが、努力を主として評価します。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

毎回、予習・復習を入念に行なうこと。

オフィスアワー・連絡先

各指導教員に連絡して下さい。

学生へのメッセージ

熱意をもって取り組んで下さい。

今年度の工夫

教科書

参考書・参考資料等

教科書はありません。過去の卒業論文が重要な参考資料です。

授業における使用言語

日本語ですが、もし英語で卒業論文を書くのであれば、英語でも対応します。

キーワード

開講科目名	卒論演習		
担当教員	梅屋 潔	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

卒業論文を作成するための演習です。まず卒論のテーマを明確にするところからはじめます。次に、そのテーマで卒論を書くにはどうすればよいのかを考えましょう。最終目標は卒論そのものです。

授業の概要と計画

開講時間や曜日は定められていませんので、基本的には学生の卒業研究のスケジュールに応じて進めます。可能な限り実証的な研究、具体的には実験ないし調査を中心にした卒業論文が書けるように指導します。

成績評価と基準

卒業論文そのものの評価と関連するのですが、努力を主として評価します。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

毎回、予習・復習を入念に行なうこと。

オフィスアワー・連絡先

各指導教員に連絡して下さい。

学生へのメッセージ

熱意をもって取り組んで下さい。

今年度の工夫

教科書

参考書・参考資料等

教科書はありません。過去の卒業論文が重要な参考資料です。

授業における使用言語

日本語ですが、もし英語で卒業論文を書くのであれば、英語でも対応します。

キーワード

開講科目名	卒論演習		
担当教員	坂本 千代	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

卒業論文を作成するための演習です。まず卒論のテーマを明確にするところからはじめます。次に、そのテーマで卒論を書くにはどうすればよいのかを考えましょう。最終目標は卒論そのものです。

授業の概要と計画

開講時間や曜日は定められていませんので、基本的には学生の卒業研究のスケジュールに応じて進めます。可能な限り実証的な研究、具体的には実験ないし調査を中心にした卒業論文が書けるように指導します。

成績評価と基準

卒業論文そのものの評価と関連するのですが、努力を主として評価します。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

毎回、予習・復習を入念に行なうこと。

オフィスアワー・連絡先

各指導教員に連絡して下さい。

学生へのメッセージ

熱意をもって取り組んで下さい。

今年度の工夫

教科書

参考書・参考資料等

教科書はありません。過去の卒業論文が重要な参考資料です。

授業における使用言語

日本語ですが、もし英語で卒業論文を書くのであれば、英語でも対応します。

キーワード

開講科目名	卒業研究		
担当教員	定延 利之	開講区分	単位数
		後期	10単位

授業のテーマと到達目標

書き上がった卒業論文を評価します

授業の概要と計画

卒業論文の作成自体の指導は、卒論演習で行います。

成績評価と基準

時間をかけて書いた卒論を高く評価します。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

特にありません

オフィスアワー・連絡先

各指導教員に連絡して下さい。

学生へのメッセージ

いっしょにがんばりましょう。

今年度の工夫

教科書

使用しません。

参考書・参考資料等

必要なものは何でも使いましょう。

授業における使用言語

日本語が原則ですが、英語でも対応します。

キーワード

開講科目名	卒業研究		
担当教員	櫻井 徹	開講区分	単位数
		後期	10単位
授業のテーマと到達目標			
卒業論文の作成。			
授業の概要と計画			
卒業論文のテーマに基づく。			
成績評価と基準			
卒業論文の完成度、独創性などを総合的に評価する。			
履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）			
指導教員と定期的に相談する機会をもってください。			
オフィスアワー・連絡先			
学生へのメッセージ			
卒業論文は大学生活の総括です。			
今年度の工夫			
教科書			
特になし。			
参考書・参考資料等			
授業における使用言語			
日本語。			
キーワード			

開講科目名	卒業研究		
担当教員	梅屋 潔	開講区分	単位数
		後期	10単位
授業のテーマと到達目標			
卒業論文の作成。			
授業の概要と計画			
卒業論文のテーマに基づく。			
成績評価と基準			
卒業論文の完成度、独創性などを総合的に評価する。			
履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）			
指導教員と定期的に相談する機会をもってください。			
オフィスアワー・連絡先			
学生へのメッセージ			
卒業論文は大学生活の総括です。			
今年度の工夫			
教科書			
特になし。			
参考書・参考資料等			
授業における使用言語			
日本語。			
キーワード			

開講科目名	卒業研究		
担当教員	坂本 千代、指導教員	開講区分	単位数
		後期	10単位

授業のテーマと到達目標

卒業論文の作成。

授業の概要と計画

卒業論文のテーマに基づく。

成績評価と基準

卒業論文の完成度、独創性などを総合的に評価する。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

指導教員と定期的に相談する機会をもってください。

オフィスアワー・連絡先

学生へのメッセージ

卒業論文は大学生活の総括です。

今年度の工夫

教科書

特になし。

参考書・参考資料等

授業における使用言語

日本語。

キーワード

開講科目名	専門演習 B(3)		
担当教員	康 敏、西田 健志	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

この演習は、コンピュータ・ネットワーク等情報機器の操作・利用・設定・管理の基礎として、そのハード的構造およびソフト的構造の理解および実際の情報機器を用いた技術の修得を目標としている。

授業の概要と計画

- 1.コンピュータの構造
- 2.コンピュータを構成する部品
- 3.コンピュータの組み立て
- 4.BIOSの設定
- 5.OSのインストール
- 6.コンピュータの設定・管理
- 7.ネットワークの基本
- 8.種々のアプリケーションソフトのインストール

成績評価と基準

授業への積極的な参加、課題レポートを中心に評価する。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

情報環境論等の情報関連科目を受講していることが望ましい。毎回、予習・復習を入念に行なうこと。

オフィスアワー・連絡先

昼休み。メール(康：kang@people.kobe-u.ac.jp、または、西田：tnishida@people.kobe-u.ac.jp)で事前連絡してください

学生へのメッセージ

この演習を通じて、パソコン等に対するアレルギーを無くし、トラブルを楽しめるようになってください。

今年度の工夫

教科書

使用しない

参考書・参考資料等

授業中に指示する。

授業における使用言語

日本語

キーワード

開講科目名	専門演習 B(3)		
担当教員	安岡 正晴	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

主に2回生を対象とした、この演習では、世界と日本が直面している様々な政治・経済・社会問題について多面的に議論することを目標とします。社会問題を考える際にも突き詰めると「いいか悪いか」「好きか嫌いか」で論じがちな人が多いですが、この演習ではそうした単純な二元論に陥ることなく、むしろ「どうなっているのか?」、「どうしたらいいのか」という視点から実践的で政策志向型思考のトレーニングを積んでいきたいと思っています。講座や思想を問わず、様々な意見を持った皆さんが集まって、議論を交わすゼミにしたいと思っています。

授業の概要と計画

テーマは時事的なものを扱い、受講生の関心に応じて柔軟に変更していきますが、問題群としては例えば以下のようものが考えられます。

1. イスラム過激派と欧米諸国はなぜ対立しているのか?
2. グローバル化と少子高齢化の進展で福祉国家は維持できなくなってきたのか?
3. 環境保護と経済成長は両立できるのか?
4. 東京一極集中を是正し、地方を活性化するために何が必要か?
5. ロシアや中国と欧米諸国はどう向き合うべきか?
6. 安倍政権は近隣諸国とどう向き合うべきか?
7. 女性が働きやすい社会づくりには何が必要か?
8. 安心、安全なまちづくりのために各国は何を行っているのか?
9. 成長産業を生み出すために科学技術政策はどうあるべきか?
10. 感染症対策のために国際社会が取り組むべき課題は何か?
11. TPPなどの貿易自由化と農業改革は両立可能か?
12. 電力エネルギー改革のゆくえ
13. 少子高齢化時代の医療・介護改革
14. グローバル化に対応した教育改革とは何か?
15. 集団的自衛権と日本の安全保障政策の今後

成績評価と基準

演習でのプレゼンテーション・発言 40%
 論点コメント 60%
 を総合して評価します。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

履修希望者は初回の授業(10/5)に必ず出席してください。初回に出席しない場合は履修を認めません。毎週の授業発表の論点に対して、それぞれ400-800字のコメント提出が必要です。それを平常点の60%として計算します。授業での研究発表は平常点の40%として計算します。他講座や今期から初めて私の演習を受講する方も歓迎します。

オフィスアワー・連絡先

水、金の昼休み、他は要予約
 研究室 E409
 E-mail yasuoka@kobe-u.ac.jp

学生へのメッセージ

「何かについて全てを語り、全てについて何かを語れる」力をつけることを目標に頑張りましょう。様々な社会問題に視野を広げて、ニュースに接して、「ああゼミでやったな」と思えるような先見性のある演習にしてゆきたいと考えています。

今年度の工夫

議論のしやすさだけでなく、知識を体系的に身に付けられるように工夫したいと思います。

教科書

特に使用しない。

参考書・参考資料等

堀井秀之『問題解決のための「社会技術」：分野を超えた知の協働』中公新書、2004
 枝廣淳子・小田理一郎『なぜあの人解決策はいつもうまくいくのか?』東洋経済新報社、2007
 大江・梅垣・岡部『総合政策学：問題発見・解決の方法と実践』慶応義塾大学出版会、2006

授業における使用言語

日本語

キーワード

開講科目名	専門演習 B(3)		
担当教員	昆野 伸幸、長 志珠絵	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

近代日本における宗教観についての専門的理解を深めるとともに、卒業論文の執筆に向けて受講生各自の問題意識を明確にすることを目指す。

授業の概要と計画

下記の資料講読と受講生各自の関心に応じた研究報告を並行して進める。資料講読を通じ、書かれていることを正確に読み取る力、またそのうえで各自の関心にもとづいて独自な問題を発見・展開していく力等の養成を目指す。後期は昆野が担当し、日本人の宗教観に関わる諸問題を扱う。

成績評価と基準

平常点7割、期末レポート3割
演習なので、成績は、討論への積極的な参加や報告の準備状況などを総合して評価する。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

初回の講義でレジュメの担当者などを決めるので、やむをえない事情で初回を欠席する場合には、必ずメールで連絡を入れること。
報告者以外も事前にテキストを読んだうえで出席し、授業中の討論に積極的に参加すること。討論にあらわれた重要な論点について各自で調べること。

オフィスアワー・連絡先

随時。事前に連絡すること（nobuyuki@port.kobe-u.ac.jp）。

学生へのメッセージ

今年度の工夫

教科書

日本人にとってイスラームとは何か / 鈴木規夫：筑摩書房，1998，ISBN：
国家神道と日本人 / 島蘭進：岩波書店，2010，ISBN：

参考書・参考資料等

適宜、講義中に紹介する。

授業における使用言語

日本語

キーワード

宗教 神道 イスラーム 仏教

開講科目名	専門演習 B(3)		
担当教員	西谷 拓哉	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

この授業では、アメリカ合衆国の文化全般を扱うが、特に文学、映画、絵画、音楽等の芸術、大衆文化を通してアメリカの特質を理解することを目的とする。資料の収集や分析方法を学ぶとともに、特に英語文献の読解力を高めることも目指す。卒業研究につながるテーマを見つけることも課題の一つである。

授業の概要と計画

基本的には、受講生みずから設定した課題について発表し、それに対する質疑応答によって進めていくが、相談の上で、芸術や大衆文化の側面からアメリカ研究を進めるための共通の文献を読むことも考えている。期末にはゼミ論集をまとめた。

ちなみに前年度は、アメリカの教科書、アメリカにおける市民生活と芸術、ニューヨークにおける棲み分け、パニック映画、音楽とジェンダー、アロハシャツの歴史などの話題を論じた。かくの如く、自由にテーマを設定して自由に論じてもらいたい。

成績評価と基準

出席と発表、クラスへの貢献(50%)、期末レポート(50%)を総合して判断する。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

- ・事前にテーマを発表すること。
- ・レジュメを必ず準備すること。
- ・質疑応答を活発にすること。
- ・授業を受けて、自分で気づかなかった点について十分に復習すること。

オフィスアワー・連絡先

メールアドレス takuyan@kobe-u.ac.jp

研究室E202

学生へのメッセージ

自分で追究したいテーマを持っていないと苦しいことになるでしょう。しかし、それを発見するためのゼミでもあります。（3回生に）ESにおいて、書きにくい、分類しにくいゼミです。その点注意してください。

今年度の工夫

質問、議論を活発にするための事前学習、ゼミ論集の作成

教科書

特になし。

参考書・参考資料等

授業において指示する。

授業における使用言語

日本語

キーワード

アメリカ文化

開講科目名	専門演習 B(3)		
担当教員	安岡 正晴	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

後期月曜4時限の演習では、主に3回生を対象として、個人研究報告と卒論研究の準備としてレポートの作成を指導します。本演習では、G8（アメリカ、イギリス、フランス、ドイツ、イタリア、カナダ、ロシア、日本）諸国を比較政治・社会学的に考察していくことをメインテーマとします。大きく分けて、1. G8諸国と国際政治経済、2. G8諸国における政治・経済・社会問題、3. 比較外交政策、4. 大衆消費文化（テレビ、映画、音楽など）に反映されている政治・経済・社会問題などをカバーします。講座や学年を問わず、意欲のある皆さんの積極的な受講を歓迎します。

授業の概要と計画

前期月曜4時限の演習と同様に、この演習でも基本的に世界や日本が直面している様々な社会問題について、①問題の所在や背景②各国の対応③改善策・提言を発表する、提言型の授業を行います。主な問題群としては、前期と同様に

1. 格差を是正し、調和のとれた社会をどのように実現するか？（福祉、教育、地方分権政策）
2. 階級、性別、地域、学歴、人種・民族・国籍、宗教など社会経済的・文化的背景が異なる人々はどのようにすれば共存できるのか？（ジェンダー政策、エンパワーメント、移民・外国人・少数民族政策、言語政策、文化政策、人権政策）
3. 経済成長や競争力の向上には何が必要か？（産業、科学技術、経済政策）
4. 安心・安全な社会や世界をどう実現するのか？（防災、防犯、予防医学、安全保障・軍縮政策）
5. 持続可能な社会作りに何が必要か？（環境、エネルギー、資源、食糧、農林漁業政策）
6. 生きがいのある国や世界をどう作るか？（文化、スポーツ振興、生涯教育、観光、余暇政策、少子高齢化政策）

などが挙げられます。なお今年度も慶應義塾大学法学部・岡山裕ゼミナール（アメリカ政治外交）との合同ゼミナールを予定しています。今年は神戸大学に慶應義塾大学の皆さんをお迎えして行う予定ですが、その機会に発表したい方も歓迎します。

成績評価と基準

演習でのプレゼンテーション・発言 40%
提出コメント 60%
を総合して評価します。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

毎週、発表の論点に対するコメントを提出する必要があります。この提出コメントが平常点の60%で、授業中のプレゼンテーションや発言が残りの40%で計算します。
履修を希望する場合は、初回の授業（10/5）に必ず出席してください。初回の授業に出席していない学生の履修は認めません。今年度も慶應義塾大学法学部・岡山裕ゼミナール（アメリカ政治外交）との合同ゼミナールを予定しています（今年は神戸大学で開催します）が、積極的な皆さんの参加を期待しています。

オフィスアワー・連絡先

オフィスアワー 水、金の昼休み、それ以外は要予約
研究室 E409
E-mail yasuoka@kobe-u.ac.jp

学生へのメッセージ

3年生後期の演習は、メンバーでまとまって勉強する最後の機会になります。卒業論文に向けて大学での勉強の集大成となるように積極的に取り組んで、思い出に残るようなゼミにしたいと思います。今期から初めて私のゼミに参加する人も歓迎します。

今年度の工夫

就職活動のスケジュールが昨年から変更され、就職活動が遅くなったので、3年生後期のうちに卒論指導の場として専門演習でも具体的に指導してゆきたいと思います。

教科書

特に使用しない。

参考書・参考資料等

梶田孝道編『新・国際社会学』名古屋大学出版会、2006
スティーブン・R・リード『比較政治学』ミネルヴァ書房、2006
田口富久治・中谷義和編『比較政治制度論（第3版）』法律文化社、2006
桜田大造・伊藤剛編『比較外交政策?イラク戦争への対応外交』明石書店、2004

授業における使用言語

日本語

キーワード

開講科目名	専門演習 B(3)		
担当教員	遠田 勝	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

明治以降の日本の短編小説のいくつかを原典と英訳で読みます。本来、原典を正確に移し換えていることが、翻訳の存在する理由なのですが、日本文学の翻訳作品についていえば、こんなに違ってしまっているの？と思えるくらい、異なる読書体験、異なる文学世界が生まれることがあります。それはなぜでしょう？その理由、原因を個々の作品に沿って議論し、考えていきます。テキスト批判とテキストの多文化的理解の基礎を身につけることを目標とします。

授業の概要と計画

学期中3?5篇程度の短編を読みますが、どの作家、どの作品を論じていても、議論の中心は、1 言葉（日本語と英語）の非対応、2 文化(日本文化と欧米文化)の非対応、3 言語と文化の力関係（オリエンタリズムなど）の3点に集約されると思います。

成績評価と基準

授業中の発言内容や授業への貢献度3割、期末レポート7割。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

予習・復習をしっかりと受講すること。

オフィスアワー・連絡先

水曜昼休み、またはメールで随時。

学生へのメッセージ

毎回配布される日本語と英文のテキストを読み授業に臨むこと。授業後は、資料と議論の結果をレポート用にまとめておくこと。

今年度の工夫

教科書

使用しない

参考書・参考資料等

プリント配布。

授業における使用言語

Japanese

キーワード

開講科目名	専門演習 B(3)		
担当教員	西田 健志	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

情報技術は人々の使いやすいようにデザインされることで初めて社会に浸透します。情報技術をデザインすることは、人と人とのコミュニケーションのあり方といった未来の社会環境をデザインすることでもあります。この演習では、情報分野の最先端の研究成果に数多く触れ、それぞれの研究者がどのような未来社会を志しているのかを読み解くことを通じて、現代社会の常識に縛られることなく目標とすべき未来社会について議論できるようになることを目指します。

授業の概要と計画

この演習は以下の3部構成となります。

1. 西田が志す未来社会（2、3週）
コミュニケーション支援と消極性に関する西田の研究について議論することで、議論の感覚をつかみます。西田ゼミでの過去の卒業研究も紹介します。

2. 最先端の研究紹介（4週程度）
HCI: 情報技術を使いやすくデザインする分野
CSCW: 情報技術でコミュニケーションや協同作業を支援する分野
の重要研究を講義形式で紹介し、全員で議論します。

3. 超最先端の研究輪講（8週程度）
2分野の論文を数多く網羅的に輪講形式で読みます。分野の全体像をつかむため、各研究のエッセンスを短時間でつかみ、それぞれ数枚のスライドにまとめて数をこなす訓練を積みみます。

各回でとくに興味関心が強いテーマが見つかった場合には、関連した卒論テーマを考える議論も行います。

成績評価と基準

- ・各回の議論への参加度
- ・輪講での発表および作成したスライド資料を総合して評価します。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

この演習では研究論文のエッセンスや志を扱いますので、コンピューターや情報技術に関する知識は特別必要ではありません。他コース志望の学生も歓迎します。情報関連の卒業研究を行う場合にはプログラミング等の知識が必要となる場合が多いので、プログラミング基礎等の授業を履修することをおすすめします。準備学習としては、輪講の自分の番までに論文を読んでスライドにまとめておく必要があります。

オフィスアワー・連絡先

いつでもどうぞ。なるべく事前にメール等で連絡してください。
メール：tnishida@people.kobe-u.ac.jp
研究室：B棟4階408

学生へのメッセージ

自分なりの目標・理想とする未来社会を考えることは卒論テーマに直結します。技術がメインではない国際文化学部にあってもなお、よくできたおもしろい卒業研究は未来を志向しているものです。未来について考えるためには、未来について誰よりも必死に考えている研究者たちの足跡を追いかけるのが一番！

みなさんはどちらかというと現代社会に興味がある人が多いでしょうが、急速に変化する社会では現代を調べているつもりでもあっという間に過去になってしまいますし、意外な発見なんてそうそうできません。ちょっと未来の社会について考える、むしろ未来は自分の手で作ってやるくらいのつもりでいてやっとな、少し今のことがわかるくらいではないでしょうか。

今年度の工夫

教科書

教科書は使用しません。論文は無料でダウンロードできます。

参考書・参考資料等

授業における使用言語

日本語

キーワード

Human-Computer Interaction (HCI)
Computer-supported Cooperative Work (CSCW)

開講科目名	専門演習 B(3)		
担当教員	西澤 晃彦	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

現代社会論をやりたい。私たちの行為や意識・無意識を拘束する現代社会という「檻」について、それを相対化し論じる、そういう視点を色々と言い合いながら身につける演習にしたい。もしあなたが＜現在＞において＜現代的な＞現象を対象化して何かを見出そうとしているのならば、何かしら「ためになる」ものはあると思う。

授業の概要と計画

こちらで指定した文献の輪読、討論。このゼミは、毎週、テキストのある範囲の内容について、報告者（2名）、司会者、コメンテーターを決めて討論会形式で進める。討論会なので全員参加（私は傍観者）。文献はあくまで議論を触発させるためのものに過ぎない。報告者には、テキストから出発して(テキストを批判的に読んで) 大胆に現代社会論を展開させることが期待される。それゆえ、テキスト以外の各種資料(新聞記事や白書類が手頃だろう)も参照して報告していただきたい。

成績評価と基準

報告（発表、レジュメ、質問への応答。なおパワーポイントの使用を推奨する）60%、ディスカッションへの参加の程度40%。そこから欠席分を減点する。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

文献は全員が事前に必ず読んでおくこと。

オフィスアワー・連絡先

学生へのメッセージ

今年度の工夫

教科書

以下のものを、初回までに準備しておいていただきたい。
東浩紀『動物化するポストモダン』講談社現代新書（2001）.
北田暁大『増補 広告都市・東京』ちくま学芸文庫（2011）.

参考書・参考資料等

授業における使用言語

日本語

キーワード

--

開講科目名	専門演習 B(3)		
担当教員	村尾 元	開講区分	単位数
		後期	2単位
授業のテーマと到達目標			
2年次後期から3年次後期にかけて開講される、一連の専門演習B(1)から(3)では、コミュニケーション、社会、経済における現実の現象を分析するための手法を学びます。			
3年次後期の専門演習B(3)では、コミュニケーション、社会、経済における現象の分析に関する研究分野について、論文などを紹介しながら、これらに関連した卒業研究のテーマ設定を試みます。			
授業の概要と計画			
コミュニケーション、社会、経済における現象の分析に関する文献を、各自で調査し、報告・ディスカッションを行います。また、それらを整理し、各自の卒業研究のテーマを模索します。また同時に、卒業研究を進めるための手法について学びます。			
卒業研究を進める手法としては、コンピュータを利用するものも含まれる場合がある。そのような場合には、コンピュータに関する理解が必要な場合もあります。			
成績評価と基準			
以下の点から評価を行います。 - 出席および学習態度、発表や議論への参加によるゼミへの貢献(60%) - レポートや課題などの提出物(40%)			
履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）			
3年次前期に開講される「専門演習B(2)」を受講していることが望ましいです。			
オフィスアワー・連絡先			
いつでもどうぞ。ただし、あらかじめ電子メールで連絡をして下さい。 電子メール：hajime.murao@mulabo.org 研究室：B棟4階B409室			
学生へのメッセージ			
今年度の工夫			
教科書			
特に利用する予定はありません。			
参考書・参考資料等			
必要に応じて随時指定します。			
授業における使用言語			
日本語			
キーワード			
社会システム科学、数理社会学、ゲーム理論、心理統計学、データマイニング			

開講科目名	専門演習 B(3)		
担当教員	大月 一弘	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

<作成中>

授業の概要と計画

<作成中>

成績評価と基準

<作成中>

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

<作成中>

オフィスアワー・連絡先

<作成中>

学生へのメッセージ

<作成中>

今年度の工夫

<作成中>

教科書

<作成中>

参考書・参考資料等

<作成中>

授業における使用言語

<作成中>

キーワード

<作成中>

開講科目名	専門演習 B(3)		
担当教員	石田 圭子	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

「写真」をテーマとします。現代の生活には、広告や報道からSNSにアップされるプライベートな写真やいわゆる「自撮り」まで、至る所に写真があふれています。私たちが写真を撮ったり見たりするとき、そこにどんな欲望が秘められているのだろうか？私たちはどんな写真に魅力を感じ、惹きつけられるのだろうか？写真はほかのメディアとどのように異なり、どんな可能性や限界があるのか？そのようなことをフランスの思想家ロラン・バルトやアメリカの批評家スーザン・ソントグなどの有名な写真論を手がかりにしながら考えていきたいと思います。

授業の概要と計画

講義ではまず、いくつかの写真論を丁寧に読んでいきます。毎回決められた担当者がレジュメを作り内容について説明します。さらに、私が解説を加えたうえで参加者全員で議論します。また、各自が選んだ具体的な写真イメージを取り上げて（芸術的作品・広告・報道・プライベート写真いずれも可）発表する回を設けます。発表では、授業で読んだ理論を参考にして、それぞれの「作品」が「なにを」「どのように」表現し、それがどのような効果を挙げているのか（あるいは失敗しているか）について説明することを求めます。また、最終的にそれに基づいたレポートを書いて提出してもらいます。

成績評価と基準

平常点（授業への積極的な参加等）と発表およびレポートによって評価します。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

テキスト講読の回では参加者全員、必ず決められた範囲を読んでくること。

オフィスアワー・連絡先

随時。keikoishida27@gmail.comまで連絡してください。

学生へのメッセージ

それぞれのテキストはけっして易しいものではありませんが、理論として面白いだけでなく、写真への愛にあふれた、それ自体として魅力的なものでもあります。テキストとじっくりつきあってほしいと思います。

今年度の工夫

視覚イメージを活用する。

教科書

教科書および参考書については授業時にあらためて指示します。

参考書・参考資料等

授業における使用言語

日本語

キーワード

写真、イメージ

開講科目名	専門演習 B(3)		
担当教員	青島 陽子	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

東欧・ロシアを中心とするヨーロッパ周辺地域の研究を通じて、ヨーロッパ全体を概観する視点、日本を相対化する視点を養うことを目的とする。

授業の概要と計画

EU拡大による周辺地域の包摂と排除の問題、また、EU自身のアイデンティティがどう変容したのかという問題、EUにおける移民問題を扱う予定である。

全体で基本となるテキスト（英語文献を用いる）を解説したのち、各自、それぞれテーマを選び、文献を集めて分析をし、レジュメを作成して、授業で報告をする。授業では報告をもとに討論を行う。最終的には報告をもとにレポートを提出する。

授業での各自の報告や議論では、ヨーロッパ周辺地域を通してヨーロッパ全体の理解を深めるとともに、日本やアジアとの比較も通じて、グローバルな視野を養うことをめざす。

成績評価と基準

授業での発言・積極的な参加（20％）、報告内容（40％）、レポート（40％）

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

授業中の積極的な発言が求められます。毎回、疑問点や不明点を調べて授業にのぞんでください。ヨーロッパやアメリカの歴史や文化に関係した授業を履修することを勧めます。

オフィスアワー・連絡先

研究室E219
適宜メールなどで事前に連絡すること。
yaoshima(at)dolphin.kobe-u.ac.jp

学生へのメッセージ

現代のEUの諸問題に関心のある方、とくに東欧・ロシアを中心としたヨーロッパの周辺部に興味のある方を歓迎します。

今年度の工夫

教科書

特になし

参考書・参考資料等

授業中に適宜指示する。

授業における使用言語

日本語

キーワード

ロシア 東欧 ヨーロッパ 歴史 文化 政治

開講科目名	専門演習 B(3)		
担当教員	小笠原 博毅	開講区分	単位数
		後期	2単位
授業のテーマと到達目標			
人種と文化と資本の関係について多角的に考察します。 具体的には； 人種は差別の対象なのか投資＝金儲けのネタなのか。 文化は人種差別に抵抗し同時に人種差別しながら資本とどのような関係にあるか。 資本は差別を利用しそれに基づいて文化を食い物にしているのか。 資本と文化の関係を理解し考えるために人種はどこまで有効／無効な人間のカテゴリーなのか。 グローバル資本主義における人種差別を考えるために文化はどこまで有効／無効な視点なのか。 哲学、思想をはじめとして、スポーツ、アート、映画、文学、都市など現代文化における＜I＞人種＜／I＞のあり方、動き方、力について思考（試行）錯誤してみます。 その中で3年生は卒業論文で取り組むテーマを発見し、それを追及するための理論力と感性を養ってください 2年生は3年生になってからの専門教育を最大限活用するための「知的活動力」を培うことが目標。			
授業の概要と計画			
テーマに沿った理論書を徹底輪読します 毎回最低1人の報告・発表を中心に行います			
成績評価と基準			
参加、思考、表現、理解。			
履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）			
受講条件（とても重要なので心して読むこと） 1. 担当教員の研究テーマと研究活動を事前に知っていること 2. 英語を読み、英語表現に接することを厭わない 3. 自分で課題を見つけることができる 4. 積極的にディスカッションやミーティングをオーガナイズできる 5. 答えをすぐに求めない 6. Sense of humourがある、もしくは解する 7. なんでもかんでもすぐに真に受けない 8. 前期科目「メディア文化論」を受講済みであることが望ましい 9. 必ずテキストを読んでくること 10. 復習をしっかりとすること			
オフィスアワー・連絡先			
木曜日 昼休み hirokio@kobe-u.ac.jp 内線7464			
学生へのメッセージ			
できるとかできないではなく、やるかやらないかです			
今年度の工夫			
教科書			
テキストは10月の第1回で紹介します			
参考書・参考資料等			
映像・音響資料その他を随時紹介していきます			
授業における使用言語			
英語もしくは日本語			
キーワード			
Race, Culture, Capital			

開講科目名	専門演習 B(3)		
担当教員	阪野 智一	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

本演習は、現代民主政治における「大統領制化」(presidentialization)をテーマとしている。現代民主主義国において、執政府、政党、選挙過程において、党首や首相といったリーダーへの権力集中と議会や内閣からのリーダーの自律性増大といった現象が多く見られる。選挙過程では、こうした現象は、政治的リーダーの人格への注目が高まる、政治の「人格化」(personalization)ないし政治の「メディア化」といった現象とも連動している。また、政党、執政府では、党首や首相は、政党や議会、内閣を迂回して、直接国民に訴え、信任を得ようとする。こうした「大統領制化」の実態を各国の比較分析を通じて明らかにし、それが提示している民主政治への問題を考察したい。

授業の概要と計画

共通の文献を素材にして、章毎に担当者による報告・コメントを基に、参加者によるディスカッションを通じて理解を深めていく。初回に分担とスケジュールを決めるので、参加希望者は是非出席してください。

第1回：ガイダンス：問題の所在

第2回：民主主義社会における政治の大統領制化

第3回：イギリスにおける中核的執政の変化と大統領制化

第4回：ドイツにおける政党国家と大統領制化

第5回：イタリアにおける大統領制化

第6回：スペインにおける大統領制化

第7回：デンマーク－コンセンサス・デモクラシーにおける大統領制化

第8回：スウェーデンにおける大統領制化

第9回：フランス－半大統領制における双頭の大統領制化

第10回：半主権的なアメリカの大統領

第12回：政治の大統領制化をめぐる論争

成績評価と基準

報告 50% (報告の論理性、独創性、批判力など)

授業での活動 40% (ディスカッションへの参加度、質問力など)

出席点 10%

履修上の注意 (準備学習・復習、関連科目情報等を含む)

準備学習として報告の担当者は、自分が担当する章についてレジュメを作成すること、また他の履修者は疑問点を整理しておくことが求められる。復習として、各回の冒頭で前回の主要な論点について理解を確認する。

オフィスアワー・連絡先

毎週金曜日の昼休み。研究室 (E414)。
それ以外は事前にメールで連絡して下さい。
E-mail: sakano@kobe-u.ac.jp

学生へのメッセージ

実態を知ることと同時に、その意味や理論的視点も重視しています。理論は、多面的な様相を持つ事象を理解する上で、ガイドラインの役割を果たすからです。

今年度の工夫

教科書

民主政治はなぜ「大統領制化」するのか / T・ボグントケ、P・ウェブ：ミネルヴァ書房, 2014, ISBN:

参考書・参考資料等

授業における使用言語

日本語

キーワード

大統領制化（presidentilaization）、人格化（personalization）、政治のメディア化、議院内閣制、大統領制、執政府

開講科目名	専門演習 B(3)		
担当教員	齋藤 剛	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

本年度の演習では、人類学者マルク・オジェによる『同時代世界の人類学』をテキストとして取り上げ、グローバル化の広がりが強調される今日の世界的な状況を理解するための人類学的な視座と理論的枠組みを学ぶことを目的とする。

授業の概要と計画

事前に発表担当者を決め、毎回、テキストを一定量ずつ読み進める。発表者は担当箇所を要約したレジュメを日本語で用意し、授業に際して配布する。発表者による要約および論題提起を受けて、受講生全員で議論をしてゆく。

成績評価と基準

出席点30パーセント、発表30パーセント、期末レポート40パーセントとする。

- ＊出席は、議論への参加度を含めたものであるため、単に演習室にいただけでは出席とはみなされない。
- ・欠席は、1回ごとにマイナス4パーセント。
- ・レポート未提出の場合には、単位を与えないので注意すること。
- ・レポート提出の遅延は大幅な減点の対象となりうる。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

- ・第1回目の授業の際に発表者の分担を決定するので、受講希望者は必ず出席すること。
- ・発表担当者のみならず、受講生は全員、あらかじめ発表対象となっている箇所を読み、内容をきちんと理解したうえで、演習に参加することが義務づけられる。

オフィスアワー・連絡先

演習初回に際して伝える。

学生へのメッセージ

受講生の皆さんの積極的な議論を期待しています。

今年度の工夫

教科書

マルク・オジェ『同時代世界の人類学』（森山工訳、藤原書店、2002年）

参考書・参考資料等

授業における使用言語

日本語

キーワード

文化人類学

開講科目名	専門演習 B(3)		
担当教員	山本 真也、松本 絵理子	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

認知心理学的な技法を用いた実証的研究を行うために必要な知識・技能について習得する機会を提供します。文献の講読、機器操作などの実践を通じて、心理学研究に必要なスキルを身につけることを目的とします。これらの作業を通じて、卒業研究にむけての道筋をつけていきましょう。

授業の概要と計画

講義概要に対するオリエンテーションの後、1つのテーマについて下記の3段階ですすめていく予定です。

1. 背景知識、専門用語の獲得：文献購読、発表、内容解説
2. 実験、検査、調査の実践実習：検査の手順、実践、データの収集解析
3. データの吟味、考察

本演習で取り上げるテーマは、1. 感情とストレス、2. 視覚性注意の2つを予定しています。

1.感情とストレスでは、心理学検査を行って、自らのストレスの程度やコーピングスタイルについて考察します。2.の視覚性注意では、PCを用いた実験を通じて、反応時間を計測、統計解析し、認知処理特性について考察します。

成績評価と基準

成績評価方法と基準

- ・平常点により評価します。
- ・平常点とは、出席、演習内での課題の遂行とレポート、レジュメ作成、発表状況、ディスカッションへの参加、実験検査実習への参加、実験レポート提出等の全てを含みます。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

- ・「非言語コミュニケーション論」、「対人コミュニケーション論」の履修を前提とします。また卒業研究で認知心理学に関する研究を行いたい、心理学実験のスキルを身に着けたいという意欲ある参加を歓迎します。
- ・本演習では必ず全員が課題について調べ、レジュメを作成して発表を行うことを前提とします。また他人の発表に対して必ずコメントができるようにメモをとり、積極的にディスカッションに参加してください。

オフィスアワー・連絡先

オフィスアワーは、必ず事前にメールにてアポイントを取ってください。

学生へのメッセージ

- ・実際の研究では、どのような手法でデータを収集・分析しているのか、どのような問題点があるのかを具体的に理解し、自らの興味を実証的研究に結びつけるにはどのようにすればよいかのイメージをつかめるようにすることを目的とします。
- ・また、演習では遅刻、欠席に対する個別フォローはできません。検査や実験の開始後の入室は他の受講者の迷惑となりますので、遅刻しないように十分気を付けて下さい。実験、ディスカッションへの積極的な参加を望みます。
- ・卒業研究に向けて、エクセル、Rなどのソフトウェアを使って、データを解析したり可視化する作業を行います。統計にはフリーソフトを用いますので、一度覚えると、いつでもどこでも使えるスキルになります。ぜひ挑戦して下さい。

今年度の工夫

少人数のグループワークと個人作業を組み合わせ、理解の促進を図ります。統計解析はR、認知実験作成はPsychopy、といずれも定評のあるフリーソフトを使って行います。これらを使える基礎的なスキルを養います。

教科書

教科書は指定しません。授業内で参考資料を配布します。

参考書・参考資料等

授業内で指示します。

Cognitive Psychology: A Student's Handbook / Michael W. Eysenck, Mark T. Keane : Psychology Press ,2010 ,ISBN:9781841695402

Atkinson & Hilgard's Introduction to Psychology 16th ed. / Susan Nolen-Hoeksema : Cengage Learning ,2014 ,ISBN:9781408089026

Rによるやさしい統計学 / 山田剛史、杉澤武俊、村井潤一郎：オーム社 ,2009 ,ISBN:9784274067105

心理学研究法入門 / アン・サール：新曜社 ,2005 ,ISBN:9784788509436

授業における使用言語

日本語
(英語文献を使用することがあります)

キーワード

認知心理学、実験法、ストレス、注意、統計分析

開講科目名	専門演習 B(3)		
担当教員	青山 薫	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

「現代日本のジェンダーとセクシュアリティ」をテーマに、この社会にあるさまざまな性関係を、法制度、社会規範、表象などから多面的に検討します。新しい市民権としての「親密権」についても紹介しつつ、「性的自由」とは何か、「性的権利」あるいは「親密権」とは何か、そもそも「性」とは何かを考えるヒントをつかむことが目標です。

授業の概要と計画

受講生の希望も入れてテキストを選び、討論によってこれを解説します。「テキスト」は、文字だけでなく映像や現在進行形の運動／出来事などをふくめる場合もあります。

一人の報告者がレジュメを用意してくるのではなく、各回交代で学生が務める司会者を中心に、すべての時間を議論に使います。

成績評価と基準

討論司会と参加：50% 期末レポート：50%

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

Active Readingという、全員がその週の課題テキストから議論すべき点を考えてくる方式です。基本的に欠席はしないでください。

「現代日本の…」と言った場合、日本の国境の中、日本語圏内で理解されている現象だけをあつかうことはほとんど不可能です。文化的な比較や、歴史的な比較もあり得ます。とくに、この分野の情報量が多い英語の読解は必須と考えてください。

オフィスアワー・連絡先

事前にEmailで、差出人を明記して、連絡してください。kaoru@jca.apc.org

学生へのメッセージ

沈黙と参加は両立しませんのでご注意を。第1回目は、全体の構想とテキスト選定のすり合わせをします。テーマの範囲内で、ある程度具体的な「考えたいこと」をもって来てください。「ジェンダー社会論」の受講経験があること、または、並行して受講することが望ましいです。

今年度の工夫

理論的な学習に力を入れます。

教科書

特定の一冊はありませんが、下記参考資料には目を通すことが前提です。

参考書・参考資料等

下記のほか、Plummer, Ken, 2003, Intimate Citizenship: Private Decision and Public Debate, University of Washington Press
「セックスワーカー」とは誰か / 青山薫：大月書店, 2007, ISBN:9784272350261
自由への問い 8 生 / 加藤秀一編：岩波書店, 2010, ISBN:9784000283588
欲望・暴力のレジーム 揺らぐ表象/格闘する理論 / 竹村和子編：作品社, 2008, ISBN:9784861821790

授業における使用言語

日本語。期末のレポートは英語可。

キーワード

開講科目名	専門演習 B(3)		
担当教員	岩本 和子	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

芸術活動とそれを支える制度の形成過程や諸現象、社会とのかかわりについて、また文化的多様性について、深く理解することをめざします。芸術に関するテキストの解説、プレゼンテーション、ディスカッションの技術を身につけます。

授業の概要と計画

今回は、言語芸術と視覚芸術（とくに写真）の関係について具体的な作品に触れながら一緒に考えたいと思います。

前半は、フランス語圏（フランスやベルギーなど）が主な対象となりますが、小説や自伝、記憶の記述などにおいて写真やイメージがどのようにに関わり影響を与えあっているか、写真とは、イメージとは何かといった問題についてテキスト読解により一緒に考察します。テキストは『写真と文学：何がイメージの価値を決めるのか』（教科書欄参照）という複数の論者による論文集です。内容は：Ⅰ文学の境界－写真小説小史Ⅱシュルレアリスムによる写真の変容Ⅲ写真論からイメージ論へ

後半は各自で関心のある国や地域の言語・視覚芸術に係る作品を自由に選び、具体的な作品紹介や分析の実践を試みます。

いずれも授業ごとに分担を決めてプレゼンテーションをしてもらい、全員で質疑応答、ディスカッションを行います。関連作品やテキストを事前に用意して全員が予習（鑑賞）して授業に参加できるようにします。

また学期末には発表に基づいたレポートを作成してもらうので、それに向けてのアカデミック・ライティング（論文・レポートの書き方）を並行して学んでいきます。適宜、美術館見学や映画鑑賞も行い、全員で作品について話す機会を持ちたいと思います。

成績評価と基準

授業への参加・議論への貢献：50％
レポート評価：50％

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

資料や文献を読んで準備してくること。ディスカッションに積極的に参加することが求められます。発表者だけでなく各自でも各回のテーマについて予習をし、質問やコメントができるようにして下さい。

オフィスアワー・連絡先

随時（メールにて事前連絡）iwamotok@kobe-u.ac.jp

学生へのメッセージ

多様な地域や時代の事例や実際の芸術作品にたくさん触れ、そこから感じたり考えたりしてほしいと思います。またマイノリティ文化にも目を向け、多角的な視野を持つように心がけて下さい。

今年度の工夫

教科書

塚本昌則編『写真と文学：何がイメージの価値を決めるのか』平凡社、2013年（その他のテキストとも、コピーを配布する）

参考書・参考資料等

適宜授業中に指示する

授業における使用言語

日本語

キーワード

言語芸術、写真、イメージ、フランス語圏、文化的多様性、芸術と社会

開講科目名	専門演習 B(3)		
担当教員	岡田 浩樹	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

この演習では、質的社会調査の手法として文化人類学のfieldworkと民族誌の理論と実践を学ぶ加えて,Photo Ethnographyの手法による、fieldworkにおける民族誌的データの収集、加工、編集のスキルと、民族誌の構成について受講者自らが民族誌を作り上げ、手法を学ぶ

授業の概要と計画

本講義は、映像データ (Photography, Video)を用いたfieldworkの基本的知識の習得、さらに民族誌を作成する実験的演習である。受講者は各自、短期のfieldworkを行い、そこで得たデータを基にして、Photo Ethnographyを作成する。この過程を通して、民族誌データの収集、分類、加工、編集などのskillを学ぶ。作成したPhoto Ethnographyはweb上で公開される。

成績評価と基準

学期末は、受講生の研究テーマに即したPhoto Ethnographyを作成し、提出
講義への参加：40%（発表と発表についてのコメント提出による評価）
レポート評価（Photo Ethnography)60%

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

受講者は、初回講義に必ず出席すること。Photo Rhnographyを作成するためにステップごとに指定した予習および課題を行って出席すること。
最終的に、課題はweb上で公開されるので、発表後に指導を受けながら講義内容の復習を兼ねた修正を行うこと。

オフィスアワー・連絡先

水曜日 昼休み
事前のメール連絡必要
基本的に掲示板で連絡を行う

学生へのメッセージ

- ・課題が出されるので、必ず準備して出席すること。課題提出がない場合、出席とは認められない。
- ・やむを得ず欠席する場合は、当日朝までに掲示板で連絡すること。

今年度の工夫

他大学の教員と連携し、同様の演習を行うことで、学生が自分の到達度、レベルを把握できるようにした。
また、専門家を招聘し、課題作成のサポートを行う。

教科書

参考書・参考資料等

授業における使用言語

日本語（必要に応じて、英語）

キーワード

Photo Etnography fieldwork

開講科目名	専門演習 B(3)		
担当教員	山澤 孝至	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

古代ギリシア・ローマ人の世界観を考える。

授業の概要と計画

古代ギリシア・ローマ人の世界観を窺うことのできる原典資料の英訳、または英語による研究文献を講読する。内容の正確な把握に努め、かつ、現代の事例とどうオーバーラップさせ、そこから何を学び取ればよいかを、具体的に考える。

成績評価と基準

授業への積極的参加（50%）、並びに、期末のレポート（50%）による。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

文献を事前に十分読みこなし上で授業に臨むこと。また、毎回の授業内容を次週までに自分なりにまとめておくこと。

オフィスアワー・連絡先

月曜・昼休み（乞事前連絡）
yamasawa@kobe-u.ac.jp

学生へのメッセージ

今年度の工夫

教科書

プリントを配布する予定である。

参考書・参考資料等

授業中に指示する。

授業における使用言語

日本語。

キーワード

開講科目名	専門演習 B(3)		
担当教員	井上 弘貴	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

このゼミ（専門演習 B）では、地域再生、都市景観、まちづくり、NPO、市民と行政の協働といった都市や地域にかかわるテーマをとりあつかい、グローバル化のうねりがローカルな場所にもたらすさまざまな問題を受講してくれたみなさんと考えます。今年度後期は、観光（ツーリズム）をテーマとします。エコツーリズムやカルチュラル・ツーリズムなど、近年ではいろいろな形容詞のついたツーリズムの形態が出現しています。そうしたさまざまなツーリズムの今日の形態を欧米ならびに日本の事例に即して考えながら、観光という文化実践について考えたいと思います。

授業の概要と計画

まず参加者の共通理解を深めるために、ツーリズムに関連したテキストを全員で輪読のうえでディスカッションをする回を最初に複数回設けます。その共通理解を踏まえたうえで、今期のテーマに関係する個人報告をそれぞれの参加者にしてもらいます。

成績評価と基準

平常点で評価をおこないます。平常点は毎回の出席状況とテキスト輪読時の貢献状況、個人報告とそのあとのフィードバックを中心とした演習への貢献によって総合的に算定します。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

出席を重視します。なお、この演習の履修を考えているひとは、初回のゼミにできるだけ参加してください。

オフィスアワー・連絡先

随時応相談
hiro_inouye@port.kobe-u.ac.jp

学生へのメッセージ

たとえば今日の日本では、インバウンド観光が成長産業としてもはやされつつあります。ですが、多様な文化をもった観光客を受け入れるということは、文化間の軋轢の調停や文化的差異の受容に私たちは本当に真剣に取り組む用意があるのか、ということを意味しており、これは単なる産業の問題ではありません。国際文化学部 of ゼミとして、観光の未来がもつ可能性と課題について考えていきましょう。

今年度の工夫

昨年度からメーリングリストを活用し、演習のなかで議論しきれなかったトピックや演習での議論のまとめと反省を各回の報告者には事後的にML上でレポートしてもらっています。昨年度の試行を踏まえ、今年度もこれを継続します。

教科書

今期のテキストは基本的にコピー配布を予定しています。詳細は初回のゼミのなかで説明する予定です。

参考書・参考資料等

詳しくはゼミのなかで紹介します。

授業における使用言語

日本語

キーワード

ツーリズム まち歩き インバウンド観光 LCC FIT客 地域ブランド MICE

開講科目名	専門演習 B(3)		
担当教員	米本 弘一	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

『シンデレラ』や『白雪姫』のような童話の形式と意味、それが子供の成長過程で果たす役割について、文化人類学や心理学などの観点から論じたテキスト（英文）を読む。子供向けの「おとぎ話」と言われているジャンルを大人の視点で読み直すことによって、こういった物語が持つ意義と影響力について考察し、理解を深めることを目標とする。

授業の概要と計画

授業では、毎回担当者に発表してもらいながらテキストを読み、問題点について議論する。

成績評価と基準

授業中の発表、議論への積極的参加度などの平常点40%、期末レポート60%。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

担当者以外の受講者もあらかじめ指定された部分を読んで予習をしておくこと。また、授業のあと重要な点をまとめ、復習をすること。

オフィスアワー・連絡先

金曜3限
B413研究室

学生へのメッセージ

今年度の工夫

教科書

プリントを配布する。

参考書・参考資料等

授業中に適宜紹介する。

授業における使用言語

日本語

キーワード

童話 昔話 おとぎ話

開講科目名	専門演習 B(3)		
担当教員	小澤 卓也	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

ラテンアメリカ研究や食文化研究をメインテーマとします。受講生が自ら選んだテーマについて自主的に研究・調査し、研究報告やレポートというかたちで学問的見解を説得的に示せるようになることを到達目標とします。

授業の概要と計画

各受講生が自ら選んだテーマについて研究・調査を進め、レジュメやパワーポイントを使用した個人口頭発表（最低2回）をしてもらいます。参加者に司会やコメンテーターをやってもらうこともあります。必要に応じて、クラス全体にとって有益と思われるラテンアメリカ関連文献の読み合わせや映像資料の分析・検討も行うこともあります。

成績評価と基準

3回以上無断欠席した場合、単位を認定しません（なお、遅刻は3回で1回分の欠席とみなす）。高い出席率を前提条件とした上で、授業中の積極性やコメントの学術性（20%）、口頭発表（30%）、期末レポート（50%。レポートは4000字以上）によって総合的に判断します。受講生には最低2回の口頭発表が義務づけられます。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

本演習はラテンアメリカ関連研究、および食文化研究に強い関心をもつ学生のために開講されていますのでご注意ください。なお、ヨーロッパやアメリカに比べて、ラテンアメリカ関連の日本語文献は多くありません。そのため文献や資料探しには受講生自身の努力も必要とされます（ただし、そのぶん研究が進んだときの喜びや達成感も大きい）。受講に先立って、手がかりとなる基礎文献を自らリストアップしておくことが求められます。食文化研究の場合、準備学習として新書でも良いので関連図書にあたり、テーマに関してあらかじめ検討しておいてください。復習や問題の再検討に関するアドバイスについては、学生の研究状況を見ながら授業中におこなうこととします。

オフィスアワー・連絡先

オフィスアワーは水曜日4限目（メールによるアポが必要）。メールアドレスは ozataku(AT)harbor.kobe-u.ac.jp です。

学生へのメッセージ

「成績の評価と基準」と「履修上の注意」をよく読み、納得したうえで履修登録をしてください。まず第1回目の授業に参加し、本演習の方向性について再確認したうえで履修登録してください。

今年度の工夫

民族文化や食文化の映像資料を多く盛り込んでいきたいと思います。

教科書

特に指定しません。必要な資料はプリントにして配布します。

参考書・参考資料等

必要に応じて授業中に紹介します。

授業における使用言語

日本語

キーワード

南北アメリカ関係 ラテンアメリカ 中南米 食文化 フードシステム

開講科目名	専門演習 B(3)		
担当教員	窪田 幸子	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

この演習では、文化人類学の多様なテーマをとりあげ、文献資料を購読、分担を決めた上で、担当者が発表し、その内容について議論を行なう。議論を提示し、意見を交わし、考えることの面白さを理解することをめざす。

授業の概要と計画

グローバル化と観光というテーマに関わる論文を購読することを考えている。受講者それぞれの興味に基づき担当論文を決定し、毎回、基礎論文を全員で共有する。担当者は自分なりに文献調査を行い、発表を組み立て、論点を提示し、それをめぐって議論をおこなう。最終的に、自分の調査、議論を踏まえて、期末レポートを作成する。

- 1 はじめに一少数者をめぐる政策とは
- 2 同化主義と多文化主義
- 3 日本における多文化主義
- 4 日本における先住民問題
- 5? 1 4 各国における多文化主義
- 15 総合討論

成績評価と基準

出席は必須。
発表内容、発表態度、議論への参加、最終レポートなどを総合的に判断して評価する。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

文化人類学関係の講義は少なくとも一つ程度、履修済みであることが望ましい。指定する論文を必ず読んで、内容を理解し、授業に臨み、積極的に討議に参加すること。授業後は、疑問点について独自に学習し、次回の授業に反映することが望ましい。

オフィスアワー・連絡先

E222(要アポイント)
kubotas@people.kobe-u.ac.jp

学生へのメッセージ

プレゼンテーションと討論の方法についても、身につけることを目指します。活発な知的雑談も歓迎です。

今年度の工夫

学生間でのディスカッションをより活発にすることを試みる

教科書

特定の教科書は使用しない。必要なテキストは、配布する。

参考書・参考資料等

窪田幸子・野林厚志編『「先住民」とはだれか』世界思想社
岸上伸啓編『開発と先住民』明石書店

授業における使用言語

日本語

キーワード

開講科目名	専門演習 B(3)		
担当教員	櫻井 徹	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

現代世界における移住と移民

今学期は、グローバル・ジャスティスを考える際の前提となるべき問い「なぜ人々は国境を越えるのか——または越えようとししないのか——」という問題について考えるために、ジョン・トーピー『パスポートの発明』とクリスチャン・ヨブケ『軽いシティズンシップ』を教科書として採り上げ、移民についての近代史を振り返るとともに、世界的に増大しつつある移民・移住の現状と課題について深くかつ網羅的に考えたい。

このような学習を通じて、テロリズム、経済格差、貧困問題、人権侵害といったグローバルな諸課題を前にして、国境というボーダーが果たしていかなる道徳的意味をもつのか、そのボーダーを越えて利益と責任の分配を調整することが可能なのか、そのためにはいかなる原理が必要とされているのか、を考えていきたい。

授業の概要と計画

テキストにはジョン・トーピー『パスポートの発明』(法政大学出版局)とクリスチャン・ヨブケ『軽いシティズンシップ』(岩波書店)を使用し、毎週1章ずつをめどに、各受講生に簡単なショート・エッセイをもとに疑問・批判を発表してもらうという形式で討論を進めていきます。

成績評価と基準

ショート・エッセイ30%、プレゼンテーションとディスカッション40%、出席30%。特に、毎回のレポートをいかに丁寧かつ緻密に作成できたか、ゼミでの討論にいかに関与的に貢献できたかを中心に評価します。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

上にも述べたように、毎回、各人に簡単なショート・エッセイをもとに疑問・批判等を発表してもらいます。演習は参加者みんなで作り上げる授業ですから、無断欠席を禁止します。やむを得ず授業を欠席する場合は、メール等で事前に連絡してください。

オフィスアワー・連絡先

電子メール(sakurait@kobe-u.ac.jp)にて随時。

学生へのメッセージ

現代世界の喫緊の課題についてあらためて自分の頭で考えてみるという体験は、卒業論文作成や社会人になってからのプレゼンなどいろいろな場面で役立つと思います。

今年度の工夫

適宜、授業のテーマに関係のある映画も鑑賞し、その背景を解説します。

教科書

ジョン・トーピー『パスポートの発明』(法政大学出版局)。クリスチャン・ヨブケ『軽いシティズンシップ』(岩波書店)。

参考書・参考資料等

授業における使用言語

日本語

キーワード

国境、移住、移民、人権、自由、貧困、国民

開講科目名	専門演習 B(3)		
担当教員	楯岡 求美	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

芸術研究と批評（論文作成にむけての課題）

芸術作品、文化表象は言葉にできない感覚的なものを、再度言語化するという矛盾を抱えた作業である。本ゼミでは、芸術作品について書かれた論文を精密に読解し、関連作品を詳細に検討することで、芸術を論じることの可能性について考えてみたい。2回生は論文読解の技術を身につけること、3回生は卒論を実際を書く準備として課題に取り組むことが期待される。特に、言語化の難しいものとして、時間芸術としての演劇、映画を扱う。

授業の概要と計画

学期前半で演劇について、後半で映画についての論文を読み、鑑賞と分析の実践を行う。
扱う作品および論文は
授業開始時に指示する。

学期中に演劇鑑賞(学外・劇場)や映画鑑賞への参加が求められます。

1月に弁士を招いて無声映画の上映会を企画・実施します。

また、11月末に4回生の卒論報告を行います。1月には3回生のみなさんに卒論で予定するテーマについて仮報告をしてもらう予定にしています。

成績評価と基準

平常点：報告と討論への貢献度40%
中間レポート（演劇について）30%
期末レポート（映画について）30%

【平常点に関する注意】
演習は出席したうえで議論に参加することが前提となるため、欠席した場合は代替のミニレポートの提出が必要である。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

演習ですので、報告者だけではなく、参加者全員が事前準備（読解と資料収集、分析）を求められます。テキストに関連する文献について、ネットだけではなく、図書館や映像（DVD、テレビなど）も活用して、自分なりにテーマへのアプローチを考えながら準備してください。

オフィスアワー・連絡先

木曜日以外、随時。メールにて事前連絡が望ましい。
kumi3@kobe-u.ac.jp

学生へのメッセージ

課題となる観劇の際の入場料が必要になります。
弁士付きサイレント映画上映会の企画立案、宣伝等の活動を行ってもらいます。
【注意】芸術文化論コースでは、演習Bの時間を使って、11月末に4回生による卒論の内容報告、1月に3回生による卒論テーマ報告を行う。受講生は必ず出席すること。また、他の演習Bで行われる報告にもできるだけ出席すること。

今年度の工夫

各自のテーマ発表も行う。論文精読とアカデミック・ライティング入門を行う。
アートマネジメントの実践の一環として、弁士付き映画上映会の企画実施を行う。

教科書

参考書・参考資料等

フィルム・アート 映画芸術入門 / D. ボードウェル : 名古屋大学出版会, 2007, ISBN:9784815805678
映画の教科書—どのように映画を読むか / ジェイムズ・モナコ : フィルムアート社, 1983, ISBN:9784845983483
演劇学の教科書 / 演劇学の教科書 : 国書刊行会, 2009, ISBN:9784336051059

授業における使用言語

日本語

キーワード

演劇、映画、20世紀

開講科目名	専門演習 B(3)		
担当教員	北村 結花	開講区分	単位数
		後期	2単位
授業のテーマと到達目標			
テーマ：文化の記憶 到達目標：1）日本古典文学を「原文で」読む。2）英文読解能力を鍛える。			
授業の概要と計画			
以下のテキストを用い、日本古典文学を概観する。毎週一章ずつ読解する。その際、各章に出てくる古典文学についても読解を行う。 使用テキスト： 1 大学生のための文学トレーニング 古典編」 2 Haruo Shirane著 Traces of Dreams: Landscape, Cultural Memory, and the Poetry of Basho 章立ては以下の通り。 1 Introduction 2 Basho Myth East and West 3 Haikai Language, Haikai Spirit 4 The Art of Juxtaposition 5 Linking and Communal Poetry 6 The Poet as Guest 7 Seasonal Associations and Cultural Landscape 8 Remapping the Past 9 Awakening to the High, Returning to the Low.			
成績評価と基準			
平常点50％（授業での発表内容＋ディスカッションへの参加度）＋レポート50％。3回以上欠席の場合は単位を認めない。 なお、各自の報告の際に欠席した場合は、欠席の回数に関わらず、単位を認めない（ただし特段の理由―忌引、伝染性の病気など―がある場合は除く。診断書等の提出が必要。）			
履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）			
受講者全員、当然のことながら翌週の課題の読解は必須である。また、各章で取り上げられている原文（＝古文）を読むことも必要になるので、高校卒業レベルの古文の読解能力を求めたい。 なお、古語辞典を持参すること（電子辞書OK）。			
オフィスアワー・連絡先			
yuika<A t>kobe-u.ac.jp			
学生へのメッセージ			
英文テキストも読みますが、日本古典文学を読むこともこの授業の目指すところです。古文の読解力を磨き直してください。			
今年度の工夫			
教科書			
授業中に指示する			
参考書・参考資料等			
授業における使用言語			
日本語			
キーワード			
日本文学 古典文 作られた伝統 文化の記憶			

開講科目名	専門演習 B(3)		
担当教員	中村 覚	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

「中東における安全保障研究の方法」

- ・2回生は、国際安全保障学と中東・イスラーム研究を接合する観点を養う。日本語と英語の講読となる。
- ・3回生は、卒論の準備を行う。テーマを選定したり、国際政治を論じたりするための基本的な作法を体得する。

授業の概要と計画

- ・冷戦後の中東
- ・中東とアジアの接近
- ・911事件と「無知の衝突」
- ・全方位均衡論
- ・イラク戦争
- ・預言者風刺画事件
- ・ダーイシュ(いわゆるISIS, ISIL, 「イスラーム国」などと呼ばれる)やアルカーイダ等に対するテロ対策
- ・イランの核開発
- ・中東の開発
- ・メディアの役割
- ・紛争予防における国際機構や地域機構

成績評価と基準

(1)ゼミでの発表と発言の回数により、基礎点を計算します。(2)レポート提出の点数、(3)指定した国際セミナーへの参加など。

履修上の注意(準備学習・復習、関連科目情報等を含む)

アラブ文化論、教養原論、平和構築論などを履修して、イスラーム、中東政治、国際安全保障学の基礎を学んでから履修して下さい。
最初の1-2週間の報告を担当してくれる方は、ありがたいです。

オフィスアワー・連絡先

金曜日12:30-13:10

学生へのメッセージ

中東や発展途上国に関心のある学生を歓迎します。
卒論作成を通じて新しい発見をしようとする意欲を期待します。
国際安全保障学を中東研究に応用する観点を身につけましょう。学問(国際政治学等)を特定の事例・地域研究に応用する方法の訓練になるゼミだと思います。
世界の中で日本は地盤沈下しています。皆さんの奮闘を期待します。

今年度の工夫

最新の議論を検討する。一年間の海外出張の成果を紹介する。

教科書

リーディングリストを最初の授業で検討する。日本語では文献が少ないので、英語文献にするか、教員の談話を多くするかなどの方法を考えます。

参考書・参考資料等

手作りの卒論マニュアルを3?4種類、適宜、配布する。

授業における使用言語

日本語、英語

キーワード

中東、安全保障、国際関係、アラブ、イスラーム

開講科目名	専門演習 B(3)		
担当教員	王 柯	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

近代東アジアにおける日中関係
とくに20世紀に起こった事例を取り上げ、様々な側面から日中関係の問題点を分析し、相互理解の必要性和重要性を再確認する

授業の概要と計画

時代に沿って、「戦後日中交流の始まり」、「両国間交流の拡大」、「日中交流を妨害する諸事件」、「両国国交正常化の前夜」、「日中国交の回復」、「日中関係の新たな発展」、「21世紀における日中関係」をテーマに、教員による講義、一緒に資料を調べること、テキストの輪読などの形をとって授業を進める。

成績評価と基準

出席率、学習の態度、期末レポートの成績を総合的に判断して成績を評価する。
(出席と学習の態度は50%、期末レポートは50%)

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

1、中国および日中関係関連の新聞記事を入念に調べること。
2、授業中に発表者の発表内容に対して積極的に質問すること。

オフィスアワー・連絡先

水曜日 12:30-13:10
E214室、内線7459

学生へのメッセージ

心で学問を学ぼう。

今年度の工夫

教科書

授業中に指示

参考書・参考資料等

授業における使用言語

日本語

キーワード

開講科目名	専門演習 B(3)		
担当教員	寺内 直子	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

「能の美学」
この授業では、日本の伝統芸能「能」の役者であり、台本作家であり、理論家でもあった世阿弥（1363-1442頃）の著書『風姿花伝』を読みながら、能の様式美や演技者の心得などの美学を考える。合わせて、日本の古い書体＝変体仮名の読解能力も身につける。

授業の概要と計画

受講生は、割り当てられた箇所を予習し、文字の書き起し、現代語訳、語注をレジュメにまとめ、それに基づいて発表する。

成績評価と基準

出席（50%）、発表（50%）

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

オフィスアワー・連絡先

By appointment (naokotk (at)kobe-u.ac.jp)

学生へのメッセージ

今年度の工夫

教科書

参考書・参考資料等

市村宏全訳注『風姿花伝』講談社、2011
野上豊一郎・西尾実校訂『風姿花伝』岩波書店（岩波文庫）、1983

授業における使用言語

日本語

キーワード

能 世阿弥 美学 風姿花伝

開講科目名	専門演習 B(3)		
担当教員	森下 淳也	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

ゲームやマルチメディアを楽しむ環境として、Webサーバとブラウザがある。ブラウザによるWebページは今や様々なエンターテインメントのプラットフォームになっている。ここでは、ブラウザにおいて動的な操作を可能とする新しい規格、html5を使ったWebページ作成の上級編を解説するとともに、サーバ側の通信の仕組みを解説することで、複雑な通信を伴うWebページの構築を目指そう。

この仕組みに習熟すれば、スマホやタブレットのアプリ開発にも移行できる。時間に余裕があればチャレンジしよう。

授業の概要と計画

授業の概要と計画は次の通りである。常に最新の成果を採り入れて講義することに努めるつもりである。そのため、内容が変更されたり、時間の都合で割愛されることもある。了承願いたい。

1. HTML5の紹介
2. Javascript入門
3. サーバ・プログラミング(CGI, SSI) スクリプト言語入門
4. サーバとの通信による協調型Webページの実現
-
5. タブレットでアプリに挑戦

成績評価と基準

出席状況と演習課題により評価する。多くの課題をレポートとして課すことになる。量が多いので遅れずについてくることを望む。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

コンピュータを一人一台使用する演習である。通常、2年前期メディア情報処理（森下）の履修を前提とする。2年後期情報科学演習Ⅲの履修があれば、理解の助けとなろう。いずれも必須ではない。

オフィスアワー・連絡先

随時。但し、要事前連絡。(連絡先メールは詳細情報へ)
研究室: 鶴甲第1キャンパスB棟4階, B401研究室(新B棟最上階階段横)

学生へのメッセージ

各自、自分でコンピュータでプログラミングを行いながら授業を進める予定です。
現在、我々が享受しているコンピュータとネットワーク環境に対する理解が深まると思います。

今年度の工夫

教科書

特に教科書は指定しない。必要とあれば授業中に指示する。

参考書・参考資料等

必要とあれば授業中に指示する。

授業における使用言語

日本語

キーワード

開講科目名	専門演習 B(3)		
担当教員	田中 順子	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

この専門演習Bでは、第二言語(L2)を使用するなかで見落としがちで、しかしながら母語話者からはL2話者であることが明らかであるような、言語項目の習得について学びます。例としては英語の形態素や日本語の助詞の習得があげられます。これらはいわゆる習得困難項目ですが、何故習得が困難なのかをL2の理解と使用の両面から検討します。

授業の概要と計画

授業開始後にcourse outlineを配布します。
授業前半では文献を読み、どのような点において母語話者とノンネイティブスピーカーとが異なるのかについての知識を得ます。後半部分では、グループ（あるいは個人）単位で実証的研究を行います。指導教員とともに学生が研究計画を立ててデータ収集し、分析して発表するという作業を行います。研究テーマの例は授業の中で紹介します。

成績評価と基準

出席と平常点（50%）、発表とレポート(50%)を総合して評価します。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

授業は普通教室とコンピュータ室を使って行う予定ですが、ワードやエクセルが使える人であれば受講に問題はありません。リピータも歓迎します。

オフィスアワー・連絡先

未定です。あらかじめメールで予約してください。

学生へのメッセージ

受講者が「第一言語」や「第二言語」にまつわる疑問を探求することのおもしろさに気づくよう期待しています。上回生で既に私の演習Bを履修している人も、繰り返しにならないような作業内容にします。

今年度の工夫

教科書

テキストは全章を使用するのではなく、それぞれ一部の章を取り扱います。
ことばの修得：母語獲得と第二言語習得 / 鈴木孝明・白畑知彦：くろしお出版,2012 ,ISBN:9784874245446
Second language acquisition: An advanced resource book. / De Bot, K., Lowie, W., & Verspoor, M. : Routledge ,2006 ,ISBN:9780415338707
ことばの発達の謎を解く / 今井むつみ：,2013 ,ISBN:9784480688934

参考書・参考資料等

授業における使用言語

主として日本語。英語話者には英語を使用。

キーワード

SLA hard-to-learn-items "data analyses"

開講科目名	専門演習 B(3)		
担当教員	塚原 東吾	開講区分	単位数
		後期	2単位
授業のテーマと到達目標			
原発とバイオテクノロジーを始めとするSTS：「読書マラソン」による徹底的な情報収集			
授業の概要と計画			
STS的問題を広範に扱うが、中心としては、原発問題とバイオテクノロジーについて、毎週一冊の本を読む「読書マラソン」を行う。それに合わせて、関係のドキュメンタリーフィルムを毎週一本見る、「フィルム・マラソン」も、併用して、問題の基本的な枠組みをとらえる。			
成績評価と基準			
毎週のレポート、エッセイ、書評と映評の提出			
履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）			
知のマラソンなので、かなりの体力を必要とする。塚原の他の授業を全てとらないと多分、履修は無理である。			
オフィスアワー・連絡先			
木・ヒル、E406			
学生へのメッセージ			
毎週最低3時間（通常5時間程度）の予習を必要とする。			
今年度の工夫			
予習をしないとわからないような授業になっているだけではなく、マラソンの名に恥じない、限界的・持続的な知的体力トレーニングであること。			
教科書			
参考書・参考資料等			
授業における使用言語			
日本語だが、英語のテキストも利用するし、英語のドキュメンタリー・フィルムなどは、原語での視聴を試みる。中・独・仏の場合、サブタイトルは英語。第2外国語が中・独・仏の場合、それらの原語の使用も試みる。			
キーワード			
STS、原発、バイオテクノロジー、バイオキャピタリズム、 3 1 1			

開講科目名	専門演習 B(3)		
担当教員	谷川 真一	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

現代中国の政治と社会
この授業は、現代中国のさまざまな課題や問題を社会科学の視点から検討することを目的とします。

授業の概要と計画

セミナー形式の授業ですので、学生の皆さんの発表とディスカッションを中心として授業を進めていきます。最初は、こちらで参考文献リストを用意しますので、そのなかから関心のあるものを選んでもらい、報告していただきます。その後は、皆さんが教員と相談しながら、自分で研究課題を見つけ、参考文献や資料を探し、発表してもらいます。報告者以外の方も、積極的にディスカッションに参加することを心がけてください。

成績評価と基準

発表：30%、授業への参加：30%、レポート：40%

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

報告が予定されている論文・研究書を全員が必ず授業当日までに読んでおくこと。また、報告者への質問、コメントを積極的に行うこと。

オフィスアワー・連絡先

火曜日昼休み、E203

学生へのメッセージ

「中国を見る目」を養いましょう！

今年度の工夫

教科書

TBA

参考書・参考資料等

授業における使用言語

日本語

キーワード

現代中国、社会科学、政治、社会、国際関係、日中関係

開講科目名	専門演習 B(3)		
担当教員	清光 英成	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

情報検索について概観するとともに、実際のメカニズムを理解できるように基本的な演習をします。

授業の概要と計画

おもに、
1.情報検索とは
2.Yahoo!とGoogleはどうやって探しているのか
3.半構造データの検索
4.抽象化によるデータの型の集約
をあつかいます。
さらに、楽天市場やHotPepper Beautyの大規模データを
・データベース化(スキーマ設計・構築)
・検索 (SQLの利用)
する演習を行います。
・

成績評価と基準

毎回の口頭試問とレポートなどの提出物で評価します。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

情報資料構成論（C045）を受講していることが望ましい。毎週の積み上げによって最終課題が完成しますので、復習は必須です。

オフィスアワー・連絡先

随時。（但し、事前連絡が必要。E-Mail: kiyomitsu@carp.kobe-u.ac.jp）
研究室B407

学生へのメッセージ

今年度の工夫

教科書

使用しない。

参考書・参考資料等

必要に応じて指示します。

授業における使用言語

日本語

キーワード

情報検索, 情報推薦, Big Data, Data Structure, Data Type, Classification, Data Modeling, SQL, Data Science

開講科目名	専門演習 B(3)		
担当教員	塚原 東吾	開講区分	単位数
		後期	2単位
授業のテーマと到達目標			
STS、原発とバイオテクノロジー：「読書マラソン」による徹底的な情報収集			
授業の概要と計画			
いわゆる、科学技術社会論（STS）の領域を広く扱うが、基礎文献を乱読してゆく。とくに、原発問題とバイオテクノロジーについて、毎週一冊の本を読む「読書マラソン」を行う。それに合わせて、関係のドキュメンタリーフィルムを毎週一本見る、「フィルム・マラソン」も、併用して、問題の基本的な枠組みをとらえる。			
成績評価と基準			
毎週のレポート、エッセイ、書評と映評の提出			
履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）			
知のマラソンなので、かなりの体力を必要とする。			
オフィスアワー・連絡先			
木・ヒル、7435			
学生へのメッセージ			
毎週最低3時間（通常5時間程度）の予習を必要とする。			
今年度の工夫			
予習をしないとわからないような授業になっている。			
教科書			
参考書・参考資料等			
授業における使用言語			
日本語だが、英語のテキストも利用するし、英語のドキュメンタリー・フィルムなどは、原語での視聴を試みる。中・独・仏の場合、サブタイトルは英語。第2外国語が中・独・仏の場合、それらの原語の使用も試みる。			
キーワード			
原発、バイオテクノロジー、バイオキャピタリズム、311			

開講科目名	専門演習 B(3)		
担当教員	萩原 守	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

この授業のテーマと目標は、歴史や環境問題等を含む広い意味での「北アジア研究」とする。

授業の概要と計画

詳細は参加者の希望を聞いた上で決定するが、予定としては、モンゴルや中国に関して日本語で書かれた研究論文・研究書をなるべく多角的な視点から選定して、参加者に順次紹介・発表してもらい、それによって、現在の研究状況や代表的な研究手法、史料状況等を広く把握する。参加者は、各自の関心に応じて研究論文を選び、参加者全員の前で内容の要約と批評を行う。可能であれば、参加者自身による研究をも、発表してもらう。

1. 自己紹介
2. 最近の北アジア研究の潮流（歴史、人類学、法学）
3. 参加者自身の選定した論文の紹介

成績評価と基準

演習なので、出席と質疑応答内容80パーセント、発表20パーセントの割合で評価する。自分が発表しない時でも、積極的に質問する姿勢を評価したい。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

なるべく欠席しないこと。また、他の学生が発表しているときにも、参考となりそうな点に常に注意を払う必要がある。発表には予習が必要であり、発表後は、入念な復習によって、より効果的な授業となる。

オフィスアワー・連絡先

月曜・木曜昼休み 研究室はE-206
連絡先は、hagihara@kobe-u.ac.jp

学生へのメッセージ

気軽に参加してください。

今年度の工夫

学生の希望に配慮したい。

教科書

特になし。論文はコピーで配布し、参考文献は授業中に指示する。

参考書・参考資料等

授業中に指示する。

授業における使用言語

日本語

キーワード

北アジア モンゴル 中国 歴史 環境

開講科目名	専門演習 B(3)		
担当教員	村尾 元、西田 健志	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

本演習では、情報科学演習Ⅲやプログラミング基礎ではもの足りない学生向けに、さらに高度なコンピュータプログラミングを学びます。

授業の概要と計画

各自がテーマを自身で設定し、それに基づいてプログラムを作成していきます。

教員とTAはそれぞれのプログラムに必要な情報を個別に提供します。

昨年は以下のようなテーマでプログラムを作成しました。

- コンピュータオセロ
- iPhoneプログラミング
- ARプログラミング
- Webプログラミング

成績評価と基準

以下の基準により評価します。

- 出席および学習態度、発表や議論への参加によるゼミへの貢献(20%)
- 成果物(80%)

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

予め3年次前期に開講される「プログラミング基礎」を受講していることが望ましい。

なお、速やかにコンピュータでの実習を行うためにも、各自、事前に十分に準備をしておいて下さい。具体的には、プログラム作成に必要な資料の準備や、操作の予習などをしておいて下さい。授業後には、進捗状況を簡単に報告してもらいます。事前の準備状況や、事後の報告も平常点の一部として評価します。

オフィスアワー・連絡先

いつでもどうぞ。ただし、あらかじめ電子メールで連絡をして下さい。

村尾
電子メール：hajime.murao@mulabo.org
研究室：B棟4階B409室

西田
電子メール：tnishida@people.kobe-u.ac.jp
研究室：B棟4階B408

学生へのメッセージ

プログラミングはコンピュータを自由自在に操って、単純な繰り返し作業から我が身を解放し、楽をするために究極の手段です。それなりに難しい内容ですが、やりがいはあるはずです。やる気のあるアナタにぜひ履修して欲しいと思っています。

今年度の工夫

教科書

利用する予定はありません。

参考書・参考資料等

各自のプログラムのテーマに沿ったものを貸与する予定です。

授業における使用言語

日本語

キーワード

プログラミング

開講科目名	専門演習 B(3)		
担当教員	森下 淳也	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

<作成中>

授業の概要と計画

<作成中>

成績評価と基準

<作成中>

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

<作成中>

オフィスアワー・連絡先

<作成中>

学生へのメッセージ

<作成中>

今年度の工夫

<作成中>

教科書

<作成中>

参考書・参考資料等

<作成中>

授業における使用言語

<作成中>

キーワード

<作成中>

開講科目名	専門演習 B(3)		
担当教員	清光 英成	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

<作成中>

授業の概要と計画

<作成中>

成績評価と基準

<作成中>

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

<作成中>

オフィスアワー・連絡先

<作成中>

学生へのメッセージ

<作成中>

今年度の工夫

<作成中>

教科書

<作成中>

参考書・参考資料等

<作成中>

授業における使用言語

<作成中>

キーワード

<作成中>

開講科目名	専門演習 B(3)		
担当教員	大月 一弘	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

<作成中>

授業の概要と計画

<作成中>

成績評価と基準

<作成中>

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

<作成中>

オフィスアワー・連絡先

<作成中>

学生へのメッセージ

<作成中>

今年度の工夫

<作成中>

教科書

<作成中>

参考書・参考資料等

<作成中>

授業における使用言語

<作成中>

キーワード

<作成中>

開講科目名	専門演習 B(3)		
担当教員	塚原 東吾	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

原発と廃棄物（ガレキ）とバイオテクノロジー：現地での情報収集と徹底的な情報収集@もんじゅ、上関、豊島、直島、産業廃棄物

授業の概要と計画

前半は徹底的な読書とフィルム・ドキュメンタリィなどによる情報収集を行う。
 後半には廃棄物（ガレキ）の問題について、瀬戸内海の豊島産業廃棄物問題を考えるために、現地調査をおこな
 い、昨年の、瀬戸内アートフェスティバルの取り組みなどを検証する。また原発については敦賀原発および「もん
 じゅ」の現地調査を試みる。バイオテクノロジーについては各種研究機関・エージェントの調査を試みる。

成績評価と基準

毎週のレポート、およびエッセイ。
 また現地調査での企画書・現地報告・分析、
 研究計画書などによって評価する。
 基準は世界レベルで通用するオリジナリティとプライオリティがあるかどうかという以外に、アカデミアでの意味
 はない。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

かなり面白い。だが時間がかかりかかるし、多くの予備知識が必要なので、塚原の他の授業を取っておくことを推
 奨する。基本的に毎回最低でも3時間程度（通常で5時間）の予習がない場合には、授業について来れない。

オフィスアワー・連絡先

木ヒル、E404

学生へのメッセージ

ポスト311の時代に、何をどうする？
 でも、学問の面白さだけは、蘭学者並みに、スゴイ。

今年度の工夫

原発と廃棄物（ガレキ）とバイオテクノロジーについて、事前の情報収集と現地での徹底的な情報収集を組み合わ
 せ、しかもそこに豊島・直島という瀬戸内海の調査（アート・フェスティバル）を加えたところ。

教科書

参考書・参考資料等

授業における使用言語

日本語だが、英語ができない人は困る。

キーワード

もんじゅ、上関、豊島、直島、産業廃棄物

開講科目名	専門演習 B(3)		
担当教員	水口 志乃扶	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

テーマ：日英語のプロソディ研究

目標：1 先行研究を精読して正しく理解する

2 関連するテーマについて調査し、音声解析ソフトPraatを使って分析する

3 論文の書き方に準じてレポートを書く

授業の概要と計画

- 1 はじめに
- 2 日英語のアクセントの研究概観
- 3 日本人らしい発音
- 4 日英語の音声の連続と切れ目
- 5 英語の単語と語群のピッチパターン
- 6 日本語の単語と語群のピッチパターン
- 7 単語アクセントの音響的特徴
- 8 単語アクセントの分析
- 9 イントネーション、各自のテーマ決定
- 10 プロソディ
- 11 日本人の英語
- 12 「新情報」
- 13 英語と教育
- 14 発表
- 15 レポート提出

成績評価と基準

授業でのレポート	20%
個人テーマの発表	30%
レポート	50%

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

Praatを使えることがのぞましい。使ったことがない人は、情報コミュニケーション講座 演習A（H27年度前期）か、音声コミュニケーション論（H27年度後期）を受講してください

オフィスアワー・連絡先

金曜日13.20 - 14.50 または 事前調整
研究室B311

学生へのメッセージ

聞こえていると思っている音は、実際の音とは限りません

今年度の工夫

日本人の英語に特化して講義を進める

教科書

日本人の英語 / 杉藤美代子：,1996 ,ISBN:4870888181

参考書・参考資料等

English Intonation / Wells, Peter : Cambridge University Press ,2006 ,ISBN:9780521683807
A Course in Phonetics 6th Edition / Ladefoged, P. and K. Johnson : Wadsworth, Cengage Learning ,2011 ,ISBN:9781428231269

授業における使用言語

日本語、英語

キーワード

日本人の英語
イントネーション
アクセント
プロソディ
聞こえていると思っている音
実際の音

開講科目名	専門演習 B(3)		
担当教員	上野 成利	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

モダニティ論への誘い——政治思想・社会思想史的アプローチ

この演習では、「モダニティとは何か」という大きな問いをテーマに掲げながら、理論的なテキストを精読してゆく。「文献を丁寧に読み、それを文章にまとめる」というスタイルで演習を進めてゆくが、具体的にどんな文献を取り上げるかは開講時に決定する。S・フロイトの文明論やM・ウェーバーの社会理論、C・シュミットやH・アーレントら政治哲学の古典、Th・W・アドルノやM・フーコーら20世紀の現代思想、あるいはそれ以後の最新の哲学・社会思想等々、広汎な理論的テキスト群から重要かつ適切なものを選びたい。

なお、この演習では「読む」だけでなく「自分の見解を文章に書く」訓練にも力を入れる。卒業論文のための準備という意味合いもちろんある。しかしより重要なのは、「書く」ことこそ人に「考える」ことを促す恰好の契機となる、ということだ。2年生であれ3・4年生であれ、参加者はこの演習をつうじて、答えの容易に出ない問いに正面からぶつかり、徹底的に考え抜いてほしいと思う。

授業の概要と計画

取り上げるテキストについては開講時に決定します。毎回の授業の冒頭では、あらかじめ決められた担当者に、前回の議論をふりかえるペーパー（A4版で1枚）を提出してもらいます。これは参加者全体の理解を確実にすることを第一の目的とするものですが、担当者にとっては文章を要約して書く訓練という意味合いもあります。そのうえで、別の担当者に当日分のテキストのレジュメをもとに報告してもらい、テキストを精密に読み解いてゆきます。

なお演習の最後の数回は「アカデミック・ライティング」のトレーニングにあてる予定です。それまでに読んだテキストについて自分なりに論評を加えたショート・エッセイを各自が書き、それを参加者全員で相互に検討します。テキストの内容理解を深めるとともに「書く」技術を磨く機会としてもらいたいと思います。

いずれにせよこの演習で行なうのは、「読む」「書く」「議論する」、この三つに尽きます。その意味ではごくオーソドックスな、つまりきわめて古風なスタイルの演習といえます。

成績評価と基準

担当回の報告の内容、毎回の議論への参加、アカデミック・エッセイの内容等々をもとに、総合的に評価します。なお演習形式である以上、毎回出席することが前提となります。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

初回の授業でレジュメの担当者などを決めたりするので、一回目からかならず出席してください。やむをえない事情で初回を欠席する場合には、上野に連絡を入れてください。また「近代政治思想論」（上野）をすでに履修していることが望ましいので、未修者は前期にかならず履修してください。さらに「モダニティ論」分野の演習・講義をできるだけ同時に履修してほしいと思います。自分の興味関心に応じて無理のない履修計画を考えてください。

オフィスアワー・連絡先

金曜 12:20-13:20
ueno@people.kobe-u.ac.jp

学生へのメッセージ

今年度の工夫

教科書

取り上げるテキストについては開講時に決定します。

参考書・参考資料等

以下の文献のなかで、M・ホルクハイマー、Th・W・アドルノ、W・ベンヤミン、C・シュミットらの思想について私なりに簡単に解説しているので、参考文献として活用してもらえればと思います。

暴力（思考のフロンティア） / 上野成利：岩波書店, 2006, ISBN:9784000270090

岩波講座 政治哲学 5 理性の両義性 / 齋藤純一 編：岩波書店, 2014, ISBN:9784000113557

社会学ベーシックス9 政治・権力・公共性 / 井上 俊・伊藤公雄 編：世界思想社, 2011, ISBN:9784790715207

授業における使用言語

日本語

キーワード

開講科目名	専門演習 B(3)		
担当教員	山崎 康仕	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

テーマ：「生命をめぐる法と倫理」

目標：生命倫理をめぐる諸問題において、いかなる倫理や規範が問題とされ、どのような対応が求められるのかについて考察することを通して、倫理や道德などの文化規範を新たに形成したり再構成する際に要請される、多角的な視点と論証能力、さらにそれらを通しての問題解決能力の育成を、この演習は目標としている。

授業の概要と計画

前期の専門演習 B から継続した演習。前期での学習を前提として、参加者が生命倫理関係で関心のある問題を探究し報告する。担当者の報告を参加者全員で検討するという形で演習を進める。

成績評価と基準

平常点(授業での議論への貢献度) 70%, および学期末のレポート 30% で評価する。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

報告担当でない場合も、生命倫理関係の標準的な教科書を読み、議論の準備をすること。

オフィスアワー・連絡先

随時。要連絡。

yy@people.kobe-u.ac.jp

学生へのメッセージ

今年度の工夫

教科書

特に指定しない。

/: ,2005 ,ISBN:

参考書・参考資料等

今井道夫『生命倫理学入門 第3版』(産業図書,2011)鈴森 薫(訳)『生殖医療をめぐるバイオエシックス—生殖補助医療と遺伝学の接点:技術的・社会的・倫理的ならびに法的諸問題』(メジカルビュー社,2009)

香川 知晶『命は誰のものか』(ディスカヴァー・トゥエンティワン,2009)

香川知晶・樫則章(編)『生命倫理の基本概念(シリーズ生命倫理学)』(丸善出版,2012)

浅井篤・高橋隆雄(編)『臨床倫理(シリーズ生命倫理学)』(丸善出版,2012)

今井道夫・森下直貴(編)『生命倫理学の基本構図(シリーズ生命倫理学)』(丸善出版,2012)

菅沼信彦・盛永審一郎(編)『生殖医療(シリーズ生命倫理学)』(丸善出版,2012)

倉持武・丸山英二(編)『脳死・移植医療(シリーズ生命倫理学)』(丸善出版,2012)

香川知晶『生命倫理の成立』(勁草書房,2000)

小林亜津子『生殖医療はヒトを幸せにするのか 生命倫理から考える』(光文社,2014)

授業における使用言語

日本語

キーワード

生命倫理学 法と道德 法哲学 医療倫理 生殖医療

開講科目名	専門演習 B(3)		
担当教員	宗像 恵	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

ジェンダーに関わる問題をテーマにします。現在の社会にはジェンダーに関わるいろいろな現象や問題が見られます。たとえば、恋愛と結婚の分離によるロマンティック・ラブのゆらぎ（婚活）、草食系男子や肉食系女子にみられる男らしさ・女らしさの問い直し、性別分業を前提にした近代家族制度の機能不全、セクシュアル・ハラスメントやドメスティック・バイオレンス、などなど。
演習では、これらの問題について書かれた本を読んで報告してもらい、参加者全員でディスカッションしながら、いったい何が問題なのか、見通しをつけてもらうことを、目標にしています。

授業の概要と計画

はじめに、イントロダクションとして、概観的な説明や文献の紹介をします。
その後で、ゼミ参加者それぞれに、自分の関心にあったテーマを選び、関係図書を読んで報告してもらいます。報告者以外の参加者には、報告を聞き、報告者をまじえてディスカッションしてもらいます。

私の研究室には、ジェンダーに関わる心理学や文学、ファッション論やマンガ論、イメージ論や魔女論、男性論などのほか、女性の職業問題、家族、母性、セクシュアル・ハラスメント、ドメスティック・バイオレンスなど、ジェンダー関連図書がたくさんありますので、それらを使ってもらっても結構です。

成績評価と基準

報告内容（レジュメ、口頭発表、質問への応答）60%、授業に出席しディスカッションへ参加した度合40%。
全回出席を原則とします。無断欠席は大きく減点します。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

この授業は演習ですから、自分の報告の準備はしっかりしてください。
また自分の報告のないときも、必ず毎回出席してディスカッションに参加してください。
1年次にジェンダー文化論を受講していない人は、受講するようにしてください。

オフィスアワー・連絡先

随時行なっていますが、事前に下記に連絡を下さい。
munakatsアットマークperson.kobe-u.ac.jp
研究室はE306です。

学生へのメッセージ

性（ジェンダー）の枠組みは、社会のすみずみにまで浸透して、私たちの生活に影響しています。何か変だとか、おかしいとか、面白いとか感じる人がいる人は、ぜひ演習に参加してください。他講座所属の学生さんも歓迎します。

今年度の工夫

受講者数にもよるのですが、できるだけ受講者の関心に基づく発表の機会を多くしたいと思っています。

教科書

教科書としては使いませんが、上に書いたように、報告のための参考文献を適宜使ってもらいます。

参考書・参考資料等

授業における使用言語

日本語

キーワード

ジェンダー

開講科目名	専門演習 B(3)		
担当教員	池上 裕子	開講区分	単位数
		後期	2単位
授業のテーマと到達目標			
この授業では、現代美術の諸問題について、様々なテキストを読みながら議論する。特に教科書は指定せず、トピックごとに重要な論文を配布し、その読解を通じて具体的な作品分析へとつなげる形式を取る。主な著者はクレメント・グリーンバーグ、レオ・スタインバーグ、石子順三、グリゼルダ・ポロック、榎木野衣、松井みどりなど。			
授業の概要と計画			
まず、最初の数回で重要なテキストを精読し、担当者を決めてポイントとなる部分について討議する。授業の後半では各学生が興味のあるトピックについて発表する。少人数の演習形式で、レジュメの作成、発表や議論の方法、資料の収集方法などを学ぶ。			
以下に議論の主なポイントを紹介する。			
1) 現代美術とは何か 2) モダニズム批評 3) 大衆文化とアート 4) ジェンダーと表現 5) 検閲と表現の自由 6) キュレーターの役割 など。			
成績評価と基準			
授業参加 50% レポート 50%			
履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）			
演習形式で行うため、授業には毎回出席することが前提となります。事前にテキストを読んで準備をした上で、討議への積極的な参加が必須であることを理解した上で登録してください。復習も必要です。現代美術の知識がある程度求められるので、前期に開講される「現代アート論」を受講しておいて下さい。			
オフィスアワー・連絡先			
ikegami@port.kobe-u.ac.jp			
学生へのメッセージ			
現代の文化や美術について考察するには、それなりの論理的なアプローチが必要です。漫然とテキストを読むのではなく、しっかりと論点を押さえた上で、自分の意見を言えるように準備してくる。また、英語のテキストも使用しますが、読みやすく、かつ重要な問題を論じたテキストなのでぜひ挑戦して下さい。この演習を通して批判的な思考力を高めましょう。			
今年度の工夫			
批判的思考力を養う。毎週リーディング・レスポンスを提出することで、論理的に文章を書く練習をする。			
教科書			
参考書・参考資料等			
グリーンバーグ批評撰集 / クレメント・グリーンバーグ: 勁草書房, 2005, ISBN:978-4326851850 日本・現代・美術 / 榎木野衣: 新潮社, 1998, ISBN:978-4104214013 アート: 「芸術」が終わった後の「アート」 / 松井みどり: 朝日出版社, 2002年, ISBN:978-4255001326			
授業における使用言語			
日本語			
キーワード			
現代美術、視覚文化			

開講科目名	専門演習 B(3)		
担当教員	近藤 正基	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

現在、先進諸国では福祉再編の取り組みが活発化し、福祉政治のあり方も変わりつつあります。本演習では、ドイツを中心に、日本や他のヨーロッパ諸国との比較を交えながら、現代福祉国家・政治の変容について学んでいきます。

授業の概要と計画

①文献の輪読。新川敏光編『福祉レジーム』（ミネルヴァ書房）や宮本太郎『福祉政治』（有斐閣）などを予定しています。担当者の発表の後、受講者で討論を行います。
 ②講演。福祉や政治の現場で活動する方々の講演会を数回開催する予定です。
 ③調査・研究報告。演習内容を踏まえ、各グループが調査した内容について報告し、受講者で議論します
 ※合同ゼミを開催する可能性があります。

成績評価と基準

授業への参加、発言（40点）、調査・研究報告（30点）、プレゼンテーション（30点）。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

遅刻および欠席は減点対象となるので、気を付けてください。初回の授業で具体的な授業計画を立てるので（輪読・コメント・研究報告の担当者などの確定）、受講者は、必ず初回の授業に参加してください。参加しない場合、履修が認められない可能性があります。

オフィスアワー・連絡先

オフィスアワーは特に定めません。授業内容や研究に関して質問がある方は、メールでアポイントメントをとってください。メールアドレス：mmrkondo@gmail.com。

学生へのメッセージ

今年度の工夫

教科書

授業中に指定します。

参考書・参考資料等

授業中に指定します。
 比較福祉国家――理論・計量・各国事例 / 鎮目真人・近藤正基編：ミネルヴァ書房,2013年,ISBN:4623066622
 現代ドイツ政治――統一後の20年 / 西田慎・近藤正基編：ミネルヴァ書房,2014年,ISBN:4623072045

授業における使用言語

日本語、ドイツ語、英語

キーワード

ドイツ政治、比較福祉国家論、比較政治学

開講科目名	専門演習 B(3)		
担当教員	貞好 康志	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

東南アジアを中心とする諸地域の歴史と現在の諸問題（植民地支配、ナショナリズム、経済開発と環境問題、人々の暮らしと価値観、社会・文化の変容、イスラームなどの宗教、国家・企業・NGOのあり方、日本社会や私たちの暮らしとの関係など）をテーマとする。テキスト講読や各自の研究発表、相互討論を通じ、やがて卒論につながる参加者各自の問題発見の場、同時に批判的な思考とプレゼンテーション能力向上のための「道場」となることを目指します。

授業の概要と計画

1. オリエンテーション（顔合わせの上で方針を確認、テキスト決定、担当割り当てなど）
2. 輪番で発表・討論
3. 締め括りのイベント（一昨年度はミニ・ディベート大会、昨年度は班対抗フィールド研究発表大会）

成績評価と基準

平常点65%、期末レポート35%。ただし、ここでの平常点とは、毎回の訓練によって発言能力を高めつつ、授業運営に積極的に参画する努力と成果のことです。黙して椅子を暖めるだけでは出席とみなしません。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

授業テーマに「東南アジア」と書きましたが、それ以外の地域に主たる関心を持つ人を排除するものではありません。むしろ多様な関心を持つ人を歓迎します。図書館や様々なメディアを活用して自主的に問題を解決したり掘り下げたりする主体的な学習態度を期待します。

オフィスアワー・連絡先

水曜昼休み、E221研究室にて。ただし事前に連絡・予約してください。Telp.(803)7458, ysd@kobe-u.ac.jp

学生へのメッセージ

共に楽しく学びましょう。

今年度の工夫

教科書

指定しない。 / : , ISBN:

参考書・参考資料等

初回の授業で人数を見、参加者の関心のありかを聞いた上で決定する予定です。

授業における使用言語

日本語

キーワード

厳しく楽しく学問を遊ぶ

開講科目名	専門演習 B(3)		
担当教員	野谷 啓二	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

宗教と文化に関連する問題を各自の関心にしながら設定し、授業で発表する。また発表のために用意するレジメをもとに学期末まで小論文を作成していただきます。その際、教員は参考文献、注の付け方等をチェックしますので、卒業論文作成の準備練習の意味合いもあります。

授業の概要と計画

受講生は各自の関心にしながら発表しますが、参考文献をチェックしますので、事前に文献表を教員に提出していただきます。

成績評価と基準

授業の発表 60%とレポート 40%の総合評価

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

口頭発表の前にレジメを作成し、メールで教員に送信すること。復習としては、次回の演習の冒頭で、1週間考えたことをまとめて報告すること。

オフィスアワー・連絡先

研究室：E204
Email: notani@kobe-u.ac.jp

学生へのメッセージ

今年度の工夫

教科書

使用しない

参考書・参考資料等

授業における使用言語

日本語

キーワード

開講科目名	専門演習 B(3)		
担当教員	石塚 裕子	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

ヨーロッパ、とりわけイギリスの文化を学び、西欧文化がどのように私たちに影響を与えているかを考えましよう。

授業の概要と計画

各学生のみなさんにヨーロッパに関する様々な文化の中から一つないし二つくらいのテーマを選んで、調査し、発表してもらい、他の学生さんと話し合い、理解を深め合いましょう。

成績評価と基準

積極的授業参加と発表の総合評価

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

予習・復習をしっかりと受講すること

オフィスアワー・連絡先

金曜日昼休み
ishizuka@kobe-u.ac.jp

学生へのメッセージ

今年度の工夫

教科書

参考書・参考資料等

授業における使用言語

日本語

キーワード

ヨーロッパ、イギリス、文化研究

開講科目名	外国語演習（英語）		
担当教員	遠田 勝	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

翻訳をめぐるいくつかテーマを演習形式で学び、翻訳についての認識を高め、実践力を養う。

授業の概要と計画

テーマは以下4つの予定（一部変更の可能性あり）。①新聞雑誌記事などの実務翻訳と小説など芸術作品の翻訳②英訳された日本の小説/翻案された日本の民話などの鑑賞③重訳（翻訳を複数回重ねること）の問題、④履修生の研究発表

成績評価と基準

授業への出席、発言、課題・レポートの提出による（100%）

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

演習ですので、履修希望者が12名を超えた場合は、抽選などで選考を行います。したがって履修希望者は、必ず初回授業に出席してください。

オフィスアワー・連絡先

水曜昼休み

学生へのメッセージ

今年度の工夫

教科書

参考書・参考資料等

授業における使用言語

Japanese

キーワード

開講科目名	言語間コミュニケーション論		
担当教員	藤涛 文子	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

異なる言語間でコミュニケーションが行われる際には、広義の翻訳プロセスが伴う。そこで本講義では、言語コミュニケーションについての基本的知識と学問的アプローチの方法を、翻訳を例にして修得することを目標とする。そして日常的に接している翻訳テキストが、異文化間コミュニケーション行為の産物であり、テキスト成立にコミュニケーションの諸要因がどのような作用を及ぼしているのかについて議論を深める。具体的には、英語と日本語の間の翻訳例を比較・分析することにより、英日語間のコミュニケーションに文化の差異がどのように現れるかを明らかにする。さらに、様々なジャンルのテキストをや読者の違いが翻訳にどう影響するのか。映画や歌詞の翻訳など、映像やメロディーと言った言語以外の要素を含むテキストでは、翻訳はどのような制約を受けるのか。講義では翻訳理論の歴史の変遷を紹介しつつ、このような翻訳を取り巻く問題を考察していく。

授業の概要と計画

1. 異文化コミュニケーションと翻訳
2. 翻訳の様々な方法
3. 言語機能について（言葉遊びの翻訳）
4. 受容者の影響（童話の翻訳）
5. 媒体の影響（映画の翻訳）
6. テキストタイプの影響（新聞・雑誌の翻訳）
7. 非言語要素の影響（マンガ・歌詞の翻訳）
8. 通訳
9. 機械翻訳
10. ストラテジーとイデオロギー
11. 古典の現代語訳
12. 原文に忠実とは？翻訳の定義と等価理論
13. 翻訳の普遍的特徴（明示化）
14. 翻訳理論の様々なアプローチ
15. 日本における翻訳理論

成績評価と基準

平常点40%（課題提出）
筆記試験60%（授業の理解度・論理性・独創性）

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

ほぼ毎回、課題提出を求めますので授業中の指示に注意してください。テーマに関する準備学習が毎回必要です。

オフィスアワー・連絡先

随時。前もってメールでご連絡ください。
fumiko@kobe-u.ac.jp
B411

学生へのメッセージ

講義内容を踏まえて、実際に翻訳に取り組んだり、翻訳に対する理論的とらえ方について意見を書いてもらいますので、授業への積極的な参加の態度に期待します。翻訳研究は新しい学問領域です。新しい発見をしてください。

今年度の工夫

講義内容の理解を深めるために、グループ作業を取り入れます。

教科書

レジュメを配布する。

参考書・参考資料等

翻訳行為と異文化間コミュニケーション / 藤涛文子：松籟社, 2007, ISBN:9784879842589
翻訳理論の探求 / アンソニー・ピム：みすず書房, 2010, ISBN:9784622075189
翻訳研究のキーワード / 藤涛文子（監修）：研究社, 2013, ISBN:9784327401634

授業における使用言語

日本語

キーワード

翻訳理論、コミュニケーション、異文化理解

開講科目名	博物館実習 I		
担当教員	久下 正史	開講区分	単位数
		後期	1単位

授業のテーマと到達目標

学芸員として、実際に資料を取り扱い、記録・整理するための必要となる基礎的な知識・技能を習得する。それをふまえて、展示をおこなう上で必要な基礎知識を習得する。

授業の概要と計画

1. ガイダンス
2. 文化財の分類
3. 有形の資料の取り扱いの基礎 卷子・掛幅・典籍・古文書
4. 有形の資料の記録 調書の作成
5. 民俗資料の扱いと記録
6. 展示と解説 解説文の作成
7. 写真撮影の基礎
8. 展示施設での資料整理・目録作成実習

成績評価と基準

出席50%、課題レポート50%。
講義の性格上、欠席が多い場合には単位を認めない場合がある。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

履修者の主体的な参加が求められる。
数回の予定（回数・日程は履修者と相談の上決定する）で、教員勤務校（灘中学校・灘高等学校：神戸市東灘区）の校史資料室において資料整理の実習を行う。

オフィスアワー・連絡先

学生へのメッセージ

現場で遭遇する資料は一分野に限ったものではありません。ある資料を「専門家」としてどのような作法で扱い、どのような（学問的）知識をもって記述し、評価するのか（あるいは、できないのか）、その難しさを実感してください。

今年度の工夫

教科書

授業中にプリントを配布する。

参考書・参考資料等

日本博物館協会編『博物館資料取扱いガイドブックー文化財、美術品等梱包・輸送の手引きー』（ぎょうせい、2012年）
その他の参考書については、講義中に適宜紹介する。

授業における使用言語

日本語

キーワード

開講科目名	日欧比較セミナーⅡ		
担当教員	クレック	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

このコースはEUエキスパート人材養成プログラム (KUPES) を履修した学部2年生、及び欧州諸国出身の留学生、または欧州に関心のある留学生を対象に、欧州と日本の文化、経済、政治に関する様々な問題を比較的な視点で探求するものです。学生が欧州と日本の理解を深め、双方を批判的に比較できるようにすることを目的とします。授業への主体的な参加と教員・学生間のコミュニケーションを重視し、ディスカッション、プレゼンテーション、チームワークスキルなど留学に必要な資質の向上を目指します。
注) 留学生は所属学部の担当者から事前に許可を得ること。担当教員により10人程度を選抜します。

授業の概要と計画

このコースは3名の外国人教員が交代で講義を担当します。各週以下のテーマについて、教員、または外部講師が講義をし、それに続いて学生がディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションなどを行ないます。
第1週：イントロダクション (KRECK, RIMINUCCI and SCHRADE)
第2、3週：欧州と日本における民族問題：民主主義がどのように少数民族を扱い、何故文化の多様性を主張することに価値があるのか？ (KRECK)
第4、5週：開発援助：利他的提供者？国際開発、そして日本と欧州諸国からのFDI（海外直接投資）とODA（政府開発援助） (SCHRADE)
第6、7週：お客様は神様：欧州と日本における消費者法と政策 (RIMINUCCI)
第8、9週：欧州と日本における移民統合法：移民は社会の発展にとって重要か、そして欧州と日本において移民統合政策がどのように働いているか？ (KRECK)
第10、11週：比較政治学ASEAN plus Three (APT)：EUの弟？ (SCHRADE)
第12、13週：自然はリサイクル不可能：欧州と日本における環境保護法と政策 (RIMINUCCI)
第14週：まとめ (KRECK, RIMINUCCI and SCHRADE)

成績評価と基準

出席と授業態度 (20%)、グループ発表、要約、研究論文 (80%)

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

オフィスアワー・連絡先

学生へのメッセージ

今年度の工夫

教科書

参考書・参考資料等

授業における使用言語

英語

キーワード

開講科目名	専門演習 B(1)		
担当教員	片 茂	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

このゼミでは、近代化をめぐる様々の論争点について、学部生としてより高度な水準をねらって理解を深めることを目標とする。

授業の概要と計画

R. カステル『社会問題の変容』を講読する。参加者は、テキストを分析し説明するプレゼンテーションを課せられる。

成績評価と基準

出席と活発な参加 70%
最終レポート 30%

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

よく準備してくること

オフィスアワー・連絡先

廳 ：金曜日 13：00-13：20

学生へのメッセージ

今年度の工夫

教科書

R. カステル『社会問題の変容』ナカニシヤ出版

参考書・参考資料等

授業における使用言語

日本語

キーワード

開講科目名	専門演習 B(3)		
担当教員	片 茂	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

このゼミでは、近代化をめぐる様々の論争点について、学部生としてより高度な水準をねらって理解を深めることを目標とする。

授業の概要と計画

R. カステル『社会問題の変容』を講読する。参加者は、テキストを分析し説明するプレゼンテーションを課せられる。

成績評価と基準

出席と活発な参加 70%
最終レポート 30%

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

よく準備してくること

オフィスアワー・連絡先

廳 ：金曜日 13：00-13：20

学生へのメッセージ

今年度の工夫

教科書

R. カステル『社会問題の変容』ナカニシヤ出版

参考書・参考資料等

授業における使用言語

日本語

キーワード

開講科目名	専門演習 B(1)		
担当教員	坂井 一成	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

次の2つからなる。

- 1) EUの域内政治、対外関係について国際関係論の観点から理解を深める。グループワークでの調査・報告、全体での議論を行い、EUを軸としつつ広く国際問題の本質を自らの力で認識・分析できるようにする。
- 2) 名古屋国際関係論合同ゼミナールに向けての共同研究として、一つの論点を参加者全員で調査・討議することで、考察・認識を深める。

授業の概要と計画

EUの域内政治、対外関係についてグループワークでの調査・報告・討議を毎週行いつつ、同時並行で「名古屋国際関係論合同ゼミナール」（例年12月初旬）での発表の準備を進める（3年生・2年生の共同作業となる）。

成績評価と基準

授業時の報告内容（30%）、議論への積極的関与の度合い（40%）、及び名古屋国際関係論合同ゼミナールへの参加の度合い（30%）で評価する。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

- ・名古屋国際関係論合同ゼミナール参加のため1-2泊で出張することになる。これは授業の最重要の一部であるので、準備を含め必ず参加すること。
- ・また、1月下旬には総括を兼ねた冬合宿を予定している。
- ・授業時に指定する参考文献を熟読して、事前に疑問点を挙げてくるとともに、授業後には授業内容の定着を図ること。

オフィスアワー・連絡先

随時。ただしメール（kazu[at]harbor.kobe-u.ac.jp）で事前連絡が望ましい。
国際文化学研究科・学部 E407研究室

学生へのメッセージ

今年度の工夫

教科書

参考文献を授業時に指示する。

参考書・参考資料等

授業における使用言語

日本語

キーワード

開講科目名	専門演習 B(3)		
担当教員	坂井 一成	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

次の2つからなる。

- 1) EUの域内政治、対外関係について国際関係論の観点から理解を深める。グループワークでの調査・報告、全体での議論を行い、EUを軸としつつ広く国際問題の本質を自らの力で認識・分析できるようにする。
- 2) 名古屋国際関係論合同ゼミナールに向けての共同研究として、一つの論点を参加者全員で調査・討議することで、考察・認識を深める。

授業の概要と計画

EUの域内政治、対外関係についてグループワークでの調査・報告・討議を毎週行いつつ、同時並行で「名古屋国際関係論合同ゼミナール」（例年12月初旬）での発表の準備を進める（3年生・2年生の共同作業となる）。

成績評価と基準

授業時の報告内容（30%）、議論への積極的関与の度合い（40%）、及び名古屋国際関係論合同ゼミナールへの参加の度合い（30%）で評価する。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

- ・名古屋国際関係論合同ゼミナール参加のため1-2泊で出張することになる。これは授業の最重要の一部であるので、準備を含め必ず参加すること。
- ・また、1月下旬には総括を兼ねた冬合宿を予定している。
- ・授業時に指定する参考文献を熟読して、事前に疑問点を挙げてくるとともに、授業後には授業内容の定着を図ること。

オフィスアワー・連絡先

随時。ただしメール（kazu[at]harbor.kobe-u.ac.jp）で事前連絡が望ましい。
国際文化学研究科・学部 E407研究室

学生へのメッセージ

今年度の工夫

教科書

参考文献を授業時に指示する。

参考書・参考資料等

授業における使用言語

日本語

キーワード

開講科目名	博物館経営論		
担当教員	加藤 義男	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

「博物館」といっても美術館・歴史博物館・民族資料館などの人文系もあれば、科学館・水族館・動物園などの自然系の博物館まで、非常に多くの種類がある。本講座では、人文系の美術館(美術博物館)の経営論を研究対象とする。美術館の歴史から美術館とは何かを考察する。美術館マネジメント及び美術館マーケティングを研究しレポートとする。You think what an art museum is from history in an art museum, Art museum management and marketing are studied and it's submitted as a report.

授業の概要と計画

1,美術館(美術博物館)コレクションの歴史、2,美術館の歴史、3,西欧の美術館紹介、4,日本の美術館紹介、5,企画展示・常設展示、6,学芸員の仕事、7,美術館建築、8,美術館マネジメント、9,美術館マーケティング、10,美術館と地域社会などを15回にわたり講義する。

成績評価と基準

1,授業参加への姿勢と態度、発言20%、2,授業内のミニペーパーでのコメントや小レポート30%、3,課題レポート提出50%

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

西洋美術史を準備学習とし、美術館の企画展や常設展、ミュージアム・ショップを積極的に観ることによって復習とする。

オフィスアワー・連絡先

090-7349-9751

学生へのメッセージ

阪神間には美術館・博物館が数多くあり、「博物館経営論」研究の素材とし、現場に行き体感することを望みます。

今年度の工夫

視覚に訴える授業を目指し、DVDなどの映像やパワーポイントによる画像による講義につとめる。

教科書

教科書は使用せず、プリントを配布する。

参考書・参考資料等

「西洋美術史」、「美術の物語」等を参考書とする。
西洋美術史 / 監修=高階秀爾:美術出版社,1990年,ISBN:4568400309C3070
美術の物語 / E.H.ゴンブリッチ:ファイドン株式会社,2011年,ISBN:9784864410069C0371

授業における使用言語

日本語

キーワード

美術館マネジメント、美術館マーケティング

開講科目名	現代社会人類学		
担当教員	梅屋 潔	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

地球上に住むひとびとが営む生業と文化のさまざまな側面を民族誌的な映像資料などを手がかりとして考える。異文化および社会を支える論理を検討し、彼らにとって何が「あたりまえ」か、われわれにとって「あたりまえ」でないことは何か、を検討するのがこの講義の目的である。地球上のくらしの多様性を映像資料などを通して具体的事実として知ることとともに、比較の観点からそれらの地域の構造を理解する。そのことにより受講者は、世界の国々に住むひとびとに対する相対的視点を涵養し、国際あるいは多文化共生の地球時代に生きる知的構えを養うことができる。

授業の概要と計画

第1回 序 文化的他者を理解すること（生業に注目して異質な文化を見る）
 第2回 狩猟採集民の生活
 第3回 カラハリの呪術医
 第4回 映像資料に基づく狩猟採集民の世界観
 第5回 牧畜民マサイの儀礼を見る
 第6回 農耕民の生活を知る（蓄財と相続、階級分化）
 第7回 植民地以前に成立した王国
 第8回 奇妙な交換（クラ交易とボトラッチ、シェルマネー）
 第9回 奇妙な交換を映像で見る
 第10回 バリの観光芸能と葬儀、結婚を見る
 第11回 アフリカの妖術・託宣・呪術
 第12回 アフリカのサッカーに見る呪術
 第13回 グローバル化の悪夢（コンゴの稀少金属と私たち）
 第14回 中国経済とアフリカの携帯電話
 第15回 地球時代を生きるために
 （以上の内容を基本とするが、受講者の関心や講義の進み具合により順序や重点が変更されることがある）1度ゲストスピーカーも招いた討論を交える予定。ゲストスピーカーには、Jean Roger Bagamboula大阪大講師を予定。

成績評価と基準

平常点評価20パーセント（単に出席しただけでは評価対象とはならない。積極的参加が必要）。定期試験80パーセント。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

最初の講義までに以下の文献を読んで、狩猟採集、牧畜、農耕など生業によりどのような違いがあるか、予習しておく。参考書欄（1）298-300頁「狩猟採集文化」、699-700頁「牧畜・牧畜文化」、575-577頁「農耕・農耕文化」（2）52-59頁「狩猟採集民」、「牧畜」、「農耕」、「工業化」。

オフィスアワー・連絡先

研究室E-405 (umeya[at]people.kobe-u.ac.jp)
 メールで事前にアポイントメントをとってください。

学生へのメッセージ

地球のひとびとの生活の多様性に想像力を膨らませてください。

今年度の工夫

映像資料を使用することにより、異文化の状況を理解しやすくするよう努める

教科書

指定しない。
 文化人類学のレッスン【増補版】 / 奥野克巳・花渕馨也:学陽書房,2011,ISBN:9784313340213

参考書・参考資料等

文化人類学事典 / 石川 栄吉・梅棹 忠夫・大林 太良・蒲生 正男・佐々木 高明・祖父江 孝男＝編:弘文堂,1994,ISBN:9784335560842
 文化人類学文献事典 / 渡辺 公三ほか＝編:弘文堂,2004,ISBN:9784335561016
 文化人類学キーワード（改訂版） / 山下・船曳編:有斐閣,2008,ISBN:9784641058866
 狩猟と遊牧の世界 / 梅棹忠夫:講談社,1976,ISBN:9784061580244

授業における使用言語

日本語

キーワード

文化の多様性 生業 民族誌 異文化理解

開講科目名	Aspects of EU Culture and Society (Seminar)		
担当教員	クレック	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

In terms of culture and identity Europe is not considered to be a united entity. True or false? The answer to this question is complex and therefore not easy to give. Europe is characterized by its vast cultural diversity and Europeans by different attitudes, habits and traditions. One might tend to say there is nothing like a Pan-European identity, but in comparison with non-European societies it becomes obvious that despite their cultural diversity European peoples share common means of expression and have common norms and values. The course will explore and discuss the social and cultural patterns, which shape a Pan-European identity. In presentations and discussions we will compare different means of expression, consider their historical development and analyse their contribution to a common European identity.

授業の概要と計画

The aim of this course is to introduce students to the social and cultural patterns, which shape a Pan-European identity. In presentations and discussions we will put the focus on distinct examples in areas like politics, economy, media, and social behaviour in order to determine those values and means of expression, which are considered to be common among European peoples. On the one hand students will recognize the vast diversity among European peoples, on the other hand it will become clear that Europeans share a distinctive set of norms, values, cultural activities, and a common historical narrative. Finally, we will discuss the reality and importance of a Pan-European identity against the backdrop of the European integration.

成績評価と基準

Attendance and participation in class: 10%
Group-work/-presentation: 30%
Final paper: 60%

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

Students will be given an assignment or reading materials to prepare classes in advance.

オフィスアワー・連絡先

学生へのメッセージ

Students are expected to acquire knowledge that is needed to understand the difference between European identities and a Pan-European identity. This course is also useful to obtain skills and attitudes, which are needed to participate in classes offered by universities in Europe.

今年度の工夫

教科書

Post-identity? Culture and European Integration / Richard McMahon : Routledge ,2013 ,ISBN:9780415643764
European Identity (Contemporary European Politics) / Jeffrey T. Checkel, Peter J. Katzenstein (ed.) : Cambridge University Press ,2009 ,ISBN:9780521709538

参考書・参考資料等

授業における使用言語

English

キーワード

European identities, Pan-European identity, cultural diversity, European integration

開講科目名	外国語演習（英語）		
担当教員	西澤 晃彦	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

社会学史を扱う英語の学術書・論文を読み、日本語に訳することによって、英語文献を読むスキルを高めながら社会学というものの見方を身につけたい。「日本語に訳する」ということがもたらす社会認識というものもある。

授業の概要と計画

担当を決め、担当者が逐語訳していくという形式を基本とするが、変更はありうる。もちろん、内容的な討論も行なう。

成績評価と基準

参加への熱意（出席、報告、討論）ということに尽きる。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

自らの担当ではないところについても、下調べをし、内容を理解できるようにしておくこと。

オフィスアワー・連絡先

学生へのメッセージ

社会学に関心がある学生の受講を歓迎する。

今年度の工夫

教科書

参考書・参考資料等

テキストは1回目に配布する。

授業における使用言語

日本語

キーワード

社会学

開講科目名	Academic Communication（仏）		
担当教員	田島 義士	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

この授業は、フランス語の「聞く」、「話す」練習をすることで、フランス語によるコミュニケーション能力を高めるためのものです。フランス旅行・生活で困らない、フランス人と円滑にコミュニケーションが取られる、及びフランスの大学で授業やセミナーを理解できるレベルまでのフランス語力の向上を目指します。楽しくフランス語を学びましょう。

授業の概要と計画

まずは自分自身の意見をしっかりと伝えることから始めましょう。自己紹介や自分の好きなものをフランス語で述べる練習をします。次に、フランス語を使った会話ゲームを通して、楽しくフランス語でコミュニケーションをしましょう。毎回、フランス語の書き取り、あるいは会話の聞き取りの練習をし、何が述べられているのか、なぜこういう表現を使っているのかを話し合います。授業の中では、海外生活や留学に関する情報を提供すると同時に、旅行や留学の際に必要なになってくる会話の実践練習も行います。最終的にはフランス人のインタビューやニュースを理解するための練習をします。フランスの大学のシステムの解説および、フランスの大学の講義に臨む上で必要なノウハウ（研究発表あるいは口頭試問の心得など）についても説明する予定です。授業は15回行なわれます。

成績評価と基準

授業の評価は、平常点（出席および授業への参加度・態度）、課題、レポートによって行われます。毎回の授業の復習や課題もしっかりしてください。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

KUPES生（国際文化、経済、法の学部2-3年生）、およびフランス語を第二外国語として1～2年程度学習した者を対象とします。毎回の授業のテーマに合わせて、会話や聴解などの課題を出します。授業で扱った会話のモデルやポイントを参考にしながら、課題を作成してください。

オフィスアワー・連絡先

学生へのメッセージ

初回時に皆さんの興味（あるいは研究テーマ）を聞き、授業で取り扱うテーマの参考にします。またフランスでの生活に関する豆知識や留学情報もたくさん盛り込んでいきます。

今年度の工夫

教科書

基本的に資料のコピーを配布します。

参考書・参考資料等

菊地歌子、山根祐佳、『フランス語発音トレーニング』、白水社。
Cidalia Martins et Jean-Jacques Mabilat, Conversations, pratiques de l'oral, Didier.
この他にもフランス語習得のための色々な参考書を授業で紹介していきます。

授業における使用言語

フランス語、日本語

キーワード

フランス語、アカデミックコミュニケーション、留学

開講科目名	Academic Communication（独）		
担当教員	ベティーナ・ゲッシュ	開講区分	単位数
		後期	2単位
授業のテーマと到達目標			
授業の概要と計画			
成績評価と基準			
履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）			
オフィスアワー・連絡先			
学生へのメッセージ			
今年度の工夫			

教科書

参考書・参考資料等

授業における使用言語

キーワード

開講科目名	アートプロジェクト		
担当教員	芹沢 高志	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

近年盛んになりつつある、地域／街を対象としたアートプロジェクトに焦点を当て、その意味と意義、歴史を学習する。
アートプロジェクトに必要な基礎知識を構想から制作、実施、評価まで、一連のプロセスとして学習する。
アートプロジェクトを実践する際に必要となる資質と能力を学習する。

授業の概要と計画

- 1) アートプロジェクトの概念について。その意味と歴史
- 2) アートプロジェクトの流れ 構想から立案、実施・広報・ボランティア対応・評価など
- 3) 場所性、神戸の地域資源
- 4) 現代社会におけるアートプロジェクトの意義
- 5) ディスカッションと小論文
- 6) アートプロジェクトを行う際の心構え

成績評価と基準

小論文とディスカッション 60% (講義の理解度、独創性、論理性、説得力など)
授業への積極的な参加 40% (とくにディスカッションにおける積極性、独創性、論理性など)

履修上の注意 (準備学習・復習、関連科目情報等を含む)

各回の授業で全国のアートプロジェクトの事例など、次回までに準備学習すべき内容を指示しますので、それにしたがって十分な準備を行ってきてください。

オフィスアワー・連絡先

seri@p3.org

学生へのメッセージ

アートプロジェクトにおいては、あらかじめ決まった正解があるわけではありません。しかしそれだけ、とっさのバランス感覚や総合的な判断力、独創性が求められます。そのためにはいかなる状況でもぶれることのない「ものの見方」「考え方」が必要で、そうした基礎体力の向上に力点を置きたい思います。

今年度の工夫

「場所性」についての考察を深めるために、神戸のまち歩きを通じた地域資源の発見に力を入れる。また私がディレクターを務めるさいたまトリエンナーレ2016が秋に開催されるので、こうした現在進行形のプロジェクトを紹介することでアートプロジェクトの現場感覚を伝えたい。

教科書

参考書・参考資料等

別府 / 芹沢高志: 別府現代芸術フェスティバル「混浴温泉世界」実行委員会, 2012, ISBN:978-4-9906700-0-9
自己組織化する宇宙ー自然・生命・社会の創発的パラダイム / エリッヒ・ヤンツ: 工作舎, 1986
ISBN:978-4875021247
場所の現象学ー没場所性を超えて / エドワード・エルフ: 筑摩書房, 1999, ISBN:4-480-08479-7

授業における使用言語

日本語

キーワード

アートプロジェクト アートフェスティバル まちとアート リレーショナルアート コミュニティアート 現象学
的地理学 場所の感覚

開講科目名	外国語演習（ロシア語）		
担当教員	萩原 守	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

授業テーマは、「ロシア語文献の講読」である。到達目標は、ロシア語で書かれた研究論文や学術書を正確に日本語訳できるようになることである。

授業の概要と計画

読解する論文は、現在担当教員が読んでいるモンゴル史関連書籍の序文である。ロシア語文献としては、変な癖もなく、極めて標準的な文章である。方針としては、なにしろ、正確に読むことを目指し、読解スピードは、ゆっくりとすすみたい。

成績評価と基準

外国語講読演習なので、試験もレポートも無しとし、平常点のみで評価する。参加者には毎週翻訳をしてもらうが、あまり急がずにじっくりと解説しつつすすめたい。細かい文法事項にもこだわって、積極的に質問する姿勢を評価したい。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

ロシア語既習者に限る。初級の授業を経験しておれば、それで充分。予習、復習はもちろん必要。

オフィスアワー・連絡先

月曜と木曜の昼休み 研究室はE-206
連絡先は、hagihara@kobe-u.ac.jp

学生へのメッセージ

あわてず急がず、正確に読みましょう。

今年度の工夫

ゼミの院生数名も参加する予定。

教科書

ロシア語テキストを拡大コピーにて配布する。

参考書・参考資料等

授業中に指示する。

授業における使用言語

日本語

キーワード

ロシア語 ロシア連邦 モンゴル民族史 モンゴル法制史

開講科目名	博物館情報・メディア論		
担当教員	岩谷 洋史	開講区分	単位数
		後期	2単位

授業のテーマと到達目標

情報通信技術（ICT）が発展した近年、文字、音声、静止画像、動画像といったさまざまなメディアが、デジタル化され、マルチメディアという言葉で表現されるようにコンピュータ上で統合的に扱われるようになってきた。そして、それらは、インターネットを代表とするコンピュータネットワークによって伝達が可能となっている。わたしたちは、日常生活において、この技術を享受して暮らしているが、今日の博物館においてもこの技術を活用するためのさまざまな取り組みがなされている。しかしながら、この技術を博物館で活用するためには、その技術の可能性や問題点についての知識や技能は欠かすことはできない。

この授業では、博物館事業におけるデジタル情報の意義や種類、および、特徴、そして社会に向けて情報発信をする際の方法や課題を、情報倫理や知的財産権などと絡めながら、講義だけでなく、課題の制作を通じて、学び、博物館をめぐる様々な情報に対してどのように学芸員が関わっていくのかの理解を促すことを目的とする。

授業の概要と計画

授業の概要と計画は次の通りである。

1. 「情報」とはなにか？
博物館における情報の社会的な意義について
2. 博物館での資料の扱われ方
資料のデジタル化、および現場での作業プロセスについて
3. 博物館で活用されるテキストデータ
テキスト概念と文字コードの解説
4. 博物館で活用される静止画像データ
静止画像技術の解説と処理の仕方
5. 博物館で活用される音声データ
音声技術の解説と処理の仕方
6. 博物館で活用される動画データ
動画技術の解説と処理の仕方
7. 博物館資料のデータベース化
博物館のデジタル情報はどのようにして整理されているのか？
8. 展示におけるマルチメディアの活用例
国内外の最新の事例紹介。
9. 博物館における情報発信とその方法
博物館のホームページはどうなっているのか？インターネットの仕組みとその原理、および情報を発信する際の社会的な意義について。
10. 情報発信する際における倫理や知的財産権
11. 情報コンテンツを作成する

成績評価と基準

出席状況（30%）と演習課題（70%）により評価する。多くの課題を課すことになる。

履修上の注意（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）

コンピュータを一人一台使用する演習形式の授業であるため、コンピュータを操作する基礎的な知識が必要である。授業内で課題ができない場合は、宿題として各自で行う。

オフィスアワー・連絡先

学生へのメッセージ

実感してもらうために、テキスト、画像、音声、ビデオなどのサンプルを既存のアプリケーションを使って、コンピュータで処理を行いながら授業を進める予定である。わからないことがあれば、担当教員に積極的に質問してほしい。また、各自で理解するまで調べよう。

今年度の工夫

教科書

特に教科書は指定しない。

参考書・参考資料等

授業における使用言語

日本語

キーワード